



Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server リリース 3.2

API リファレンス ガイド

2024 年 5 月 8 日

目次

| | |
|---|----|
| 変更履歴 | 13 |
| 1 一般情報 | 14 |
| 1.1 このドキュメントの使用方法 | 14 |
| 1.1.1 インタラクティブ API レファレンスツール | 14 |
| 1.2 3.2 API の追加および変更の概要 | 16 |
| 1.2.1 API の追加 | 17 |
| 1.2.2 新規および変更されたパラメータ | 18 |
| 1.2.3 電子メール招待テキストの取得 | 21 |
| 1.2.4 coSpace のメタデータの設定と取得 | 22 |
| 1.2.5 API による詳細なトレース | 23 |
| 1.2.6 ミーティングのタイトルポジションの設定と取得 | 24 |
| 1.2.7 ミーティングバナーテキストの作成、変更、および取得 | 25 |
| 1.2.8 ミーティング中のチャットの有効化/無効化 | 25 |
| 1.2.9 挙手ステータスの有効化、変更、および取得 | 27 |
| 1.2.10 Call Bridge グループフィルタの取得 | 28 |
| 1.2.11 ユーザが範囲を変更する機能の作成、変更、および取得 | 29 |
| 1.2.12 アクセスメソッドの作成、変更、および取得 | 29 |
| 1.2.13 デフォルトのアクセスメソッドの指定と取得 | 30 |
| 1.2.14 デフォルトのアクセス メソッド テンプレートの変更と取得 | 30 |
| 2 オブジェクトの一般的な構造 | 32 |
| 2.1 オブジェクト階層 | 32 |
| 3 API にアクセスする | 37 |
| 3.1 構成設定 | 37 |
| 3.2 認証 | 37 |
| 3.3 Web インターフェイスでの API アクセス | 37 |

| | |
|---|----|
| 3.4 使用するサードパーティツール..... | 38 |
| 3.4.1 サードパーティの API ツールを使用するためのヒント..... | 39 |
| 4 API メソッド..... | 41 |
| 4.1 URL の形式..... | 41 |
| 4.2 GET メソッド..... | 42 |
| 4.2.1 コレクションレベル..... | 42 |
| 4.2.2 コレクションレベルで制限とオフセットを使用する..... | 42 |
| 4.2.3 個々のオブジェクトレベル..... | 43 |
| 4.2.4 HTTP の詳細..... | 43 |
| 4.2.5 このドキュメントでの GET メソッドの詳細の説明方法..... | 44 |
| 4.3 POST メソッド..... | 44 |
| 4.3.1 HTTP の詳細..... | 44 |
| 4.3.2 このドキュメントでの POST メソッドの詳細の説明方法..... | 45 |
| 4.4 PUT メソッド..... | 45 |
| 4.4.1 HTTP の詳細..... | 45 |
| 4.4.2 このドキュメントでの PUT メソッドの詳細の説明方法..... | 45 |
| 4.5 DELETE メソッド..... | 45 |
| 4.6 障害理由..... | 46 |
| 5 特定のメソッドのリクエストとレスポンスの例..... | 53 |
| 5.1 現在アクティブなコールを取得する..... | 53 |
| 5.2 新しいコールをインスタンス化し、参加者をそのコールに接続する..... | 53 |
| 6 coSpace 関連のメソッド..... | 56 |
| 6.1 coSpace を取得する..... | 56 |
| 6.2 coSpace を作成および変更する..... | 57 |
| 6.2.1 セカンダリ coSpace URI..... | 62 |
| 6.2.2 coSpace callId の自動生成..... | 62 |
| 6.3 単一の coSpace に関する詳細情報を取得する..... | 62 |
| 6.3.1 特定の coSpace のエントリの詳細を取得する..... | 65 |
| 6.4 coSpace メンバーメソッド..... | 66 |

| | | |
|--------|--|----|
| 6.4.1 | coSpace のメンバーを取得する..... | 66 |
| 6.4.2 | coSpace メンバーの追加と変更..... | 67 |
| 6.4.3 | coSpace メンバーの情報を取得する..... | 69 |
| 6.5 | 複数の coSpace アクセス方式..... | 70 |
| 6.5.1 | 一般情報..... | 70 |
| 6.5.2 | coSpace アクセス方式を取得する..... | 70 |
| 6.5.3 | coSpace アクセス方式を作成および変更する..... | 71 |
| 6.5.4 | 個々の coSpace アクセス方式に関する情報を取得する..... | 74 |
| 6.6 | coSpace から呼び出す..... | 74 |
| 6.7 | coSpace を一括作成、更新、削除する..... | 74 |
| 6.7.1 | /cospaceBulkParameterSets を作成する..... | 74 |
| 6.7.2 | coSpace を一括作成するためのパラメータセットを取得する..... | 76 |
| 6.7.3 | 個々の /cospaceBulkParameterSet に関する情報を取得する..... | 76 |
| 6.7.4 | 一括同期操作をキューに入れる..... | 78 |
| 6.7.5 | 一括同期操作を取得する..... | 78 |
| 6.7.6 | 特定の一括同期操作の取得..... | 80 |
| 6.7.7 | 例..... | 81 |
| 6.8 | coSpace 診断メソッド..... | 82 |
| 6.9 | coSpace テンプレートを使用する..... | 82 |
| 6.9.1 | coSpace テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する..... | 82 |
| 6.10 | アクセス方式テンプレートを使用する..... | 84 |
| 6.10.1 | coSpace テンプレートのアクセス方式 テンプレートを作成、変更、取得、 列挙、削除する..... | 84 |
| 6.11 | coSpace に関するテキストベースの会議エントリ情報を取得する..... | 87 |
| 6.12 | coSpace でメタデータを設定する..... | 88 |
| 7 | ダイヤルプランのメソッド..... | 90 |
| 7.1 | 発信ダイヤルプラン API メソッド..... | 90 |
| 7.1.1 | 発信ダイヤルプランにアクセスする..... | 90 |
| 7.1.2 | 発信ダイヤルプランルールを取得する..... | 91 |
| 7.1.3 | 発信ダイヤルプランルールを作成および変更する..... | 91 |

| | | |
|-------|---------------------------------|-----|
| 7.1.4 | 個々の発信ダイヤルプランルールに関する情報を取得する | 94 |
| 7.2 | ダイヤル変換 | 94 |
| 7.2.1 | ダイヤル変換を取得する | 95 |
| 7.2.2 | ダイヤル変換を設定および変更する | 96 |
| 7.2.3 | 個々のダイヤル変換に関する詳細情報を取得する | 97 |
| 7.3 | 着信コール マッチング ダイアルプラン API メソッド | 98 |
| 7.3.1 | 着信ドメインマッチングルールへのアクセス | 98 |
| 7.3.2 | 着信ダイヤルプランルールを取得する | 98 |
| 7.3.3 | 着信ダイヤルプランルールを作成および変更する | 99 |
| 7.3.4 | 個々の着信ダイヤルプランルールに関する情報を取得する | 100 |
| 7.4 | 着信転送ダイヤルプラン API メソッド | 100 |
| 7.4.1 | 着信コール転送ルールへのアクセス | 100 |
| 7.4.2 | 着信コール転送ダイヤルプランルールを取得する | 100 |
| 7.4.3 | 着信コール転送ダイヤルプランルールを作成および変更する | 101 |
| 7.4.4 | 個別の着信コール転送ダイヤルプランルールに関する情報を取得する | 102 |
| 8 | コール関連のメソッド | 103 |
| 8.1 | コールメソッド | 103 |
| 8.1.1 | アクティブなコールに関する情報を取得する | 103 |
| 8.1.2 | 新しいコールを作成し、アクティブなコールを変更する | 104 |
| 8.1.3 | 個々のアクティブなコールに関する情報を取得する | 107 |
| 8.1.4 | 個々のコールに関する診断の生成 | 110 |
| 8.1.5 | 会議の参加者の取得 | 110 |
| 8.1.6 | 指定されたコールの新しい参加者を作成する | 111 |
| 8.1.7 | 会議のすべての参加者のプロパティを設定する | 120 |
| 8.2 | コールプロファイルメソッド | 121 |
| 8.2.1 | コールプロファイルを取得する | 122 |
| 8.2.2 | コールプロファイルを設定および変更する | 122 |
| 8.2.3 | 個々のコールプロファイルに関する詳細情報の取得 | 127 |
| 8.3 | コールレグメソッド | 127 |
| 8.3.1 | アクティブなコールレグに関する情報を取得する | 127 |

| | | |
|-------|---|-----|
| 8.3.2 | コールレッグを追加および変更する | 130 |
| 8.3.3 | /callLegs/<call leg id>/generateKeyframe | 137 |
| 8.3.4 | API を使用した Far End Camera Control (遠端カメラ制御) を許可する | 137 |
| 8.3.5 | 個々のコールレッグに関する情報の取得 | 137 |
| 8.4 | コールレッグプロファイルメソッド | 153 |
| 8.4.1 | 一般情報 | 153 |
| 8.4.2 | コールレッグプロファイルを取得する | 153 |
| 8.4.3 | コールレッグプロファイルを作成および変更する | 162 |
| 8.4.4 | 個々のコールレッグプロファイルに関する情報を取得する | 171 |
| 8.4.5 | コールレッグプロファイルとアクセス方式の使用例..... | 171 |
| 8.4.6 | /callLegProfiles/<call leg profile id>/usage オブジェクトのメソッド..... | 172 |
| 8.4.7 | /callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace オブジェクトのメソッド..... | 172 |
| 8.5 | コールレッグの個々の機能を設定する | 175 |
| 8.6 | レイアウトテンプレート メソッド | 175 |
| 8.6.1 | レイアウトテンプレートの追加と変更 | 176 |
| 8.6.2 | レイアウトテンプレートを取得 (列挙) する | 176 |
| 8.6.3 | レイアウトテンプレートに関する情報を取得する | 177 |
| 8.6.4 | レイアウトテンプレートの説明をレイアウトテンプレートに割り当てる | 177 |
| 8.6.5 | レイアウトテンプレートのレイアウトテンプレートの説明の取得..... | 177 |
| 8.7 | コールブランディング プロファイル メソッド | 177 |
| 8.7.1 | コールブランディング プロファイルを取得する | 178 |
| 8.7.2 | コールブランディング プロファイルを設定および変更する | 178 |
| 8.7.3 | 個々のコールブランディング プロファイルに関する詳細情報を取得する | 178 |
| 8.8 | DTMF プロファイルメソッド | 179 |
| 8.8.1 | DTMF プロファイルを取得する..... | 179 |
| 8.8.2 | DTMF プロファイルを設定および変更する | 181 |
| 8.8.3 | 個々の dtmfProfile に関する詳細情報を取得する..... | 183 |
| 8.9 | IVR メソッド | 183 |
| 8.9.1 | IVR を取得する..... | 183 |
| 8.9.2 | IVR を設定および変更する | 184 |
| 8.9.3 | 個々の IVR に関する詳細情報を取得する | 184 |

| | | |
|--------|---|-----|
| 8.10 | IVR ブランディング プロファイル メソッド | 184 |
| 8.10.1 | IVR ブランディングプロファイルを取得する | 184 |
| 8.10.2 | IVR ブランディングプロファイルを設定および変更する | 185 |
| 8.10.3 | 個々の IVR ブランディングプロファイルに関する詳細情報を取得する | 185 |
| 8.11 | 参加者関連のメソッド | 185 |
| 8.11.1 | 参加者を取得する | 186 |
| 8.11.2 | すでに会議に参加している参加者の設定を変更する | 187 |
| 8.11.3 | 個々の参加者の詳細情報を取得する | 188 |
| 8.11.4 | 参加者のコールレグを取得する | 193 |
| 8.11.5 | コールの参加者を制限する | 193 |
| 9 | ユーザー関連のメソッド | 195 |
| 9.1 | ユーザーを取得する | 195 |
| 9.2 | 個々のユーザーに関する詳細情報を取得する | 196 |
| 9.2.1 | ユーザーの coSpace アソシエーションを取得する | 196 |
| 9.2.2 | ユーザーに coSpace テンプレートを適用する | 196 |
| 9.2.3 | ユーザー coSpace テンプレート情報の取得 | 197 |
| 9.2.4 | LDAP を使用して userCoSpaceTemplates を適用する | 197 |
| 9.2.5 | ユーザーがプロビジョニングした coSpace 情報を取得する | 198 |
| 9.2.6 | LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace ソースを作成、変更、 取得する | 199 |
| 9.2.7 | LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace マッピングを作成、変更、 取得する | 201 |
| 9.3 | ユーザープロファイルメソッド | 202 |
| 9.3.1 | ユーザープロファイルを取得する | 202 |
| 9.3.2 | ユーザープロファイルを設定および変更する | 203 |
| 9.3.3 | 個々のユーザープロファイルに関する詳細情報を取得する | 204 |
| 10 | システム関連のメソッド | 205 |
| 10.1 | システムステータスを取得する | 205 |
| 10.2 | システムアラームステータスを取得する | 206 |
| 10.3 | システム データベース ステータスを取得する | 209 |

| | | |
|---------|---|-----|
| 10.4 | CDR レシーバ URI メソッド | 210 |
| 10.4.1 | CDR レシーバ URI を取得する | 210 |
| 10.4.2 | CDR レシーバ URI を設定する | 211 |
| 10.5 | グローバルプロファイルメソッド | 212 |
| 10.5.1 | グローバルプロファイルを取得する | 212 |
| 10.5.2 | グローバルプロファイルを設定する | 212 |
| 10.6 | ライセンスメソッド | 212 |
| 10.6.1 | Meeting Server インスタンスごとのライセンスファイル情報を取得する | 213 |
| 10.6.2 | クラスタのライセンス情報を取得する | 221 |
| 10.7 | TURN サーバーメソッド | 223 |
| 10.7.1 | TURN サーバーに関する情報を取得する | 224 |
| 10.7.2 | TURN サーバーを設定および変更する | 224 |
| 10.7.3 | 個々の TURN サーバーに関する詳細情報を取得する | 226 |
| 10.7.4 | 個々の TURN サーバーステータスの取得 | 227 |
| 10.8 | Web Bridge メソッド | 227 |
| 10.8.1 | Web Bridge に関する情報を取得する | 227 |
| 10.8.2 | Web Bridge を設定および変更する | 228 |
| 10.8.3 | 個々の Web Bridge に関する詳細情報を取得する | 229 |
| 10.8.4 | Web Bridge のカスタマイズを更新する | 229 |
| 10.8.5 | Web Bridge で診断を取得する (2.2 以降) | 229 |
| 10.9 | Web Bridge プロファイルメソッド | 230 |
| 10.9.1 | Web Bridge プロファイルを取得する | 230 |
| 10.9.2 | Web Bridge プロファイルを作成および変更する | 232 |
| 10.9.3 | 指定した Web Bridge で現在有効な Web Bridge プロファイルの確認 | 235 |
| 10.9.4 | 最上位レベル (グローバル) システムで現在有効な Web Bridge プロファイルを確認する | 236 |
| 10.9.5 | 個々のテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルを取得する | 238 |
| 10.9.6 | webBridgeProfile の Web Bridge アドレスを作成、変更、取得する | 239 |
| 10.9.7 | webBridgeProfile の IVR 番号を作成、変更、取得する | 241 |
| 10.10 | Call Bridge メソッド | 242 |
| 10.10.1 | Call Bridge に関する情報を取得する | 242 |

| | | |
|---------|--|-----|
| 10.10.2 | Call Bridge を設定および変更する..... | 242 |
| 10.10.3 | 個々の Call Bridge に関する詳細情報を取得する..... | 242 |
| 10.11 | Call Bridge グループメソッド..... | 243 |
| 10.11.1 | Call Bridge グループに関する情報を取得する..... | 243 |
| 10.11.2 | Call Bridge グループを設定および変更する..... | 243 |
| 10.11.3 | 個々の Call Bridge グループに関する詳細情報を取得する..... | 244 |
| 10.12 | Call Bridge クラスタメソッド..... | 244 |
| 10.12.1 | Call Bridge クラスタの詳細を取得する..... | 244 |
| 10.12.2 | Call Bridge クラスタを設定および変更する..... | 245 |
| 10.13 | システム負荷メソッド..... | 245 |
| 10.14 | 互換性プロファイルメソッド..... | 246 |
| 10.14.1 | 互換性プロファイル操作を取得する..... | 246 |
| 10.14.2 | 互換性プロファイル操作を設定および変更する..... | 246 |
| 10.15 | システム診断メソッド..... | 249 |
| 10.15.1 | システム診断を取得する..... | 249 |
| 10.15.2 | 個々のシステム診断を取得する..... | 249 |
| 10.15.3 | 個々のシステム診断の内容を取得する..... | 250 |
| 10.16 | システムの時間ロギングメソッド..... | 250 |
| 10.16.1 | ロギングサブシステムのアクティブ化..... | 250 |
| 11 | LDAP メソッド..... | 252 |
| 11.1 | LDAP サーバーメソッド..... | 253 |
| 11.1.1 | LDAP サーバーに関する情報を取得する..... | 253 |
| 11.1.2 | LDAP サーバーを追加および変更する..... | 254 |
| 11.1.3 | 個々の LDAP サーバーに関する詳細情報を取得する..... | 254 |
| 11.2 | LDAP マッピングメソッド..... | 255 |
| 11.2.1 | LDAP マッピングを追加および変更する..... | 255 |
| 11.2.2 | セカンダリ LDAP マッピングパラメータ..... | 256 |
| 11.2.3 | LDAP マッピングに関する情報を取得する..... | 257 |
| 11.2.4 | 個々の LDAP マッピングに関する詳細情報の取得..... | 257 |
| 11.3 | LDAP ソースメソッド..... | 257 |

| | | |
|--------|--|-----|
| 11.3.1 | LDAP ソースに関する情報を取得する | 257 |
| 11.3.2 | LDAP ソースを追加および変更する | 258 |
| 11.3.3 | LDAP ソースに関する詳細情報を取得する | 259 |
| 11.4 | LDAP 同期メソッド | 259 |
| 11.4.1 | スケジュールされた LDAP 同期メソッドを取得する | 260 |
| 11.4.2 | 新しい LDAP 同期を開始する | 261 |
| 11.4.3 | スケジュールされた LDAP 同期のキャンセル | 261 |
| 11.4.4 | 単一の LDAP 同期メソッドに関する情報を取得する | 261 |
| 11.5 | 外部ディレクトリ検索場所 | 262 |
| 11.5.1 | 外部ディレクトリ検索場所に関する情報を取得する | 262 |
| 11.5.2 | 外部ディレクトリ検索場所を追加および変更する | 262 |
| 11.5.3 | 外部ディレクトリ検索場所に関する詳細情報を取得する | 263 |
| 11.5.4 | 外部ディレクトリ検索場所の追加例 | 263 |
| 12 | マルチテナンシー | 267 |
| 12.1 | テナント | 269 |
| 12.1.1 | テナントを取得する | 269 |
| 12.1.2 | テナントを作成および変更する | 269 |
| 12.1.3 | 個々のテナントに関する詳細情報を取得する | 270 |
| 12.2 | テナントグループの操作 | 271 |
| 12.2.1 | テナントグループを取得する | 271 |
| 12.2.2 | テナントグループを作成および変更する | 272 |
| 12.2.3 | 個々のテナントグループに関する詳細情報の取得 | 272 |
| 13 | クエリメソッド | 273 |
| 13.1 | accessQuery メソッド | 273 |
| 13.2 | conversationIdQuery メソッド | 273 |
| 13.3 | uriUsageQuery メソッド | 274 |
| 14 | ダイヤルイン セキュリティ プロファイルの メソッド | 275 |
| 14.1 | 一般情報 | 275 |
| 14.1.1 | ダイヤルイン セキュリティ プロファイルを使用した最小パスコー ド長の実装 | 276 |

| | | |
|--------|---|-----|
| 14.2 | ダイヤルイン セキュリティ プロファイルの取得 | 276 |
| 14.3 | ダイヤルイン セキュリティ プロファイルを作成、変更、取得する | 277 |
| 15 | プロファイルを使用する | 279 |
| 付録 16 | コールレックに関する追加情報..... | 281 |
| 16.1 | コールレック情報 | 281 |
| 16.1.1 | コールレック設定 | 281 |
| 16.1.2 | コールレックステータス | 282 |
| 付録 17 | 追加の Multiparty ライセンス情報..... | 284 |
| 17.1 | /system/licensing に関する情報..... | 284 |
| 17.2 | /system/multipartyLicensing に関する情報..... | 285 |
| 付録 18 | RESTer をインストールし API で使用する..... | 286 |
| 18.1 | RESTer のインストール..... | 286 |
| 18.1.1 | SSL 例外を追加/確認する..... | 287 |
| 18.1.2 | Basic 認証ヘッダーを生成する | 288 |
| 18.1.3 | GET コマンドの例 | 289 |
| 18.1.4 | POST コマンドの例..... | 290 |
| 18.1.5 | PUT コマンドの例 | 294 |
| 付録 19 | Web Bridge 3 によって提供される API メソッド | 295 |
| | シスコの法的情報 | 296 |
| | シスコの商標 | 297 |

図:

| | |
|--|-----|
| 図 1 : リリース 3.2 の Cisco Meeting Server のドキュメント _____ | 16 |
| 図 2 : Meeting Server Web インターフェイスを介した Call Bridge API へのアクセス _____ | 38 |
| 図 3 : LDAP プロセスの概要 _____ | 253 |
| 図 4 : マルチマルチテナンシープロセスの概要 _____ | 268 |
| 図 5 : プロファイルによる値の継承 _____ | 280 |
| 図 6 : テナント使用時のプロファイルによる値の継承 _____ | 280 |

変更履歴

| 日付 | 変更点 |
|-------------|--|
| 2022年10月13日 | マイナー編集。 |
| 2021年12月23日 | Cospace 関連のメソッドの Scope パラメータを更新しました。 |
| 2021年12月6日 | パラメータ audioGainMode を更新しました。 |
| 2021年7月19日 | 電子メール招待 API セクションに FAQ リンクを追加しました。 |
| 2021年5月6日 | パラメータ qualityMain、qualityPresentation、remoteParty、directorySearchLocation、sipMultistream の説明を更新しました。 |
| 2021年4月22日 | マイナー編集。 |
| 2021年4月21日 | Cisco Meeting Server 3.2 の新しいバージョン。 すべての API の追加と変更の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。 |
| 2021年4月20日 | パラメータ sipPresentationChannelEnabled および loadBalanceIndirectCalls に関する注記を追加しました。 |
| 2021年3月16日 | Meeting Server の短期的なログイン情報が完全にサポートされる機能としてドキュメントを更新。 |
| 2020年12月2日 | Web アプリに関する callLegPro- ファイルの qualityMain パラメータおよび qualityPresentation パラメータに注記を追加。 |
| 2020年11月30日 | Cisco Meeting Server 3.1 の新しいバージョン。すべての API の変更、追加、削除、廃止の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。 |
| 2020年11月4日 | マイナー修正。 |
| 2020年9月4日 | マイナー修正。 |
| 2020年8月12日 | マイナー修正。 |
| 2020年7月29日 | Cisco Meeting Server 3.0 の新しいバージョン。すべての API の変更、追加、削除、廃止の概要については、 セクション 1.2 を参照してください。 |

1 一般情報

Cisco Meeting Server ソフトウェアは、Cisco Unified Inng Server (UCS) テクノロジーに基づく特定のサーバー、または仕様に基づく VM サーバーにホストできます。本書では、Cisco Meeting Server を Meeting Server と呼びます。

注： Cisco Meeting Server ソフトウェア バージョン 3.0 以降では、X シリーズサーバをサポートしません。

このドキュメントでは、Cisco Meeting Server のアプリケーション プログラム インターフェイスのリリース 3.2 について説明します。

注： このガイドでは、Cisco Meeting Server ソフトウェアを Meeting Server と呼びます。

注： API 設定の変更、特に複数のユーザーやコールに影響を与える可能性のあるグローバルプロファイルの変更は、メンテナンスウィンドウ内の営業時間外に行うことを強くお勧めします。

1.1 このドキュメントの使用方法

このガイドは 2 つの部分に分かれています。

- まずはセクション 2 から 5 までを順番に読むことをお勧めします。これらのセクションは、API の背後にある概念、API メソッドの使用方法を理解するのに役立ちます。また、いくつかの使用例も紹介しています。
- 残りのセクション（セクション 6 以降）は、使用するメソッドを参照するための資料として使用します。

このガイドは、Meeting Server のドキュメントセット（図 1 を参照）の一部です。これらのドキュメントは cisco.com から入手できます。

1.1.1 インタラクティブ API レファレンスツール

最近、新しいインタラクティブ API リファレンスツールを導入しました。詳細については、『API オブジェクトの高層のビューの表示と下層へのドリルダウン』を参照してください。また、開始する際に役立つ学習ラボもあり、今後追加されます。このツールを試してみることをお勧めします。将来、API リファレンスガイドの PDF バージョンの公開を中止します。

<https://developer.cisco.com/cisco-meeting-server/>

ツールを使用する手順:

1. **ガイドの表示**をクリックしてください。

2. 左ペインのリストから、カテゴリを選択します。例: 関連するメソッドの呼び出し。
3. 任意のメソッドをクリックして URI: GET/POST/PUT を参照してください。パラメータと応答要素の表と説明を参照してください。例: GET
<https://ciscocms.docs.apiary.io/api/v1/calls?>

注: POST/PUT メソッドを使用している場合、メソッドを選択すると、関連する「属性」と説明が右側のペインに表示されます。

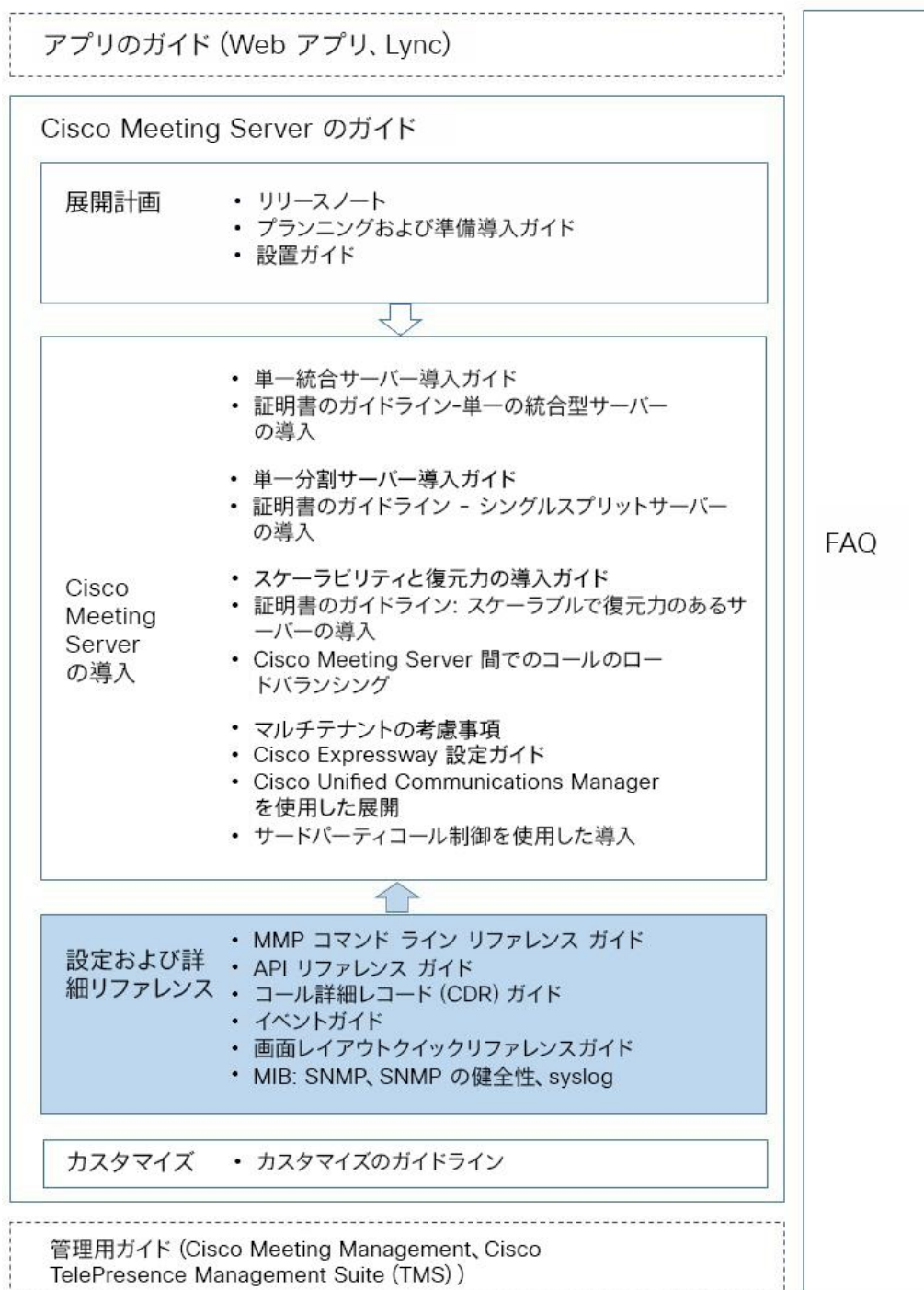
学習ラボ

<https://learninglabs.cisco.com/modules/cisco-meeting-server>

学習ラボは出発点として意図されており、Cisco Meeting Server API の可能性のある断面を幅広くカバーします。すべての学習ラボは、タスクを最初から最後まで完了するための手順を順を追って説明するステップバイステップのチュートリアルです。

例: 「Cisco Meeting Server API を使用したホストおよびゲストアクセスのセットアップ」では、さまざまなオプションを使用してユーザーがスペースでの会議に参加する方法を設定する手順を説明しています。

図 1 : リリース 3.2 の Cisco Meeting Server のドキュメント



1.2 3.2 API の追加および変更の概要

Meeting Server 3.2 の API 機能には次のものが含まれます。

- 電子メール招待をサポートする新しい API オブジェクトとパラメータ
- coSpace 上のメタデータの構成用の新しい API オブジェクトとパラメータ
- API 経由で詳細なトレースを有効化する新しい API オブジェクトとパラメータ

1.2.1 API の追加

Meeting Server 3.2 の新しい API 機能には、新しい API オブジェクトと軽微な API の機能拡張が含まれています。

新しい API オブジェクト

- `/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>/emailInvitation`
- `/coSpaces/<coSpace id>/metadata`

メタデータは coSpace 上で構成できるテキスト文字列です。これにより、Cisco Meeting Management などの管理アプリケーションは、coSpace 上にメタデータを保存できます。

注：ブラストダイヤルなどの Meeting Management の一部の機能では、coSpace にメタデータを保存する必要があります。メタデータを変更すると、これらの機能が失敗する可能性があります。

- `/system/timedLogging`

注：この API のパラメータの詳細については、「[API 経由の詳細なトレース](#)」を参照してください。

軽微な API の機能拡張

- `coSpaceMetaDataConfigured` 応答要素
 - `/calls/<call id>` に対する GET 操作

`/cospaces/<cospace id>/metadata` に構成されたメタデータがある場合、この値は `true` で、それ以外の場合は `false` です。
- `confirmationStatus` パラメータ
 - `/callLegs/<callLeg id>` に対する GET 操作

このパラメータは、確認が行われたかどうかに応じて `required/notRequired/confirmed` を返します。
- WebRTC コール用に Safari ブラウザで使用される H.264 パラメータを制御するために、次の操作で使用できる新しいリクエストパラメータ `safariWebRtcH264interopMode` が導入されました。
 - `/compatibilityProfiles` に対する POST 操作
 - `/compatibilityProfiles/<compatibility profile id>` に対する PUT 操作

- `/compatibilityProfiles/<compatibility profile id>` での GET

パラメータ `safariWebRtcH264interopMode` は、`auto` または `none` になります。それぞれの意味は次のとおりです。

- `auto` : Safari で実行されている WebRTC クライアントに送信される SDP は、H.264 High Profile を無効にし、Base Profile レベル 5 をアダプタイズします。これはデフォルト値です。
- なし : 以前のリリースからの変更はありません。

注 : このパラメータは、シスコテクニカルサポートチームの監視下でのみ使用してください。

注 : このパラメータが変更された場合、すべての新規 WebRTC セッションに新しい設定が適用されます。一方で、アクティブな WebRTC セッションではページの更新が必要であり、コールに参加し直す必要があります。進行中の WebRTC コールは影響を受けません。

バージョン 3.2 で導入された新規/変更されたエラーコードの理由

- `accessMethodDoesNotExist` : コールの `coSpace` に対応しないアクセスメソッドでコールレグまたは参加者の作成を試行しました。
- `coSpaceCallDoesNotExist` : `coSpace` に関連付けられていないコールにコールレグまたは参加者（指定されたアクセスメソッドを使用して）の作成を試行しました。

1.2.2 新規および変更されたパラメータ

バージョン 3.2 の新しい API パラメータ。

- `meetingTitlePosition` を次に導入
 - `/callLegProfiles/` に対する POST 操作
 - `/callLegProfiles/<callLegProfile id>` に対する PUT 操作
 - `/callLegProfiles/<callLegProfile id>` に対する GET 操作
 - `/callLegs/<callLeg id>` に対する PUT 操作
 - `/callLegs/<callLeg id>` に対する GET 操作
 - `/callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace` に対する GET 操作
 - `/calls/<call id>/participants` に対する POST 操作
 - `/calls/<call id>/callLegs` に対する POST 操作
- `messageBannerText` を次に導入
 - `/callProfiles` に対する POST 操作
 - `/callProfiles/<call profile id>` に対する PUT 操作
 - `/callProfiles/<call profile id>` に対する GET 操作
 - `/calls` に対する POST 操作

- /calls/<call id> に対する PUT 操作
- /calls/<call id> に対する GET 操作
- chatAllowed を次に導入
 - /callProfiles に対する POST 操作
 - /callProfiles/<call profile id> に対する PUT 操作
 - /callProfiles/<call profile id> に対する GET 操作
 - /calls に対する POST 操作
 - /calls/<call id> に対する PUT 操作
 - /calls/<call id> に対する GET 操作
- chatContributionAllowed を次に導入
 - /callLegProfiles に対する POST 操作
 - /callLegProfiles/<call leg profile id> に対する PUT 操作
 - /callLegProfiles/<call leg profile id> に対する GET 操作
 - /callLegs/<call leg id> に対する PUT 操作
 - /callLegs/<call leg id> に対する GET 操作
 - /calls/<call id>/participants に対する POST 操作
 - /calls/<call id>/callLegs に対する POST 操作
- handStatus を次に導入
 - /callLegs/<call leg id> に対する PUT 操作
 - /callLegs/<call leg id> に対する GET 操作
 - /participants/<participant id> に対する PUT 操作
 - /participants/<participant id> に対する GET 操作
 - /calls/<call id>/participants に対する POST 操作
 - /calls/<call id>/callLegs に対する POST 操作
- handStatusLastModified を次に導入
 - /callLegs/<call leg id> に対する GET 操作
 - /participants/<participant id> に対する GET 操作

- `raiseHandEnabled` を次に導入
 - `/callProfiles` に対する POST 操作
 - `/callProfiles/<call profile id>` に対する PUT 操作
 - `/callProfiles/<call profile id>` に対する GET 操作
 - `/calls` に対する POST 操作
 - `/calls/<call id>` に対する PUT 操作
 - `/calls/<call id>` に対する GET 操作
- `callBridgeGroupFilter` URI パラメータを次に導入
 - リクエストの一部として `/webBridges` に対する GET 操作
`/webBridges/webBridges?callBridgeGroupFilter=<call bridge group id>`
- `defaultAccessMethod` パラメータを次に導入
 - `/coSpaces/<coSpace id>` に対する PUT 操作
 - `/coSpaces/<coSpace id>` に対する GET 操作
- `defaultAccessMethodTemplate` パラメータを次に導入
 - `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>` に対する PUT 操作
 - `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>` に対する GET 操作
- `accessMethod` パラメータを次に導入
 - `/calls/<call id>/callLegs` に対する POST 操作
 - `/callLegs/<callLeg id>` に対する GET 操作
 - `/calls/<call id>/participants` に対する POST 操作
 - `/participants/<participant id>` に対する GET 操作
- `canChangeScope` パラメータを次に導入
 - `/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers` に対する POST 操作
 - `/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers/<coSpace user id>` に対する PUT 操作
 - `/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers/<coSpace user id>` に対する GET 操作

バージョン 3.2 で変更されたパラメータ

`scope` パラメータが `accessMethodTemplates` オブジェクトに追加され、値は `public` | `private` | `member` | `directory` です。

`scope` API 要求パラメータが `accessMethodTemplates` オブジェクトに追加されました。これにより、`coSpaceTemplate` から設定された `coSpace` の範囲を設定できます。範囲が指定されていない場合、デフォルトの範囲は「`private`」です。この `accessMethodTemplate` で作成されたスペースの結果のビデオアドレスには、ドメインが追加されません。

- /coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates に対する POST 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates に対する GET 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates/<access method template id> に対する PUT 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access method template id> に対する GET 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明 |
|-------|------------------------------------|---|
| scope | public private member directory | <p>coSpace のメンバーであるユーザーに対する、このテンプレートを使用したアクセス方式の可視性。</p> <ul style="list-style-type: none"> - public : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーおよび会議のすべての参加者に表示されます。 - private : この coSpace アクセス方式の詳細は、Web アプリケーション内のスペースの所有者にのみ表示されます。または Call Bridge API を使用して管理ユーザーに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインは付加されません。 - member : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーに表示されます。 - directory - この coSpace アクセス方式の詳細は、検索で見つけることができます <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで private になります。範囲を private に指定して作成されたスペースでは、ビデオアドレスにドメインがありません。</p> |

1.2.3 電子メール招待テキストの取得

電子メール招待 API は、配布（通常は電子メールで）に適したテキストベースの会議エントリー情報を取得するために導入されました。

- /api/v1/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>/emailInvitation に対する GET 操作

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|-------|--|
| language (optional) | 文字列 | 言語タグ「xx」または「xx_XX」（xx 言語コードおよび XX 地域コード）または 1 ~ 32 文字の他の文字列（「a」 - 「z」、「A」 - 「Z」、「0」 - 「9」、および「_」の形式）。 注：サポートされている言語のリストおよび電子メール招待のカスタマイズの詳細については、 Cisco Meeting Server 3.1『カスタマイズガイドライン』 を参照してください。 |

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|-------|---|
| invitation | 文字列 | 電子メール招待テキスト。 |
| language | 文字列 | 電子メール招待の言語タグ。 言語が指定されていない場合、デフォルトで en_US になります。 指定された言語が無効な場合は、「400 - 不正な要求」応答が返されます。 |

1.2.4 coSpace のメタデータの設定と取得

メタデータは coSpace 上で構成できるテキスト文字列です。これにより、Cisco Meeting Management などの管理アプリケーションは、coSpace 上にメタデータを保存できます。メタデータは、Meeting Management でブラストダイヤル機能を使用しているときに取得される参加者のリストで構成されます。これは、バージョン 3.2 以降、API ノード `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` で次のメソッドでサポートされています。

- `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` に対する PUT 操作
- `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` に対する GET 操作

ブラストダイヤル機能では、次のパラメータが取得されます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | | | | |
|--------------|-------|---|-------|-------|-------|--------------|----|--|--------------|----|--|
| blastDial | | ブラストダイヤル オブジェクトの一覧 <table border="1" data-bbox="630 1577 1419 1917"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/注記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>attemptLimit</td> <td>数値</td> <td>連絡先が通話に接続できなかった場合に、システムが連絡先へのダイヤルアウトを試行する最大回数。</td> </tr> <tr> <td>attemptDelay</td> <td>数値</td> <td>連絡先へのダイヤルアウトを再試行する前にシステムが待機する最小時間。デフォルト値は 180 秒です。</td> </tr> </tbody> </table> | パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | attemptLimit | 数値 | 連絡先が通話に接続できなかった場合に、システムが連絡先へのダイヤルアウトを試行する最大回数。 | attemptDelay | 数値 | 連絡先へのダイヤルアウトを再試行する前にシステムが待機する最小時間。デフォルト値は 180 秒です。 |
| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | | | | |
| attemptLimit | 数値 | 連絡先が通話に接続できなかった場合に、システムが連絡先へのダイヤルアウトを試行する最大回数。 | | | | | | | | | |
| attemptDelay | 数値 | 連絡先へのダイヤルアウトを再試行する前にシステムが待機する最小時間。デフォルト値は 180 秒です。 | | | | | | | | | |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | | | | |
|--------------|-------|---|-------|-------|-------|---------|-----|--------------|------|-----|------|
| participants | 文字列 | 参加者オブジェクトの一覧。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/注記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>address</td> <td>文字列</td> <td>参加者のメールアドレス。</td> </tr> <tr> <td>name</td> <td>文字列</td> <td>参加者名</td> </tr> </tbody> </table> | パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | address | 文字列 | 参加者のメールアドレス。 | name | 文字列 | 参加者名 |
| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | | | | |
| address | 文字列 | 参加者のメールアドレス。 | | | | | | | | | |
| name | 文字列 | 参加者名 | | | | | | | | | |

/calls/<call id> 上の GET 操作の `coSpaceMetaDataConfigured` 応答要素は、
/cospaces/<cospace id>/metadata に構成されたメタデータがある場合は true、
それ以外は false を返します。

注：ブラストダイヤルなどの Meeting Management の一部の機能では、coSpace にメタデータを保存する必要があります。メタデータを変更すると、これらの機能が失敗する可能性があります。

1.2.5 API による詳細なトレース

バージョン 3.2 では、次の操作をサポートするために、新しい API ノード
/system/timedLogging が導入されました。

- /system/timedLogging に対する PUT 操作
- /system/timedLogging に対する GET 操作

以下の表で詳細なパラメータをサポートしています。各パラメータには整数値を割り当てる
ことができます。この値は、ロギングサブシステムがアクティブ化される時間（秒）に対応
します。

パラメータを 0 または何も設定しなかった場合、ロギングサブシステムは非アクティブにな
ります。たとえば、`sip=60` の `system/timedLogging` に対する PUT 操作は、SIP の詳細
ロギングが 60 秒間アクティブ化されます。これらの 60 秒が経過する前に `sip=0` の
`system/timedLogging` に対する PUT 操作を実行すると、ロギングが再度非アクティブに
なります。SIP と TIP の両方のロギングを次の 10 分間有効にするには、複数のパラメータ
（たとえば `sip=600&tip=600` など）を同時に指定できます。

このオブジェクトには、次のパラメータを使用できます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注意事項 |
|---------------|-------|---|
| activeControl | 数字 | 詳細なアクティブコントロールのロギングを有効にする必要がある 残り時間（秒） |
| activeSpeaker | 数字 | 詳細で有効なスピーカーロギングを有効にする必要がある残り時間 （秒） |
| api | 数字 | 詳細な API ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注意事項 |
|---------------|-------|--|
| bfcpl | 数字 | 詳細な BFCP ログを有効にする必要がある残り時間 (秒) |
| cameraControl | 数字 | 詳細なカメラ制御ログが有効になっている残り時間 (秒) (有効化されていない場合は 0) |
| dns | 数字 | 詳細な DNS ログを有効にする必要がある残り時間 (秒) |
| events | 数字 | 詳細なイベントログを有効にする必要がある残り時間 (秒) |
| ice | 数字 | 詳細な ICE ログを有効にする必要がある残り時間 (秒) |
| sip | 数字 | 詳細な SIP ログを有効にする必要がある残り時間 (秒) |
| tip | 数字 | 詳細な TIP ログを有効にする必要がある残り時間 (秒) |
| webBridge | 数字 | 詳細な Web Bridge ログを有効にする必要がある残り時間 (秒) |

1.2.6 ミーティングのタイトルポジションの設定と取得

次のメソッドでこの機能を導入するために、3.2 で新しい `meetingTitlePosition` API リクエストパラメータが導入されました。

- `/callLegProfiles/` に対する POST 操作
- `/callLegProfiles/<callLegProfile id>` に対する PUT 操作
- `/calls/<call id>/callLegs` に対する POST 操作
- `/calls/<call id>/participants` に対する POST 操作
- `/callLegs/<callLeg id>` に対する PUT 操作

| リクエストパラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------------|----------------------------------|---|
| <code>meetingTitlePosition</code> | disabled top middle bottom | 会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。 値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。 |

- `/callLegProfiles/<callLegProfile id>` に対する GET 操作
- `/callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace` に対する GET 操作
- `/callLegs/<callLeg id>` に対する GET 操作

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------------|----------------------------------|---|
| <code>meetingTitlePosition</code> | top middle bottom disabled | 会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。 値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。 |

1.2.7 ミーティングバナーテキストの作成、変更、および取得

次のメソッドで常設のミーティング中のバナー機能を導入するために、新しい `messageBannerText` API リクエストパラメータが導入されました。

- `/callProfiles/<callProfile id>` に対する PUT 操作
- `/calls` に対する POST 操作
- `/calls/<call id>` に対する PUT 操作
- `/callProfiles` に対する POST 操作

| リクエストパラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|-------|--|
| <code>messageBannerText</code> | 文字列 | 文字列は、画面に表示されるメッセージです。 デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。 |

- `/callLegProfiles/<callLegProfile id>` に対する GET 操作
- `/calls/<call id>` に対する GET 操作

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|-------|--|
| <code>messageBannerText</code> | 文字列 | 文字列は、画面に表示されるメッセージです。 デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。 |

1.2.8 ミーティング中のチャットの有効化/無効化

コールレベルでのチャットの有効化/無効化を行う新しい `chatAllowed` API リクエストパラメータが 3.2 で導入され、次の API 操作でサポートされます。

- `/callProfiles` に対する POST 操作
- `/callProfiles/<call profile id>` に対する PUT 操作
- `/calls` に対する POST 操作
- `/calls/<call id>` に対する PUT 操作

| リクエストパラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|---|--|
| <code>chatAllowed</code> | <code>true false <unset></code> | 指定されている場合、このコールプロファイルを使用するコールでチャットを許可するかどうかを決定します。 コールプロファイル階層のすべてのレベルで値が設定されていない場合、デフォルトは true に設定されます。 |

- `/calls/<call id>` に対する GET 操作
- `/callProfiles/<call profile id>` に対する GET 操作

応答は、最上位レベルの `<callProfiles total="N">` タグ（複数の可能性のあり）として構成されています。

その内部の `<callProfile>` 要素。各 `<callProfiles>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|--------------------------------|---|
| <code>chatAllowed</code> | <code>true false ""</code> | 指定されている場合、この通話プロファイルを使用した通話でチャットが許可されているかどうかを示す値を返します。"" は未設定を示します。 |

新しいパラメータ `chatContributionAllowed` は、特定の通話のどの参加者がチャットメッセージを送信できるかを制御します。通話中にチャットが許可され、参加者がチャットメッセージを送信できる場合、参加者はチャットメッセージを送信できます。このパラメータは、次の API 操作で導入されています。

- `/callLegProfiles` に対する POST 操作
- `/callLegProfiles/<call leg profile id>` に対する PUT 操作
- `/calls/<call id>/callLegs` に対する POST 操作
- `/callLegs/<call leg id>` に対する PUT 操作
- `/calls/<call id>/participants` に対する POST 操作

指定されたコールに新規参加者を作成します。このパラメータはコールレグ作成操作のとおり設定されますが、結果として、リモートのクラスタ化された Call Bridge でコールレグのインスタンス化が発生する（新しい参加者オブジェクトによって「所有」される）可能性があります。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注意事項 |
|--------------------------------------|--|---|
| <code>chatContributionAllowed</code> | <code>true</code> 、 <code>false</code> 、または <code><unset></code> | 値が指定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグや参加者が、チャットでメッセージを送信できるかどうかを決定します。 このタイプのパラメータで、 <code><unset></code> の値が使用される場合は、 <code>callLeg/callLegProfile</code> 階層内の継承のルールに従います。どのレベルにも設定されていない場合、デフォルトで true に設定されます。 |

- `/callLegs/<call leg id>` に対する GET 操作

- `/callLegProfiles/<call leg profile id>` に対する GET 操作

応答は、最上位の `<callLegProfiles total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<callLegProfile>` 要素が含まれる可能性があります。各 `<callLegProfile>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注意事項 |
|-------------------------|-------------------|--|
| chatContributionAllowed | true false "" | このコールレグプロファイルを使用するコールレグがチャットでメッセージを送信できるかどうかを返します。 |

1.2.9 挙手ステータスの有効化、変更、および取得

バージョン 3.2 で、挙手機能に新しい `handStatus` パラメータを導入します。このパラメータは、次の条件で使用できます。

- `/calls/<call id>/callLegs` に対する POST 操作
- `/callLegs/<call leg id>` に対する PUT 操作
- `/participants/<participant id>` に対する PUT 操作
- `/calls/<call id>/participants` に対する POST 操作

指定されたコールに新規参加者を作成します。このパラメータはコールレグ作成操作のとおり設定されますが、結果として、リモートのクラスタ化された Call Bridge でコールレグのインスタンス化が発生する（新しい参加者オブジェクトによって「所有」される）可能性があります。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|------------------|---------------------------------|
| handStatus | raised lowered | この参加者またはコールレグの手を上げるか下げるかを指定します。 |

- `/callLegs/<call leg id>` に対する GET 操作
- `/participants/<participant id>` に対する GET 操作
参加者のプロパティの一部を変更できます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|------------------|---|
| handStatus | raised lowered | 設定されている場合、この参加者またはコールレグの手が上がっているか下がっているかを示します。 コール中に <code>handStatus</code> が変更されていない場合、値は返されません。 |

`handStatusLastModified` パラメータを導入して、`handStatus` が最後に変更されたのがいつかを示します。

- `/participants/<participant id>` に対する GET 操作
- `/callLegs/<call leg id>` に対する GET 操作

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|--------|---|
| handStatusLastModified | string | 挙手ステータスが最後に変更された UTC 日時を返します。 コール中に handStatus が変更されていない場合、値は返されません。 |

raiseHandEnabled パラメータは、管理者がコール全体の機能を管理するために導入されました。これは、次の API でサポートされています。

- /callProfiles に対する POST 操作
- /callProfiles/<call profile id> に対する PUT 操作
- /calls に対する POST 操作
- /calls/<call id> に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|--------------|--|
| raiseHandEnabled | true false | 管理者は、コール全体でこの機能を有効または無効にできます。 デフォルトでは、パラメータは <unset> です。コール/コールプロファイル階層のすべてのレベルで設定されていない場合、デフォルトで true になります。 |

- /callProfiles/<call profile id> に対する GET 操作

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|--------------|---|
| raiseHandEnabled | true false | 設定すると、true または false を返して、参加者がこのコールで挙手できるかどうかを示します。 |

- /calls/<call id> に対する GET 操作

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|--------------|---|
| raiseHandEnabled | true false | 設定すると、true または false を返して、参加者がこのコールで挙手できるかどうかを示します。 |

1.2.10 Call Bridge グループフィルタの取得

callBridgeGroupFilter パラメータは、/webBridges の GET 操作で導入されました。

- /webBridges での GET 操作の列挙

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|---|
| callBridgeGroupFilter | id | callBridgeGroupFilter が指定された場合、指定された Call Bridge グループ内の Web ブリッジだけが返されます。 |

1.2.11 ユーザが範囲を変更する機能の作成、変更、および取得

新しい `canChangeScope` パラメータを次の場所で導入されました。

- `/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers` に対する POST 操作
- `/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers/<coSpace user id>` に対する PUT 操作

| リクエスト パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------|--|---|
| <code>canChangeScope</code> | <code>true</code> <code>false</code> | このユーザーが <code>coSpace</code> 上のアクセス方式の範囲を変更できるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで <code>false</code> になります。 |

- `/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers/<coSpace user id>` に対する GET 操作

| レスポンス パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------|--|---|
| <code>canChangeScope</code> | <code>true</code> <code>false</code> | このユーザが <code>coSpace</code> 上のアクセスメソッドの範囲を変更できるかどうかを、 <code>true</code> または <code>false</code> で返します。 |

1.2.12 アクセスメソッドの作成、変更、および取得

次の方法で、新しい `accessMethod` パラメータが `callLeg` と参加者に導入されました。

- `/calls/<call id>/callLegs` に対する POST 操作
- `/calls/<call id>/participants` に対する POST 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------------|-------|---|
| <code>accessMethod</code> (オプション) | ID | <code>callLeg/participant</code> のアクセス方式として指定された <code>accessMethod</code> を関連付け、 <code>coSpace</code> のデフォルトまたはプライマリアクセス方式を上書きします。 |

注：このパラメータは、`coSpace` 以外のコールでは返されません。これは、コールが `coSpace` コールに対応し、ID がその `coSpace` のコンテキスト内での `accessMethod` である場合にのみ適用されます。

- `/callLegs/<callLeg id>` に対する GET 操作
- `/participants/<participant id>` に対する GET 操作

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------|----------------|---|
| <code>accessMethod</code> | ID "coSpace" | <ul style="list-style-type: none"> - ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。 <p>POST 操作で <code>accessMethod</code> が指定されていない場合、GET 操作は <code>defaultAccessMethod</code> が <code>coSpace</code> 上、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code>coSpace</code> がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、<code>accessMethod</code> または <code>defaultAccessMethod</code> が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。 |

1.2.13 デフォルトのアクセスメソッドの指定と取得

`/coSpaces/<cospaceId>` に新しい `defaultAccessMethod` オプションフィールドが導入されました。これにより、ダイヤルアウト時に使用するデフォルトのアクセスメソッドを指定します。このフィールドは、次の方法でサポートされています。

- `/coSpaces/<cospaceId>` に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|---------|--|
| <code>defaultAccessMethod</code> (オプション) | ID "" | ダイヤルアウトに使用されるデフォルトのアクセスメソッドとして、指定されたアクセスメソッドを関連付けます。 |

- `/coSpaces/<cospaceId>` に対する GET 操作

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------------|---------|--|
| <code>defaultAccessMethod</code> | ID "" | ダイヤルアウトに使用されるデフォルトのアクセスメソッドとして、指定されたアクセスメソッドを関連付けます。 |

1.2.14 デフォルトのアクセスメソッドテンプレートの変更と取得

次の方式に対して新しい `defaultAccessMethodTemplate` パラメータが導入されました。

- `/coSpaceTemplates/<coSpaceTemplate id>` に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--|---------|--|
| <code>defaultAccessMethodTemplate</code> | ID "" | 指定されている場合、アクセス方式テンプレートが coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けられます。coSpace テンプレートから coSpace をインスタンス化すると、インスタンス化されたデフォルトのアクセス方式テンプレートが coSpace のデフォルトのアクセス方式になります。 |

- `/coSpaceTemplates` の GET 操作の列挙では、次の URI パラメータを受け取ります。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|-------|--|
| <code>offset</code> | | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外のエントリを取得するために、オフセットと制限を指定できます。 |
| <code>limit</code> | | |

この応答は、最上位レベルの `<coSpaceTemplates total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<coSpaceTemplate>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<coSpaceTemplate>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--|---------|--|
| <code>defaultAccessMethodTemplate</code> | ID "" | 指定されている場合、アクセス方式テンプレートが coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けられます。coSpace テンプレートから coSpace をインスタンス化すると、インスタンス化されたデフォルトのアクセス方式テンプレートが coSpace のデフォルトのアクセス方式になります。 |

- `/coSpaceTemplates/<coSpaceTemplate id>` で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--|---------|--|
| <code>defaultAccessMethodTemplate</code> | ID "" | coSpace テンプレートから coSpace をインスタンス化すると、インスタンス化されたデフォルトのアクセス メソッド テンプレートが coSpace のデフォルトのアクセスメソッドになります。 |

2 オブジェクトの一般的な構造

Meeting Server のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、ディレクトリ構造に似た、オブジェクトの階層として設計されています。たとえば、構成された各 coSpace はこのツリーのノードとして存在し、coSpace のメンバーであるすべてのユーザーは、coSpace オブジェクトのノードの「下」にノードとして存在します。API オブジェクトには、適切な REST クライアントを使用してアクセスします。詳しくは[セクション 3.4](#) を参照してください。

注： Cisco Meeting アプリケーションおよび他の Cisco Meeting Server ガイドでは、「coSpaces」ではなく「spaces」に言及していますが、API は引き続き /coSpace オブジェクトを使用します。

Meeting Server では、多数のアクティブなコールと coSpace をホストすることができます。1 回のレスポンスでオブジェクトのコレクション全体を取得するオーバーヘッドを削減するために、レスポンスは通常、最初の「N」個の一致するエントリと、そのタイプのオブジェクトの総数のカウントを返します。個々のオブジェクトのアクティブステータスを検索するか、オブジェクトを変更または削除するには、最初の取得でフィルタを使用して、目的のオブジェクトを識別します。フィルタと GET コマンドの詳細については、[セクション 4.2](#) を参照してください。

注： ツリー内の一部のノードはクラスタ全体で共有されるオブジェクトのセット（たとえば、構成された coSpace またはダイヤルプランルールのセット）を参照し、他のノード（「api/v1/system/alarms」の下のアラーム条件など）はアクセスされている Meeting Server に固有です。

2.1 オブジェクト階層

いずれの場合も、最上位の複数項は、潜在的に多くの個別のオブジェクトノードの上にあります。これらの個々のオブジェクトノードは <ID>（通常は GUID）で識別されます。たとえば、Meeting Server に 100 の coSpace が設定されている場合、概念的には、階層内の /coSpace のすぐ下に 100 のノードがあります。

Call Bridge API を介してアドレス指定可能なオブジェクトの階層は次のとおりです。

```

/accessQuery

/callBrandingProfiles
/callBrandingProfiles/<call branding profile id>

/callBridges
/callBridges/<call bridge id>
/callBridgeGroups (2.1 以降)
/callBridgeGroups/<call bridge group id> (2.1 以降)

/calls
/calls/<call id>
/calls/<call id>/callLegs

```

```
/calls/<call id>/diagnostics
/calls/<call id>/participants
/calls/<call id>/participants/* (2.2 以降)

/callProfiles
/callProfiles/<call profile id>

/callLegs
/callLegs/<callLeg id>
/callLegs/<callLeg id>/callLegProfileTrace
/callLegs/<call leg id>/cameraControl (2.9 以降)
/callLegs/<call leg id>/generateKeyframe (2.2 以降)

/callLegProfiles
/callLegProfiles/<call leg profile id>
/callLegProfiles/<call leg profile id>/usage

/clusterLicensing (3.0 以降)
/clusterLicensing/raw (3.0 以降)

/compatibilityProfiles (2.1 以降)
/compatibilityProfiles/<compatibility profile id> (2.1 以降)

/conversationIdQuery (2.3 以降)
/cospaceBulkParameterSets (2.0 以降)
/cospaceBulkParameterSets/<coSpace bulk parameter set id> (2.0 以降)
/cospaceBulkSyncs (2.0 以降)
/cospaceBulkSyncs/<coSpace bulk sync id> (2.0 以降)

/coSpaces
/coSpaces/<coSpace id>
/coSpaces/<coSpace id>/emailInvitation (3.2 以降)
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>/emailInvitation (3.2 以降)
/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers
/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers/<coSpaceUser id>
/coSpaces/<coSpace id>/diagnostics
/coSpaces/<coSpace id>/messages (3.0 で削除)
/coSpaces/<coSpace id>/metadata (3.2 以降)

/coSpaceTemplates (2.9 以降)
/coSpaceTemplates/<coSpace template id> (2.9 以降)
/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates (2.9 以降)
/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access method
template id> (2.9 以降)

/dialInSecurityProfiles (3.0 以降)
/dialInSecurityProfiles/<dial in security profile id> (3.0 以降)
```

```
/dialTransforms
/dialTransforms/<dial transform id>

/directorySearchLocations
/directorySearchLocations/<directory search location id>

/dtmfProfiles
/dtmfProfiles/<dtmf profile id>

/forwardingDialPlanRules
/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule id>

/inboundDialPlanRules
/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule id>

/ivr
/ivr/<ivr id>
/ivrBrandingProfiles
/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>

/layoutTemplates
/layoutTemplates/<layout template id>
/layoutTemplates/<layout template id>/template (2.8 以降)

/ldapMappings
/ldapMappings/<ldap mapping id>
/ldapServers
/ldapServers/<ldap server id>
/ldapSources
/ldapSources/<ldap source id>
/ldapSyncs
/ldapSyncs/<ldap sync id>
/ldapUserCoSpaceTemplateSources (2.9 以降)
/ldapUserCoSpaceTemplateSources/<ldap user coSpace template source id>
(2.9 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings (3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>
(3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceSources (3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>
(3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace source id>
(3.1 以降)

/outboundDialPlanRules
/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule id>

/participants
/participants/<participantId>
/participants/<participantId>/callLegs

/recorders (3.0 で削除)
```

```
/recorders/<recorder id> (3.0 で削除)
/recorders/<recorder id>/status (2.1 以降) (3.0 で削除)

/streamers (2.1 以降) (3.0 で削除)
/streamers/<streamer id> (2.1 以降) (3.0 で削除)
/streamers/<streamer id>/status (2.2 以降) (3.0 で削除)

/system/alarms
/system/cdrReceiver (廃止)
/system/cdrReceivers
/system/cdrReceivers/<CDR receiver id>
/system/configuration/cluster
/system/configuration/xmpp (3.0 で削除)
/system/database
/system/diagnostics
/system/diagnostics/<diagnostics id>
/system/diagnostics/<diagnostics id>/contents
/system/licensing (2.0 以降)
/system/load (2.1 以降)
/system/MPLicenseUsage (2.6 以降)
/system/MPLicenseUsage/knownHosts (2.6 以降)
/system/multipartyLicensing (2.0 以降)
/system/multipartyLicensing/activePersonalLicenses (2.0 以降)
/system/profiles
/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile (3.0 以降)
/system/status
/system/timedLogging (3.2 以降)

/tenantGroups
/tenantGroups/<tenant group id>

/tenants
/tenants/<tenant id>
/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile (3.0 以降)

/turnServers
/turnServers/<turn server id>
/turnServers/<turn server id>/status

/uriUsageQuery (2.3 以降)

/users
/users/<user id>
/users/<user id>/usercoSpaces
/users/<user id>/userCoSpaceTemplates (2.9 以降)
/users/<user id>/userCoSpaceTemplates/<user coSpace Template id> (2.9 以降)
/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces (3.1 以降)
/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user provisioned coSpace id> (3.1 以降)
/userProfiles
/userProfiles/<user profile id>
```

```
/webBridges
/webBridges/<web bridge id>
/webBridges/<web bridge id> /status (2.2 以降)
/webBridges/<web bridge id>/updateCustomization

/webBridgeProfiles (3.0 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id> (3.0 以降)
/webBridges/<web bridge id>/effectiveWebBridgeProfile
  (3.0 以降)

/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers (3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/<ivr number id> (3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses (3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge
address id> (3.1 以降)
```

3 API にアクセスする

API は、転送メカニズムとして HTTPS を使用します。

注：API リクエストにかかる時間は、リクエストタイプ、未処理のリクエストの数、データベースのサイズ、サーバーのロード、API クライアントと API リクエストを受信する Call Bridge 間の遅延、API リクエストを受信する Call Bridge とプライマリデータベース間の遅延など、これらに限定されない要因によって異なります。アプリケーションを開発するときは、代表的なシステムで API パフォーマンスをテストすることをお勧めします。

以下の[構成設定](#)と[認証](#)を実行すると、次のいずれかの方法で API にアクセスして操作できます。

- [Meeting Server Web インターフェイスでの API アクセス](#)
- [サードパーティ製ツールの使用](#)

3.1 構成設定

API を使用するには、Web 管理インターフェイスへのアクセスに使用するのと同じ TCP ポート（通常はポート 443）を介して HTTPS 経由で接続する必要があります。つまり、同じインターフェイスを使用します。

ユーザー名とパスワードも構成する必要があります。API を使用するには、これらの資格情報を提供する必要があります。MMP コマンド `user add <username> (admin|crypto|audit|appadmin|api)` を使用して設定します。このコマンドは、ユーザーのパスワードの入力を求めます。詳細については、[『MMP コマンドリファレンスガイド』](#)を参照してください。

3.2 認証

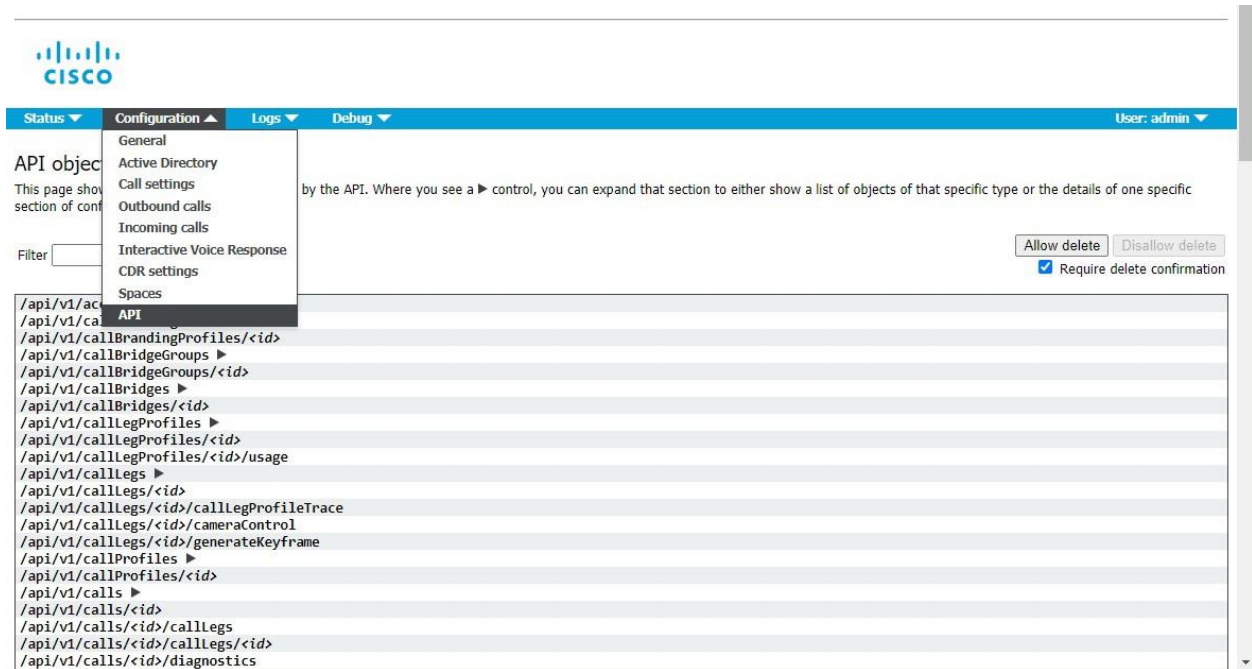
API ユーザーは、共有シークレットのユーザー名とパスワードを、同じユーザー名とパスワードで構成された Meeting Server に提供します。ユーザー名とパスワードは、MMP コマンドラインで設定します。

認証資格情報は HTTP トラフィック内で基本的にプレーンテキストで送信されますが、HTTPS を使用することにより、トラフィック自体を外部の当事者が読み取ることはできません。

3.3 Web インターフェイスでの API アクセス

バージョン 2.9 では、サードパーティ製アプリケーションを必要とせずに Call Bridge API の使用を簡素化するために、Call Bridge API 用のユーザーインターフェイスを導入しました。このインターフェイスには、Meeting Server Web インターフェイスの **[設定 (Configuration)]** タブからアクセスできます（図 2 を参照）。

図 2 : Meeting Server Web インターフェイスを介した Call Bridge API へのアクセス



注：設定済みの API オブジェクトを削除する場合は、画面右側にある [削除を許可 (Allow delete)] を選択します。デフォルトでは削除は許可されておらず、意図しない削除を防止するために [削除の確認を要求 (Require delete confirmation)] がオンになっています。

3.4 使用するサードパーティツール

カスタムソフトウェア、ビルド済みライブラリ、コマンドラインツール、GUI ベースの Web/REST ユーティリティなど、適切にフォーマットされた HTTPS リクエストを生成できるソフトウェアであれば、Meeting Server API との対話に使用できます。RESTful API の場合、REST API とのやり取りを簡素化するための既製のツールがオンラインで利用できるようになりました。

Meeting Server で動作することがわかっている一般的なサードパーティツールの例には、次のものがあります。

- Postman – これは、多くの開発ツールと堅牢な要求/応答ツールを備えた Windows、OSX、Linux 用のグラフィカルユーティリティです。

<https://www.getpostman.com/postman> からインストールします。

さらに、<https://github.com/ciscocms/cms-postman-collection> で、Postman での Meeting Server API の使用を簡素化するコミュニティコンテンツを利用できます。これは、コミュニティでサポートされている Meeting Server API 用のビルド済み Postman コレクションです。これには、Meeting Server API を使用してすばやく起動して実行できるように、事前に入力されたすべての Meeting Server コマンドとプロパティが含まれています。

- RESTer – これは、変数、要求および履歴の保存などの高度な機能をサポートする、Google Chrome 用の軽量のブラウザベースの REST ツールです。Google Chrome ウェブストア (<https://chrome.google.com/webstore/category/extensions>) からインストールします。RESTer のインストールと使用例については、付録 18 を参照してください。
- RESTED – これは、Mozilla Firefox 用の使いやすい軽量のブラウザベースの REST ツールで、変数、要求や履歴の保存などの高度な機能をサポートします。Firefox の [アドオン (Add-ons...)] オプションからインストールします。

コマンドラインを使用したい場合や、ご使用の環境にサードパーティのソフトウェアをインストールできない場合に使用できる一般的なールには、次のようなものがあります。

- curl – ほとんどの OSX および Linux インストールで使用可能なコマンドライン Web 要求ユーティリティ。Microsoft Windows にもインストールできます。
- Powershell – Microsoft のコマンドライン スクリプト ツール。すべての最新の Windows インストールでデフォルトで利用でき、より複雑な応答解析のために簡単にスクリプト可能です。

3.4.1 サードパーティの API ツールを使用するためのヒント

- **https://** の URL を使用し、webbridge ではなく、webadmin がリッスンしているポートを含めるようにしてください。
- ほとんどのツールはデフォルトで SSL/TLS 接続を検証し、証明書の検証に失敗すると Meeting Server への接続を拒否します。URL が証明書と一致しないか、信頼できない場合は、ツールで SSL チェックを無視する設定を見つけるか、API URL の例外を追加します。ブラウザベースのクライアントは通常、実行しているブラウザの信頼済み/例外リストに従います。
- リクエストで認証と Basic 認証が有効になっていることを確認してください。
- POST メソッドおよび PUT メソッドを使用する場合は、リクエストの Body と Content-Type: x-www-form-urlencoded を使用してください。
- Meeting Server API は、スペルが間違っている PUT/POST アクションのプロパティを無視し、HTTP エラーを返しません。変更が期待どおりに実装されていることを確認するために、フォローアップ GET を使用して必ずチェックしてください。

-
- 結果のセットが大きい場合には、最初のいくつかのエントリ結果以上のエントリを表示するために、ページングとオフセットオプションの使用が必要になる場合があります。
 - ほとんどのツールはデフォルトで SSL/TLS 接続を検証し、証明書の検証に失敗すると Meeting Server への接続を拒否します。URL が証明書と一致しないか、信頼できない場合は、ツールで SSL チェックを無視する設定を見つけるか、API URL の例外を追加します。ブラウザベースのクライアントは通常、実行しているブラウザの信頼済み/例外リストに従います。
 - リクエストで認証と Basic 認証が有効になっていることを確認してください。
 - POST メソッドおよび PUT メソッドを使用する場合は、リクエストの Body と Content-Type: x-www-form-urlencoded を使用してください。
 - Meeting Server API は、スペルが間違っている PUT/POST アクションのプロパティを無視し、HTTP エラーを返しません。変更が期待どおりに実装されていることを確認するために、フォローアップ GET を使用して必ずチェックしてください。
 - 結果のセットが大きい場合には、最初のいくつかのエントリ結果以上のエントリを表示するために、ページングとオフセットオプションの使用が必要になる場合があります。

4 API メソッド

メソッドには次の 4 つがあります。

- [GET](#) : 情報を取得します。
- [POST](#) : 階層内に新しいオブジェクトを作成します。
- [PUT](#) : 既存のオブジェクトを変更します。
- [DELETE](#) : ツリー内のオブジェクトを破棄します。

これらの方法については、以下で詳しく説明します。ただし、これらのメソッドを API に伝達するために使用される URL 形式を最初に理解する必要があります。

4.1 URL の形式

個々のオブジェクトをアドレス指定または作成するために、URL 形式はオブジェクトの概念的な階層を反映し、要求が API に対するものであることを識別するためのいくつかの先行タグが追加されています。たとえば、API オブジェクト「/calls/dbfca0dd-dbe1-43bb-b101-beb9a7ef35f4」に関する情報を取得するには、次のコマンドを発行する必要があります。

```
GET /api/v1/calls/dbfca0dd-dbe1-43bb-b101-beb9a7ef35f4 HTTP/1.1
```

この文字列は次のように構成されています。最上位の「/api」は、オンボード HTTP サーバードプロセッサがこの HTTP メソッドを通常のブラウザメソッドと区別できることを意味し、「v1」は、要求が API のバージョン 1 を理解するオブジェクトによって行われていることを API ハンドラが認識していることを意味します。

API メソッドが成功すると、Meeting Server から「200 OK」応答が返されます。エラーが発生した場合、Meeting Server は 4xx または 5xx HTTP ステータスコードで応答します。

503（「サービスが利用できません」）ステータスコードは、Meeting Server の一時的な「ビジー」状態のためにサービスを提供できない API 呼び出しに対して返されます。これは、後で同じメソッドを再試行すると有効であることを示している可能性があります。

指定した <coSpace id> が有効な coSpace オブジェクトに対応していない要求には、「404 Not Found」の応答が返されます。

4xx および 5xx エラーの場合、次のような拡張エラー情報が返される場合があります。

```
<failureDetails>  
<coSpaceDoesNotExist/>  
</failureDetails>
```

Call Bridge API では、情報は「text/xml」本文データとして返されます。

一般に、そのような応答は、「failureDetails」セクションとエラーのリストで構成されます。上記の例では、アクティブな coSpace と一致しない coSpace ID を使用してメソッドが試行されました。

考えられる失敗の理由は、[セクション 4.6](#) で説明されています。

4.2 GET メソッド

GET メソッドでは、既存の API アクセス可能なオブジェクトに関する情報を取得できます。このメソッドは、コレクションレベルと個別オブジェクトレベルの 2 つのレベルで使用されます。

4.2.1 コレクションレベル

GET メソッドがコレクションレベル（複数形の名詞：「calls」、「coSpaces」など）で実行される場合、複数の一致する子ノードが取得されます。設計上、これがリスト全体であるとは限りませんが、Meeting Server に存在するそのタイプのオブジェクトの総数は、このメカニズムを介して知ることができます。

特定のアイテムのみを取得するために、コレクションレベルのほとんどの GET メソッドでは、フィルタ式を使用できます。したがって、管理ツールのインターフェイスは、最初に API ユーザーに coSpace の合計数（例）、最初の「N」個の coSpace の基本的な詳細（名前など）、人間のユーザーが対象となる特定の coSpace（複数可）の検索に使用できるフィルタボックスを表示します。

他の追加パラメータがない場合、コレクションレベルの GET メソッドは、Meeting Server の名目上の全リストの先頭からアイテムを返します。返されたアイテムの数を「合計」値と比較することにより、すべての要素が返されたかどうかを簡単に判断できます（返された要素の数が「合計」値と等しいかどうか）。

4.2.2 コレクションレベルで制限とオフセットを使用する

返される要素の数は、API 要求に "limit=<limitValue>" を含めることで、要求送信者が選択した上限で制限することができます。これにより、指定された「limitValue」数以下の要素が返されることが保証されます。ただし、この場合にも、Meeting Server には独自の制限があり、したがって、返される要素の数は、指定された「limitValue」の数と Meeting Server 独自の制限よりも少なくなります。

Meeting Server の名目上のリストの最初の「n」個以外の要素を取得するには、API 要求で "offset=<offsetValue>" を指定することもできます。これにより、Meeting Server は、リスト内の指定された位置から始まる要素を返し、最初の「offsetValue」数の要素をスキップします。「offsetValue」がそのタイプのオブジェクトの数より大きい場合、要素は返されません。

注：オフセット値は、大きな全リストを取得するための一般的なメカニズムと見なされるべきではありません。これらのメソッドの合間にオブジェクトが削除または追加された場合、データの 1 つの「ページ」とそれに続く 2 番目の「ページ」の順次取得は、必ずしも同じ全リストで動作するとは限りません。

要求と応答ごとに、要求送信者は使用されるオフセットと制限値を常に把握しておき、この知識を、応答で返される要素の数と、Meeting Server によって示される「合計」と組み合わせることが期待されます。要求送信者が指定した「offsetValue」と返された要素の数を合わせた値が、応答で示された「合計」値よりも少ない場合、さらに値が存在することがわかります。次の表に、いくつかの例を示します。

表 1: リクエスト送信者のオフセット/制限の例

| 要求送信者のオフセット | リクエスト送信者の制限 | XML 応答 | 意味 |
|-------------|-------------|--|---|
| <指定なし> | <指定なし> | <coSpaces total="7"> <cospace /> x 7 </coSpaces> | すべての coSpace (0 ~ 6) が応答に含まれている |
| <指定なし> | 1 | <coSpaces total="7"> <cospace /> x 1 </coSpaces> | 最初の coSpace が応答に含まれている |
| 4 | 10 | <coSpaces total="7"> <cospace /> x 3 </coSpaces> | coSpaces 4 ~ 6 が応答に含まれている |
| 0 | 100 | <coSpaces total="53"> <cospace /> x 10 </coSpaces> | Meeting Server は、要求送信者が上限を 100 に指定しているにもかかわらず、応答を内部制限の 20 に制限しています。 |
| 20 | 10 | <coSpaces total="53"> <cospace /> x 10 </coSpaces> | Meeting Server はリクエスト送信者のオフセットと制限を受け入れ、スペース 20..29 を返します。 |

注: 次の GET 制限が適用されます。

- /api/v1/coSpaces - 20
- /api/v1/calls - 10

4.2.3 個々のオブジェクトレベル

GET メソッドが個々のオブジェクトレベルで実行されると、その 1 つのオブジェクトのみに関する完全な情報が返されます。たとえば、coSpace の一意の ID が「/coSpaces」ノードの GET (フィルタ処理されている可能性がある) を介して学習された後、後続の「/coSpaces/<coSpace id>」ノードは、その 1 つの coSpace に関する拡張情報を返します。

4.2.4 HTTP の詳細

GET メソッドには、完全なノードの場所と、API ユーザーによって指定された URI で実行される取得に固有のパラメータが含まれています。たとえば、最初の「N」個の coSpace に関する基本情報を取得するには、URI は次のようになります。

`/api/v1/coSpaces`

名前に「sales」が含まれているものだけをリストするには、GET は次のように実行されます。

`/api/v1/coSpaces?filter=sales`

GET メソッドが成功し、「200 OK」応答が返された場合、Meeting Server は取得した情報を「text/xml」本文データとして返します。

4.2.5 このドキュメントでの GET メソッドの詳細の説明方法

コレクションレベルの各 GET メソッドについて、次の情報が提供されます。

- 動作するノード
- 上記のフィルタ、オフセット、制限などのフォーム パラメータのテーブル。一部はオプションの場合があります。必須のパラメータは、アスタリスク (*) 付きで示されます。
- 返される情報を示した表

どちらの表も、パラメータの形式 (ID または文字列など) または可能な値 (true|false など) を示しています。

個々のオブジェクトレベルの各 GET メソッドについて、次の情報が提供されます。

- 動作するノード
- 返される情報を示した表

特に明記しない限り、フォームパラメータはコレクションレベルのパラメータです。

4.3 POST メソッド

POST メソッドは新しいオブジェクトを作成します。たとえば、新しい構成済みの coSpace またはダイヤルプランルールを作成します。POST メソッドを使用して、coSpace に関連付けられた新しいコールレグを作成することは、新しいアウトバウンド SIP 接続を作成する方法です。

4.3.1 HTTP の詳細

ほとんどの POST メソッドでは、いくつかのパラメータを指定する必要があります。たとえば、coSpace を作成するには、新しい coSpace の名前を指定する必要があります。新しいコールレグは、リモート側のアドレスがわかっている場合にのみ作成できます。このようなパラメータは、POST メソッドのイニシエータによって、HTML ドキュメントの「<form>」要素で使用される標準の HTTP 「x-www-form-urlencoded」形式を介して指定される必要があります。

POST メソッドが新しいオブジェクトを階層に追加することに成功した場合、そのオブジェクトの ID と階層内の位置が応答の「Location」フィールドで返されます。

4.3.2 このドキュメントでの POST メソッドの詳細の説明方法

各 POST メソッドについて、次の情報が提供されます。

- 動作するノード
- フォームパラメータのテーブル。一部はオプションの場合があります。必須のパラメータは、アスタリスク (*) 付きで示されます。
- パラメータの形式 (ID または文字列など) または可能な値 (true|false など)。必要に応じて、パラメータのデフォルト値 (パラメータを指定しない場合に使用される値) が太字で表示されます (例: true|false)。

4.4 PUT メソッド

PUT メソッドは既存のオブジェクトを変更します。たとえば、coSpace の名前の変更、特定のコールレグのミュート、またはレイアウトの変更です。

一般に、オブジェクトで PUT を使用する場合は次のようにします。

- 値を変更しない場合はパラメータを省略します。
- 新しい値を持つパラメータを使用して、この値に変更します。値を設定解除するには、空の値を指定します。たとえば、coSpace からテナントの関連付けを削除するには、「tenant=」を含むパラメータセットを使用してその coSpace を変更します。

4.4.1 HTTP の詳細

要求のパラメータは、「x-www-form-urlencoded」形式で提供する必要があります。

4.4.2 このドキュメントでの PUT メソッドの詳細の説明方法

各 PUT メソッドは、同じオブジェクトの POST メソッドと同じセクションにあります。たとえば、coSpace の作成と変更は一緒に処理されます。オブジェクトを変更する (PUT) ためのフォームパラメータは、POST メソッドと異なる場合にのみ注記されます。たとえば、callLegs などです。

4.5 DELETE メソッド

DELETE メソッドは、階層から個々のオブジェクトを削除します。たとえば、コールレグの接続を解除する、ユーザーを coSpace から関連付け解除してユーザーをメンバーから外すなどです。

したがって、DELETE メソッドは通常、個々のレベルで実行されます。たとえば、次に対して DELETE を実行します。/api/v1/coSpace/<id>/accessMethods/<id>

オブジェクトの ID は、コレクションレベルでの以前の取得 (GET) メソッドから、または以前の作成 (PUT) メソッドへの応答の「Location」フィールドからわかります (coSpace はコレクションレベルで削除できます)。

オブジェクトが正常に削除されると、Meeting Server は「200 OK」応答を送信します。

このメソッドは比較的単純であるため、このドキュメントの他の場所では詳しく説明しません。ただし、チャットメッセージの削除については、説明があります。

4.6 障害理由

次の「failureDetails」コードは、ユーザーエラーに 응답して、上記のメソッドのいずれかの API によって返される可能性があります。

```
<failureDetails>
<tenantDoesNotExist />
</failureDetails>
```

| 理由コード | 説明 |
|---------------------------------|--|
| accessMethodDoesNotExist | 有効なアクセス方式に対応しない ID を使用して、accessMethod を変更または削除しようとした。 コールの coSpace に対応しないアクセス方式でコールレグまたは参加者の作成を試行しました（バージョン 3.2 以降） |
| callBrandingProfileDoesNotExist | 有効なコールブランディング プロファイルに対応しない ID を使用して、コールブランディング プロファイルを変更または削除しようとした。 |
| callBridgeDoesNotExist | クラスタ化された有効な Call Bridge に対応しない ID を使用して、設定済みのクラスタ化された Call Bridge を変更または削除しようとした。 |
| callBridgeGroupDoesNotExist | 有効な Call Bridge グループに対応しない ID を使用して、Call Bridge グループを変更、削除、または使用しようとした（バージョン 2.1 以降）。 |
| callBridgeGroupUnavailable | 使用できない、またはコールを受け入れることができない Call Bridge グループに参加者を作成しようとした（バージョン 2.2 以降）。 |
| callBridgeUnavailable | 使用できない、またはコールを受け入れることができない Call Bridge で参加者を作成しようとした（バージョン 2.2 以降）。 |
| callDoesNotExist | 現在アクティブなコールに対応していない ID を使用して、コールオブジェクトでメソッドを実行しようとした。 |
| callRecordingCannotBeModified | 変更できないコールの録画を開始/停止しようとした。 |
| callStreamingCannotBeModified | 変更できないコールのストリーミングを開始/停止しようとした（バージョン 2.1 以降）。 |
| callLegCannotBeDeleted | 削除できないコールレグを削除しようとした。 |

| 理由コード | 説明 |
|---|---|
| callLegDoesNotExist | 現在アクティブなコールレグに対応しない ID を使用して、コールレグオブジェクトでメソッドを実行しようとした。 |
| callLegProfileDoesNotExist | 有効なコールレグプロファイルに対応しない ID を使用して、callLegProfile を変更または削除しようとした。 |
| callProfileDoesNotExist | 無効な ID を使用して、callProfile を変更または削除しようとした。 |
| cdrReceiverDoesNotExist | 有効な CDR レシーバに対応しない ID を使用して、CDR レシーバを変更または削除しようとした。 |
| coSpaceAccessMethodTemplateDoesNotExist | システム上の有効な coSpace アクセス方式テンプレートと対応していない ID を使用して、coSpace アクセス方式テンプレートを変更、削除、または取得しようとした（バージョン 2.9 以降）。 |
| coSpaceCallDoesNotExist | coSpace に関連付けられていないコールにコールレグまたは参加者（指定されたアクセス方式を使用して）の作成を試行しました（バージョン 3.2 以降） |
| coSpaceDoesNotExist | システム上の有効な coSpace と対応していない ID を使用して、coSpace を変更または削除しようとした。 |
| coSpaceTemplateDoesNotExist | システム上の有効な coSpace テンプレートと対応していない ID を使用して、coSpace テンプレートを変更、削除、または取得しようとした（バージョン 2.9 以降）。 |
| coSpaceUserDoesNotExist | 有効な coSpace ユーザーに対応しない ID を使用して、coSpace ユーザーを変更または削除しようとした。 |
| databaseNotReady | データベースの準備が整う前にメソッド（LDAP 同期メソッドの開始など）を試行しました。 |
| dialInSecurityProfileDoesNotExist | 有効なダイヤルイン セキュリティ プロファイルに対応しない ID を使用して、ダイヤルイン セキュリティ プロファイルを変更、削除、または取得しようとした（3.0 以降） |
| directorySearchLocationDoesNotExist | 有効なディレクトリ検索場所に対応しない ID を使用して、ディレクトリ検索場所を参照、変更、または削除しようとした。 |
| dtmfProfileDoesNotExist | 有効な DTMF プロファイルに対応しない ID を使用して、DTMF プロファイルを参照、変更、または削除しようとした。 |
| duplicateCallBridgeName | クラスタ化された Call Bridge を作成または変更して、既存の設定済みのクラスタ化された Call Bridge と競合する名前を使用しようとした。 |

| 理由コード | 説明 |
|------------------------------------|--|
| duplicateCoSpaceId | 別の coSpace で使用されているコール ID と競合するコール ID を使用するように、coSpace コール ID を作成または変更しようとした。 |
| duplicateCoSpaceUri | 別の coSpace に対応する URI と衝突する URI を使用する coSpace を作成または変更しようとした (Meeting Server は着信コールを coSpace URI に一意に解決できる必要があるため、2 つの coSpace が同じ URI を共有することはできません)。 |
| duplicateCoSpaceIdPasscode | coSpace またはそのアクセス方式の 1 つですでに使用されている別のコール ID/パスコードと競合するコール ID/パスコードの組み合わせを使用して、coSpace を変更しようとしたか、または coSpace アクセス方式を作成または変更しようとした。 |
| duplicateCoSpaceUriPasscode | coSpace またはそのアクセス方式の 1 つですでに使用されている URI/パスコードの組み合わせと競合する URI/パスコードの組み合わせを使用して、coSpace を変更しようとしたか、coSpace アクセス方式を作成または変更しようとした。 |
| duplicateCoSpaceSecret | coSpace またはそのアクセス方式の 1 つですでに使用されているシークレットと競合するシークレットを使用して、coSpace を変更しようとしたか、coSpace アクセス方式を作成または変更しようとした。 |
| duplicateUserCoSpaceTemplate | ユーザーに対して同じ coSpace テンプレートを 2 回割り当てようとした。 |
| forwardingDialPlanRuleDoesNotExist | 有効な転送ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して、転送ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。 |
| inboundDialPlanRuleDoesNotExist | 有効な着信ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して、着信ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。 |
| inboundDialPlanRuleUriConflict | 着信ダイヤルプランルールに URI の競合の原因となる変更を加えようとした。たとえば、これは、複数のテナントに一致するルールを追加しようとして、複数のテナントに同じ URI の coSpace がある場合に発生する可能性があります。 |
| invalidOperation | サポートされていない操作を試みました。たとえば、/api/v1/system/profiles に POST しようとしたか、LDAP 同期から生成された構成済みユーザーに対して DELETE を発行しようとした。 |
| invalidVersion | 無効な API バージョンで操作を試みました。 |

| 理由コード | 説明 |
|---|---|
| ivrBrandingProfileDoesNotExist | システム上の有効な IVR ブランドプロファイルに対応しない ID を使用して、IVR ブランドプロファイル オブジェクトを変更または削除しようとした。 |
| ivrDoesNotExist | システム上の有効な IVR に対応しない ID を使用して、IVR オブジェクトを変更または削除しようとした。 |
| ivrNumberDoesNotExist | 有効な IVR 番号に対応していない ID を使用して、IVR 番号を変更、削除、または取得しようとした（バージョン 3.1 以降）。 |
| ivrUriConflict | IVR オブジェクトに URI の競合を引き起こす変更を加えようとした。 |
| layoutTemplateDoesNotExist | システム上の有効なレイアウトテンプレートと対応していない ID を使用して、レイアウトテンプレートを変更、削除、または取得しようとした（バージョン 2.8 以降）。 |
| layoutTemplateDescriptionTooLong | 許容サイズを超えるレイアウトテンプレートの説明を設定しようとした（バージョン 2.8 以降）。 |
| ldapMappingDoesNotExist | 有効な LDAP マッピングに対応しない ID を使用して、LDAP マッピングを変更または削除しようとした。 |
| ldapServerDoesNotExist | 有効な LDAP サーバーに対応しない ID を使用して、LDAP サーバーを変更または削除しようとした。 |
| ldapSourceDoesNotExist | 有効な LDAP ソースに対応しない ID を使用して、LDAP ソースを変更または削除しようとした。 |
| ldapSyncCannotBeCancelled | 開始または完了した LDAP 同期を取り消そうとした。取り消すことができるのは、まだ開始されていない LDAP 同期メソッドのみです。 |
| ldapSyncDoesNotExist | 有効な LDAP 同期に対応しない ID を使用して、LDAP 同期を照会またはキャンセルしようとした。 |
| ldapUserCoSpaceTemplateSourceDoesNotExist | 既存の LDAP ユーザー coSpace テンプレートのソース エントリに対応していない ID を使用して、削除または取得しようとした（バージョン 2.9 以降）。 |
| ldapUserProvisionedCoSpaceMappingDoesNotExist | 有効な LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace マッピングに対応しない ID を使用して、LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace マッピングを変更または削除しようとした（バージョン 3.1 以降）。 |
| ldapUserProvisionedCoSpaceSourceDoesNotExist | 有効な LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace ソースに対応しない ID を使用して、LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace ソースを変更または削除しようとした（バージョン 3.1 以降）。 |

| 理由コード | 説明 |
|--------------------------------------|--|
| loadBalancingDisabled | 発信コールのロードバランシングが無効になっている Call Bridge グループに参加者を作成しようとした (バージョン 2.2 以降)。 |
| maxNumberOfWebBridgeAddressesReached | 許可されるエントリの最大数がすでに定義されている Web Bridge プロファイルに新しい Web Bridge アドレスを追加しようとした。追加できるようにするには、1 つ削除してください (バージョン 3.1 以降)。 |
| maxNumberOfivrNumbersReached | 許可されるエントリの最大数がすでに定義されている Web Bridge プロファイルに新しい IVR 番号を追加しようとした。追加できるようにするには、1 つ削除してください (バージョン 3.1 以降)。 |
| messageDoesNotExist | 有効な coSpace メッセージに対応しない ID を使用して、coSpace メッセージを削除しようとした。 |
| outboundDialPlanRuleDoesNotExist | 有効な発信ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して、発信ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。 |
| parameterError | リクエストのパラメータが 1 つまたは複数無効であることが判明しました。サポートされているパラメータとエラーの値により、失敗の詳細がわかります。 |
| participantCannotBeDeleted | リモートでホストされている参加者など、削除できない参加者を削除しようとした。 |
| participantCannotBeModified | リモート展開でホストされている参加者など、変更できない参加者を変更しようとした。 |
| participantLimitReached | コールに許可されている最大数を超過して、新しい参加者を追加しようとした。 |
| passcodeTooShort | coSpace または coSpace アクセス方式にパスコードを設定しようとしたが、その長さが有効なダイヤルイン セキュリティ プロファイルで指定されているパスコードの最小許容長に準拠していません (3.0 以降) |
| recorderDoesNotExist | 有効なレコーダーに対応していない ID を使用して、レコーダーを変更または削除しようとした。 |
| recordingNotAllowedByLicensing | 正しいライセンスを持たずに録画を開始しようとした (以前は recordingLimitReached) (3.0 以降)。 |
| streamerDoesNotExist | 有効なストリーマに対応しない ID を使用して、ストリーマを変更または削除しようとした (バージョン 2.1 以降)。 |

| 理由コード | 説明 |
|---------------------------------------|---|
| streamingNotAllowedByLicensing | 正しいライセンスを持たずにストリーミングを開始しようとした (以前は streamingLimitReached) (3.0 以降)。 |
| tenantDoesNotExist | 有効なテナントに対応しない ID を使用してテナントを変更または削除しようとした。 |
| tenantGroupCoSpaceIdConflict | テナントグループを削除または使用するリクエストにより、coSpace ID の競合が発生しました。 |
| tenantGroupDoesNotExist | 存在しないテナントグループを変更、削除、または使用しようとした。 |
| tenantParticipantLimitReached | 所有テナントに許可されている最大数を超過して、新しい参加者を追加しようとした。 |
| tooManyCdrReceivers | 最大数の CDR レシーバがすでに存在しているときに、新しい CDR レシーバを追加しようとした。現在、最大 2 つの CDR レシーバがサポートされています。 |
| tooManyLdapSyncs | 新しい LDAP 同期メソッドを作成するメソッドが失敗しました。後でもう一度試してください。なお、ldapSyncs テーブルは 10 エントリに制限されています。エラーが引き続き発生する場合は、古い完了済みの ldapSync を削除してみてください。 |
| unrecognisedObject | アクセスしている URI に認識されない要素があります。たとえば、/api/v1/system/profile で GET を実行しようとしたなど (正しくは) /api/v1/system/profiles |
| userCoSpaceTemplateDeletionProhibited | 自動生成された coSpace テンプレートをユーザーから取り消そうとしたが、これは許可されていません (バージョン 2.9 以降)。 |
| userCoSpaceTemplateDoesNotExist | ユーザーに対して有効なユーザー coSpace テンプレートと対応していない ID を使用して、ユーザー coSpace テンプレートを変更、削除、または取得しようとした (バージョン 2.9 以降)。 |
| userDoesNotExist | 有効なユーザーに対応しない ID を使用して、ユーザーを変更または削除しようとした。 |
| userProfileDoesNotExist | 有効なユーザープロファイルに対応しない ID を使用して、ユーザープロファイルを変更しようとした。 |
| userProvisionedCoSpaceDoesNotExist | ユーザーに対して有効なユーザープロビジョニングされた coSpace と対応していない ID を使用して、ユーザープロビジョニングされた coSpace をインスタンス化、変更、削除、または取得しようとした (バージョン 3.1 以降)。 |

| 理由コード | 説明 |
|------------------------------|--|
| webBridgeAddressDoesNotExist | 有効な Web Bridge アドレスに対応していない ID を使用して、Web Bridge アドレスを変更、削除、または取得しようとした (バージョン 3.1 以降)。 |
| webBridgeProfileDoesNotExist | 有効な Web Bridge プロファイルに対応していない ID を使用して、Web Bridge プロファイルを変更、削除、または取得しようとした (3.0 以降) |

5 特定のメソッドのリクエストとレスポンスの例

5.1 現在アクティブなコールを取得する

セクション 4.2 で説明したように、GET を使用した取得メソッドには、取得者によって投稿された本文コンテンツは含まれません。リクエストが有効な場合、Meeting Server は XML レスポンスデータを返します。

リクエスト：

```
GET /api/v1/calls HTTP/1.1\r\n
Host: test.example.com\r\n
User-Agent: API console\r\n
Connection: keep-alive\r\n
Authorization: Basic Ym9iOmJ1aWxkZXI=\r\n
\r\n
```

応答：

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/xml
Content-Length: 187
Connection: close
\r\n
<?xml version="1.0"?>
<calls total="1">
<call id="527089d6-6581-4331-8417-971c05c9e274">
<name>Sales coSpace</name>
<coSpace>2dcf2b7a-3410-4066-b638-46273698d469</coSpace>
</call>
</calls>
```

5.2 新しいコールをインスタンス化し、参加者をそのコールに接続する

前述のとおり、作成メソッドに必要なパラメータ（ここではリモート側のアドレス）は、発行者からフォームデータとして提供される必要があります。要求が成功すると、新しいオブジェクトに関する詳細が Meeting Server から「Location」ヘッダーフィールドに返されます。

1. フィルタ処理された coSpace 列挙を使用して「Development

Team」を見つけます: 要求：

```
GET /api/v1/coSpaces?filter=Development%20Team HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
\r\n
```

応答 :

```
HTTP/1.1 200 OK\r\n
Content-Type: text/xml\r\n
Content-Length: 197\r\n
Connection: close\r\n
\r\n
<?xml version="1.0"?>
<coSpaces total="1">
<coSpace id="581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3"><name>Development
Team</name><autoGenerated>false</autoGenerated><uri>dev_
team</uri></coSpace>
</coSpaces>
```

2. 列挙レスポンスで見つかった一致する coSpace 581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3 を使用して、coSpace からのコールをインスタンス化します。

リクエスト :

```
POST /api/v1/calls HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
Content-Type: www-formurl-encoded\r\n
Content-Length: 44\r\n
\r\n
coSpace=581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3
```

応答 :

```
HTTP/1.1 200 OK\r\n
Location: /api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a\r\n
Connection: close\r\n
\r\n
```

3. コール "/api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a" が正常にインスタンス化されました。次に、新しくインスタンス化されたコールからのコールアウトとして参加者を作成します。

要求 :

```
POST /api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a/participants
HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
Content-Type: www-formurl-encoded\r\n
Content-Length: 33\r\n
\r\n
remoteParty=username1@example.com
```

応答 :

```
HTTP/1.1 200 OK\r\n
Location: /api/v1/participants/2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac\r\n
Connection: close\r\n
\r\n
```

4. 参加者 `/api/v1/participants/2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac` が正常に作成されました。

6 coSpace 関連のメソッド

注：Web アプリケーションおよび他の Cisco Meeting Server ガイドでは、「coSpaces」ではなく「spaces」に言及していますが、API は引き続き /coSpace オブジェクトを使用します。Web 管理インターフェイスは、「スペース」を参照するように変更されました。

この章では、coSpace の管理に関連する API メソッドについて詳しく説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [coSpace を取得する](#)
- [coSpace を作成および変更する](#)
- [単一の coSpace に関する詳細情報を取得する](#)
- [coSpace のメンバーを取得する](#)
- [coSpace メンバーを追加および変更する](#)
- [coSpace アクセス方式を取得する](#)
- [coSpace アクセス方式を作成および変更する](#)
- [coSpace から呼び出す](#)
- [coSpace を一括作成、更新、削除する](#)
- [coSpace の診断](#)
- [coSpace テンプレートを使用する](#)
- [アクセス方式テンプレートを使用する](#)
- [coSpace に関するテキストベースの会議エントリ情報を取得する](#)
- [coSpace でメタデータを設定する](#)

6.1 coSpace を取得する

「/coSpaces」ノードでの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|-------|--|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace テンプレートのみが返されます。 |
| tenantFilter | ID | tenantFilter=<tenant id> を指定すると、そのテナントに関連付けられた coSpace のみが返されます。 |
| callLegProfileFilter | ID | callLegProfileFilter=<call leg profile id> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用している coSpace のみが返されます。 |

応答には、応答内で返される数に関係なく、フィルタに一致する（指定した場合）既存の coSpace の総数が含まれます（フィルターを使用しない場合、この値は構成済みの coSpace の合計数です）。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------|------------|--|
| coSpace id | ID | <p>応答は、最上位の <coSpaces total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <coSpace> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><coSpace> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>開始タグで返される「ID」値は、coSpace の一意の識別子であり、その coSpace での今後の変更/削除/クエリメソッドに使用できます。</p> |
| name | 文字列 | 人間が読める、クライアントの UI に表示されるこの coSpace の名前。最大長は 200 文字です。 |
| uri | 文字列 | SIP システムがこの coSpace にダイヤルインするために使用する URI。URI には、最大 200 文字の英数字を含めることができます。 |
| secondaryUri | 文字列 | この coSpace のセカンダリ URI：これは「uri」パラメータと同じ機能を提供しますが、coSpace に対して複数の URI を構成できます。secondaryURI には、最大 200 文字の英数字を含めることができます。 |
| callId | 数字 | ユーザーがこの coSpace に接続するために IVR で（または Web クライアント経由で）入力する数値 ID。最大長は 200 桁です。 |
| tenant | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。 |
| autoGenerated | true false | <p>この coSpace が自動で追加されたか、手動で追加されたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ true：この coSpace は LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されたため、同期操作のパラメータを変更する方法以外に、削除することはできません。 ▪ false：この coSpace は、API メソッドまたは Web アプリを使用して追加されています。APIを介して変更または削除できます |

6.2 coSpace を作成および変更する

- 作成：「/coSpaces」ノードに対する POST メソッド。coSpace が正常に作成された場合、「200 OK」応答が返され、「Location」ヘッダーには新しい coSpace の ID が含まれます。
- 変更：「/coSpaces/<coSpace ID>」ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|---|---|
| userProvisionedCoSpace | ID | ユーザーがプロビジョニングした coSpace からの新しい coSpace のインスタンス化このパラメータが存在する場合、他のすべてのパラメータは無視されます。（バージョン 3.1 以降） |
| name | 文字列 | 人間が読める、UI に表示されるこの coSpace のクライアントの名前。最大長は 200 文字です。 |
| uri | 文字列 | SIP システムがこの coSpace にダイヤルインするために使用する URI。URI には、最大 200 文字の英数字を含めることができます。 |
| secondaryUri | 文字列 | この coSpace のセカンダリ URI : これは「uri」パラメータと同じ機能を提供しますが、coSpace に対して複数の URI を構成できます。 secondaryURI には、最大 200 文字の英数字を含めることができます。 |
| callId | 数字 | ユーザーがこの coSpace に接続するために IVR で（または Web クライアント経由で）入力する数値 ID。このパラメータの最大長は 200 桁です。 |
| cdrTag | 文字列 | CDR でこの coSpace を識別するための最大 100 文字の自由形式のテキスト。この coSpace に関連付けられたコールに対して「callStart」CDR が生成されると、このタグが callStart CDR に（「cdrTag」として）書き込まれます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください。cdrTag は PUT メソッドで変更できます。 |
| passcode | 文字列 | この coSpace のセキュリティコード。 |
| defaultLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths | この coSpace の新しいコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。API と Web 管理インターフェイスの命名の違いについては、 「デフォルトのレイアウトオプション」 を参照してください。空白のままにすると、この coSpace に関連付けられた /callLegProfile の設定が使用されます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|---|---|
| tenant | onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN ID | 指定されている場合は、指定されたテナントをこの coSpace に関連付けます。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpace に関連付けます。 |
| callProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。 |
| callBrandingProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールブランディングをこの coSpace に関連付けます。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpace に関連付けます (3.0 以降)。 |
| requireCallId | true false | この値が true として提供され、現在 coSpace に callId が指定されていない場合、自動生成された新しいコール ID が割り当てられます。 |
| secret | 文字列 | 指定されている場合、この coSpace のセキュリティ文字列を設定します。指定がない場合、coSpace に callId 値があれば、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、coSpace へのゲストアクセスのために callId とともに提供する必要がある、coSpace に関連付けられたセキュリティ値です。 |
| regenerateSecret | true false | <ul style="list-style-type: none"> - true として指定された場合：この coSpace に新しいセキュリティ値が生成され、以前の値は無効になります (たとえば、以前の値を含むハイパーリンクは機能しなくなります)。 - false として指定された場合：この coSpace に新しいシークレット値が生成されません。これには何の効果もありません。 <p>このパラメータは、変更 (PUT) の場合にのみ有効です。</p> |
| nonMemberAccess | true false | coSpace のメンバー以外が coSpace にアクセスできるかどうかを制御します。指定しない場合、動作はデフォルトで true になります。(バージョン 2.0 より) |
| ownerJid | 文字列 | 指定された JID を持つユーザーが coSpace を所有していることを示します。(バージョン 2.0 以降) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|-------|--|
| streamUrl | URL | ストリーミングが開始された場合、coSpace のストリーミング先を示します。(バージョン 2.1 以降) |
| ownerAdGuid | ID | 指定されている場合、coSpace は、指定された AD GUID を持つユーザーによって所有されます。(バージョン 2.1 以降) |
| meetingScheduler | 文字列 | この coSpace の作成をスケジュールした人物(ユーザーである必要はありません)の名前。設定されている場合、「ownerName」フィールドとして任意のコールオブジェクトに伝達されます。(バージョン 2.2 以降) |
| panePlacementHighestImportance | 数字 | panePlacementHighestImportance が指定されている場合、この coSpace に対してペイン配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1 (最大値と 1 を含む) までです。(バージョン 2.4 以降) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------|-----------------------------|--|
| panePlacementSelfPaneMode | skip self blank <unset> | <p>ペイン配置がアクティブになっている場合、これは、エンドポイントの独自のレイアウトペインを表示するときのこの coSpace のレイアウト動作を定義します。（バージョン 2.7 以降）</p> <p>skip : 2.7 より前のバージョンの動作と同じですが、システム自体の重要度レベルを表示するためのペインをレイアウトに含めません（デフォルト）。</p> <p>self : 視聴エンドポイントのビデオを自分自身に対して表示します。</p> <p>blank : 空白のペインを残して、他の参加者が表示するエンドポイントのビューアを示します。</p> <p><unset>- : 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacement HighestImportance に設定された値を使用する</p> <p>/call の panePlacementHighestImportance が設定されていない場合は、/coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する（コールがスペース宛ての場合）</p> <p>/coSpace の panePlacementSelfPaneMode も設定されていない場合は、上記で定義した skip の動作に戻る</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset>。</p> |
| defaultAccessMethod | ID "" | ダイヤルアウトに使用されるデフォルトのアクセスメソッドとして、指定されたアクセスメソッドを関連付けます。 |

注：この PUT 操作を使用して、Web アプリで作成された coSpace の値を変更することもできます。たとえば、coSpace は、それを作成したユーザーの cdrTag を使用して作成されますが、API 呼び出しでその値を変更できます（これは、API 呼び出しで更新できない自動生成された coSpace の cdrTag とは異なります）。

デフォルトのレイアウトオプション

defaultLayout オプションの命名は、API と Web 管理インターフェイスの [設定 (Configuration)] > [coSpaces] ページの間で異なります。「マッピング」は下の表のとおりです。

| API | Web 管理インターフェイス |
|--------------|--|
| allEqual | すべて等しい |
| speakerOnly | 全画面表示 |
| telepresence | オーバーレイ（音量が最も大きい発言者が大きなペインに表示され、その前に話した数人の参加者が小さいペインに表示されて音量が最も大きい発言者のペインの下部にオーバーレイされます）。 |
| stacked | スタック（音量が最も大きい発言者が大きなペインに表示され、その前に話した数人の参加者が音量が最も大きい発言者のペインの下の小さなペインに表示されます）。 |

6.2.1 セカンダリ coSpace URI

上記のように、coSpace ごとに、オプションの secondaryUri パラメータがあります。これにより、名前だけでなく数字によるダイヤリングなど、柔軟性が得られます。

- coSpace を作成または変更する場合（前のセクションを参照）、上の表のフォームパラメータに加えて secondaryUri パラメータを指定できます（例: uri）。
- セカンダリ URI は、URI と同じ方法で有効性と一意性がチェックされ、有効な場合、coSpace に到達できる新しい URI が確立されます。
- 個々の coSpace（下記を参照）に関する情報を取得する際、この coSpace に対して定義されている場合は secondaryUri 値が返されます。
- 新しい LDAP マッピングパラメータが使用されている場合は、LDAP 同期中に secondaryUri を自動的に作成できます。詳細については、「[coSpaceSecondaryUriMapping](#)」を参照してください。

6.2.2 coSpace callId の自動生成

coSpace の作成（POST）または変更（PUT）メソッドを介して「requireCallId=true」が設定され、現在 coSpace に callId が指定されていない場合、新しい自動生成されたコール ID が割り当てられます。

6.3 単一の coSpace に関する詳細情報を取得する

“/coSpaces/<coSpace ID>” ノードで実行される GET メソッド。指定された coSpace ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。この応答には、[作成と変更](#)のケースについて上記で説明したとおりのデータを持つ 1 つの「<coSpace id=」オブジェクトが含まれます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------|-------|---|
| name | 文字列 | 人間が読める、クライアントの UI に表示されるこの coSpace の名前。最大 200 文字。 |
| uri | 文字列 | SIP システムがこの coSpace にダイヤルインするために使用する URI。URI には、最大 200 文字の英数字を含めることができます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|---|---|
| secondaryUri | 文字列 | この coSpace のセカンダリ URI : これは「uri」パラメータと同じ機能を提供しますが、coSpace に対して複数の URI を構成できます。secondaryUri には、最大 200 文字の英数字を含めることができます。 |
| callId | 数字 | ユーザーがこの coSpace に接続するために IVR で（または Web クライアント経由で）入力する数値 ID。このパラメータには、最大 200 桁を指定できます。 |
| cdrTag | 文字列 | CDR でこの coSpace を識別するための最大 100 文字の自由形式のテキスト。この coSpace に関連付けられたコールに対して「callStart」CDR が生成されると、このタグが callStart CDR に（「cdrTag」として）書き込まれます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください。cdrTag は PUT メソッドで変更できます。 |
| passcode | 文字列 | この coSpace のセキュリティコード。 |
| defaultLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | この coSpace の新しいコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。API と Web 管理インターフェイスの命名の違いについては、 デフォルトのレイアウトオプション を参照してください。 |
| tenant | ID | 指定されている場合は、指定されたテナントをこの coSpace に関連付けます。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpace に関連付けます。 |
| callProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます。 |
| callBrandingProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールブランディングをこの coSpace に関連付けます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|-------------|--|
| autoGenerated | true false | これは、LDAP 同期操作の一部として coSpace が自動的に追加されたかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この coSpace は LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されたため、同期操作のパラメータを変更する方法以外に、削除することはできません。 ■ false : この coSpace は、API メソッドまたは Web アプリを使用して追加されています。APIを介して変更または削除できます |
| nonMemberAccess | true false | coSpace のメンバー以外が coSpace にアクセスできるかどうか。指定されていない場合、動作はデフォルトで true になります。(バージョン 2.0 以降) |
| numAccessMethods | 数字 | この coSpace に追加のアクセス方式が定義されている場合は、coSpace の追加のアクセス方式の数を返します。 |
| secret | 文字列 | 指定されている場合、この coSpace のセキュリティ文字列を設定します。指定がない場合、coSpace に callId 値があれば、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、coSpace へのゲストアクセスのために callId とともに提供する必要がある、coSpace に関連付けられたセキュリティ値です。 |
| ownerId | ID | 指定された GUID を持つユーザーが coSpace を所有していることを示します。(バージョン 2.0 以降) |
| ownerJid | 文字列 | 指定された JID を持つユーザーが coSpace を所有していることを示します。(バージョン 2.0 以降) |
| streamUrl | URL | ストリーミングが開始された場合、coSpace のストリーミング先を示します。(バージョン 2.1 以降) |
| meetingScheduler | 文字列 | この coSpace の作成をスケジュールした人物(ユーザーである必要はありません)の名前。設定されている場合、「ownerName」フィールドとして任意のコールオブジェクトに伝達されます。(バージョン 2.2 以降) |
| panePlacementHighestImportance | 数字 | 指定されている場合、この特定の coSpace に対してペイン配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1 (最大値と 1 を含む) までです。(バージョン 2.4 以降) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------|-----------------------------|---|
| panePlacementSelfPaneMode | skip self blank <unset> | <p>この coSpace に対してセルフペインモードがアクティブ化されているかどうかを示します。 (バージョン 2.7 以降)</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じです。ビューアごとに、画面レイアウトでセルフペインがスキップされ、次の重要な参加者のペインが表示されます (デフォルト)。</p> <p>blank : 重要な参加者を表示せずに、ペインを空白のままとします。これにより、重要な参加者は他のすべてのビューアと同じペインの配置で表示されます。</p> <p><unset>- : 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する</p> <p>/call の panePlacement HighestImportance が設定されていない場合は、/coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する (コールがスペース宛ての場合)</p> <p>/coSpace の panePlacement SelfPaneMode も設定されていない場合は、上記で定義した skip の動作に戻る</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset>。</p> |
| defaultAccessMethod | ID "" | ダイヤルアウトに使用されるデフォルトのアクセス方式。 |

6.3.1 特定の coSpace のエントリの詳細を取得する

2.1 から、"meetingEntryDetail"ノードが追加され、特定の coSpace 会議のエントリの詳細を取得できるようになりました。/coSpaces/<coSpace id>/meetingEntryDetail で GET を実行します。

レスポンス値は uri と callId です。

6.4 coSpace メンバーメソッド

6.4.1 coSpace のメンバーを取得する

“/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers” ノードの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|-------|--|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace ユーザーのみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| callLegProfileFilter | ID | callLegProfileFilter=<ID> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用しているメンバーのみが返されます。 |

応答には、応答内で返された数に関係なく、照会された coSpace に対して構成され、フィルタに一致する coSpace ユーザーの合計数が含まれます（フィルタを使用しない場合、この値は coSpace に関連付けられたユーザーの総数です）。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|------------|---|
| | | <p>応答は、最上位の <coSpaceUsers total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <coSpaceUser> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><coSpaceUser> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> |
| coSpaceUser id | ID | <coSpaceUser> 要素には独自の ID があり、ユーザーの ID も含まれています。 |
| userJid | 文字列 | ユーザーの XMPP ID。 |
| userId | ID | coSpace アソシエーションとの関係を持たないユーザーを識別します。"coSpaceUser" オブジェクトの ID と同じである場合と異なる場合があります。 |
| autoGenerated | true false | <p>この coSpace ユーザーが自動で追加されたか、手動で追加されたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この coSpaceUser は、LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されています。したがって、同期操作のパラメータを変更する以外の方法で削除できません。 ■ false : この coSpaceUser は、API メソッドまたは Web アプリを使用して追加されています。API を介して変更または削除できます |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpace ユーザーに関連付けます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------|-------------|--|
| canDestroy | true false | このユーザーが coSpace を削除できるかどうか。 |
| canAddRemoveMember | true false | このユーザーがこの coSpace の他のメンバーを追加または削除できるかどうか。 |
| canChangeName | true false | このユーザーが coSpace の名前を変更できるかどうか。 |
| canChangeUri | true false | このユーザーが coSpace の URI を変更できるかどうか。 |
| canChangeCallId | true false> | このユーザーが coSpace のコール ID を変更できるかどうか。 |
| canChangePasscode | true false | このユーザーが coSpace のパスコードを変更できるかどうか。 |
| canRemoveSelf | true false | このユーザーが coSpace から自分自身を削除できるかどうか。 |
| canChangeNonMemberAccessAllowed | true false | (3.0 で廃止) このユーザーが coSpace の「メンバー以外のアクセスを許可する」設定を変更できるかどうか。 |

6.4.2 coSpace メンバーの追加と変更

- 追加: "/coSpaces/<coSpace ID> /coSpaceUsers" ノードへの POST メソッド
- 変更: "/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers/<coSpaceUser ID>" ノードで実行される PUT メソッド。変更できるパラメータを以下に示します ("userJid" を除く)。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|------------|--|
| userJid * | 文字列 | メンバーとして追加するユーザーの JID |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpace ユーザーに関連付けます。 |
| | | これらのパラメータはすべてオプションであり、POST 操作で指定されない場合のデフォルト設定は false です。下記の権限に関する注記も参照してください。 |
| canDestroy | true false | このユーザーが coSpace を削除できるかどうか。 |
| canAddRemoveMember | true false | このユーザーがこの coSpace の他のメンバーを追加または削除できるかどうか。 |
| canChangeName | true false | このユーザーが coSpace の名前を変更できるかどうか。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------|--------------|--|
| canChangeUri | true false | このユーザーが coSpace の URI を変更できるかどうか。 |
| canChangeCallId | true false | このユーザーが coSpace のコール ID を変更できるかどうか。 |
| canChangePasscode | true false | このユーザーが coSpace のパスコードを変更できるかどうか。 |
| canRemoveSelf | true false | このユーザーが coSpace から自分自身を削除できるかどうか |
| canChangeNonMemberAccessAllowed | true false | (3.0 で廃止) このユーザーが coSpace の「メンバー以外のアクセスを許可する」設定を変更できるかどうか。 |
| canChangeScope | true false | このユーザーが coSpace 上のアクセス方式の範囲を変更できるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで false になります。 |

メンバーが正常に追加された場合、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーには新しいユーザー ID が含まれます。

coSpace 権限

canAddRemoveMember が true に設定されているメンバーは、他のユーザーを Web アプリから coSpace のメンバーとして追加できます。新しいメンバーには、追加したメンバーと同じ権限が与えられます。ただし、元のメンバーの canRemoveSelf も false に設定されている場合は例外です。

coSpace から自分自身を削除できないメンバー (canRemoveSelf によって制御される) は、自分のメンバーシップを削除するために 2 番目のメンバーを作成することはできません。したがって、この状況で別のメンバーによって Web アプリから作成されたメンバーは、canAddRemoveMember は false に設定され、canRemoveSelf は true に設定されます (下の表を参照)。他のすべての権限は、元のメンバーからコピーされます。

| 元のユーザーの権限 | | 作成されたユーザーの権限 | | 注記 |
|--------------------|---------------|--------------------|---------------|---------------------|
| canAddRemoveMember | canRemoveSelf | canAddRemoveMember | canRemoveSelf | |
| False | N/A | N/A | N/A | 別のユーザーを追加することはできません |
| True | True | True | True | すべての権限がコピーされます |
| True | False | False | True | 他のすべての権限がコピーされます。 |

API を使用すると、柔軟性が高くなります。自分自身を削除することはできないが、別のメンバーによって削除できるメンバーを含む coSpace を作成できます。メンバーはいつでも API を介して削除できます。

自動生成されたメンバー（LDAP 同期によって作成された）には、次の LDAP 同期によって上書きされる変更を許可しても意味がないため、自動生成された権限が与えられます。したがって、これらのユーザーの場合、パラメータ canDestroy、canChangeName、canChangeUri、canChangeCallId、canRemoveSelf は常に false に設定されます。他の「can」パラメータは True に設定されます。自動生成されたメンバーのこれらの設定を API を介して変更しても、効果は一時的で、次の LDAP 同期で上書きされます。メンバーが自動生成されたかどうかの確認方法については、次のセクションを参照してください。

権限のデフォルト設定の概要については、下の表を参照してください。

| 権限 | coSpace の作成元 | | |
|---------------------------------|--------------|---------|-------|
| | Web アプリケーション | LDAP 同期 | API |
| canDestroy | true | false | false |
| canAddRemoveMember | true | 正しい | false |
| canChangeName | true | false | false |
| canChangeUri | true | false | false |
| canChangeCallId | true | false | false |
| canChangePasscode | true | 正しい | false |
| canRemoveSelf | true | false | false |
| (3.0 で廃止) | true | false | true |
| canChangeNonMemberAccessAllowed | | | |

6.4.3 coSpace メンバーの情報を取得する

“/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers/<coSpaceUser ID>” ノードで実行される GET メソッド。取得が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。

この応答には、[作成と変更](#)のケースについて上記で説明したとおりのデータを持つ単一の <coSpaceUser id=<ID>> オブジェクトが含まれています。さらに、

- autoGenerated 値は、LDAP 同期操作の一部として coSpace メンバーが coSpace に自動的に追加されたかどうかを示します。
- canChangeScope は、このユーザーが coSpace 上のアクセス方式の範囲を変更できるかどうかを示します。

6.5 複数の coSpace アクセス方式

6.5.1 一般情報

オブジェクトの 2 つの関連するテーブルがあります。

- coSpace ごとのアクセス方式、"/coSpaces/<cospace ID>/accessMethods [/<accessMethod ID>]"
- コールレグプロファイル、「/callLegProfiles/<callLegProfile ID>」

coSpace ごとのアクセス方式

アクセス方式は、coSpace へのアクセスに使用できる URI、パスコード、callId、シークレットの組み合わせを定義します。

必要に応じて、アクセス方式に callLegProfile を関連付けることができます。このようなアクセス方式を介して参加するコールレグには、そのコールレグプロファイルが適用されます。アクセス方式にコールレグプロファイルがないが、coSpace にある場合、coSpace のコールもそうです。

注： coSpace またはアクティブなコールに参加するための電子メール招待状を 1 人または複数の人に Web アプリケーションから送信する場合、URI、パスコード、callId、シークレット情報のセット 1 つのみが含まれます。アクセス方式の範囲フィールドが public に設定されている場合、この情報が使用されます。public 範囲を持つアクセス方式がない場合、coSpace 自体の構成からのコール情報が含まれます。

コールレグプロファイル

コールレグプロファイルは coSpace オブジェクトに関連付けることができ、その coSpace 内のすべてのコールレグ (たとえば、設定された URI および [secondaryUri](#) を介して接続するもの) のデフォルトのコールレグプロファイルになります。ただし、coSpace コールレグプロファイルの効果は、追加の coSpace アクセス方式用に設定されたコールレグプロファイルを通じて課されるより具体的なオーバーライドによってオーバーライドできます。

「[コールレグプロファイルメソッド](#)」セクションを参照してください。

6.5.2 coSpace アクセス方式を取得する

"/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/" ノードの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|----------|---|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace アクセス方式のみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。 |
| callLegProfileFilter | ID | callLegProfileFilter=<ID> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用している coSpace のアクセス方式のみが返されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|---------|--|
| accessMethod id | ID | 応答は、"<accessMethods>" オブジェクト内に含まれる "<accessMethod id=<access method id>>" オブジェクトの集合です。 <accessMethod> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| uri | 文字列 | このアクセス方式を介したダイヤルインに使用される URI 最大長は 200 文字です。 |
| callId | ID (番号) | このアクセス方式 (IVR または Web Bridge ログインを使用) を介して接続するために使用される「コール ID」。callId の最大長は 200 桁です。 |
| passcode | 文字列 | このアクセス方式に必要なパスコード。最大長は 200 文字です。 |
| callLegProfile | ID | このアクセス方法を介して着信するコールに適用するコールレグプロファイルの ID |

6.5.3 coSpace アクセス方式を作成および変更する

- 作成：「/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods" node」ノードへの POST メソッド
- 変更：「/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>」ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------|------------------|--|
| uri | 文字列 (URI ユーザー部分) | このアクセス方式を介したダイヤルインに使用される URI (URI の「ユーザー部分」は、完全な URI の「@」文字の前の部分です)。最大長は 200 文字です。 |
| callId | ID (番号) | このアクセス方式 (IVR または Web Bridge ログインを使用) を介して接続するために使用される「コール ID」。最大長は 200 桁です。 |
| passcode | 文字列 | このアクセス方式に必要な最大 200 桁のパスコード。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|------------|---|
| name | 文字列 | このアクセス方式に関連付けられた名前（バージョン 2.9 以降）。最大長は 200 文字です。 |
| callLegProfile | ID | このアクセス方法を介して着信するコールに適用するコールレグプロファイルの ID |
| secret | 文字列 | 指定されている場合、この coSpace アクセス方式のセキュリティ文字列を設定します。指定がない場合、coSpace アクセス方式に callId 値があれば、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、このアクセス方式を介した coSpace へのゲストアクセスのために、callId とともに提供する必要がある、coSpace アクセス方式に関連付けられたセキュリティ値です。 |
| regenerateSecret | true false | <ul style="list-style-type: none"> - true : この coSpace アクセス方式に対して新しいセキュリティ値が生成され、以前の値は無効になります（たとえば、それを含むハイパーリンクは機能しなくなります）。 - false : この coSpace アクセス方式に新しいシークレット値が生成されません。これには何の効果もありません。 <p>このパラメータは、変更（PUT）の場合にのみ有効です。</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|-------------------------------------|--|
| scope | public private member directory | <p>この coSpace のメンバーである Web アプリのユーザーに対する、coSpace のアクセス方式の可視性。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ public : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーおよび会議のすべての参加者に表示されます。 ▪ private : この coSpace アクセス方式の詳細は、Web アプリケーション内のスペースの所有者にのみ表示されます。または Call Bridge API を使用して管理ユーザーに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインは付加されません。 ▪ member : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーに表示されます (バージョン 3.1 以降)。 ▪ directory : この coSpace アクセス方式の詳細は検索で確認できます (バージョン 3.1 以降) [注 : 3.1 では検索がないため、動作は public と同じです] <p>注 : 範囲を public に設定すると、Web アプリケーションは coSpace の詳細を編集できなくなります。また、名前の下に表示されている uri はアクセス方式のものです。</p> |
| importance | 数字 | <p>このアクセス方式を介して参加するすべての参加者に割り当てられる重要度の値。最大値は 2,147,483,647 です。 (バージョン 2.4 以降)</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|---|
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpace アクセス方式に関連付けます (3.0 以降)。 |

coSpace アクセス方式が正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい coSpace アクセス方式 ID が含まれます。

6.5.4 個々の coSpace アクセス方式に関する情報を取得する

「/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>」ノードの GET メソッド。指定されたアクセス方式 ID が有効な場合、「200 OK」応答と 1 つの <accessMethod id=access method id> オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。

6.6 coSpace から呼び出す

リモートパーティを coSpace に追加するには、接続を確立できるアクティブなコールがこの coSpace に存在する必要があります。これにより、coSpace からの最初のコールが他の 2 つの API メソッドの組み合わせになります。

1. 新しいコールを作成する。
2. 新しい発信コールレグをコールに追加する。

これらのメソッドについては、[セクション 8](#) で説明します。

6.7 coSpace を一括作成、更新、削除する

6.7.1 /cospaceBulkParameterSets を作成する

- 作成：「/cospaceBulkParameterSets」ノードに対する POST メソッド。新しいパラメータセットを作成します。下の表を参照してください。新しいパラメータセットの場所を返します。
/cospaceBulkParameterSets/<bulk parameter set guid>
- 変更：「/cospaceBulkParameterSets」ノードに対する PUT メソッド。このパラメータセット内のパラメータを更新しますが、有効にするには同期する必要があります。

| パラメータ | タイプ | 説明 |
|------------|-----|------------------------------------|
| startIndex | 数字 | coSpace マッピングが開始するインデックス (この数字を含む) |
| endIndex | 数字 | coSpace マッピングが終了するインデックス (この数字を含む) |

| パラメータ | タイプ | 説明 |
|----------------------|-----|---|
| coSpaceUriMapping | 文字列 | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される URI を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace にはダイヤル可能な URI がありません。</p> <p>構文： uri-mapping = [uri-component] ["\$index\$"] [uri-component] 定義： uri-component = *(uri-character / escaped-character) uri-character = *('@' を除く unescaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合に衝突が発生します。</p> |
| coSpaceNameMapping | 文字列 | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された cospace に使用される名前を記述するマッピングです。</p> <p>構文： name-mapping = [name-component] ["\$index\$"] [name-component] 定義： name-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要はありません。</p> |
| coSpaceCallIdMapping | 文字列 | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用されるコール ID を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace には callId がありません。</p> <p>構文： id-mapping = [id-component] ["\$index\$"] [id-component] 引数： id-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\\" / "\\\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合は衝突が発生します。</p> <p>CallIdMapping が設定されている場合、シークレットは自動生成されます。</p> |
| tenant | ID | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるテナントです。設定されていない場合、coSpace はテナントに関連付けられません。</p> |

| パラメータ | タイプ | 説明 |
|---------------------|------------|---|
| callProfile | ID | 指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールプロファイルです。設定されていない場合、coSpace はコールプロファイルに関連付けられません。 |
| callBrandingProfile | ID | 指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールブランディングプロファイルです。設定されていない場合、coSpace はコールブランディングプロファイルに関連付けられません。 |
| nonMemberAccess | true false | メンバー以外が、一括作成された coSpace にアクセスできるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になり、メンバー以外が coSpace にアクセスできます。 |

6.7.2 coSpace を一括作成するためのパラメータセットを取得する

「/cospaceBulkParameterSets」ノードでの GET メソッド。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|-------|---|
| | | 応答は最上位の <cospaceBulkParameterSets total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <cospaceBulkParameterSet> 要素が含まれる可能性があります。 <cospaceBulkParameterSet> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| startIndex | 数字 | coSpace マッピングが開始するインデックス (この数字を含む) |
| endIndex | 数字 | coSpace マッピングが終了するインデックス (この数字を含む) |

6.7.3 個々の /cospaceBulkParameterSet に関する情報を取得する

「/cospaceBulkParameterSets/<coSpace bulk parameter set id>」ノードの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ | 説明 |
|------------|-----|---|
| | | 応答は最上位の <cospaceBulkParameterSet total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <cospaceBulkParameterSet> 要素が含まれる可能性があります。 各 <cospaceBulkParameterSet> 要素には、次の要素が含まれる場合があります。 |
| startIndex | 数字 | coSpace マッピングが開始するインデックス (この数字を含む) |
| endIndex | 数字 | coSpace マッピングが終了するインデックス (この数字を含む) |

| パラメータ | タイプ | 説明 |
|----------------------|-----|--|
| coSpaceUriMapping | 文字列 | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される URI を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace にはダイヤル可能な URI がありません。</p> <p>構文： uri-mapping = [uri-component] ["\$index\$"] [uri-component] 定</p> <p>義： uri-component = *(uri-character / escaped-character) uri-character = *('@' を除く unescaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\ / \"\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合に衝突が発生します。</p> |
| coSpaceNameMapping | 文字列 | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される名前を記述するマッピングです。</p> <p>構文： name-mapping = [name-component] ["\$index\$"] [name-component]</p> <p>定義： name-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\ / \"\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要はありません。</p> |
| coSpaceCallIdMapping | 文字列 | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用されるコール ID を記述するマッピングです。設定されていない場合、coSpace には callId がありません</p> <p>構文： id-mapping = [id-component] ["\$index\$"] [id-component] 引</p> <p>数： id-component = *(unescaped-character / escaped-character) unescaped-character = EXCLUDING '\$' および '\' を除くすべての文字 escaped-character = "\\ / \"\$" (それぞれ '\' と '\$' を生成します)</p> <p>これらは一意である必要があるため、フィールドを完全に空白のままにしない限り、インデックスが使用されていない場合は衝突が発生します。</p> <p>CallIdMapping が設定されている場合、シークレットは自動生成されます。</p> |
| tenant | ID | <p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるテナントです。設定されていない場合、coSpace はテナントに関連付けられません。</p> |

| パラメータ | タイプ | 説明 |
|---------------------|------------|---|
| callProfile | ID | 指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールプロファイルです。設定されていない場合、coSpace はコールプロファイルに関連付けられません。 |
| callBrandingProfile | ID | 指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して /cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールブランディングプロファイルです。設定されていない場合、coSpace はコールブランディングプロファイルに関連付けられません。 |
| nonMemberAccess | true false | メンバー以外が、一括作成された coSpace にアクセスできるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になり、メンバー以外が coSpace にアクセスできます。 |

6.7.4 一括同期操作をキューに入れる

- 作成：「/cospaceBulkSyncs」ノードに対する POST メソッド。一括同期操作をできるだけ早く実行するためにキューに入れます。場所 /cospaceBulkSync/<bulk sync guid> を返します。

注：一括同期は、startIndex と endIndex（両端を含む）の間を反復し、マッピングパーツを展開して挿入します。

- 変更：「/cospaceBulkSyncs」ノードに対する PUT メソッドはサポートされていません。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明 |
|-------------------------|------------|---|
| cospaceBulkParameterSet | ID | 同期されるパラメータセットの GUID |
| removeAll | true false | 指定されている場合、パラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期によって削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除する必要がある場合にのみ使用します。true に設定すると、スペースは作成されません。false に設定するか省略した場合、このパラメータセットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 |

6.7.5 一括同期操作を取得する

「/cospaceBulkSyncs」ノードでの GET メソッド。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|---|--|
| cospaceBulkParameterSet | ID | <p>応答は、最上位の <cospaceBulkSyncs total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の<cospaceBulkSync> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><cospaceBulkSync> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>この一括同期に使用されたパラメータセット</p> |
| status | pending running complete failedCoSpaceUriConflict failedCallIdConflict failedIndexRangeInvalid failedIndexRangeTooGreat failedNoSuchParameterSet failed | <p>同期操作のステータス：</p> <p>pending：同期操作は実行待ちのキューにあります</p> <p>running - 同期操作は現在実行中です</p> <p>complete - 同期操作が正常に完了しました</p> <p>failedCoSpaceUriConflict - すでに存在するURI と競合する URI の作成が必要になるため、同期に失敗しました</p> <p>failedCallIdConflict - すでに存在するコールID と競合するコール ID の作成が必要になるため、同期に失敗しました</p> <p>failedIndexRangeInvalid - 「startIndex」が「endIndex」より大きいため、同期に失敗しました。</p> <p>failedIndexRangeTooGreat - "endIndex" と "startIndex" の差が大きすぎるため、同期に失敗しました failedNoSuchParameterSet - 同期コマンドで参照された "cospaceBulkParameterSet" が存在しませんでした</p> |
| removeAll | true false | <p>failed：同期操作が失敗しました</p> <p>指定されている場合、パラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期によって削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除するためにのみ使用されます。true に設定すると、スペースは作成されません。false に設定するか省略した場合、このパラメータセットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。</p> |

6.7.6 特定の一括同期操作の取得

"/cospaceBulkSyncs/<coSpace bulk sync id>" ノードの GET メソッド。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|---|---|
| cospaceBulkParameterSet | ID | <p>応答は、最上位の <cospaceBulkSyncs total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <cospaceBulkSync> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><cospaceBulkSync> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>この一括同期に使用されたパラメータセット</p> |
| status | pending running complete failedCoSpaceUriConflict failedCallIdConflict failedIndexRangeInvalid failedIndexRangeTooGreat failedNoSuchParameterSet failed | <p>同期操作のステータス：</p> <p>pending：同期操作は実行待ちのキューにあります</p> <p>running - 同期操作は現在実行中です</p> <p>complete - 同期操作が正常に完了しました</p> <p>failedCoSpaceUriConflict - すでに存在する URI と競合する URI の作成が必要になるため、同期に失敗しました</p> <p>failedCallIdConflict - すでに存在するコール ID と競合するコール ID の作成が必要になるため、同期に失敗しました</p> <p>failedIndexRangeInvalid - "startIndex" が "endIndex" より大きいため、同期に失敗しました</p> <p>failedIndexRangeTooGreat - "endIndex" と "startIndex" の差が大きすぎるため、同期に失敗しました</p> <p>failedNoSuchParameterSet - 同期コマンドで参照された "cospaceBulkParameterSet" が存在しませんでした</p> <p>failed - 同期操作が失敗しました</p> |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|----------------|---|
| removeAll | true false | 指定されている場合、パラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期によって削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除するためにのみ使用されます。true に設定すると、スペースは作成されません。false に設定するか省略した場合、このパラメータセットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 |

6.7.7 例

coSpace を一括作成する

1. 次のパラメータを使用して cospaceBulkParameterSet を作成します。startIndex=1000
endIndex=1999
coSpaceUriMapping=space.\$index\$ coSpaceNameMapping=Space
\$index\$ coSpaceCallIdMapping=811\$index\$
2. 次のパラメータを使用して cospaceBulkSync を作成します。cospaceBulkParameterSet=<上記の GUID>

これにより、1000 のスペースが次のとおり作成されます。最初のスペース：

```
"Space 1000" space.1000@domain.com, callID=8111000
```

最後のスペース：

```
"Space 1999" space.1999@domain.com, callID=8111999
```

範囲を更新するには：

1. 新しい範囲を cospaceBulkParameterSets/<上記の GUID> に PUT します。
2. 次のパラメータを使用して cospaceBulkSyncを作成します。
cospaceBulkParameterSet=<上記の GUID>

これにより、以前のすべてのスペースが削除され、新しいセットが作成されます。この操作全体が成功するか失敗します。失敗した場合、トランザクションはロールバックされ、以前に存在していたスペースはそのまま存在します。

範囲を削除するには：

1. 次のパラメータを使用して cospaceBulkSync を作成します。

```
cospaceBulkParameterSet=<上記の GUID>&removeAll=true
```

これにより、このパラメータセットを使用して作成されたすべてのスペースが削除されます。名前が変更されたり、他の方法で編集されたりした場合でも、削除されます。

6.8 coSpace 診断メソッド

"/coSpaces/<coSpace id>/diagnostics" への POST は、指定された coSpace のコール診断の生成をトリガーします。

6.9 coSpace テンプレートを使用する

6.9.1 coSpace テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する

2.9 以降では、次のリクエストパラメータを使用して coSpace テンプレートを実装するために、API ノード /coSpaceTemplates が使用されます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|---|
| name | 文字列 | 人間が読める、この coSpace テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。 |
| description | 文字列 | このテンプレートを使用する理由についてユーザーに説明するための、coSpace テンプレートの長い説明。 |
| callProfile | ID | これが指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。 |
| callLegProfile | ID | これが指定されている場合は、指定されたコール レッグ プロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルイン セキュリティ プロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)。 |

この API ノード /coSpaceTemplates は、次の操作をサポートします。

- /coSpaceTemplates に対する POST 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template id> に対する PUT 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template id> での DELETE 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template id> に対する GET 操作。次の応答が返されます。

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------|---------|--|
| name | 文字列 | 人間が読める、この coSpace テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。 |
| description | 文字列 | このテンプレートを使用する理由についてユーザに説明するための、coSpace テンプレートの長い説明 |
| callProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)。 |
| numAccessMethodTemplates | 数字 | この coSpace テンプレートに関連付けられているアクセス方式テンプレートの数 |
| defaultAccessMethodTemplate | ID "" | 指定されている場合、アクセス方式テンプレートが coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けられます。coSpace テンプレートから coSpace をインスタンス化すると、インスタンス化されたデフォルトのアクセス方式テンプレートが coSpace のデフォルトのアクセス方式になります。 |

- /coSpaceTemplates で列挙子 GET を実行すると、次のレスポンスが返されます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace テンプレートを取得するために、オフセットと制限を指定できます。 |
| limit | | |
| filter | 文字列 | filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する coSpace テンプレートのみが返されます。 |

この応答は、最上位の <coSpaceTemplates total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <coSpaceTemplate> 要素が含まれる可能性があります。

各 <coSpaceTemplate> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|---|
| name | 文字列 | 人間が読める、この coSpace テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。 |
| callProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------|---------|--|
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)。 |
| numAccessMethodTemplates | 数字 | この coSpace テンプレートに関連付けられているアクセス方式テンプレートの数 |
| defaultAccessMethodTemplate | ID "" | 指定されている場合、アクセス方式テンプレートが coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けられます。coSpace テンプレートから coSpace をインスタンス化すると、インスタンス化されたデフォルトのアクセス方式テンプレートが coSpace のデフォルトのアクセス方式になります。 |

6.10 アクセス方式テンプレートを使用する

6.10.1 coSpace テンプレートのアクセス方式 テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する

バージョン 2.9 では、以下のリクエストパラメータとともに新しい API ノード

`/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates` が導入されました。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|--------------|---|
| name | 文字列 | 人間が読める、このアクセス方式テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。 |
| uriGenerator | 文字列 | このアクセス方式テンプレート用に URI 値を生成するために使用される式。使用可能な文字セットは、「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「.」、「-」、「_」、および「\$」です。空にしない場合は、文字「\$」を 1 つだけ含める必要があります。 |
| callLegProfile | ID | これが指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます。 |
| generateUniqueCallId | true false | このアクセス方式に固有の数値 ID を生成するかどうか。この ID は coSpace のグローバルな ID より優先されます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます (3.0 以降)。 |

新しい API ノード `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates` は、次の操作をサポートします。

- /coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates に対する POST 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates/<access method template ID> に対する PUT 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates/<access method template ID> での DELETE 操作
- /coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access method template id> に対する GET 操作。次の応答が返されます。

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|---------------------------------|---|
| name | 文字列 | 人間が読める、このアクセス方式テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。 |
| uriGenerator | 文字列 | このアクセス方式テンプレート用に URI 値を生成するため使用される式。使用可能な文字セットは、「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「.」、「-」、「_」、および「\$」です。空にしない場合は、文字「\$」を 1 つだけ含める必要があります。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます。 |
| generateUniqueCallId | true false | coSpace のグローバルな ID より優先される、このアクセス方式に固有の数値 ID を生成するかどうか。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます (3.0 以降)。 |
| scope | public private member directory | <p>この coSpace のメンバーである Web アプリのユーザーに対する、coSpace のアクセス方式の可視性。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ public : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace メンバーおよび会議のすべての参加者に表示されます。 ▪ private : この coSpace アクセス方式の詳細は、Web アプリケーション内のスペースの所有者にのみ表示されます。または Call Bridge API を使用して管理ユーザーに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインは付加されません。 ▪ member : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーに表示されます (バージョン 3.1 以降)。 ▪ directory : この coSpace アクセス方式の詳細は検索で確認できます (バージョン 3.1 以降) [注 : 3.1 では検索がないため、動作は public と同じです] <p>注 : 範囲を public に設定すると、Web アプリケーションは coSpace の詳細を編集できなくなります。また、名前の下に表示されている uri はアクセス方式のものです。</p> |

- `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates` で enumerate GET を実行。次の応答が返されます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|-------|---|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace アクセス方式 テンプレートを取得するために、オフセットと制限を指定できます。 |
| limit | | |
| filter | 文字列 | filter=<string> を指定すると、名前がフィルタと一致する coSpace アクセス方式 テンプレートのみが返されます。 |
| callLegProfileFilter | 文字列 | callLegProfileFilter=<string> を指定すると、指定されたコールレグプロファイルを使用する coSpace アクセス方式 テンプレートのみが返されます。 |

応答は、最上位の `<accessMethodTemplates total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<accessMethodTemplate>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<accessMethodTemplate>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|--------------|---|
| name | 文字列 | 人間が読める、このアクセス方式テンプレートに関連付けられている名前。最大 200 文字。 |
| uriGenerator | 文字列 | このアクセス方式テンプレート用に URI 値を生成するために使用される式。使用可能な文字セットは、「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「.」、「-」、「_」、および「\$」です。空にしない場合は、文字「\$」を 1 つだけ含める必要があります。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこのアクセス方式テンプレートに関連付けます。 |
| generateUniqueCallId | true false | このアクセス方式に固有の数値 ID を生成するかどうか。この ID は coSpace のグローバルな ID より優先されます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこのアクセス方式テンプレートに関連付けます (3.0 以降)。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|---|---|
| scope | public private member directory | <p>coSpace のメンバーであるユーザーに対する、このテンプレートを使用したアクセス方式の可視性。(3.2 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - public : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーおよび会議のすべての参加者に表示されます。 - private : この coSpace アクセス方式の詳細は、Web アプリケーション内のスペースの所有者にのみ表示されます。または Call Bridge API を使用して管理ユーザーに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインは付加されません。 - member : この coSpace アクセス方式の詳細は、coSpace のメンバーに表示されます。 - directory - この coSpace アクセス方式の詳細は、検索で見つけることができます <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで private になります。範囲を private に指定して作成されたスペースでは、ビデオアドレスにドメインがありません。</p> |

6.11 coSpace に関するテキストベースの会議エントリ情報を取得する

電子メール招待 API は、配布 (通常は電子メールで) に適したテキストベースの会議エントリ情報を取得するために導入されました。

- `/api/v1/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>/emailInvitation` に対する GET 操作

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|-------|--|
| language (optional) | 文字列 | <p>言語タグ「xx」または「xx_XX」 (xx 言語コードおよび XX 地域コード) または 1 ~ 32 文字の他の文字列 (「a」 - 「z」、 「A」 - 「Z」、 「0」 - 「9」、 および 「_」 の形式)。</p> <p>注: サポートされている言語のリストおよび電子メール招待のカスタマイズの詳細については、Cisco Meeting Server 3.1 『カスタマイズガイドライン』 を参照してください。</p> |
| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
| invitation | 文字列 | 電子メール招待テキスト。 |

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------|-------|--|
| language | 文字列 | 電子メール招待の言語タグ。 言語が指定されていない場合、デフォルトは en_US です。 指定された言語が無効な場合は、「400 - 不正な要求」応答が返されます。 |

6.12 coSpace でメタデータを設定する

メタデータは coSpace 上で構成できるテキスト文字列です。これにより、Cisco Meeting Management などの管理アプリケーションは、coSpace 上にメタデータを保存できます。メタデータは、Meeting Management でブラストダイヤル機能を使用しているときに取得される参加者のリストで構成されます。これは、バージョン 3.2 以降に次のメソッドの API ノード `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` でサポートされています。

- `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` に対する PUT 操作
- `/coSpaces/<coSpace id>/metadata` に対する GET 操作

ブラストダイヤル機能では、次のパラメータが取得されます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | | | | |
|--|-------|---|-------|--|-------|--------------|------|--|--------------|----|--|
| blastDial | 文字列 | ブラストダイヤル オブジェクトの一覧 | | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/注記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>attemptLimit</td> <td>数値</td> <td>連絡先が通話に接続できなかった場合に、システムが連絡先へのダイヤルアウトを試行する最大回数。</td> </tr> <tr> <td>attemptDelay</td> <td>数値</td> <td>連絡先へのダイヤルアウトを再試行する前にシステムが待機する最小時間。デフォルト値は 180 秒です。</td> </tr> </tbody> </table> | パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | attemptLimit | 数値 | 連絡先が通話に接続できなかった場合に、システムが連絡先へのダイヤルアウトを試行する最大回数。 | attemptDelay | 数値 | 連絡先へのダイヤルアウトを再試行する前にシステムが待機する最小時間。デフォルト値は 180 秒です。 |
| | | パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | | |
| | | attemptLimit | 数値 | 連絡先が通話に接続できなかった場合に、システムが連絡先へのダイヤルアウトを試行する最大回数。 | | | | | | | |
| attemptDelay | 数値 | 連絡先へのダイヤルアウトを再試行する前にシステムが待機する最小時間。デフォルト値は 180 秒です。 | | | | | | | | | |
| participants | 文字列 | 参加者オブジェクトの一覧。 | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/注記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>address</td> <td>文字列</td> <td>参加者のメールアドレス。</td> </tr> <tr> <td>name</td> <td>文字列</td> <td>参加者名</td> </tr> </tbody> </table> | パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | address | 文字列 | 参加者のメールアドレス。 | name | 文字列 | 参加者名 | | |
| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | | | | |
| address | 文字列 | 参加者のメールアドレス。 | | | | | | | | | |
| name | 文字列 | 参加者名 | | | | | | | | | |

`/calls/<call id>` 上の GET 操作の `coSpaceMetaDataConfigured` 応答要素は、`/cospaces/<cospace id>/metadata` に構成されたメタデータがある場合は true、それ以外は false を返します。

注：ブラストダイヤルなどの Meeting Management の一部の機能では、coSpace にメタデータを保存する必要があります。メタデータを変更すると、これらの機能が失敗する可能性があります。

7 ダイアルプランのメソッド

この章では、発信コール、着信コール、コール転送のダイアルプランの構成に関連する API メソッドについて詳しく説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [発信ダイアルプランルールを取得する](#)
- [発信ダイアルプランルールを作成および変更する](#)
- [個々の発信ダイアルプランルールに関する情報を取得する](#)
- [発信ダイアルプランを変換する](#)
- [着信コールのダイアルプランルールを取得する](#)
- [着信コールのダイアルプランルールを作成および変更する](#)
- [個々の着信コールのダイアルプランルールに関する情報を取得する](#)
- [着信コールを転送するためのダイアルプランルールを取得する](#)
- [着信コールを転送するためのダイアルプランルールを作成および変更する](#)
- [個々の着信コールを転送するためのダイアルプランルールに関する情報を取得する](#)

7.1 発信ダイアルプラン API メソッド

7.1.1 発信ダイアルプランにアクセスする

通常、発信コールに使用するトランク/プロキシの構成は、発信ダイアルプランで指定されている、コールを受ける (SIP) 接続先のドメインに基づいています。発信ダイアルプランは、API オブジェクトツリーの「/outboundDialPlanRules」ノードの下にあり、POST メソッドを使用して発信ダイアルプランを作成するか、Web 管理インターフェイスを介して設定します (下記の注を参照)。

Call Bridge クラスタリングを展開している場合は、API パラメータ [scope](#) を使用して、各発信ダイアルプランルールをクラスタ内のすべての Call Bridge に適用するか、特定の Call Bridge にのみ適用するかを選択して、Call Bridge をローカルのコール制御ソリューションにトランキングできるようにします (適切な場合)。

注： API パラメータ [callRouting](#) は、発信 SIP/Lync コールのトラバーサルメカニズムを指定します。このパラメータを使用して、SIP および Lync デバイスのファイアウォールトラバーサルを設定します。これはまだベータ機能です。

注： Web 管理インターフェイスでは、発信ルールのテーブルは、[\[設定 \(Configuration\)\] > \[ダイアルプラン \(Dial plan\)\]](#) ページで構成されます。Web 管理インターフェイスを介して追加されたすべてのルールはグローバルであり、クラスタ内のすべての Call Bridge に適用されます。Web 管理インターフェイスを使用して、特定の Call Bridge または Call Bridge グループを使用する発信 SIP/Lync コールのコールルーティングを指定することはできません。

7.1.2 発信ダイアルプランルールを取得する

「/outboundDialPlanRules/」ノードでの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|----------|--|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する発信ダイアルプランルールのみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| tenantFilter | ID | 指定されている場合、このフィルタは、指定されたテナントに関連付けられている発信ダイアルプランルールのみを返します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|-------|--|
| outboundDialPlanRule id | ID | 応答は、"<outboundDialPlanRules>" オブジェクト内に含まれる "<outboundDialPlanRule id=<ID>>" オブジェクトの集合です。 <outboundDialPlanRule> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| domain | 文字列 | ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値（「example.com」など）またはワイルドカードを使用した値（「*.com」など）のいずれか。 |
| priority | 数字 | ダイアルプランルール（ワイルドカードを使用したドメインを含むルールを含む）が適用される順序を決定する数値。優先順位値の高いルールが最初に適用されます。 |
| tenant | ID | テナントが指定されている場合、このルールは、そのテナントに関連付けられたコールから発信コールレグを作成するためにのみ使用されます。それ以外の場合、このルールは任意のコールから使用できます。 |

7.1.3 発信ダイアルプランルールを作成および変更する

- 作成：「/outboundDialPlanRules」ノードに対する POST メソッド。発信ダイアルプランルールが正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい発信ダイアルプランルール ID が含まれます。
- 変更："/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>" ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------|-------|---|
| domain * | 文字列 | ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値（「example.com」など）またはワイルドカードを使用した値（「*.com」など）のいずれか。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|------------------------|---|
| priority | 数字 | ダイアルプランルール（ワイルドカードを使用したドメインを含むルールを含む）が適用される順序を決定する数値。優先順位値の高いルールが最初に適用されます。ルールが一致するが、コールを実行できない場合、ルールの failureAction パラメータによって、他の優先順位の低いルールが試行される場合があります。 |
| localContactDomain | 文字列 | 使用する明示的な連絡先ドメインを形成するときに使用します。 このフィールドを空白のままにすると、localContactDomain はローカル IP アドレスから導き出されます。 Lync を使用している場合、localContactDomain を設定することを推奨します。Lync を使用していない場合、SIP コールフローで予期しない問題を回避するために、localContactDomain を設定しないことを推奨します。 |
| localFromDomain | 文字列 | このダイアルプランルールを使用して発信コールの発信者を形成するときに使用されます。 |
| sipProxy | 文字列 | コールが経由するプロキシデバイスのアドレス（IP アドレスまたはホスト名）。設定されていない場合は、直接コールです。 |
| trunkType | sip lync avaya | CiscoExpressway、Avaya Manager、Lync サーバーなどのサードパーティ SIP 制御デバイスにコールをルーティングするルールを設定するために使用します。lync または avaya に設定されている場合、このルールを使用する発信コールは、特別な動作を伴う Lync コールまたは Avaya コールとして発信されます。sip は、このルールを使用するコールが標準の SIP コールになることを意味します。 Meeting Server では、Avaya PBX を使用する場合があります。Avaya PBX のコールは音声のみです。ただし、Meeting Server は、Avaya 製品との相互運用性にこの制限を課すわけではありません（ビデオもサポートしている場合があります）。そのため、「avaya」のタイプのコールは、コールが音声専用であるわけではありません。 |
| failureAction | stop continue | 現在のダイアルプランルールでコールが接続されなかった場合に、次の発信ダイアルプランルールを試すかどうか。ルールに stop の failureAction がある場合、それ以降のルールは使用されません。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|---|---|
| sipControlEncryption | auto encrypted unencrypted | <p>このルールを介して発信されたコールで、暗号化された制御トラフィックの使用を強制するかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> - encrypted : 暗号化された SIP 制御トラフィック (TLS 接続) のみを許可します。 - unencrypted : 暗号化されていないトラフィック (TCP または UDP) のみを使用します。 - auto : 最初に暗号化された制御接続の使用を試みますが、障害が発生した場合は、暗号化されていない制御トラフィックへのフォールバックを許可します。 <p>注 : TLS 接続試行が失敗した場合に Call Bridge がこれらの接続に暗号化されていない TCP を使用しようとするのを防ぐために、すべての「Lync」発信ダイヤルルールが encrypted モードに明示的に設定されている必要があります。</p> |
| scope | global callBridge callBridgeGroup | <p>この発信ダイヤルプランルールが有効なエンティティ :</p> <ul style="list-style-type: none"> - global - すべての Call Bridge は、この発信ダイヤルプランルールを使用して、一致するドメインに到達できます。 - callBridge - この発信ダイヤルプランルールは、指定された単一の Call Bridge に対してのみ有効です。その ID は、callBridge パラメータで指定されます。 - callBridgeGroup - この発信ダイヤルプランルールは、指定された単一の Call Bridge グループに対してのみ有効です。その ID は、callBridgeGroup パラメータで指定されます (バージョン 2.2 以降)。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「global」になります。</p> |
| callBridge | ID | ルールに callBridge のスコープがある場合 (上記を参照)、これはルールが有効な Call Bridge の ID です。 |
| callBridgeGroup | ID | ルールに callBridgeGroup のスコープがある場合 (上記を参照)、これはルールが有効な Call Bridge グループの ID です (バージョン 2.2 以降)。 |
| tenant | ID | テナントが指定されている場合、このルールは、そのテナントに関連付けられたコールから発信コールレグを作成するためのみ使用されます。それ以外の場合、このルールは任意のコールから使用できます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|-------------------|--|
| callRouting (ベータ機能) | default traversal | <p>これは、このルールから発信される SIP コールに使用する必要があるメディアルーティングです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - default - このルールを使用するコールは、通常の直接メディアルーティングを使用します。 - traversal - このルールを使用するコールのメディアは、TURN サーバー経由で流れます。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「default」になります。</p> |

7.1.4 個々の発信ダイアルプランルールに関する情報を取得する

"/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>" ノードの GET メソッド。指定された発信ダイアルプランルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の "<outboundDialPlanRule id=<ID>>" オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。

7.2 ダイアル変換

ダイアル変換は、発信ルールが適用される前に発信コールに適用されます。ダイアル変換が適用されると、変換された番号に発信ダイアルプランルールが適用されます。ダイアル変換は発信コールにのみ影響しますが、ゲートウェイコールには影響しません。

変換には次の 3 つの段階があります。

- 「タイプ」が適用され、変換に適用するプリプロセスのタイプを定義します。
 - Raw : 1 つのコンポーネントを生成します - \$1
 - ストリップ : 点、ダッシュ、スペースを削除し、1 つのコンポーネントを生成します - \$1
 - Phone : 国際電話番号への変換に使用します - 2 つのコンポーネント
\$1 国コードと \$2 番号が生成されます

注 : 電話 URI は、有効な国際ダイアルコード（たとえば英国の場合は 44、米国では 1 など）で始まり、その地域の電話番号に対する正しい数字の桁数が続く場合に、純粋な数字文字列（オプションで「+」のプレフィックス付き）として認識されます。

- コンポーネントは正規表現を使用して一致し、ルールが有効かどうかを確認します
- 定義された変換に従ってコンポーネントから出力文字列が作成されます

例

| 例 | タイプ | 一致 | 変革 |
|--|-----|-------------------------|---|
| 米国の番号の場合は、直接「vcs1」を使用します | 電話 | (\$1/01/) | \$2@vcs1 |
| 英国の番号の場合は、プレフィックスを追加して「vcs2」を使用します。 | 電話 | (\$1/44/) | 90044\$2@vcs2 |
| 7で始まる英国の番号の場合は、プレフィックスとして「90044」を追加し、サフィックスとして「123@mobilevcs」を追加します | 電話 | (\$1/44/)(\$2/^7/) | 90044\$2{}123@mobilevcs |
| 認識できない全桁の文字列の場合は、サフィックスとして「@vcs3」を使用します | 除去 | (\$1/(\d){6,}/) | \$1@vcs3 |
| +を00に置き換えます | 除去 | (\$1/\+(\\d)+/) | \$1{/\+/00/} |
| 英数字の正規表現（たとえば (*.*)@example.com）を \1.endpoint@vc.example.com に置き換えます | 未加工 | (\$1/(.*)@example.com/) | \$1{/@example.com\$/ .endpoint@vc.example.com/} |

Call Bridge クラスタでは、各 Call Bridge でダイアル変換を個別に設定する必要はありません。クラスタのダイアル変換は、データベースクラスタの最初の coSpace データベースと同じ場所にある Call Bridge ホストサーバーで定義されたものです。

注：同じダイアル変換がクラスタ内のすべての Call Bridge に適用されますが、発信ダイアルプランルールは Call Bridge ごとに設定できます。

7.2.1 ダイアル変換を取得する

「/dialTransforms」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|----------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| filter | 文字列 | フィルタを入力して、文字列に一致するダイアル変換のみを取得します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------------------------|---|
| タイプ | raw strip phone | <p>応答は、最上位の <dialTransforms total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <dialTransform> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p>この変換に適用する前処理のタイプ</p> <p>Raw：1つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>ストリップ：点、ダッシュ、スペースを削除し、1つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>Phone：国際電話番号。2つのコンポーネント \$1 国コードと \$2 番号が生成されます</p> |

7.2.2 ダイアル変換を設定および変更する

- 作成 : 「/dialTransforms」ノードに対する POST メソッド
- 変更 : "/dialTransforms/<dialTransform id> " への PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------|-----------------|--|
| type | raw strip phone | <p>この変換に適用する前処理のタイプ。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトは「raw」です。</p> <p>Raw : 1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>ストリップ : 点、ダッシュ、スペースを削除し、1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>Phone : 国際電話番号。2 つのコンポーネント \$1 国コードと \$2 番号が生成されます</p> |
| match | 文字列 | <p>指定されている場合、このルールが適用されるかどうかを説明する正規表現。空の文字列は、「すべてに一致」を意味します。</p> <p>これは、正規表現の論理 AND 結合であり、それぞれが前処理された表現のコンポーネントに適用されます。形式は (\$<componentnum_1> /<regex_1> /)(\$<componentnum_2> /<regex_2> /) (\$<componentnum_3> /<regex_3> /)...</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> - (\$2/abc/) : コンポーネント 2 には「abc」が含まれている必要があります - (\$1/^0/) (\$1/9\$/) : コンポーネント 1 は 0 で始まり、9 で終わる必要があります - (\$1/^44\$/) (\$2/^7/) : コンポーネント 1 は「44」である必要があります、コンポーネント 2 は 7 で始まる必要があります |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------|---------------------------------|--|
| 変換 | 文字列 | <p>適用される置換変換。これにより、事前に処理されたコンポーネントへの参照が可能になります。また、中括弧で囲まれた 1 つまたは複数の正規表現置換が可能になり、説明のとおり、次の特殊文字列が置換されます。</p> <p>\$<componentnum> : コンポーネントで置き換えます</p> <p>\$<componentnum> {} : コンポーネントで置き換えます</p> <p>\$<componentnum>{<matchregex1>/<replaceregex1>}{<matchregex2>/<replaceregex2>}{<matchregex3>/<replaceregex3>}... : すべての matchregex1 のインスタンスを replaceregex1 で置き換え、同様に matchregex2 を replaceregex2 で置き換えるといった具合に、コンポーネントで置き換えます。キャプチャグループがサポートされています。</p> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - abc : すべてを「abc」に置き換えます - \$1\$2@t.com : コンポーネント 1 の後にコンポーネント 2 が続き、その後に「@t.com」が続きます - \$1{}123@t.com : コンポーネント 1 の後に「123@t.com」が続きます - \$1{/999/123/}@t.com : すべての「999」のインスタンスが「123」で置き換えられ、その後に「@t.com」が続きます - \$1{/^D//}{/^9//}@example.com : コンポーネント 1 の数字以外のすべてと先頭の 9 が削除され、その後に「@example.com」が続きます |
| priority | 数字 | この変換ルールが持つべき優先度。優先順位の高いルールから適用されます。 |
| action | accept acceptPhone deny | このルールに一致する場合に実行するアクション。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「accept」になります。 |

7.2.3 個々のダイアル変換に関する詳細情報を取得する

“/dialTransform/<dialTransform id>” ノードで実行される GET メソッド。指定されたダイアル変換 ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。応答には、93 ページの「ダイアル変換の取得」の XML コンテンツ マッチング セクションが含まれます。

7.3 着信コール マッチング ダイアルプラン API メソッド

7.3.1 着信ドメインマッチングルールへのアクセス

着信 SIP コールが Meeting Server にルーティングされると、Call Bridge はまず設定済みの着信ダイアルプランルールを調べ、接続先 URI の「ドメイン」部分

「<user>@<domain>」をルールと照合します。API オブジェクト `/inboundDialPlanRules` の POST メソッドを使用して、着信 SIP コールと照合する新しい着信ダイアルプランルールを作成するか、Web 管理インターフェイスを介して設定します（下記の注を参照）。

注： Web 管理インターフェイスでは、着信ルールのテーブルは、[設定 (Configuration)] > [着信コール (Incoming calls)] ページで構成されます。

7.3.2 着信ダイアルプランルールを取得する

「/inboundDialPlanRules」ノードでの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|--|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する着信ダイアルプランルールのみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の着信ダイアルプランを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ 上記参照 ）。 |
| tenantFilter | ID | 指定されたテナントに関連付けられた着信ダイアルプランルールのみを返すように tenantFilter を指定します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|------------|---|
| inboundDialPlanRule id | ID | 応答は、"<inboundDialPlanRules>" オブジェクト内に含まれる "<inboundDialPlanRule id=<ID>>" オブジェクトの集合です。 <inboundDialPlanRule> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| domain | テキスト | ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値でなければなりません（例："example.com"） |
| priority | 数字 | 複数のルールが適用される場合の着信ダイアルプランルールの優先度を決定します。 |
| resolveTocoSpaces | true false | true に設定すると、このドメインへのコールが coSpace URI と照合されます（一致が見つかった場合、着信コールレグは coSpace の参加者になります）。 |
| resolveTolvr | true false | true に設定すると、このドメインへのコールは、構成された IVR URI と照合されます（一致が見つかった場合、着信コールレグはその IVR に接続します）。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|------------|---|
| resolveToLyncConferences | true false | true に設定すると、このドメインへのコールは Lync 会議 URL に解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで false になります。 |
| resolveToLyncSimplejoin | true false | true に設定すると、このドメインへのコールは、指定された URL への HTTPS ルックアップによって解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。 (バージョン 2.2 以降) |
| tenant | ID | 指定した場合、この着信ドメインへのコールは、指定されたテナントの coSpace URI に対してのみ照合されます。 |

7.3.3 着信ダイアルプランルールを作成および変更する

- 作成: 「/inboundDialPlanRules」ノードに対する POST メソッド。着信ダイアルプランルールが正常に作成された場合、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい着信ダイアルプランルール ID が含まれます。
- 変更: "/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule ID>" ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|------------|---|
| domain * | 文字列 | ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値でなければなりません (例: "example.com") |
| priority | 数字 | 着信ダイアルプランルールで構成されているドメイン値は、常に着信コールに対して完全に一致するよう照合されます。着信コールをアドバタイズする完全な URI を生成する目的で (特に複数のルールが適用される場合)、優先度の数値 (高い値が優先されます) を設定することもできます。 |
| resolveToCoSpaces | true false | true に設定すると、このドメインへのコールが coSpace URI と照合されます (一致が見つかった場合、着信コールレグは coSpace の参加者になります)。 |
| resolveToIvrs | true false | true に設定すると、このドメインへのコールは、構成された IVR URI と照合されます (一致が見つかった場合、着信コールレグはその IVR に接続します)。 |
| resolveToLyncConferences | true false | true に設定すると、このドメインへのコールは Lync 会議 URL に解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|------------|---|
| resolveToLyncSimplejoin | true false | true に設定すると、このドメインへのコールは、指定された URL への HTTPS ルックアップによって解決されます。解決が成功すると、着信コールレグは Lync 会議の参加者になります。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。(バージョン 2.2 以降) |
| tenant | ID | 指定した場合、この着信ドメインへのコールは、指定されたテナントの coSpace URI に対してのみ照合されます。 |

7.3.4 個々の着信ダイアルプランルールに関する情報を取得する

「/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule ID>」ノードの GET メソッド。指定された着信ダイアルプランルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の "<inboundDialPlanRule id=<ID>>" オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。

7.4 着信転送ダイアルプラン API メソッド

7.4.1 着信コール転送ルールへのアクセス

着信 SIP コールの接続先 URI の「ドメイン」部分が着信ダイアルプランルールのいずれにも一致しない場合、コールは着信転送ダイアルプランルールのルールに従って処理されます。このルールは、コールを完全に拒否するかどうか、またはブリッジモードでコールを転送するかどうかを決定します。

コール転送ルールは重複してもかまいません。また、ルールにはワイルドカードを含めることができます。ルールには [Priority] の値で順位を付けます。高い値を持つルールが先に試行されます。ルールを定義することで、コールを転送するかどうかを決定します。特定のコールを「捕捉」して、拒否することが適切という場合もあります。

転送されるコールについて、接続先ドメインを書き換えることができます。指定されたドメインへの新しいコールが作成されます。

コール転送ダイアルプランは、API オブジェクトツリーの"/forwardingDialPlanRules" ノードの下にあります。POST メソッドを使用して転送ルールを作成するか、Web 管理インターフェイスを介して設定します (下記の注を参照)。

注: Web 管理インターフェイスでは、コール転送ルールのテーブルは、[設定 (Configuration)] > [着信コール (Incoming calls)] ページの「コール転送」セクションで設定されます。

7.4.2 着信コール転送ダイアルプランルールを取得する

「/forwardingDialPlanRules/」ノードでの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|----------|--|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する着信コール転送ルールのみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の coSpace を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| tenantFilter | ID | 指定した場合、このフィルタは、返される結果を、指定されたテナントに関連付けられている転送ダイアルプランルールだけに制限します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------|-------|---|
| forwardingDialPlanRule id | ID | 応答は、"<forwardingDialPlanRules>" オブジェクト内に含まれる "<forwardingDialPlanRule id=<ID>" オブジェクトの集合です。 <forwardingDialPlanRule> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| matchPattern | テキスト | matchPattern と priority については、次のセクションで説明します。 ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全なドメイン名（「example.com」など）または「ワイルドカード」を使用した名前（「*.com」など）である必要があります。 |
| priority | 数字 | 転送ダイアルプランルールを適用する順序を決定するときに使用される数値。高い値が最初に適用されます。 |
| tenant | ID | forwardingDualPlanRule に関連付けられたテナント |

7.4.3 着信コール転送ダイアルプランルールを作成および変更する

- 作成：「/forwardingDialPlanRules」ノードに対する POST メソッド。転送ダイアルプランルールが正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーに新しい転送ダイアルプランルール ID が含まれます。
- 転送ダイアルプランルールの変更は、「/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>」ノードの PUT メソッドです。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|-------|--|
| matchPattern | 文字列 | ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全なドメイン名（「example.com」など）または「ワイルドカード」を使用した名前（exa*.com など）である必要があります。ワイルドカードはドメインマッチングパターンのすべての部分に使用できますが、「matchPattern=*」は使用しないでください。使用した場合、コールループが発生します。 |
| destinationDomain | 文字列 | このルールで転送されるコールは、接続先ドメインがこの値に書き換えられます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------|-------------------------|---|
| action | 自動転送 reject | 「forward」に設定すると、一致するコールレグが新しい接続先とのポイントツーポイント コールになります。「reject」では、着信コールレグが拒否されます。 |
| callerIdMode | regenerate preserve | 着信コールを新しい接続先アドレスに転送する場合に、元の発信者の ID を保持するか、新しい ID を生成するか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「regenerate」になります。 |
| priority | 数字 | 転送ダイアルプランルールを適用する順序を決定するとき使用される数値。高い値が最初に適用されます。 |
| tenant | ID | テナントが指定されている場合、このルールを使用するコールは、指定されたテナントに関連付けられます。 |
| uriParameters | discard forward | 着信コールを新しい接続先アドレスに転送する場合、このパラメータは、着信コールの接続先 URI に存在する追加パラメータを破棄するか、それらを発信コールの接続先 URI に転送するかを決定します。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「discard」になります。このパラメータはバージョン 2.0 以降から存在します |

7.4.4 個別の着信コール転送ダイアルプランルールに関する情報を取得する

"/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>" ノードの GET メソッド。指定された転送ダイアルプランルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の "<forwardingDialPlanRule id=<ID>>" オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。

8 コール関連のメソッド

この章では、次の API メソッドについて詳しく説明します。

- [アクティブなコール](#)
- [コールプロファイル](#)
- [コールレグ](#)
- [コールレグプロファイル](#)
- [コールブランディングプロファイル](#)
- [レイアウト テンプレート](#)
- [dtmf プロファイル](#)
- [ivr メソッド](#)
- [ivr ブランディングプロファイル](#)
- [参加者](#)

注：API を使用して作成されたコールオブジェクトは、コールが切断された後もアクティブなままです。システムが過負荷にならないようにするために、コールが終了したら、DELETE メソッドを使用してコールオブジェクトを削除することをお勧めします。

8.1 コールメソッド

8.1.1 アクティブなコールに関する情報を取得する

「/calls」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------|---|
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| coSpaceFilter | ID | ID を指定すると、フィルタと一致するコールのみが返されます。 |
| tenantFilter | ID | ID を指定すると、指定されたテナントに属するコールのみが返されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|-------|---|
| | | 応答は、最上位の <calls total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <call> 要素が含まれる可能性があります。 <call> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| callCorrelator | ID | このコールのすべての分散インスタンスで同じである ID。 |
| name | 文字列 | コールに関連付けられた（人間が読める）名前。最大 200 文字。 |
| coSpace | ID | コールが coSpace のインスタンス化を表す場合、この値が存在し、coSpace の ID を保持します |
| tenant | ID | コールが属する特定のテナント |

8.1.2 新しいコールを作成し、アクティブなコールを変更する

"/calls" ノードで実行される POST メソッド、または "/calls/<call id>" への PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|------------|--|
| coSpace * | ID | POST のみ：コールがインスタンス化される coSpace を指定します。設定されていない場合は、「name」を設定する必要があります。設定されていない場合は、「name」または「callCorrelator」を設定する必要があります。 |
| name * | 文字列 | POST のみ：インスタンス化される新しいコールの名前を指定します。設定されていない場合は、「coSpace」を設定する必要があります。設定されていない場合は、「coSpace」または「callCorrelator」を設定する必要があります。 |
| callCorrelator * | 文字列 | POST のみ：クラスタ内の別の Call Bridge にある既存のコールの callCorrelator ID を指定します。設定されていない場合は、「coSpace」または「name」を設定する必要があります。（バージョン 2.6 以降） |
| locked | true false | 参加者のアクティブ化のプロセスを制御するために、会議ロビーのロック/ロック解除を許可します。アクティブ化を必要とする参加者は通常、coSpace のまだ「アクティブ化」されていないゲストです。coSpace のメンバーには影響がなく、いつでも coSpace に参加できます。会議がロックされると、アクティブ化が必要なゲストは、ホストが coSpace のロックを解除するまで会議ロビーで待機します。ロックが解除された時点で、アクティブ化されて coSpace に参加します。会議がロック解除状態からロック状態に移行しても、すでにアクティブ化されている参加者は非アクティブ化されません。 true に設定すると、アクティブ化が必要な新しい参加者は、ールにアクティベータが存在してもアクティブ化されません |
| recording | true false | true の場合、この通話は現在録画されています。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------------|-------------------|--|
| streaming | true false | true の場合、このコールは現在ストリーミングされています。(バージョン 2.1 以降) |
| allowAllMuteSelf | true false | true の場合、参加者は自分自身をミュートおよびミュート解除する権限を持っています。 |
| allowAllPresentationContribution | true false | true の場合、参加者はプレゼンテーションを行う権限を持っています。false の場合、この許可は、コールレグプロファイルの presentationContributionAllowed に依存します。デフォルトは false です。 |
| joinAudioMuteOverride | true false | true の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートされます。 false の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートが解除されます。 設定されていない場合、新しい参加者はコールレグプロファイルからのオーディオミュート値を使用します。 |
| messageText | 文字列 | コールのすべての参加者に表示するテキスト (構成されている messageDuration がゼロでない場合のみ表示されます)。(バージョン 2.1 以降) |
| messagePosition | top middle bottom | 構成された messageText を画面に表示する位置 (SIP エンドポイントの場合)。(バージョン 2.1 以降) |
| messageDuration | 数字 permanent | 構成された messageText を画面に表示する時間 (秒)。文字列「permanent」を入力すると、再構成されるまで文字列が永続的に表示されます。(バージョン 2.1 以降) |
| activeWhenEmpty | true false | true に設定すると、参加者がいない場合にこのコールは「ロードバランシングがアクティブ」と見なされます。これは、空の会議への最初のコールが優先的にロードバランシングされることを意味します。このパラメータを false に設定すると、空の会議を優先的に使用するロードバランシングが行われなくなります。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(バージョン 2.2 以降) |
| panePlacementHighestImportance | 数字 | panePlacementHighestImportance が指定されている場合、このアクティブなコールに対してペイン配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1 (最大値と 1 を含む) までです。設定されている場合、これは coSpace の設定を上書きします。(バージョン 2.7 以降) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------|--------------------------|--|
| panePlacementSelfPaneMode | skip self blank <unset> | <p>panePlacementSelfPaneMode が指定されている場合、このアクティブなコールに対してセルフペインモードがアクティブ化されます。</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じです。ビューアごとに、画面レイアウトでセルフペインがスキップされ、次の重要な参加者のペインが表示されます（デフォルト）。</p> <p>blank : 重要な参加者を表示せずに、ペインを空白のままとします。これにより、重要な参加者は他のすべてのビューアと同じペインの配置で表示されます。</p> <p><unset>- : 次の優先順位に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - /calls の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する - /call の panePlacementHighestImportance が設定されていない場合は、/coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する（コールがスペース宛の場合） - /coSpace の panePlacementSelfPaneMode も設定されていない場合は、上記で定義した skip の動作に戻る <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset>。設定されている場合、これは coSpace の設定を上書きします。（バージョン 2.7 以降）</p> |
| messageBannerText | 文字列 | <p>文字列は、画面に表示されるメッセージです。</p> <p>デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。（バージョン 3.2 以降）</p> |
| chatAllowed | true false | <ul style="list-style-type: none"> - true : コールでメモが許可されていることを示します。 - false : コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロフィールの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p> |
| raiseHandEnabled | true false | <p>管理者は、コール全体でこの機能を有効または無効にできます。デフォルトでは、パラメータは <unset> です。コール / コールプロフィール階層のすべてのレベルで設定されていない場合、デフォルトは「true」です。（バージョン 3.2 以降）</p> |

coSpace のコールが正常にインスタンス化されると、そのコールの ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドに返されます。以下で説明するように、このコールにコールレグを追加できるようになりました。

8.1.3 個々のアクティブなコールに関する情報を取得する

“/calls/<call id>” ノードで実行される GET メソッド。指定されたコール ID が有効な場合、次の形式の XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|---|--|
| coSpace | ID | コールが coSpace のインスタンス化を表す場合、この値が存在し、coSpace の ID を保持します |
| callCorrelator | ID | このコールのすべての分散インスタンスで同じである ID。 |
| callType | coSpace forwarding adHoc lyncConferencing | コールタイプを示します。 coSpace：このコールはスペースのインスタンス化です。forwarding：これは転送されたコールまたは「ゲートウェイ」コールです。adHoc：これはアドホックのマルチパーティコールです。 lyncConferencing：このコールレグは Lync 会議に参加しています。 (バージョン 2.3 以降) |
| tenant | ID | コールを所有するテナントの ID |
| DurationSeconds | 数字 | コールが開始されてからの秒数で表される通話時間。 |
| name | 文字列 | コールに関連付けられた、人間が読める名前。最大 200 文字。(バージョン 2.3 以降) |
| numCallLegs | 数字 | このコール内で現在アクティブなコールレグの数 |
| maxCallLegs | 数字 | このコール内に同時に存在したコールレグの最大数 |
| numParticipantsLocal | 数字 | 要求先の Call Bridge によってローカルにホストされているこのコール内の参加者の数 |
| numParticipantsRemote | 数字 | 他の Call Bridge によってホストされているこのコールの参加者の数 |
| numDistributedInstances | 数字 | このコールの参加者をホストしている他の Call Bridge の数 |
| presenterCallLeg | ID | presenterCallLeg 値は、コールレグがこのコール内でアクティブにプレゼンテーションを行っている場合にのみ存在します。 |
| locked | true false | コールがロックされているか (true)、ロック解除されているか (false) を示します。 |
| recording | true false | true の場合、このコールは録画されるように構成されています。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------------|-------------------|---|
| streaming | true false | true の場合、このコールはストリーミングされるように構成されています。(バージョン 2.1 以降) |
| recordingStatus | true false | true の場合、このコールは録画されています。(バージョン 2.4 以降) |
| allowAllMuteSelf | true false | true の場合、参加者は自分自身をミュートおよびミュート解除する権限を持っています。false の場合、この権限は、コールレグ プロファイルの muteSelfAllowed に依存します。 |
| allowAllPresentationContribution | true false | true の場合、参加者はプレゼンテーションを行う権限を持っています。false の場合、この権限は、コールレグプロファイルの presentationContributionAllowed に依存します。デフォルトは false です。 |
| joinAudioMuteOverride | true false | true の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートされます。 false の場合、新しい参加者はコールに参加するときにミュートが解除されます。 設定されていない場合、新しい参加者はコールレグプロファイルからのオーディオミュート値を使用します。 |
| messageText | 文字列 | コールのすべての参加者に表示するテキスト (構成された messageDuration がゼロ以外の場合にのみ表示されます) (バージョン 2.1 以降) |
| messagePosition | top middle bottom | 構成された messageText を画面に表示する位置 (SIP エンドポイントの場合)。(バージョン 2.1 以降) |
| messageDuration | 数字 | 構成された messageText を画面に表示する秒単位の時間 (「permanent」に設定すると、再構成されるまでメッセージが表示されます)。(バージョン 2.1 以降) |
| messageTimeRemaining | 数字 | 構成された messageText が画面に表示される残り時間 (秒)。(バージョン 2.1 以降) |
| ownerName | 文字列 | 設定されている場合、このコールの所有者を表示します。これは、このコールの coSpace の meetingsScheduler か、このコールの所有者の名前または所有者の Jid です。(バージョン 2.2 以降) |
| activeWhenEmpty | true false | true に設定すると、参加者がいない場合にこのコールがロードバランシングに対してアクティブであると見なされます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトは「true」です。(バージョン 2.2 以降) |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|-------------------------|---|
| endpointRecording | true false | 設定されている場合、このコールの参加者の 1 人が外部で会議を録画しています（現在、会議を録画している Skype クライアントまたは Lync クライアントのみにフラグ付けします）。（バージョン 2.4 以降） |
| lyncAudienceMute | true false | 聞き手が Skype または Lync クライアントによってミュートされたかどうか。このコールが Skype/Lync 会議の場合にのみ表示されます。（バージョン 2.4 から） |
| panePlacementHighestImportance | 数字 | 指定されている場合、このアクティブなコールに対してペインの配置がアクティブ化されます。重要度の値のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1（最大値と 1 を含む）までです。（バージョン 2.7 以降） |
| panePlacementSelfPaneMode | skip self blank <unset> | <p>このアクティブコールに対してセルフペインモードがアクティブ化されているかどうかを示します。</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じです。ビューアごとに、画面レイアウトでセルフペインがスキップされ、次の重要な参加者のペインが表示されます（デフォルト）。</p> <p>blank : 重要な参加者を表示せずに、ペインを空白のままとします。これにより、重要な参加者は他のすべてのビューアと同じペインの配置で表示されます。</p> <p><unset>- : 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する</p> <p>/call の panePlacement HighestImportance が設定されていない場合は、/coSpace の panePlacementHighestImportance に設定された値を使用する（コールがスペース宛ての場合）</p> <p>/coSpace の panePlacement SelfPaneMode も設定されていない場合は、上記で定義した skip の動作に戻る</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset>。（バージョン 2.7 以降）</p> |
| coSpaceMetadataConfigured | true false | コールが coSpace のインスタンス化を表す場合にこの値が存在し、coSpace にメタデータが構成されている場合は true です。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|--------------|--|
| chatAllowed | true false | <ul style="list-style-type: none"> - true : コールでメモが許可されていることを示します。 - false : コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p> |
| raiseHandEnabled | true false | 設定されている場合、参加者がこのコールで挙手できるかどうかを示します。 |
| messageBannerText | 文字列 | 文字列は、画面に表示されるメッセージです。デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。(バージョン 3.2 以降) |

8.1.4 個々のコールに関する診断の生成

"/calls/<call id>diagnostics" で実行される POST メソッドは、問題のコールのコール診断を生成します。

8.1.5 会議の参加者の取得

"/calls/<call id>/participants" ノードで実行される GET メソッド。指定されたコールに関連付けられているすべての参加者のリストを取得します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|-------|---|
| offset | 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外のアクティブな参加者を取得するために、"offset" および "limit" を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。 |
| limit | 数字 | |
| coSpaceFilter | ID | ID を指定すると、フィルタと一致するアクティブな参加者のみが返されます。 |
| tenantFilter | ID | ID を指定すると、指定されたテナントに属するアクティブな参加者のみが返されます。 |
| callBridgeFilter | ID | ID を指定すると、指定された Call Bridge にあるアクティブな参加者のみが返されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|-------|---|
| | | 応答は、最上位の <participants total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <participants> 要素が含まれる可能性があります。 <participant> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| name | 文字列 | この参加者に関連付けられた（人間が読める）関連付けられた名前。最大長は 200 文字です。 |
| call | ID | この参加者が参加しているコール |
| tenant | ID | この参加者が関連付けられている特定のテナント |
| callBridge | ID | この参加者が接続されているリモートのクラスタ化された Call Bridge |

8.1.6 指定されたコールの新しい参加者を作成する

"/calls/<call id>/participants" ノードの POST メソッド。

注：クラスタ化された Meeting Server 間のロードバランシングにより、Call Bridge または Call Bridge グループ、または構成済みのダイヤルプランルールから明示的に選択すると、リモートのクラスタ化された Call Bridge 上でコールレグのインスタンス化（参加者オブジェクトによって「所有される」）が発生する可能性があります。

注：参加者関連のメソッドの[セクション 8.11](#) も参照してください。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|-------|---|
| remoteParty * | 文字列 | POST のみ。remoteParty は参加者のアドレスを指定します。これは、そのユーザーをコールに招待する SIP URI または電話番号である可能性があります。remoteParty は、<call id> に対応する会議から指定された URI へのコールを行います。2.6 以降、remoteParty が指定されていない場合は、movedParticipant を代わりに指定する必要があります。 |
| または movedParticipant* | ID | POST のみ。movedParticipant は、<call id> に対応する会議に移動する参加者の ID を指定します。callBridge パラメータと callBridgeGroup パラメータは両方とも無視され、移動された参加者のホームである callBridge または callBridgeGroup でコールがホストされます。（バージョン 2.6 以降） 注：remoteParty と MovingParticipant の両方が指定されている場合、movedParticipant パラメータは無視されます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------------|---|--|
| bandwidth | 数字 | POST のみ。指定されている場合、参加者の帯域幅をビット/秒で設定します（たとえば、2Mbit/s の場合は 2000000）。指定しない場合、Call Bridge の設定値が使用されます。 |
| confirmation | true false | POST のみ。指定されている場合、これは、コールに参加するための確認をリモート側から要求するかどうかの自動選択を上書きします。 true : 常にリモート側からの確認を必要とします。通常、これは参加するためにキーを押すように要求する音声プロンプトの形式をとります。 false : リモート側からの確認を必要としません。リモート側は、着信コールを受け入れると coSpace に参加します。 |
| ownerId | ID | 指定する場合は、Meeting Server がこの参加者に関連付けるための ID でなければなりません。これは、参加者のコールレグが後に照会されたときに Meeting Server によって返されるため、リクエスト送信者にとって意味のある値である必要があります。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこの参加者のコールレグに関連付けます。 |
| needsActivation defaultLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | これらのパラメータのいずれかを指定して、このコールレグのコールレグプロファイルの値を上書きします。 空白のままにすると、この /calls/<call id>/participants に関連付けられた /callLegProfile の設定が使用されます。 |
| participantLabels | | |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------|------------------------------|---|
| presentationDisplayMode | | |
| presentationContributionAllowed | true false | |
| presentationViewingAllowed | true false | |
| endCallAllowed | true false | |
| muteOthersAllowed | true false | |
| videoMuteOthersAllowed | true false | |
| muteSelfAllowed | true false | |
| videoMuteSelfAllowed | true false | |
| changeLayoutAllowed | true false | |
| joinToneParticipantThreshold | true false | |
| leaveToneParticipantThreshold | | |
| videoMode | | |
| rxAudioMute | | |
| txAudioMute | | |
| rxVideoMute | | |
| txVideoMute | | |
| sipMediaEncryption | | |
| audioPacketSizeMs | | |
| deactivationMode | | |
| deactivationModeTime | | |
| telepresenceCallsAllowed | | |
| sipPresentationChannelEnabled | true false | プレゼンテーション ビデオ チャンネルの操作が SIP コールに対して許可されている場合、この設定によって Call Bridge の BFCP 動作が決まります。 |
| bfcPMode | serverOnly serverAndClient | serverOnly : これは会議デバイスの通常の設定であり、BFCP クライアントモードデバイス (SIP エンドポイントなど) で使用することを目的としています。 serverAndClient : Meeting Server はリモートデバイスとのコールで BFCP クライアントまたは BFCP サーバーモードで動作できます。これにより、サードパーティ MCU などのリモート会議ホスティングデバイスとのプレゼンテーションビデオ共有が改善されます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|---|---|
| layout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | このパラメータは、非常に初期のバージョンの Acano サーバーとの下位互換性のために提供されています。これには、「defaultLayout」の変更と同等の機能があり、両方が指定されている場合、「defaultLayout」が優先されます。 |
| disconnectOthersAllowed | true false | |
| addParticipantAllowed | true false | (バージョン 2.3 以降) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|---|--|
| qualityMain | unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、コールレグが低い解像度またはフレームレートで動作する可能性があることに注意してください。</p> <p>unrestricted：指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します（たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ）。</p> <p>max720p30：ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p> <p>注：このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|--|--|
| qualityPresentation | unrestricted max1080p30 max720p5 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーション ストリームを使用するレグにのみ影響します。</p> <p>unrestricted：指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30：Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5：Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。（バージョン 2.2 以降）トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるメインのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、コールレグが低い解像度またはフレームレートで動作する可能性があることに注意してください。</p> <p>unrestricted：指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します（たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ）。</p> <p>max720p30：ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>（バージョン 2.2 以降）</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|---------------------------|--|
| | | <p>注：このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> |
| participantCounter | never auto always | <p>画面上の参加者カウンタの動作を制御します。</p> <p>never：画面上に参加者のカウント値を表示しません</p> <p>auto：必要に応じて画面に参加者のカウント値を表示します。通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。</p> <p>always：常に画面上に参加者カウント値を表示します</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p> |
| callBridge | ID | <p>指定されている場合は、指定された Call Bridge から参加者を追加しようとします (バージョン 2.2 以降)。</p> <p>moveParticipant パラメータを使用して参加者が会議間で移動した場合、callBridge パラメータは無視されます。(バージョン 2.6 以降)</p> |
| callBridgeGroup | ID | <p>指定されている場合は、指定された Call Bridge グループから参加者を追加しようとします (バージョン 2.2 以降)。</p> <p>moveParticipant パラメータを使用して参加者が会議間で移動した場合、callBridgeGroup パラメータは無視されます。(バージョン 2.6 以降)</p> |
| importance | 数字 | <p>作成される参加者の重要度の値。最大値は 2,147,483,647 です重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定のままにします (値を空白のままにします)。(バージョン 2.2 以降)</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|------------------------|---|
| nameLabelOverride | 文字列 (UTF-8 で最大 50 バイト) | <p>指定されている場合、この参加者の名前を上書きします。空の文字列を設定すると、値が消去され、元の名前が復元されます。参加者の名前とそれに関連するコールレグの上書きは同義であり、両方に影響します。最新の変更が優先されます。参加者の名前を次の場所を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 他の会議参加者に表示される画面上の名前ラベル - ActiveControl 名簿 - Web アプリケーションがコールの参加者の名前を確認できる場所 - CDR レコード - Web インターフェイスで名前が表示される場所 <p>(バージョン 2.4 以降)</p> |
| dtmfSequence | 文字列 | <p>参加者が最初に作成されたとき、またはコール中に遠端に送信する一連の DTMF キー入力コマンド。The DTMF シーケンスは、この参加者のコールが発信される Call Bridge から再生されます。指定されたシーケンスでは、0～9の数字、*と#、および数字の間に一時停止を追加する1つまたは複数のカンマ記号(,)を使用できます。(バージョン 2.4 以降)</p> |
| controlRemoteCameraAllowed | true false | <p>参加者が Far End Camera Control (FECC; 遠端カメラ制御)を使用できるようにします。</p> <p>(バージョン 2.8 以降)</p> |
| layoutTemplate | ID | <p>指定した場合、参加者のレイアウトテンプレートを関連付けます。(バージョン 2.8 以降)</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|-----------------------|--|
| audioGainMode | disabled agc | <p>この参加者のオーディオでオートゲインコントロール（AGC）を使用するかどうかを指定します。（バージョン 2.8 以降）</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC は、Meeting Server に直接接続されているすべてのエンドポイント（物理エンドポイントまたはソフトクライアント）に適用されます。これは、混合オーディオストリームであるため、TIP コールや AVMCU には適用されません。 - AVMCU に接続されている Skype 参加者は、AVMCU がオーディオを制御するので、AGC の対象となりません。 - AGC は混合オーディオストリームであるため、Meeting Server 間の分散リンクには適用されません。 |
| deactivated | false | 参加者をアクティブにします（ロビーをバイパスして直接コールに移動します）。（バージョン 2.9 以降） |
| meetingTitlePosition | top middle bottom | 会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。（バージョン 3.2 以降） |
| chatContributionAllowed | true false | 参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。 |
| handStatus | 文字列 | 設定されている場合、この参加者またはコールレグの手が上がっているか下がっているかを示します。コール中に handStatus が変更されていない場合、値は返されません。（バージョン 3.2 以降） |
| accessMethod | ID | callLeg/participant のアクセス方式として指定された accessMethod を関連付け、coSpace のデフォルトまたはプライマリアクセス方式を上書きします。 |

8.1.7 会議のすべての参加者のプロパティを設定する

"/calls/<call id>/participants/*" に対する PUT 操作指定されたコールに関連するすべての参加者のプロパティを設定します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|---|--|
| rxAudioMute | true false | true の場合、すべてのエンドポイントからのオーディオの受信をミュートします。 |
| txAudioMute | true false | true の場合、すべてのエンドポイントからのオーディオの送信をミュートします。 |
| rxVideoMute | true false | true の場合、すべてのエンドポイントからのビデオの受信をミュート（ブロック）します。 |
| txVideoMute | true false | true の場合、すべてのエンドポイントからのビデオの送信をミュート（ブロック）します。 |
| layout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | すべてのエンドポイントのレイアウトを設定します。 |
| importance | 数字 | すべての参加者の重要度を設定します。最大値は 2,147,483,647 です。重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定のままにします（値を空白のままにします）。（バージョン 2.2 以降） |
| filterIds | | この操作に含めるか除外する最大 20 の参加者 ID のオプションのコマ区切りリスト（「mode」パラメータの値によって異なります）。下記の「 参加者に対する一括操作の使用に関する詳細 」を参照してください。（バージョン 2.4 以降） |
| mode | exclude selected | exclude : filterIds の参加者 ID は操作から除外されます selected : filterIds の参加者 ID のみが操作に含まれます。下記の「 参加者に対する一括操作の使用に関する詳細 」を参照してください。 作成（POST）操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「exclude」になります。（バージョン 2.4 以降） |
| deactivated | false | - false : 参加者はロビーから会議に参加できます。 |

8.1.7.1 参加者に対する一括操作の使用に関する詳細

`/calls/<call id>/participants/*?filterIds=<id1>,<id2>&mode=(exclude|selected)` に対する PUT 操作

| モード | filterIds | 注記 |
|----------|--------------|--|
| exclude | 空 (ID なし) | これはデフォルト設定であり、バージョン 2.4 より前の動作と同等です。この操作は、選択したコールのすべての参加者に作用します。 |
| exclude | 1 つまたは複数の ID | 操作は、リストされているものを除く、選択したコールのすべての参加者に作用します。 |
| selected | 空 (ID なし) | ID が提供されないため、影響はありません。 |
| selected | 1 つまたは複数の ID | この操作は、コールで選択された参加者にのみ作用します。 |

リストの最大サイズは 20 に固定されており、これより多くの ID を含めようとするエラーが発生します。

戻り値は操作の受諾のためであり、個々の参加者の失敗または成功は返されません。

例：

`/calls/<call id>/participants/*?filterIds=<smith>,<green>&mode=exclude`
に対する PUT 操作

では、smith または green のフィルタ ID に一致するすべての参加者が一括操作から除外されるという効果があります。

エラー：

callDoesNotExist コール ID が存在しません。

20 を超える filterId がフィルタ ID リストに含まれている場合は、"valueTooLong" に等しいエラー属性を持つ parameterError が生成されます。

8.2 コールプロファイルメソッド

コールプロファイルは、アクティブな同時参加者の最大数と、SIP (Lync を含む) コールの通話中エクスペリエンスを制御します。詳細については、[セクション 15](#) も参照してください。

8.2.1 コールプロファイルを取得する

「/callProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------------------------|--|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| usageFilter | unreferenced referenced | グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないコールプロファイルのみを取得する場合は、リクエストに "usageFilter=unreferenced" を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されているダイヤルイン セキュリティ プロファイルのみを取得する場合は、"usageFilter=referenced" を入力します。 |

| レスポンス 要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|---|
| | | 応答は、最上位の <callProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callProfile> 要素が含まれる可能性があります。 各 <callProfiles> タグには、次の要素が含まれる場合があります。次のセクションを参照してください。 |

8.2.2 コールプロファイルを設定および変更する

- 作成：「/callProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更："/callProfiles/<call profile id>" への PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|-------|---|
| participantLimit | 数字 | このコールプロファイルを使用したコール（coSpace インスタンス化またはアドホックコール）で同時にアクティブにできる参加者数の上限を設定します。この制限を超える新しい参加者は許可されません。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------|-----------------------------------|---|
| locked | true false | <p>参加者のアクティブ化のプロセスを制御するために、会議ロビーのロック/ロック解除を許可します。アクティブ化を必要とする参加者は通常、coSpace のまだ「アクティブ化」されていないゲストです。coSpace のメンバーには影響がなく、いつでも coSpace に参加できます。会議がロックされると、アクティブ化が必要なゲストは、ホストが coSpace のロックを解除するまで会議ロビーで待機します。ロックが解除された時点で、アクティブ化されて coSpace に参加します。会議がロック解除状態からロック状態に移行しても、すでにアクティブ化されている参加者は非アクティブ化されません。</p> <p>true に設定すると、アクティブ化が必要な新しい参加者は、コールにアクティベータが存在してもアクティブ化されません。</p> |
| recordingMode | disabled manual automatic | <p>この coSpace またはアドホックコールを録画する方法を制御します</p> <ul style="list-style-type: none"> - disabled : コールは録画されません - manual : ユーザーは録画を開始および停止できます - automatic : コールは自動的に録画され、ユーザーは録画を開始/停止することはできません <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「manual」になります。</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|-----------------------------------|--|
| lockMode | all needsActivation | <p>コールをロックする動作を定義します</p> <ul style="list-style-type: none"> - all : コールがロックされているときは、すべての新規参加者が会議への参加を許可されず、ロビーで待機状態になります。これには、アクティベーションを必要としない参加者も含まれます。 - NeedActivation : コールがロックされている場合、アクティベーションを必要としない新しい参加者はコールに参加しますが、アクティベーションが必要な新しい参加者はロビーに移動します。coSpace のメンバーである参加者は、アクティベーションが必要であっても、すでに会議に参加中のアクティベータがいる場合には、ロックをバイパスして会議に入室します。 <p>(バージョン 2.9 以降)</p> |
| sipRecorderUri | 文字列 | SIP レコーダのダイヤルアウト URI。 (バージョン 2.9 以降) |
| sipStreamerUri | 文字列 | SIP ストリーマのダイヤルアウト URI。 (バージョン 3.0 以降) |
| streamingMode | disabled manual automatic | <p>この coSpace またはアドホックコールをストリーミングする方法を制御します</p> <ul style="list-style-type: none"> - disabled : コールはストリーミングされません - manual : ユーザーはストリーミングを開始/停止できます - automatic : コール通話は自動的にストリーミングされ、ユーザーはストリーミングを開始/停止することはできません <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「manual」になります。 (バージョン 2.1 以降)</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------------|--|--|
| passcodeMode | required timeout | <p>同じ URI/コール ID を介して coSpace にアクセスするために、空白のパスコードと設定されたパスコードの混合を使用できる場合のパスコードエントリの動作を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - required : パスコードを入力する必要があり、空白のパスコードを明示的に入力する必要があります - timeout : パスコードが入力されないまま時間が経過すると、空白のパスコードとして解釈されます。タイムアウトの長さは、「passcodeTimeout」の値によって決定されます |
| passcodeTimeout | 数字 | <p>指定されている場合、これは、パスコードを空白のパスコードとして解釈する前に Call Bridge が待機する時間（秒単位）です（「passcodeMode」が「timeout」に設定されている場合）。タイムアウト時間は、パスコードプロンプトが終わった時点から測定されます。</p> |
| gatewayAudioCallOptimization | true false | <p>true に設定すると、着信コールレグが音声のみの場合、発信ゲートウェイコールレグは音声のみになります。</p> <p>(バージョン 2.3 以降)</p> |
| lyncConferenceMode | dualHomeCluster dualHomeCallBridge gateway | <p>SIP 参加者を Lync 会議に接続する場合の Call Bridge の動作を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - dualHomeCluster : すべての Call Bridge が同じ会議を共有します - dualHomeCallBridge : 各 Call Bridge が独自の会議をホストし、それぞれが AVMCU に接続します - gateway : 各参加者が Lync AVMCU サーバーへの専用接続を持ちます <p>(バージョン 2.3 以降)</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|-------------------|---|
| muteBehavior | linked separate | <p>コールのミュート動作を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ linked : このモードでは、Meeting Server でユーザーのコールがミュートされている場合、エンドポイントまたは Web アプリのセッションでデバイスのローカルミュートが自動的に実行される場合があります。つまり、Meeting Server ミュートのエフェクトを別の API コマンドだけで元に戻す必要があります。ユーザー自身がデバイスのミュートを解除する必要があります。 ・ separate – このモードでは、Meeting Server とローカルデバイス上のユーザの通話のミュートステータスは互いに独立しています。つまり、他のユーザ/管理者は、すべての参加者をビデオ/音声でミュート/ミュート解除できます。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「linked」になります。(バージョン 3.1 以降)</p> |
| messageBannerText | 文字列 | <p>文字列は、画面に表示されるメッセージです。デフォルト値は空の文字列です。この文字列にはメッセージバナーが表示されません。</p> |
| chatAllowed | true false | <ul style="list-style-type: none"> ・ true : コールでメモが許可されていることを示します。 ・ false : コールでメモが許可されていないことを示します。 <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p> |
| raiseHandEnabled | true false | <p>管理者は、コール全体でこの機能を有効または無効にできます。</p> <p>デフォルトでは、パラメータは <unset> です。コール/コールプロファイル階層のすべてのレベルで設定されていない場合、デフォルトで true になります。</p> |

8.2.3 個々のコールプロファイルに関する詳細情報の取得

“/callProfiles/<call profile id>” ノードで実行される GET メソッド。指定されたコールプロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.3 コールレックメソッド

8.3.1 アクティブなコールレックに関する情報を取得する

“/callLegs” ノードで実行される GET メソッド（システム内のすべてのアクティブなコールレックに関する情報を取得する）。

または、“/calls/<call id>/callLegs” ノードで実行される GET メソッド（特定のコールのアクティブなコールレックに関する情報を取得する）。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------|-------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するコールレックのみが返されます。 |
| participantFilter | ID | 指定された参加者に関連付けられたコールレックのみを返すように participantFilter を指定します。 |
| tenantFilter | ID | 指定されたテナントに関連付けられたコールレックのみを返すように tenantFilter を指定します。 |
| activeLayoutFilter | 文字列 | 指定されている場合、このフィルタは、指定されたレイアウトを使用して、それらのコールレックに返される結果を制限します。 |
| availableVideoStreamsLowerBound | 数字 | 指定されている場合、このフィルタは、この数以上の使用可能なビデオストリームを持つコールレックに返される結果を制限します。 |
| availableVideoStreamsUpperBound | 数字 | 指定されている場合、このフィルタは、この数以下の使用可能なビデオストリームを持つコールレックに返される結果を制限します。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|------------|--|
| ownerIdSet | true false | 所有者 ID が設定されている、または設定されていないコールレグを返すために使用されます。 |
| alarms | テキスト | <p>指定されたアラーム名が現在アクティブであるコールレグのみを返すために使用されます。サポートされているすべてのアラーム条件をカバーする「all」を使用するか、フィルタする 1 つまたは複数の特定のアラーム条件を「 」記号で区切って指定します。</p> <p>サポートされているアラーム名は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> packetLoss : パケット損失が現在このコールレグに影響を与えています excessiveJitter : このコールレグのアクティブメディア ストリームの 1 つ以上に高レベルのジッターがあります。 highRoundTripTime : Meeting Server が、自身とコールレグの接続先との間の往復時間を測定します。メディアストリームの往復時間が長いことが検出された場合（コール品質に影響する可能性があります）、このアラーム条件がコールレグに設定されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|--|
| callLeg id | ID | <p>応答は、最上位の <callLegs total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callLeg> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p><callLeg> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> |
| name | 文字列 | |
| remoteParty | 文字列 | |
| call | ID | |
| tenant | ID | |
| <alarms> | | <p>アクティブなアラーム条件を持つコールレグの場合、追加の“<alarms>” タグが“<callLeg>”の下にあり、現在アクティブなアラームの詳細が表示されます。この“<alarms>” タグには、1 つまたは複数の付随兆候があります。以下の注記も参照してください。</p> |
| packetLoss | 文字列 | <p>コールレグのアクティブメディア ストリームの 1 つ以上でパケット損失が発生している場合に存在します。</p> |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|----------------|--|
| excessiveJitter | 文字列 | コールレグのアクティブ メディア ストリームの 1 つ以上に高レベルのジッターがある場合に存在します。 |
| highRoundTripTime | 文字列 | コールレグのメディア ストリームの 1 つ以上で往復時間が長いことが検出された場合に表示されます。 |
| accessMethod | ID "coSpace" | <p>ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。</p> <p>POST 操作で accessMethod が指定されていない場合でも、GET 操作は defaultAccessMethod が coSpace 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。</p> <p>coSpace がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。</p> |

アラームに関する注意：

コールレグアラームは、注意喚起や問題の発生後にトラブルシューティングに役立つ情報を提供しますが、システムレベルのアラームとは異なり、必ずしもそれ自体がアラーム条件であるかのように扱う必要はありません。

コールレグアラームは、規定のパケット損失のパーセンテージなどではなく、さまざまな要因によってトリガーされる場合があります。コールレグの質が低下している可能性がある場合 Meeting Server が判断すると、アラーム条件がコールレグに付加されます。これらの「条件」には、単純なしきい値が含まれる場合がありますが、より適応性の高いしきい値や他の要因を考慮に入れるなど、他のものも含まれる可能性があります。これは、必ずしもユーザーエクスペリエンスの質が低かったことを意味するわけではありません。問題が発生した場合にトラブルシューティングするための情報を提供するためのものです。したがって、このアラーム情報にフィルタを追加し、オペレータへのアラームとしていつイベントにフラグを立てるかを決定する（つまり、独自のしきい値を設定する）ことや、イベント後にコールレグアラーム情報を取得して、原因を特定できるように、CDR と一緒にこの情報を保存することを検討できます。

8.3.2 コールレックを追加および変更する

- 追加：「/calls/<call ID>/callLegs」ノードへの POST メソッド。<call ID> は、「/calls」での GET 操作または新しく作成されたコールから学習されます（上記の新しいコールの作成を参照）。このコールレックにプロファイルが適用されている場合は、プロファイルに設定されている値で始まります。注：こうして追加または変更されたコールレックは、クラスタ化された Meeting Server 間でロードバランシングされません。
- 変更：“/callLegs/<callLeg ID>” ノードで実行される PUT メソッド。これは、リモート側への進行中の接続にライブで動的な変更を加えます。

注：remoteParty、bandwidth または confirmation を変更することはできません。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------|------------|--|
| remoteParty * | 文字列 | POST のみ。コールレックのアドレスを指定します。これは、そのユーザーをコールに招待する SIP URI または電話番号である可能性があります。 |
| bandwidth | 数字 | POST のみ。指定されている場合、コールレックの帯域幅をビット/秒で設定します（たとえば、2Mbit/s の場合は 2000000）。指定しない場合、Call Bridge の設定値が使用されます。 |
| confirmation | true false | POST のみ。指定されている場合、これは、コールに参加するための確認をリモート側から要求するかどうかの自動選択を上書きします。 true：常にリモート側からの確認を必要とします。通常、これは参加するためにキーを押すように要求する音声プロンプトの形式をとります。 false：リモート側からの確認を必要としません。リモート側は、着信コールを受け入れると coSpace に参加します。 |
| ownerId | ID | 指定する場合は、Meeting Server がこの参加者に関連付けるための ID でなければなりません。これは、コールレックが後で照会されたときに Meeting Server によって返されるため、リクエスト送信者にとって意味のある値である必要があります。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------|---|--|
| chosenLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | このパラメータは、このコールレグで優先されるデフォルトレイアウトを上書きします。 |
| dtmfSequence | 文字列 | コールレグが最初に接続するとき、またはコール中に遠端に送信する一連の DTMF キー入力コマンド。指定されたシーケンスでは、0～9の数字、*と#、および数字の間に一時停止を追加する1つまたは複数のカンマ記号(,)を使用できます。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合は、指定されたコールレグプロファイルをこのコールレグに関連付けます。コールレグプロファイルの一部であるすべてのパラメータに個別の値を指定して、このコールレグプロファイルの値を上書きすることもできます。 下記 を参照してください。 |
| needsActivation | | これらのパラメータのいずれかを指定して、このコールレグのコールレグプロファイルの値を上書きします。 |
| defaultLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | 指定されている場合、指定されたビデオストリームレイアウトを使用するようにコールレグが変更されます。このパラメータを設定すると、ユーザーがレイアウト制御をまだ行っていないコールレグ、つまり SIP コール (Lync を含む) にのみ影響します。(Web アプリケーション接続に対応するコールレグのレイアウトは、常にその Web アプリケーションのユーザーによって選択されます)。 注: callLegProfile の「defaultLayout」パラメータは、同等の「layout」パラメータを置き換えます。両方が指定されている場合、defaultLayout が優先されます。 |
| participantLabels | | |
| presentationDisplayMode | | |
| presentationContributionAllowed | true false | |
| presentationViewingAllowed | true false | |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------------|---|---|
| endCallAllowed | true false | |
| muteOthersAllowed | true false | |
| videoMuteOthersAllowed | true false | |
| muteSelfAllowed | true false | |
| videoMuteSelfAllowed | true false | |
| changeLayoutAllowed | true false | |
| joinToneParticipantThreshold | 数字 | |
| leaveToneParticipantThreshold | | |
| videoMode | | |
| rxAudioMute | | |
| txAudioMute | | |
| rxVideoMute | | |
| txVideoMute | | |
| sipMediaEncryption | | |
| audioPacketSizeMs | | |
| deactivationMode | | |
| deactivationModeTime | | |
| telepresenceCallsAllowed | true false | |
| sipPresentationChannelEnabled | true false | 注： sipPresentationChannelEnabled パラメータは、アクティブなコールでは変更しないでください。 |
| bfcfMode | true false | |
| layout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | このパラメータは、非常に初期のバージョンの Acano サーバーとの下位互換性のために提供されています。これには、「defaultLayout」の変更と同等の機能があり、両方が指定されている場合、「defaultLayout」が優先されます。 |
| disconnectOthersAllowed | true false | |
| addParticipantAllowed | true false | |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|---|---|
| qualityMain | unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge 全体の負荷により、コールレグはより低い解像度またはフレームレートで動作する可能性があることに注意してください。（バージョン 2.2 以降）</p> <p>unrestricted：指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します（たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ）。</p> <p>max720p30：ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注： Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> <p>注： このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|--|--|
| qualityPresentation | unrestricted max1080p30 max720p5 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーション ストリームを使用するレグにのみ影響します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5 : Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> |
| participantCounter | never auto always | <p>画面上の参加者カウンターの動作を制御します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>never : 画面上に参加者のカウント値を表示しません</p> <p>auto : 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。</p> <p>always : 常に画面上に参加者カウント値を表示します</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|------------------------|---|
| nameLabelOverride | 文字列 (UTF-8 で最大 50 バイト) | <p>指定されている場合、このコールレグの名前を上書きします。空の文字列を設定すると、値が消去され、元の名前が復元されます。参加者の名前とそれに関連するコールレグの上書きは同義であり、両方に影響します。最新の変更が優先されます。参加者の名前を次の場所で変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 他の会議参加者に表示される画面上の名前ラベル - ActiveControl 名簿 - Web アプリケーションがコールの参加者の名前を確認できる場所 - CDR レコード - Web インターフェイスで名前が表示される場所 <p>(バージョン 2.4 以降)</p> |
| controlRemoteCameraAllowed | true false | <p>コールレグがリモート参加者のカメラを (FECC を使用して) 制御できるかどうかを決定します。 (バージョン 2.8 以降)</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|---------------------------------|--|
| layoutTemplate | ID | 指定されている場合、レイアウトテンプレートをこのコールレグに関連付けます。(バージョン 2.8 以降) |
| audioGainMode | disabled agc | <p>このコールレグオーディオでオートゲインコントロール (AGC) を使用するかどうかを指定します。(バージョン 2.8 以降)</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC は、Meeting Server に直接接続されているすべてのエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフトクライアント) に適用されます。これは、混合オーディオストリームであるため、TIP コールや AVMCU には適用されません。 - AVMCU に接続されている Skype 参加者は、AVMCU がオーディオを制御するので、AGC の対象となりません。 - AGC は混合オーディオ ストリームであるため、Meeting Server 間の分散リンクには適用されません。 |
| meetingTitlePosition | disabled top middle bottom | <p>会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。</p> <p>値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。</p> |
| chatContributionAllowed | true false | 参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。 |
| handStatus | raised lowered | このコールレグで手を上げるか下げるかを指定します。 |
| accessMethod | ID | callLeg/participant のアクセス方式として指定された accessMethod を関連付け、coSpace のデフォルトまたはプライマリアクセス方式を上書きします。 |

8.3.3 /callLegs/<call leg id>/generateKeyframe

/callLegs/<call leg id>/generateKeyframe への POST 操作により、問題のコールレグに対する発信ビデオストリーム内の新しいフレームの生成をトリガーします。これはデバッグ機能付きであり、問題の診断時にCisco サポートからこの機能の使用を求める場合があります。

8.3.4 API を使用した Far End Camera Control（遠端カメラ制御）を許可する

リモートシステムのカメラで FECC を許可するには（バージョン 2.9 以降）：

- /callLegs/<call leg id>/cameraControl に対する PUT 操作

このオブジェクトは、オプションのリクエスト パラメータをサポートしています。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------|------------|--------------------------------|
| pan | left right | リモート カメラを左または右にパンします。 |
| tilt | up down | リモート カメラを上または下に傾けます。 |
| zoom | in out | リモート カメラを拡大または縮小します。 |
| focus | in out | リモートカメラにフォーカスを当てるか、フォーカスを外します。 |

8.3.5 個々のコールレグに関する情報の取得

“/callLegs/<callLeg ID>” ノードで実行される GET メソッド。

指定されたコールレグ ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|---|---|
| callLeg id | ID | |
| name | 文字列 | |
| remoteParty | 文字列 | |
| originalRemoteParty | 文字列 | 発信コールの場合、これは元の宛先アドレスです。着信コールの場合、これは、最初に Call Bridge に通知されたリモートアドレスです。（バージョン 2.3 以降） |
| localAddress | 文字列 | |
| call | ID | |
| tenant | ID | |
| type | sip acano | |
| subType | lync avaya distributionLink lyncDistribution webApp (2.9 以降) | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|--|--|
| lyncSubType | audioVideo applicationSharing instantMessaging | <p>コールレグタイプをさらに分化するもので、コールレグのサブタイプが「lync」の場合は以下のものが使用できます。</p> <p>audioVideo : Call Bridge と Lync の間でオーディオとビデオを交換するために使用される Lync コールレグ。</p> <p>applicationSharing : Lync と Call Bridge 間のアプリケーションまたはデスクトップ共有に使用される Lync コールレグ。</p> <p>instantMessaging : Lync と Call Bridge 間のインスタントメッセージの交換に使用される Lync コールレグ。</p> <p>応答に存在する場合、これらのパラメータは、このコールレグに対して現在アクティブなオーバーライドです（つまり、コールレグの関連テナントなどのより高いレベルのために強制されているものではありません）。</p> |
| direction | incoming outgoing | |
| canMove | true false | このコールレグを所有している参加者を移動できるかどうか。（バージョン 2.6 以降） |
| movedCallLeg | ID | このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグを示します。（バージョン 2.6 以降） |
| movedCallLegCallBridge | ID | このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグがホームとしていた Call Bridge を示します。（バージョン 2.6 以降） |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | |
|------------------------|---------------------------------|---|---|
| configuration | 名前 | タイプ | 説明 |
| | ownerId | ID | |
| | chosenLayout | 次のいずれかになります。 speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | |
| | | | 上記のとおりに callLegProfile フィールドが存在する場合、これらのフィールドは、このコールレグに対して現在アクティブなオーバーライドを示します（つまり、コールレグの関連テナントなどのより高いレベルのために強制されているものではありません） |
| | needsActivation | | |
| | defaultLayout | | |
| | participantLabels | | |
| | presentationDisplayMode | | |
| | presentationContributionAllowed | | |
| | presentationViewingAllowed | | |
| | endCallAllowed | | |
| | muteOthersAllowed | | |
| videoMuteOthersAllowed | | | |
| muteSelfAllowed | | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | |
|---------|---|-------|----|
| | 名前 | タイプ | 説明 |
| | videoMuteSelfAllowed | | |
| | changeLayoutAllowed | | |
| | joinToneParticipantThreshold | | |
| | leaveToneParticipantThreshold | | |
| | videoMode | | |
| | rxAudioMute | | |
| | txAudioMute | | |
| | rxVideoMute | | |
| | txVideoMute | | |
| | sipMediaEncryption | | |
| | audioPacketSizeMs | | |
| | deactivationMode | | |
| | deactivationModeTime | | |
| | telepresenceCallsAllowed | | |
| | sipPresentationChannelEnabled | | |
| | bfcPMode disconnectOthersAllowed | | |
| | addParticipantAllowed (バージョン 2.3 以降) | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | |
|------------|---|---|---|----|--|--|
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="354 254 818 310">名前</th> <th data-bbox="818 254 1062 310">タイプ</th> <th data-bbox="1062 254 1417 310">説明</th> </tr> </thead> </table> | 名前 | タイプ | 説明 | | |
| | 名前 | タイプ | 説明 | | | |
| | qualityMain (バージョン 2.2 以降) | | <p>注: Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> | | | |
| | qualityPresentation (バージョン 2.2 以降) | | <p>注: これらのパラメータは、Cisco Meeting App または Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> | | | |
| | participantCounter (バージョン 2.2 以降) | | | | | |
| | nameLabelOverride (バージョン 2.4 以降) | | | | | |
| | controlRemoteCameraAllowed (バージョン 2.8 以降) | | | | | |
| | layoutTemplate (バージョン 2.8 以降) | | | | | |
| | audioGainMode (バージョン 2.8 以降) | | | | | |
| | meetingTitlePosition | top middle bottom | <p>会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。</p> | | | |
| handStatus | raised lowered | <p>設定されている場合、この参加者またはコールレグの手が上がっているか下がっているかを示します。コール中に handStatus が変更されなかった場合、値は返されません。</p> | | | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | |
|-------------------------|---|---|--|----|--|--|
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="370 289 818 331">名前</th> <th data-bbox="818 289 1138 331">タイプ</th> <th data-bbox="1138 289 1417 331">説明</th> </tr> </thead> </table> | 名前 | タイプ | 説明 | | |
| | 名前 | タイプ | 説明 | | | |
| | accessMethod | ID "coSpace" | <p>ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。POST 操作で accessMethod が指定されていない場合でも、GET 操作は defaultAccessMethod が coSpace 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。</p> <p>coSpace がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。</p> | | | |
| handStatusLastModified | 文字列 | <p>挙手ステータスが最後に変更された UTC 日時を返します。コール中に handStatus が変更されていない場合、値は返されません。</p> | | | | |
| chatContributionAllowed | true false | <p>参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p> | | | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|-------------|---|---|------------------------------|
| status | 名前 | タイプ | 説明 |
| | state | initial ringing connected onHold | |
| | DurationSeconds | 数字 | |
| | sipCallID | 文字列 | |
| | groupID | ID | |
| | recording | true のみ | callLeg が録画中の場合にのみ存在します |
| | streaming | true のみ | callLeg がストリーミング中の場合にのみ存在します |
| | deactivated | true のみ | true の場合にのみ存在します |
| | encryptedMedia | true false | |
| | unencryptedMedia | true false | |
| cipherSuite | 次のいずれか： AEAD_AES_256_GCM AEAD_AES_128_GCM AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 | このコールレグのメディアのいずれかが暗号化されている場合、これは使用中のSRTP 暗号化の暗号スイートを表します。 - AEAD_AES_256_GCM : AES 暗号化、256 ビット、GCM - AEAD_AES_128_GCM : AES 暗号化、128 ビット、GCM - AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 - AES 暗号化、128 ビット、80 ビット SHA-1 認証タグ - AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 - AES 暗号化、128 ビット、32 ビット SHA-1 認証タグ (バージョン 2.9 以降) | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|---------|-----------------------|---|---|
| | 名前 | タイプ | 説明 |
| | layout | 次のいずれかになります。 speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | |
| | activeLayout | 次のいずれかになります。 speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | |
| | availableVideoStreams | 数字 | |
| | layoutTemplate | ID | カスタム レイアウト テンプレートが現在コールレグのレイアウトの生成に使用されている場合に表示され、使用されるレイアウト テンプレートが特定されます。 (バージョン 2.8 以降) |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|---------|------------------------|------------------------------------|--|
| | 名前 | タイプ | 説明 |
| | cameraControlAvailable | true false | <p>これは、このコールレグでカメラをリモートで制御する機能をアドバタイズしたかどうかを示します。</p> <p>true : このコールレグではカメラ制御が可能です</p> <p>false : このコールレグではカメラ制御ができません (バージョン 2.8 以降)</p> |
| | confirmationStatus | required notRequired confirmed | <p>required : confirmation=true が設定されており、ユーザーがコールに参加するための DTMF 確認をまだ提供していません。</p> <p>confirmed : 参加者がコールへの参加を望んでいることを確認するために DTMF シーケンスが入力されました。</p> |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 | |
|-------------|---------|----------------------|--|--|
| status | 名前 | 説明 | | |
| | rxAudio | 名前 | タイプ | 説明 |
| | | codec | 次のいずれかになります。 g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus | 使用されるオーディオコーデック： g711u - G.711 mu law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネット スピーチ オーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネット スピーチ オーディオコーデック) 超広帯域 |
| | | jitter | 数字 | |
| | | bitRate | 数字 | 着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート |
| | | codecBitRate | 数字 | ビットレートによってのみ区別できるバリエーションを持つオーディオコーデックタイプ (G.722.1 など) に存在します。このフィールドは、観測された測定値ではなく、予想されるオーディオビットレートになります (バージョン 2.1 以降)。 |
| | | packetLossPercentage | 番号 | |
| gainApplied | | | AGC を使用してリモートパーティから受信したオーディオに適用されたゲインのデシベル単位の値 (バージョン 2.8 以降) | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | | |
|----------------------|---------|---------------|---|--|
| status | 名前 | タイプ | 説明 | |
| | txAudio | 名前 | タイプ | 説明 |
| | | codec | 次のいずれか： g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus | 使用されるオーディオコーデック： g711u - G.711 mu law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 Annex C) aac - AAC speexNb - Speex 狭帯域 speexWb - Speex 広帯域 speexUwb - Speex 超広帯域 isacWb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 広帯域 isacSwb - iSAC (インターネットスピーチオーディオコーデック) 超広帯域 |
| | | jitter | 数字 | |
| | | bitRate | 数字 | 着信オーディオデータの実際に測定されたビットレート |
| | | roundTripTime | 数字 | |
| packetLossPercentage | 番号 | | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | | |
|----------------------|---------|---------------|---|---|
| status | rxVideo | 名前 | | |
| | | 名前 | タイプ | 説明 |
| | | 親タグに含まれるパラメータ | | |
| | | role | main presentation | ビデオストリームのタイプ：メインまたはプレゼンテーション |
| | | 応答値 | | |
| | | codec | 次のいずれかになります。 h261 h263 h263+ h264 h264Lync vp8 rtVideo | 使用されるビデオコーデック h261 - H.261 h263 - H.263 h263+ - H.263+ h264 - H.264 h264Lync - H.264 SVC for Lync vp8 - VP8 rtVideo - RTVideo |
| | | width | 数字 | |
| | | height | 数字 | |
| | | frameRate | 数字 | |
| | | jitter | 数字 | |
| bitRate | 数字 | | | |
| packetLossPercentage | 番号 | | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | | |
|----------------------|---------------|---|--|--|
| txVideo | 名前 | 説明 | | |
| | 親タグに含まれるパラメータ | 名前 | タイプ 説明 | |
| | role | main presentation | ビデオストリームのタイプ：メインまたはプレゼンテーション | |
| | 応答値 | | | |
| | codec | 次のいずれかになります。 h261 h263 h263+ h264 h264Lync vp8 rtVideo | 使用されるビデオコーデック h261 - H.261 h263 - H.263 h263+ - H.263+ h264 - H.264 h264Lync - H.264 SVC for Lync vp8 - VP8 rtVideo - RTVideo | |
| | width | 数字 | | |
| | height | 数字 | | |
| | frameRate | 数字 | | |
| | jitter | 数字 | | |
| | bitRate | 数字 | | |
| roundTripTime | 数字 | | | |
| packetLossPercentage | 番号 | | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | |
|---------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|--|
| activeControl (バージョン 2.1 以降) | 名前 | タイプ | |
| | 暗号化 | true/false | 説明 アクティブコントロールがリモートパーティとネゴシエートされている場合、アクティブコントロール接続が暗号化されているかどうかを示します。 true : 暗号化されたアクティブコントロール接続がリモートパーティとネゴシエートされています false : アクティブコントロール接続がリモートパーティとネゴシエートされましたが、暗号化されていません |
| | localSubscriptions (バージョン 2.2 以降) | 次の表を参照してください。 | |
| | remoteSubscriptions (バージョン 2.2 以降) | 次の表を参照してください。 | |
| multiStreamVideo (バージョン 2.2 以降) | 名前 | タイプ | 説明 |
| | numScreens | 数字 | このコールレグでマルチストリームビデオがアクティブであることを表します |
| | numCameras | 数字 | このコールレグで現在アクティブなマルチストリームのメインのビデオカメラストリーム数。(バージョン 2.9 以降) |
| | numCamerasAvailable | 数字 | このコールレグで使用可能なものとして相手側がアダプタイズしているマルチストリームのメインのビデオカメラストリーム数。(バージョン 2.9 以降) |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 | | | | | |
|----------|--|--|-------|----|----------|----------------------|--|--|
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="365 317 607 373">名前</th> <th data-bbox="607 317 889 373">タイプ</th> <th data-bbox="889 317 1417 373">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="365 384 607 842">lyncRole</td> <td data-bbox="607 384 889 842">presenter attendee</td> <td data-bbox="889 384 1417 842"> <p>このコールレグに関連付けられている参加者が Lync 会議に参加している場合にのみ表示されます。</p> <p>presenter : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議のプレゼンタです。</p> <p>attendee : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議の出席者です。</p> <p>(バージョン 2.4 以降)</p> </td> </tr> </tbody> </table> | 名前 | タイプ | 説明 | lyncRole | presenter attendee | <p>このコールレグに関連付けられている参加者が Lync 会議に参加している場合にのみ表示されます。</p> <p>presenter : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議のプレゼンタです。</p> <p>attendee : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議の出席者です。</p> <p>(バージョン 2.4 以降)</p> | |
| 名前 | タイプ | 説明 | | | | | | |
| lyncRole | presenter attendee | <p>このコールレグに関連付けられている参加者が Lync 会議に参加している場合にのみ表示されます。</p> <p>presenter : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議のプレゼンタです。</p> <p>attendee : このコールレグに関連付けられている参加者は、Lync 会議の出席者です。</p> <p>(バージョン 2.4 以降)</p> | | | | | | |

アクティブコントロールパラメータのステータス

| 名前 | タイプ | | 説明 |
|------------------------------------|----------------|---|----|
| localSubscriptions (バージョン 2.2 以降) | 名前 | 説明 | |
| | capabilities | 存在する場合、これは、ローカルの Meeting Server が遠端の XCCP 機能にサブスクライブしていることを示します。 | |
| | conferenceInfo | 存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP 会議情報（参加者リストや、録画がアクティブかどうかなどの会議全体の情報が含まれます）にサブスクライブしていることを示します。 | |
| | layouts | 存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP レイアウト情報にサブスクライブしていることを示します。 | |
| | selfInfo | 存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP 自己情報にサブスクライブしていることを示します。 | |
| | speakerInfo | 存在する場合、これは、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP 発言者情報に登録したことを示します。 | |
| remoteSubscriptions (バージョン 2.2 以降) | 名前 | 説明 | |
| | capabilities | 存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカル XCCP 機能にサブスクライブしていることを示します。 | |
| | conferenceInfo | 存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカル XCCP 会議情報（参加者リストと、録画がアクティブかどうかなどの会議全体の情報が含まれます）にサブスクライブしたことを示します。 | |
| | layouts | 存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカル XCCP レイアウト情報にサブスクライブしていることを示します。 | |
| | selfInfo | 存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカルの XCCP 自己情報にサブスクライブしていることを示します。 | |
| | speakerInfo | 存在する場合、これは、遠端の Meeting Server がローカル XCCP 発言者情報に登録していることを示します。 | |

注：コールレグ設定と返されるステータスの例については、[付録 B](#) を参照してください。

8.4 コールレグプロファイルメソッド

8.4.1 一般情報

コールレグプロファイルは、一連のコール中の動作を定義します。coSpace、coSpaceUser、accessMethod、tenant オブジェクトは、オプションで callLegProfile アソシエーションを持つことができます。その場合、それらのオブジェクトに対応するコールレグは、コールレグプロファイルによって定義されたインコール動作を継承します。詳細については、[セクション 15](#) も参照してください。

8.4.2 コールレグプロファイルを取得する

「/callLegProfiles/」 ノードでの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------------------------|--|
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。 |
| usageFilter | unreferenced referenced | unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないコールプロファイルのみが取得されます。これは、コールレグプロファイルを削除する前のチェックとして有用です。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|------------|--|
| needsActivation | true false | レスポンスは "<callLegProfiles>" オブジェクト内に含まれる <callLegProfile id=<call leg profile id> オブジェクト <callLegProfile> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 「true」に設定されている場合、参加者は、1 人以上の 「full/activator」参加者が参加するまで、オーディオとビデオを受信または投稿できません。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------|---|---|
| defaultLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | このコールレグプロファイルを使用するコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。 |
| changeLayoutAllowed | true false | 「true」に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するすべてのレグは、SIP エンドポイントの画面レイアウトを変更できます。 |
| participantLabels | true false | 「true」に設定すると、このコールレグプロファイルを使用するコールレグのビデオペインに参加者ペインラベルが表示されます。 |
| presentationDisplayMode | dualStream singleStream | singleStream は、発信コンテンツが別のストリームにあるのではなく、単一の合成コンテンツ + ビデオ BFCP ストリームを提供します。 |
| presentationContributionAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグはコンテンツを共有できます。 |
| presentationViewingAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、共有コンテンツを表示できます。 |
| endCallAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、参加しているコールを終了できます。 |
| disconnectOthersAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、通常はアクティブコントロールを介して他の参加者の接続を切断できます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------------|------------|--|
| addParticipantAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、通常はアクティブコントロールを介して他の参加者を追加できます。 |
| muteOthersAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、他の参加者の音声をミュートまたはミュート解除できます。 |
| videoMuteOthersAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、他の参加者の音声をミュートまたはミュート解除（開始/停止）できます。 |
| muteSelfAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、自分のオーディオをミュートまたはミュート解除できます。 |
| videoMuteSelfAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、自分のビデオをミュートまたはミュート解除（開始/停止）できます。 |
| joinToneParticipantThreshold | 数字 | 「参加トーン」が再生される SIP エンドポイントを使用する参加者の数。最大 100。値が 0 の場合、機能が「無効」になります。名簿リストに参加または退出するユーザーが視覚的に示されるため、Web アプリのユーザーはこれらの音声通知を受け取りません。 |
| leaveToneParticipantThreshold | 数字 | 「退出トーン」が再生される参加者の数（値が 0 の場合、機能は「無効」になります） |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|------------------------------|---|
| videoMode | auto disabled | disabled に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、presentationViewingAllowed および txAudioMute の値に応じて、オーディオのみ、またはオーディオとコンテンツになります。メインストリームビデオは表示されません。メインビデオ ストリームにコンテンツを表示するデバイスの場合、必要に応じてメインビデオ ストリームにコンテンツは表示されますが、参加者のビデオは表示されません。 |
| rxAudioMute | true false | true の場合、他の参加者は、このコールレグプロファイルを使用するコールレグからの音声を聞くことができません。 |
| txAudioMute | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのオーディオはミュートされます。 |
| rxVideoMute | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用してコールレグから提供された（「カメラ」）ビデオは、他の参加者には表示されません。 |
| txVideoMute | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのビデオストリームはミュートされます（たとえば、SIP エンドポイントの画面にはロゴのみが表示され、Web アプリにはビデオがまったく送信されません）。 |
| sipMediaEncryption | optional required prohibited | Web 管理インターフェイスの設定と同じ |
| audioPacketSizeMs | 数字 | 発信オーディオストリームの優先パケットサイズの数値（ミリ秒単位、デフォルト値は 20 ミリ秒） |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------------|---------------------------------------|--|
| deactivationMode | deactivate disconnect remainActivated | 最後の「アクティベータ」が退出したときの「needsActivation」コールレグに対するアクション |
| deactivationModeTime | 数字 | 最後の「アクティベータ」が退出してから deactivationMode アクションが実行されるまでの秒数 |
| telepresenceCallsAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、TIP (Telepresence Interoperability Protocol) コールを行うことができます。 |
| sipPresentationChannelEnabled | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグには、プレゼンテーションビデオチャネル操作の実行が許可されます。 |
| bfcfMode | serverOnly serverAndClient | <p>プレゼンテーションビデオチャネルの操作が SIP コールに対して許可されている場合、この設定によって Call Bridge の BFCF 動作が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ serverOnly : これは会議デバイスの通常の設定であり、BFCF クライアントモードデバイス (SIP エンドポイントなど) で使用することを目的としています。 ▪ serverAndClient : このオプションにより、Call Bridge はリモートデバイスとのコールで BFCF クライアントまたは BFCF サーバーモードで動作できます。これにより、サードパーティ MCU などのリモート会議ホスティングデバイスとのプレゼンテーションビデオ共有が改善されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|------------|--|
| callLockAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグがコールをロックできるかどうかを決定します。 |
| setImportanceAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、コールの参加者の重要度を変更できるかどうか。(バージョン 2.3 以降) |
| allowAllMuteSelfAllowed | false true | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、自分自身をミュートおよびミュート解除するすべてのコールレグの許可を変更できるかどうか。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|------------|--|
| allowAllPresentationContributionAllowed | false true | このコールレックプロファイルを使用するコールレックが、すべてのコールレックのプレゼンテーション権限を変更できるかどうか。 |
| changeJoinAudioMuteOverrideAllowed | false true | このコールレックプロファイルを使用するコールレックが、新しい参加者の初期ミュート状態を設定できるかどうか。 |
| recordingControlAllowed | true false | このコールレックプロファイルを使用するコールレックが、コールの録画を開始/停止できるかどうか。 |
| streamingControlAllowed | true false | このコールレックプロファイルを使用するコールレックが、コールのストリーミングを開始/停止できるかどうか。 |
| name | 文字列 | プロファイルの名前です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |
| maxCallDurationTime | 数字 | コールレックが存在する最大時間（秒単位）。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|---|--|
| qualityMain | unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレッグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge 全体の負荷により、コールレッグはより低い解像度またはフレームレートで動作する場合があります。ことに注意してください。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted：指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します (たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ)。</p> <p>max720p30：ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注：このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|--|--|
| qualityPresentation | unrestricted max1080p30 max720p5 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレックでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーション ストリームを使用する callLeg にのみ影響します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5 : Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注 : qualityPresentation が設定されている場合、SIP エンドポイントが Lync ユーザーとプレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は受信プレゼンテーションビデオに最大解像度フレームレートを適用し、Lync への送信プレゼンテーションビデオはこの最大フレームレートに一致します。ただし、Lync クライアントがプレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は、Lync からの受信プレゼンテーションビデオに qualityPresentation 設定を適用しませんが、SIP エンドポイントへの送信プレゼンテーションビデオには適用します。</p> |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|---------------------------|--|
| participantCounter | never auto always | 画面上の参加者カウンターの動作を制御します。(バージョン 2.2 以降) never : 画面上に参加者のカウント値を表示しません auto : 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。 always : 常に画面上に参加者カウント値を表示します |

8.4.3 コールレグプロファイルを作成および変更する

- 作成 : 「/callLegProfiles」ノードに対する POST メソッド。コールレグプロファイルが正常に作成されると、「200 OK」応答が返され、応答の「Location」ヘッダーには新しいコールレグプロファイルの ID が含まれます。
- コールレグプロファイルの変更は、"/callLegProfiles/<call leg profile id>" ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|---|--|
| needsActivation | true false | 「true」に設定されている場合、参加者は、1 人以上の「full/activator」参加者が参加するまで、オーディオとビデオを受信または投稿できません。 |
| defaultLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | このコールレグプロファイルを使用するコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------|-------------------------|---|
| changeLayoutAllowed | true false | 「true」に設定されている場合、このコールレグ プロファイルを使用するすべてのレグは、SIP エンドポイントの画面レイアウトを変更できます。 |
| participantLabels | true false | 「true」に設定すると、このコールレグプロファイルを使用するコールレグのビデオペインに参加者ペインラベルが表示されます。 |
| presentationDisplayMode | dualStream singleStream | singleStream は、発信コンテンツが別のストリームにあるのではなく、単一の合成コンテンツ + ビデオ BFCP ストリームを提供します。 |
| presentationContributionAllowed | true false | true の場合、コールレグを使用している参加者はコンテンツを提供できます |
| presentationViewingAllowed | true false | true の場合、コールレグを使用している参加者は、他の人が提供したコンテンツを表示できます。 |
| endCallAllowed | true false | true の場合、コールレグプロファイルを使用している参加者は、全員の会議を終了できます。 |
| disconnectOthersAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、アクティブコントロール経由でのみ、他の参加者の接続を切断できます。(バージョン 2.1 以降) |
| addParticipantAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、通常はアクティブコントロールを介して他の参加者を追加できます。(バージョン 2.3 以降) |
| muteOthersAllowed | true false | true の場合、コールレグプロファイルを使用している参加者は他の参加者をミュートできます。 |
| videoMuteOthersAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、他の参加者のビデオをミュートまたはミュート解除(開始/停止)できるかどうか |
| muteSelfAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、自分のオーディオをミュートまたはミュート解除できるかどうか |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------------|---------------|---|
| videoMuteSelfAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、自分のビデオをミュートまたはミュート解除（開始/停止）できるかどうか |
| joinToneParticipantThreshold | 数字 | 「参加トーン」が再生される SIP エンドポイントを使用する参加者の数。最大 100。値が 0 の場合、機能が「無効」になります。名簿リストに参加または退出するユーザーが視覚的に示されるため、Web アプリのユーザーはこれらの音声通知を受け取りません。 |
| leaveToneParticipantThreshold | 数字 | 「退出トーン」が再生される参加者の数（値が 0 の場合、機能は「無効」になります） |
| videoMode | auto disabled | disabled に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、presentationViewingAllowed および txAudioMute の値に応じて、オーディオのみ、またはオーディオとコンテンツになります。メインストリームビデオは表示されません。メインビデオ ストリームにコンテンツを表示するデバイスの場合、必要に応じてメインビデオ ストリームにコンテンツは表示されますが、参加者のビデオは表示されません。 |
| rxAudioMute | true false | true の場合、他の参加者は、このコールレグプロファイルを使用するコールレグからの音声を聞くことができません。 |
| txAudioMute | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのオーディオはミュートされます。 |
| rxVideoMute | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用してコールレグから提供された（「カメラ」）ビデオは、他の参加者には表示されません。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------------|---------------------------------------|---|
| txVideoMute | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのビデオストリームはミュートされます（たとえば、SIP エンドポイントの画面にはロゴのみが表示され、Web アプリにはビデオがまったく送信されません）。 |
| sipMediaEncryption | optional required prohibited | Web 管理インターフェイスの設定と同じ |
| audioPacketSizeMs | 数字 | 発信オーディオストリームの優先パケットサイズの数値（ミリ秒単位、デフォルト値は 20 ミリ秒） |
| deactivationMode | deactivate disconnect remainActivated | 最後の「アクティベータ」が退出したときの「needsActivation」コールレグに対するアクション |
| deactivationModeTime | 数字 | 最後の「アクティベータ」が退出してから deactivationMode アクションが実行されるまでの秒数 |
| telepresenceCallsAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、TIP（Telepresence Interoperability Protocol）コールを行うことができます。 |
| sipPresentationChannelEnabled | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグには、プレゼンテーションビデオチャネル操作の実行が許可されます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|----------------------------|--|
| bfcfMode | serverOnly serverAndClient | <p>プレゼンテーションビデオチャネルの操作が SIP コールに対して許可されている場合、この設定によって Call Bridge の BFCP 動作が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> serverOnly : これは会議デバイスの通常の設定であり、BFCP クライアントモードデバイス (SIP エンドポイントなど) で使用することを目的としています。 serverAndClient : このオプションにより、Call Bridge はリモートデバイスとのコールで BFCP クライアントまたは BFCP サーバーモードで動作できます。これにより、サードパーティ MCU などのリモート会議ホスティングデバイスとのプレゼンテーションビデオ共有が改善されます。 |
| callLockAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグがコールをロックできるかどうかを決定します。 |
| setImportanceAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、コールの参加者の重要度を変更できるかどうかを決定します。(バージョン 2.3 以降) |
| allowAllMuteSelfAllowed | true false | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、自分自身をミュートおよびミュート解除するすべてのコールレグの許可を変更できるかどうか。 |
| allowAllPresentationContributionAllowed | false>true | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、すべてのコールレグのプレゼンテーション権限を変更できるかどうか。 |
| changeJoinAudioMuteOverrideAllowed | false>true | このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、新しい参加者の初期ミュート状態を設定できるかどうか。 |
| recordingControlAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、コールの録画を開始/停止できます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|------------|--|
| streamingControlAllowed | true false | true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、コールのストリーミングを開始/停止できます。（バージョン 2.1 以降） |
| name | 文字列 | プロファイルの名前です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |
| maxCallDurationTime | 数字 | コールレグが存在する最大時間（秒単位）。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|---|---|
| qualityMain | unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグの最大ネゴシエートされたメインビデオコール品質を制限します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。エンドポイントの制限または Call Bridge 全体の負荷により、コールレグはより低い解像度またはフレームレートで動作する可能性があることに注意してください。（バージョン 2.2 以降）</p> <p>unrestricted：指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します（たとえば、毎秒 60 フレームで 1280x720 の画面サイズ）。</p> <p>max720p30：ブリッジが、最大毎秒 30 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max480p30：ブリッジが最大毎秒 30 フレームで最大 868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注：このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|--|---|
| qualityPresentation | unrestricted max1080p30 max720p5 | <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、このコールレグでネゴシエートされるプレゼンテーションのビデオコール品質の上限を設定します。一般的な解像度とフレームレートを使用して指定されます。これは、別のプレゼンテーション ストリームを使用する callLeg にのみ影響します。</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p> <p>unrestricted : 指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度またはフレームレートに制限がない古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 : Call Bridge が、最大毎秒 30 フレームで 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>max720p5 : Call Bridge が、最大毎秒 5 フレームで 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します。</p> <p>注 : このパラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリまたは Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注 : qualityPresentation が設定されている場合、SIP エンドポイントが Lync ユーザーとプレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は受信プレゼンテーションビデオに最大解像度フレームレートを適用し、Lync への送信プレゼンテーションビデオはこの最大フレームレートに一致します。ただし、Lync クライアントがプレゼンテーションを共有すると、Meeting Server は、Lync からの受信プレゼンテーションビデオに qualityPresentation 設定を適用しませんが、SIP エンドポイントへの送信プレゼンテーションビデオには適用します。</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|---------------------------|--|
| participantCounter | never auto always | <p>画面上の参加者カウンターの動作を制御します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>never : 画面上に参加者のカウント値を表示しません</p> <p>auto : 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、これは、現在表示できない追加の参加者が存在することを表します。</p> <p>always : 常に画面上に参加者カウント値を表示します</p> |
| controlRemoteCameraAllowed | true false | <p>このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、リモート参加者のカメラを (FECC 経由で) 制御できるかどうかを決定します。(バージョン 2.8 以降)</p> |
| layoutTemplate | ID | <p>指定されている場合、レイアウトテンプレートをこのコールレグプロファイルに関連付けます。(バージョン 2.8 以降)</p> |
| audioGainMode | disabled agc | <p>このコールレグプロファイルを使用するコールレグのオーディオでオートゲインコントロール (AGC) を使用するかどうかを指定します</p> <p>(バージョン 2.8 以降)</p> <p>注 :</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC は、Meeting Server に直接接続されているすべてのエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフトクライアント) に適用されます。これは、混合オーディオストリームであるため、TIP コールや AVMCU には適用されません。 - AVMCU に接続されている Skype 参加者は、AVMCU がオーディオを制御するので、AGC の対象となりません。 - AGC は混合オーディオストリームであるため、Meeting Server 間の分散リンクには適用されません。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|----------------------------------|---|
| meetingTitlePosition | disabled top middle bottom | 会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。 値が disabled の場合、ミーティングのタイトルが削除されます。 |
| chatContributionAllowed | true false | 参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを決定します。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。 |

すべての場合において、POST または PUT でパラメータを空の値に明示的に設定すると、そのパラメータはそのプロファイルに対して「unset」になります。これらのコールレグは、上位レベルのコールレグプロファイルからそのパラメータの値を「継承」します。

8.4.4 個々のコールレグプロファイルに関する情報を取得する

/callLegProfiles/<call leg profile id> ノードの GET メソッド。指定されたコールレグプロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の "<callLegProfile id=call leg profile<ID>>" オブジェクトが、前のセクションのデータとともに返されます。

8.4.5 コールレグプロファイルとアクセス方式の使用例

コールレグプロファイルをアクセス方式に関連付けることができる主な用途は、異なる URI / コール ID / パスコードの組み合わせを構築して、通話中のさまざまな動作を提供できるようにすることです。たとえば、「needsActivation」値が「true」のコールレグプロファイルを 1 つのアクセス方式に関連付け、「needsActivation」値が「false」である別のコールレグプロファイルを別のアクセス方式に関連付けることができます。

事実上、これにより、その coSpace に対して個別の「アクティベータ」および「ゲスト」用のアクセス方式が設定され、「needsActivation=true」アクセス方式への発信者は、会議のオーディオおよびビデオがアクティブになる前に、他のアクセス方式へのコールが成功するまで待機する必要があります。このように異なるコールレグプロファイルにリンクされた複数のアクセス方式については、パスコードだけでそれらを区別を選択できます。基本的に、アクティベータとゲストのユーザーは同じ URI をダイヤルしますが、アクティベータまたはゲスト参加者によって異なる PIN を入力します。

8.4.6 /callLegProfiles/<call leg profile id>/usage オブジェクトのメソッド

階層には /callLegs/<call leg id>/usage オブジェクトがあります。このオブジェクトで GET 操作を実行すると、照会されたコールレグについて、指定されたコールレグプロファイルが使用されている場所（グローバル コールレグ プロファイルに設定されているか、テナント、coSpace、coSpace ユーザー、coSpace アクセス方式との関連付けがあるか）のリストが取得されます。

8.4.7 /callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace オブジェクトのメソッド

階層には /callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace オブジェクトがあります。このオブジェクトで GET 操作を実行すると、照会したコールレグについて、その有効なコールレグプロファイルにどのように到達したかが取得されます。つまり、現在「有効」なコールレグプロファイルに寄与したオーバーライドの階層です。具体的には、応答には、プロファイル階層の各レベルのセクションと、どのコールレグプロファイル要素がどのレベルで適用されたかの詳細が含まれます。

各パラメータの最終結果は、そのパラメータの最下位レベルのオーバーライドです。たとえば、テナントレベルのコールレグプロファイルでは「participantLabels」が true に設定されているが、coSpace コールレグプロファイルでは false に設定されている場合、その coSpace のコールレグには参加者ラベルが表示されません。

「/callLegProfileTrace/」ノードで GET メソッドを使用して、コールログプロファイルのトレースを取得します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|--|---|
| scope | 次のいずれかになります。 global tenant coSpace accessMethod coSpaceUser callOut callLeg | 一連のプロファイルパラメータが適用されているレベルを示します。 指定されたプロファイルパラメータは、システム全体のレベルで適用されています。具体的には、これらのパラメータが、システム/プロファイルの下で構成された最上位の callLegProfile に存在することを意味します。 指定されたプロファイルパラメータはテナントレベルで適用されています 指定されたプロファイルパラメータは coSpace レベルで適用されています 指定されたプロファイルパラメータはアクセス方式レベルで適用されています 指定されたプロファイルパラメータは、coSpaceUser に関連付けられた callLegProfile を介して適用されています 指定されたプロファイルパラメータは、コールログの作成時に提供された callLegProfile を介して適用されています 指定されたプロファイルパラメータは、特にこのコールログに適用されています（つまり、設定された callLegProfile オブジェクトを介してではありません）。 |
| id | id | 存在する場合、このエントリのスコープに適用可能な callLegProfile |
| meetingTitlePosition | top middle bottom | 会議のタイトルを有効にし、指定された位置に配置します。指定されていない場合、値は bottom になります。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|-------|----------------------------------|
| needsActivation | | このレベルで上書きされたコールレグプロファイル値を示すパラメータ |
| defaultLayout | | |
| changeLayoutAllowed | | |
| participantLabels | | |
| presentationDisplayMode | | |
| presentationContributionAllowed | | |
| presentationViewingAllowed | | |
| endCallAllowed | | |
| muteOthersAllowed | | |
| videoMuteOthersAllowed | | |
| muteSelfAllowed | | |
| videoMuteSelfAllowed | | |
| joinToneParticipantThreshold | | |
| leaveToneParticipantThreshold | | |
| videoMode | | |
| rxAudioMute | | |
| txAudioMute | | |
| rxVideoMute | | |
| txVideoMute | | |
| sipMediaEncryption | | |
| audioPacketSizeMs | | |
| deactivationMode | | |
| deactivationModeTime | | |
| telepresenceCallsAllowed | | |
| sipPresentationChannelEnabled | | |
| bfcPMode | | |
| callLockAllowed | | |
| setImportanceAllowed | | |
| allowAllMuteSelfAllowed | | |
| allowAllPresentationContributionAllowed | | |
| changeJoinAudioMuteOverrideAllowed | | |
| recordingControlAllowed | | |
| streamingControlAllowed | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|-------|--|
| name maxCallDurationTime disconnectOthersAllowed audioGainMode (バージョン 2.8 以降) addParticipantAllowed (バージョン 2.3 以降) participantCounter (バージョン 2.2 以降) qualityMain (バージョン 2.2 以降) qualityPresentation (バージョン 2.2 以降) | | <p>注：qualityMain パラメータおよび qualityPresentatio パラメータは、Cisco Meeting Server Web アプリマ; は Cisco Meeting App WebRTC アプリからの着信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Cisco Meeting Server と Lync/Skype for Business 間のコールの場合、この制限は Cisco Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザーコールとデュアルホーム会議の両方に適用されます。</p> |

8.5 コールレグの個々の機能を設定する

アクティブなコールレグごとに設定、変更、取得できます。これらの設定には、プレゼンテーションをシングルスクリーンモード（つまり、メインビデオストリームとプレゼンテーションビデオストリームを1つに組み合わせたもの）に制限するか、受信側でサポートされている場合は個別のビデオストリームの使用を許可するかが含まれます。

注：コールレグの個々のパラメータを設定すると、コールレグプロファイルの値が上書きされます。

8.6 レイアウトテンプレート メソッド

Meeting Server は、カスタマイズ可能なレイアウトをサポートしています。これにより、管理者は、特定のニーズに合ったカスタムレイアウトをより柔軟に作成および適用できます。この機能は、シングルおよびデュアルスクリーンエンドポイントで動作します。

注：カスタマイズ可能なレイアウトは、トリプル画面エンドポイントではサポートされません。

レイアウトテンプレートメソッドを使用すると、カスタマイズされたJSONレイアウトテンプレートファイルを実装できます。

カスタマイズ可能なレイアウトの詳細については、[『Cisco Meeting Server 2.8 画面レイアウトおよびペイン配置に関する管理者ガイド』](#)を参照してください。

8.6.1 レイアウトテンプレートの追加と変更

POST method performed on “/layoutTemplates” ノードで実行される POST メソッドまたは “/layoutTemplates/<layout template id>” ノードへの PUT メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------|-------|---|
| name | 文字列 | このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人間が読める名前。最大 200 文字。 |

8.6.2 レイアウトテンプレートを取得（列挙）する

/layoutTemplates ノードでの GET メソッド。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目以外のレイアウトテンプレートを取得するために、オフセットと制限を指定できます。 |
| Limit | | |
| filter | 文字列 | filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するレイアウトテンプレートのみが返されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------|-------|---|
| | | この応答は、最上位レベルの <layoutTemplates total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <layoutTemplate> 要素が含まれる可能性があります。各 <layoutTemplate> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 |
| name | 文字列 | このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人間が読める名前。最大 200 文字。 |
| templateSize | 数字 | テンプレートのサイズ（バイト単位）。 |

8.6.3 レイアウトテンプレートに関する情報を取得する

/layoutTemplates/<layout template id> ノードで実行される GET メソッド。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------|-------|---|
| name | 文字列 | このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人間が読める名前。 最大 200 文字。 |
| templateSize | 数字 | テンプレートのサイズ (バイト単位)。 |

8.6.4 レイアウトテンプレートの説明をレイアウトテンプレートに割り当てる

「/layoutTemplates/<layout template id>/template」に対して PUT メソッドを実行し、レイアウトテンプレートの説明をレイアウトテンプレートに割り当てます。「Content-Type」は「application/json」に設定する必要があります。

8.6.5 レイアウトテンプレートのレイアウトテンプレートの説明の取得

"/layoutTemplates/<layout template id>/template" で GET メソッドを使用して、レイアウトテンプレートに関連付けられるレイアウトテンプレートの説明を取得します。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|--------|---|
| 送信元 | parsed | この任意の URI パラメータ "source" は、GET 操作で指定できます。このパラメータが指定されていない場合、GET 操作は、"/layoutTemplates/<layout template id>/template" で PUT メソッドを使用して指定するように、元の JSON の説明を返します。指定されている場合、source=parsed は、Meeting Server によって処理された後にレイアウト テンプレート データを返します。これにより、1 つまたは複数の検証制約を満たすためなど、アップロードされたテンプレートデータが Meeting Server によって変更されたかどうかを確認できます。 |

8.7 コールブランディング プロファイル メソッド

コールブランディング プロファイルは、SIP (Lync を含む) コールの通話中のエクスペリエンスと、招待状内のテキストをカスタマイズする機能を制御します。詳細については、[セクション 15](#)も参照してください。

注：バージョン 2.4 以降、callBrandingProfiles の使用にブランディングライセンスは必要なくなりました。

8.7.1 コールブランディング プロファイルを取得する

“/callBrandingProfiles” ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------------------------|--|
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| usageFilter | referenced unreferenced | unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないコールブランディング プロファイルのみが取得されます。これは、コールブランディング プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| | | 応答は、最上位の <callBrandingProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callBrandingProfile> 要素が含まれる可能性があります。 |

8.7.2 コールブランディング プロファイルを設定および変更する

- 作成：「/callBrandingProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更："/callBrandingProfiles/<call branding profile id>" への PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|-------|--|
| invitationTemplate | URL | テキスト形式の招待状を作成するときに Web アプリケーションが使用する招待状テンプレートテキストの HTTP または HTTPS URL。招待状内のテキストをカスタマイズする方法の詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。 |
| resourceLocation | URL | Call Bridge コールブランディング ファイルの取得元となる HTTP または HTTPS URL。これは、個々のオーディオファイルおよびグラフィックファイルが存在する「ディレクトリ」です。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。 |

8.7.3 個々のコールブランディング プロファイルに関する詳細情報を取得する

“/callBrandingProfiles/<call branding profile id>” ノードで実行される GET メソッド。指定されたコールブランディング プロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.8 DTMF プロファイルメソッド

このセクションで説明するように、dtmfProfiles を使用して、オーディオの制御に使用できる多数の DTMF シーケンスを定義できます。dtmfProfile は、アクションを実行する機能を定義せず、アクションを呼び出す DTMF 文字列を定義します。coSpace 内でそのアクションを呼び出す権限を持つユーザーの定義は、callLegProfile レベルで定義されます。詳細については、[セクション 15](#) も参照してください。

Meeting Server をサードパーティのソリューションと一緒に使用している場合、または Meeting Server で既存のソリューションを置き換える場合は、ソリューションが使用する値と一致するように値を設定します。たとえば、Lync 会議ではミュートとミュート解除の両方に *6 を使用するため、toggleMuteSelfAudio を *6 に設定します。

8.8.1 DTMF プロファイルを取得する

「/dtmfProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------------------------|--|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。 |
| usageFilter | referenced unreferenced | unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていない DTMF プロファイルのみが取得されます。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されている DTMF プロファイルのみを取得する場合は、「usageFilter=referenced」を入力します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|-------|---|
| | | 応答は、最上位の <dtmfProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <dtmfProfile> 要素が含まれる可能性があります。 |
| muteSelfAudio | 文字列 | 参加者がコールに提供されている音声をミュートするために使用する DTMF シーケンス |
| unmuteSelfAudio | 文字列 | 参加者が音声のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス |
| toggleMuteSelfAudio | 文字列 | 参加者が自分自身からの音声のミュートとミュート解除を切り替えるために使用する DTMF シーケンス |
| muteAllExceptSelfAudio | 文字列 | 参加者がコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。 |
| unmuteAllExceptSelfAudio | 文字列 | 参加者がコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。 |
| startRecording | 文字列 | 参加者がアクティブなコールの録画を開始するために使用する DTMF シーケンス。 |
| stopRecording | 文字列 | 参加者がアクティブなコールの録画を停止するために使用する DTMF シーケンス。 |
| muteAllNewAudio | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。joinAudioMuteOverride Call オブジェクトを true に設定します。 |
| unmuteAllNewAudio | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。joinAudioMuteOverride Call オブジェクトを false に設定します。 |
| defaultMuteAllNewAudio | 文字列 | 参加者が新しい参加者のコールレグプロファイルからのオーディオミュート値を使用するために使用する DTMF シーケンス。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------------|-------|---|
| muteAllNewAndAllExceptSelfAudio | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。コールオブジェクトの joinAudioMuteOverride を「true」に設定し、発行者を除くすべてのコールレグをミュートします。これには、発行者のコールレグプロファイルで「muteOthersAllowed」および「changeJoinAudioMuteOverrideAllowed」が「true」である必要があります。 |
| unmuteAllNewAndAllExceptSelfAudio | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。コールオブジェクトの joinAudioMuteOverride を「false」に設定し、発行者を除くすべてのコールレグのミュートを解除します。これには、発行者のコールレグプロファイルで「muteOthersAllowed」および「changeJoinAudioMuteOverrideAllowed」が「true」である必要があります。 |

8.8.2 DTMF プロファイルを設定および変更する

- 作成：「/dtmfProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更："/dtmfProfiles/<dtmfprofile id>" への PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|-------|--|
| lockCall | 文字列 | 参加者がコールをロックするために使用する DTMF シーケンス。アクティベータがコールに参加した場合でも、アクティベーションが必要な新しいコールレグはアクティブになりません。 |
| unlockCall | 文字列 | 参加者がコールのロックを解除するために使用する DTMF シーケンス。これにより、アクティブ化が必要なすべてのコールレグがアクティブ化されます（コールにアクティベータが存在する場合）。 |
| nextLayout | 文字列 | 参加者のビデオレイアウトをリスト内の次のレイアウトに変更するために参加者が使用する DTMF シーケンス。 |
| previousLayout | 文字列 | 参加者のビデオレイアウトをリスト内の前のレイアウトに変更するために参加者が使用する DTMF シーケンス。 |
| muteSelfAudio | 文字列 | 参加者がコールに提供されている音声をミュートするために使用する DTMF シーケンス |
| unmuteSelfAudio | 文字列 | 参加者が音声のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス |
| toggleMuteSelfAudio | 文字列 | 参加者が自分自身からの音声のミュートとミュート解除を切り替えるために使用する DTMF シーケンス |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|-------|---|
| <code>muteAllExceptSelfAudio</code> | 文字列 | 参加者がコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>unmuteAllExceptSelfAudio</code> | 文字列 | 参加者がコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>startRecording</code> | 文字列 | 参加者がアクティブなコールの録画を開始するために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>stopRecording</code> | 文字列 | 参加者がアクティブなコールの録画を停止するために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>startStreaming</code> | 文字列 | 参加者がアクティブなコールのストリーミングを開始するために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>stopStreaming</code> | 文字列 | 参加者がアクティブなコールのストリーミングを停止するために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>allowAllMuteSelf</code> | 文字列 | すべての参加者が自分自身をミュートおよびミュート解除できるようにするために参加者が使用する DTMF シーケンス。Call オブジェクトの <code>allowAllMuteSelf</code> を <code>true</code> に設定します。 |
| <code>cancelAllowAllMuteSelf</code> | 文字列 | すべての参加者が自分自身をミュートおよびミュート解除できるようにする許可をキャンセルするために参加者が使用する DTMF シーケンス。Call オブジェクトの <code>allowAllMuteSelf</code> を <code>false</code> に設定します。 |
| <code>allowAllPresentationContribution</code> | 文字列 | すべての参加者がプレゼンテーションを行えるようにするために参加者が使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>cancelAllowAllPresentationContribution</code> | 文字列 | 参加者がプレゼンテーションの許可を取り消すために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>muteAllNewAudio</code> | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。 <code>joinAudioMuteOverride</code> Call オブジェクトを <code>true</code> に設定します。 |
| <code>unmuteAllNewAudio</code> | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。 <code>joinAudioMuteOverride</code> Call オブジェクトを <code>false</code> に設定します。 |
| <code>defaultMuteAllNewAudio</code> | 文字列 | 参加者が新しい参加者のコールレグプロファイルからのオーディオミュート値を使用するために使用する DTMF シーケンス。 |
| <code>muteAllNewAndAllExceptSelfAudio</code> | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員をミュートするために使用する DTMF シーケンス。コールオブジェクトの <code>joinAudioMuteOverride</code> を「true」に設定し、発行者を除くすべてのコールレグをミュートします。これには、発行者のコールレグプロファイルで「 <code>muteOthersAllowed</code> 」が「true」である必要があります。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------------|-------|---|
| unmuteAllNewAndAllExceptSelfAudio | 文字列 | 参加者が新しい参加者全員とコールの他の参加者全員のミュートを解除するために使用する DTMF シーケンス。コールオブジェクトの joinAudioMuteOverride を「false」に設定し、発行者を除くすべてのコールレグのミュートを解除します。これには、発行者のコールレグ プロファイルで「muteOthersAllowed」が「true」である必要があります。 |
| endCall | 文字列 | 参加者がコールを終了するために使用する DTMF シーケンス。これにより、操作を開始した参加者を含むすべての参加者がの接続が切断されます |
| getTotalParticipantCount | 文字列 | 参加者がコールの参加者の総数を取得するために使用する DTMF シーケンス。(バージョン 2.8 以降) |

8.8.3 個々の dtmfProfile に関する詳細情報を取得する

「/dtmfProfiles/<dtmfprofile id>」ノードで実行される GET メソッド。指定された dtmfProfile ID が有効な場合、「200 OK」レスポンスが返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.9 IVR メソッド

8.9.1 IVR を取得する

「/ivr」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|--|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する IVR のみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (セクション 4.2.2 を参照)。 |
| tenantFilter | ID | 指定されたテナントに関連付けられた IVR のみを返すように tenantFilter を指定します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|---------------|--|
| uri | URI user part | 応答は、最上位の <ivr total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ivr> 要素が含まれる可能性があります。 各 <ivr> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 この IVR に使用される URI。最大長は 200 文字です。 |

8.9.2 IVR を設定および変更する

- 作成：「/ivrs」ノードに対する POST メソッド
- 変更："/ivrs/<ivr id>" への PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|-------------|---|
| uri * | URI のユーザー部分 | この IVR に使用される URI で、最大長は 200 文字です。 |
| tenant | ID | 指定した場合、この IVR へのコールは、指定されたテナントに関連付けられた coSpace にのみ参加できます。テナントが指定されていない場合、この IVR へのコールは、コール ID が設定されているシステム上のすべてのコールに参加できます。 |
| tenantGroup | ID | この IVR へのコールは、指定されたテナントグループ内のテナントに関連付けられた coSpace にのみ参加できます。テナントグループが指定されていない場合、この IVR へのコールは、テナントのない coSpace に参加できるか、テナントグループに所属しないテナントに関連付けられます。 |
| ivrBrandingProfile | ID | 指定されている場合、この IVR へのコールに使用される IVR ブランディングプロファイルを指定します。ここで提供された IVR ブランディングプロファイルは、トップレベルまたはテナントレベルの IVR ブランディングプロファイルよりも優先されます。 |
| resolveCoSpaceCallIds | true false | この IVR へのコールで、Meeting Server coSpace への発信者の参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。 |
| resolveLyncConferencelds | true false | この IVR へのコールで、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 |

8.9.3 個々の IVR に関する詳細情報を取得する

"/ivrs/<ivr id>" ノードで実行される GET メソッド。指定された IVR ID が有効な場合、「200 OK」レスポンスが返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.10 IVR ブランディング プロファイル メソッド

IVR ブランディングプロファイルを使用して、IVR にダイヤルするときのエクスペリエンスを定義できます。詳細については、[セクション 15](#)も参照してください。

8.10.1 IVR ブランディングプロファイルを取得する

「/ivrBrandingProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------|-------------------------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| usageFilter | referenced unreferenced | unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていない IVR ブランディングプロファイルのみが取得されます。これは、IVR ブランディングプロファイルを削除する前のチェックとして有効です。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|-------|---|
| resourceLocation | URL | 応答は、最上位の <ivrBrandingProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ivrBrandingProfile> 要素が含まれる可能性があります。 IVR ブランディングファイルの取得元となる HTTP または HTTPS URL。これは、個々のオーディオファイルおよびグラフィックファイルが存在する「ディレクトリ」です。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。 |

8.10.2 IVR ブランディングプロファイルを設定および変更する

- 作成：「/ivrBrandingProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>」に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|-------|--|
| resourceLocation | URL | IVR ブランディングファイルの取得元となる HTTP または HTTPS URL。これは、個々のオーディオファイルおよびグラフィックファイルが存在する「ディレクトリ」です。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズガイド』を参照してください。 |

8.10.3 個々の IVR ブランディングプロファイルに関する詳細情報を取得する

“/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>” ノードで実行される GET メソッド。指定された IVR ブランディングプロファイル ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

8.11 参加者関連のメソッド

「参加者」を「callLeg」オブジェクトと混同しないでください。「参加者」は、オーディオとビデオ、アプリケーション共有、IM 用の個別のコールレグがあるユーザーの Lync セッションである可能性があります。

分散コールに関係する各 Call Bridge には、他の Call Bridge でホストされている参加者を含む、そのコールの「参加者」リストの全体像があります。クエリ対象の Call Bridge でホストされている参加者については、

構成コールレグを列挙できますが、別の Call Bridge でホストされている参加者の場合、これらの参加者にクエリを実行すると、ホストされている Call Bridge の ID が得られます（その後、コールレグレベルの詳細を取得するために、同じ参加者 ID を使用して「コールを所有する」 Call Bridge にクエリを実行できます）。

注： /call/callLegId/participants [セクション 8.3.5](#) のセクションも参照してください。

8.11.1 参加者を取得する

「/participants」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|-------|---|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するアクティブな参加者のみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |
| tenantFilter | ID | そのテナントに属する参加者のみを返すように tenantFilter を指定します |
| callBridgeFilter | ID | その Call Bridge にある参加者のみを返すように callBridgeFilter を指定します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|---|
| | | 応答は、最上位の <participants total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <participants> 要素が含まれる可能性があります。 <participant> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| name | 文字列 | この参加者に関連付けられた、人間が読める表示名。最大 200 文字。 |
| call | ID | この参加者が参加しているコール |
| tenant | ID | 存在する場合、この参加者が関連付けられているテナントの ID |
| callBridge | ID | 存在する場合、この参加者が接続されているリモートのクラスタ化された Call Bridge |
| uri | 文字列 | この参加者に関連付けられた、最大長 200 文字の URI。 |
| originalUri | 文字列 | Call Bridge によって最初に使用された、または Call Bridge に通知されたリモートアドレス。（バージョン 2.3 以降） |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | | | | | | |
|------------------------------|-----------------------------------|--|----|-----|----|------------|-----------------------------------|-------------|
| numCallLegs | 数字 | この参加者に関連付けられているアクティブなコールレグの現在の数。この値は、要求先の Call Bridge のローカルの参加者にのみ存在します。 | | | | | | |
| userJid | 文字列 | この参加者に関連付けられた userJid | | | | | | |
| isActivator | true false | この参加者が「アクティベータ」と見なされるかどうか <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この参加者はアクティベータです。それ自身が「アクティブ化」されており、現在接続されている「非アクティブ化された」参加者がアクティブ化されます。 ■ false : この参加者はアクティベータではありません。完全に「アクティブ化」される前に、1 人または複数の「アクティベータ」参加者が参加するのを待つ必要があります。 | | | | | | |
| canMove | true false | オブジェクト object /calls/<call id>/participants の movedParticipant パラメータを使用して、この参加者を別の会議に移動できるかどうか。(バージョン 2.6 以降) | | | | | | |
| movedParticipant | ID | この参加者が参加者を移動する (moveParticipant パラメータをオブジェクト /calls/<call id>/participants に POST する) ことによって作成された場合、ID は、この参加者の移動元の元の参加者を示します (バージョン 2.6 以降)。 | | | | | | |
| movedParticipantCallBridge | ID | このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグがホームとしていた Call Bridge を示します。(バージョン 2.6 以降) | | | | | | |
| status (バージョン 2.2 以降) | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>state</td> <td>initial ringing connected onHold</td> <td>この参加者の通話状態。</td> </tr> </tbody> </table> | 名前 | タイプ | 説明 | state | initial ringing connected onHold | この参加者の通話状態。 |
| 名前 | タイプ | 説明 | | | | | | |
| state | initial ringing connected onHold | この参加者の通話状態。 | | | | | | |
| configuration (バージョン 2.2 以降) | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>importance</td> <td>数字</td> <td>この参加者の重要度。</td> </tr> </tbody> </table> | 名前 | タイプ | 説明 | importance | 数字 | この参加者の重要度。 |
| 名前 | タイプ | 説明 | | | | | | |
| importance | 数字 | この参加者の重要度。 | | | | | | |

8.11.2 すでに会議に参加している参加者の設定を変更する

- 変更 : "/participants/<participant id>" に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|------------------|--|
| importance | 数字 | すでに会議に参加しているこの参加者の重要度を設定します。たとえば 1 に設定します。最大値は 2,147,483,647 です。重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定のままにします（値を空白のままにします）。（バージョン 2.2 以降） |
| dtmfSequence | 文字列 | この参加者に再生される DTMF シーケンスを設定します。（バージョン 2.4 から） |
| nameLabelOverride | 文字列 | この参加者の名前を上書きします。（バージョン 2.4 以降） |
| deactivated | false | 参加者をアクティブにします（ロビーからのコールへの参加を許可します）。（バージョン 2.9 以降） |
| handStatus | raised lowered | この参加者またはコールレグの手を上げるか下げるかを指定します。（バージョン 3.2 以降） |

8.11.3 個々の参加者の詳細情報を取得する

“/participants/<participant ID>” ノードで実行される GET メソッド

指定された参加者 ID が有効な場合、次の形式の XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|--|
| name | 文字列 | この参加者に関連付けられた、人間が読める表示名。最大長は 200 文字です。 |
| call | ID | この参加者が参加しているコール |
| tenant | ID | 存在する場合、この参加者に関連付けられているテナントの ID |
| callBridge | ID | 存在する場合、この参加者が接続されているリモートのクラスタ化された Call Bridge |
| uri | 文字列 | この参加者に関連付けられた、最大長 200 文字の URI。 |
| originalUri | 文字列 | Call Bridge によって最初に使用された、または Call Bridge に通知されたリモートアドレス。（バージョン 2.3 以降） |
| numCallLegs | 数字 | この参加者に関連付けられているアクティブなコールレグの現在の数。この値は、要求先の Call Bridge のローカルの参加者にもみ存在します。 |
| userJid | 文字列 | この参加者に関連付けられた userJid |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|------------|--|
| isActivator | true false | <p>この参加者が「アクティベータ」と見なされるかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この参加者はアクティベータです。それ自体が「アクティブ化」されており、現在接続されている「非アクティブ化された」参加者がアクティブ化されます。 ■ false : この参加者はアクティベータではありません。完全に「アクティブ化」される前に、1人または複数の「アクティベータ」参加者が参加するのを待つ必要があります。 |
| canMove | true false | <p>オブジェクト object /calls/<call id>/participants の movedParticipant パラメータを使用して、この参加者を別の会議に移動できるかどうか。(バージョン 2.6 以降)</p> |
| movedParticipant | ID | <p>この参加者が参加者を移動する (moveParticipant パラメータをオブジェクト /calls/<call id>/participants に POST することによって作成された場合、ID は、この参加者の移動元の元の参加者を示します。(バージョン 2.6 以降)</p> |
| movedParticipantCallBridge | ID | <p>このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、ID は、参加者の移動元の元のコールレグがホームとしていた Call Bridge を示します。(バージョン 2.6 以降)</p> |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|-----------------------|------------------------|----------------------------------|---|
| status (バージョン 2.2 以降) | 名前 | タイプ | 説明 |
| | state | initial ringing connected onHold | この参加者の通話状態。 |
| | cameraControlAvailable | true false | <p>この参加者がカメラをリモートで制御する機能をアダプタイズしたかどうか（バージョン 2.8 以降）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ true : この参加者はカメラ制御が可能です ▪ false : この参加者はカメラ制御ができません |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|------------------------------|------------------------|---|---|
| configuration (バージョン 2.2 以降) | 名前 | タイプ (Type) | 説明 |
| | importance | ケース | この参加者の重要度。 |
| | nameLabelOverride | 文字列 | この参加者の上書きされた名前 (バージョン 2.4 以降) |
| | defaultLayout | allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN | 設定されている場合、返されるデフォルトのレイアウトは、結果のコールレグプロファイル (バージョン 2.8 以降) から取得されたこの参加者のレイアウトです。 |
| | layoutTemplate | ID | 設定されている場合、結果のコールレグプロファイル (バージョン 2.8 以降) から取得された、この参加者に関連付けられているレイアウトテンプレート ID が返されます。 |
| | handStatus | raised lowered | 設定されている場合、この参加者の手が上がっているか下がっているかを示します。 |
| | handStatusLastModified | 文字列 | 挙手ステータスが最後に変更された時間を示す UTC 日時を返します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 | | | | | | |
|--------------|--|---|-------|----|--------------|----------------|---|--|--|
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="480 264 777 321">名前</th> <th data-bbox="777 264 1062 321">タイプ</th> <th data-bbox="1062 264 1422 321">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="480 321 777 1598">accessMethod</td> <td data-bbox="777 321 1062 1598">ID "coSpace"</td> <td data-bbox="1062 321 1422 1598"> <ul style="list-style-type: none"> ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。 POST 操作で accessMethod が指定されていない場合でも、GET 操作は defaultAccessMethod が coSpace 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。 coSpace がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。 </td> </tr> </tbody> </table> | 名前 | タイプ | 説明 | accessMethod | ID "coSpace" | <ul style="list-style-type: none"> ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。 POST 操作で accessMethod が指定されていない場合でも、GET 操作は defaultAccessMethod が coSpace 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。 coSpace がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。 | | |
| 名前 | タイプ | 説明 | | | | | | | |
| accessMethod | ID "coSpace" | <ul style="list-style-type: none"> ダイヤルイン時、またはダイヤルアウト時にコールに参加するために使用するアクセス方式を返します。 POST 操作で accessMethod が指定されていない場合でも、GET 操作は defaultAccessMethod が coSpace 上で構成されているか、またはプライマリアクセスメソッドが使用されているとアクセスメソッド ID を返します。 coSpace がアクセス方式を介して参加していない場合、API は「coSpace」を返します。これは、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方式が存在しない場合にダイヤルインまたはダイヤルアウトされる可能性があります。 | | | | | | | |

8.11.4 参加者のコールレグを取得する

“/participant/<participant ID>/callLegs” ノードで実行される GET メソッドは、参加者のアクティブなコールレグを取得します。成功した場合、上記の[コールレグ](#)のパラメータが返されます。

なお、このコールレグが分散型会議（複数の Call Bridge によってホストされる会議）の一部である場合、これらの詳細はローカル参加者に対してのみ返されます。参加者のコールレグが別の Call Bridge によってホストされている場合、その Call Bridge の ID が返されます。

8.11.5 コールの参加者を制限する

コールに参加できる参加者の数に制限を設定できます。次の設定を行うことができます。

- テナントごとの participantLimit 値。そのテナントでアクティブにできる参加者の合計数に制限を課します。
- 「callProfile」オブジェクト内の "participantLimit" 値。これは、その「callProfile」が有効なコール（coSpace のインスタンス化など）に制限が適用されることを意味します。

callProfiles は、システム、テナント、または coSpace レベルで添付でき、最も具体的なものが有効になります。

したがって、コールの participantLimit は、いくつかの要因に依存

します。コールの「participantLimit」に達した場合：

- 新しい参加者を追加することはできません

注： participantLimit 値には、Meeting Server 側の参加者だけでなく、Skype の参加者の数も含まれます。

ただし、次の点に注意してください。

- Web アプリケーションの参加者は、チャット、ビデオ、オーディオの使用、プレゼンテーションの表示/受信を任意に組み合わせて使用できます。これらの要素は 1 つの callLeg を構成し、1 つの参加者としてカウントされます。

Web アプリケーションとペアになっているビデオ会議システムを使用しても、参加者数は増加しません。

- SIP エンドポイントでの会議の参加者は、ビデオ、オーディオを使用して、プレゼンテーションを受信できます。これらの要素は 1 つの callLeg を構成し、1 つの参加者としてカウントされます。
- Lync クライアントの参加者は、チャット、ビデオ、オーディオの使用、プレゼンテーションの送信を任意に組み合わせて使用できます。これらの要素の任意の組み合わせは 1 つの参加者としてカウントされますが、各要素は個別の callLeg です（受信したプレゼンテーションは、メインビデオストリームに表示されます）。
- 既存の参加者の新しいコールレグは引き続き追加できます。たとえば、Lync オーディオ/ビデオコールレグを使用する Lync プレゼンテーション コールレグなど。

制限に達したために API メソッドを介したコールレグまたは参加者の作成が失敗した場合、適切な「failureReason」が表示されます。制限に達したために着信接続の試行が失敗した場合は、エラーメッセージも表示されます（コール自体の制限に達したか、それを所有するテナントの制限に達したかについての別の callLegEnd 理由も表示されます）。

9 ユーザー関連のメソッド

ユーザーは、LDAP サーバーに対して同期することによって作成されます（[後](#)で説明されています）が、ユーザー情報を取得する方法は多数あります。この章は、次の項で構成されています。

- [ユーザーに関する情報を取得する](#)
- [個々のユーザーに関する詳細情報を取得する](#)
- [ユーザープロフィールを設定する](#)
- [ユーザーに coSpace テンプレートを適用する](#)
- [ユーザー coSpace テンプレート情報を取得する](#)

9.1 ユーザーを取得する

「/users」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するユーザーのみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ 上記参照 ）。 |
| tenantFilter | ID | tenantFilter を指定すると、指定されたテナントに関連付けられたユーザーのみが返されます。 |
| emailFilter | 文字列 | emailFilter を指定すると、返される結果が、指定された電子メールアドレスと完全に一致する電子メール値を持つユーザーに制限されます（バージョン 2.1 以降）。 |
| cdrTagFilter | 文字列 | cdrTagFilter を指定すると、返される結果が、指定された cdrTag と完全に一致する cdrTag 値を持つユーザーに制限されます（バージョン 2.1 以降）。 |

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| user id | ID | 応答は、最上位の <users total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <user> 要素が含まれる可能性があります。 |
| userJid | 文字列 | <user> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 例：first.last@example.com |
| tenant | ID | このユーザーが関連付けられているテナントの ID（該当する場合） |

9.2 個々のユーザーに関する詳細情報を取得する

“/users/<user ID>” ノードで実行される GET メソッド。

指定されたユーザー ID が有効な場合、次の形式の XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|-------|---|
| user id | ID | |
| userJid | 文字列 | 例: first.last@example.com |
| tenant | ID | このユーザーが関連付けられているテナントの ID (該当する場合) |
| name | 文字列 | ユーザーの表示名。最大長は 200 文字です。 |
| email | 文字列 | 例: first.last@mail.example.com |
| authenticationId | 文字列 | 認証に使用される ID。この値は、証明書ベースの認証中にユーザーが提示した証明書の値と照合されます。 |
| userProfile | ID | 存在する場合、これは、このユーザーに関連付けられたユーザープロフィールの ID です。(バージョン 2.0 以降) |

9.2.1 ユーザーの coSpace アソシエーションを取得する

“/users/<user ID>/usercoSpaces” ノードで実行される GET メソッドは、ユーザーがメンバーである coSpace を取得します (自動生成メンバーの coSpace メンバー権限に関する[注記](#)も参照してください)。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| coSpace | ID | 応答は、最上位の <usercoSpaces total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <usercoSpace> 要素が含まれる可能性があります。 <usercoSpace> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |

9.2.2 ユーザーに coSpace テンプレートを適用する

2.9 以降、API を使用して、coSpaceTemplate をユーザーに割り当てることができます。

- /users/<user id>/userCoSpaceTemplates に対する POST 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| coSpaceTemplate | ID | coSpace をインスタンス化するためにユーザーが使用を許可されている coSpace テンプレートの ID (バージョン 2.9 以降)。 |

次の操作もサポートされます。

- /users/<user ID>/userCoSpaceTemplates/<user coSpace template ID> で DELETE を実行

9.2.3 ユーザー coSpace テンプレート情報の取得

- `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates/<user coSpace template ID>` で GET を実行すると、次の応答パラメータが返されます。

| レスポンスパラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|----------------|---|
| coSpaceTemplate | ID | coSpace をインスタンス化するためにユーザが使用を許可されている coSpace テンプレートの ID。 (バージョン 2.9 以降) |
| autoGenerated | true または false | この coSpace テンプレートが自動で追加されたか、手動で追加されたか true : このテンプレートは LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されたため、同期操作のパラメータを変更する方法以外に、削除することはできません。 false : このテンプレートは API メソッドを使用して追加されました。API を使用して変更または削除することができます。 (バージョン 2.9 以降) |

- `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates` で enumerate GET を実行。標準の URI パラメータである「limit」と「offset」をサポートします。応答は最上位の `<userCoSpaceTemplates total="N">` タグとして構成され、その下に複数の `<userCoSpaceTemplate>` 要素が含まれる可能性があります。各 `<userCoSpaceTemplate>` タグには、リクエストと応答のパラメータ (coSpaceTemplate と autoGenerated) が含まれます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|---|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外のアクセス方式を取得するために、offset と limit を指定できます。 |
| limit | | |

9.2.4 LDAP を使用して userCoSpaceTemplates を適用する

2.9 から、ユーザーが LDAP 方式を使用してスペースを作成することを許可するために、新しい API オブジェクト `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` が導入されました。これにより、テンプレートをソース オブジェクトに直接含めることができます。

この API オブジェクト `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` は、次の操作をサポートします。

- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` に対する POST 操作
- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` に対する PUT 操作

| リクエストパラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|----------------------------------|
| coSpaceTemplate | ID | これらのユーザに適用される coSpace テンプレートの ID |

| リクエスト パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|---------------------------------|
| ldapSource | ID | ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID |
| filter | 文字列 | ソースの読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 |

- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources/<LDAP user coSpace template source id>` で GET を実行、次の応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|----------------------------------|
| coSpaceTemplate | ID | これらのユーザに適用される coSpace テンプレートの ID |
| ldapSource | ID | ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID |
| filter | 文字列 | ソースの読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 |

- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` で GET 操作を列挙すると、次のレスポンスが返されます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外のエントリを取得するために、オフセットと制限を指定できます。 |
| limit | | |

応答は、最上位の `<ldapUserCoSpaceTemplateSources total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<ldapUserCoSpaceTemplateSource>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<ldapUserCoSpaceTemplateSource>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|----------------------------------|
| coSpaceTemplate | ID | これらのユーザに適用される coSpace テンプレートの ID |
| ldapSource | ID | ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID |

9.2.5 ユーザーがプロビジョニングした coSpace 情報を取得する

バージョン 3.1 では、次の操作をサポートするためにこの API オブジェクトが導入されています。

- `/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces` に対する GET の列挙
- `/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user provisioned coSpace id>` での GET

`/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces` の列挙は次の URI パラメータを受け入れます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外のユーザがプロビジョニングした coSpaces を取得するために、オフセットと制限を指定できます。(バージョン 3.1 以降) |
| limit | | |

応答は、最上位の <userProvisionedCoSpaces total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <userProvisionedCoSpace> 要素が含まれる可能性があります。

各 <userProvisionedCoSpace> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| coSpaceTemplate | ID | この coSpace がインスタンス化されるときに基づく coSpaceTemplate。 (バージョン 3.1 以降) |
| uriHint | 文字列 | この coSpace の uri の基礎 (スペースをインスタンス化するときには他の uri とクラッシュした場合、このヒントに基づいて一意の uri が生成されます)。(バージョン 3.1 以降) |
| name | 文字列 | この coSpace がインスタンス化される際に含まれる名前。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpace | ID | 存在する場合、coSpace の ID は、この userProvisionedCoSpace にインスタンス化されました。(バージョン 3.1 以降) |

/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user provisioned coSpace id> を使用して、個々のユーザーがプロビジョニングした coSpace で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| coSpaceTemplate | ID | この coSpace がインスタンス化されるときに基づく coSpaceTemplate。 (バージョン 3.1 以降) |
| uriHint | 文字列 | この coSpace の uri の基礎 (スペースをインスタンス化するときには他の uri とクラッシュした場合、このヒントに基づいて一意の uri が生成されます)。(バージョン 3.1 以降) |
| name | 文字列 | この coSpace がインスタンス化された時に持つ名前。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpace | ID | 存在する場合、coSpace の ID は、この userProvisionedCoSpace にインスタンス化されました。(バージョン 3.1 以降) |

9.2.6 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace ソースを作成、変更、取得する

この新しい API オブジェクトは以下の操作をサポートします。

- /ldapUserProvisionedCoSpaceSources に対する POST 操作
- /ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace source id> に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|-------|---|
| ldapSource (*) | ID | ユーザの特定に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 から) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------------------|-------|---|
| ldapUserProvisionedCoSpaceMapping (*) | ID | マッピングを使用して、ユーザがプロビジョニングした coSpaces の名前と uri-hint を生成するために使用します (バージョン 3.1 以降) |
| filter | 文字列 | 送信元の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 (バージョン 3.1 以降) |

- /ldapUserProvisionedCoSpaceSources の列挙は、次の URI パラメータを受け入れます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外のエントリを取得するために、オフセットと制限を指定できます。(バージョン 3.1 以降) |
| limit | | |

応答は、最上位の <ldapUserProvisionedCoSpaceSources total="N">; タグとして構成され、その内部に複数の <ldapUserProvisionedCoSpaceSource> 要素が含まれる可能性があります。

各 <ldapUserProvisionedCoSpaceSource> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------------|-------|---|
| ldapSource | ID | ユーザの特定に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 から) |
| ldapUserProvisionedCoSpaceMapping | ID | マッピングを使用して、ユーザがプロビジョニングした coSpaces の名前と uri-hint を生成するために使用します (バージョン 3.1 以降) |
| filter | 文字列 | 送信元の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 (バージョン 3.1 以降) |

- 個々の LDAP ユーザーがプロビジョニングされた coSpace ソースで /ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP ユーザープロビジョニングされた coSpace マッピング id> は次の応答を示します。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------------|-------|---|
| ldapSource | ID | ユーザの特定に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 から) |
| ldapUserProvisionedCoSpaceMapping | ID | マッピングを使用して、ユーザがプロビジョニングした coSpaces の名前と uri-hint を生成するために使用します (バージョン 3.1 以降) |
| filter | 文字列 | 送信元の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルタ文字列 (バージョン 3.1 以降) |

9.2.7 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace マッピングを作成、変更、取得する

この新しい API オブジェクトは以下の操作をサポートします。

- `/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings` に対する POST 操作
- `/ldapUserProvisionedCospaceMappings/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>` に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|--|
| coSpaceUriMapping (*) | 文字列 | ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpaceNameMapping | 文字列 | ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpaceTemplate (*) | ID | ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用する coSpace テンプレート。(バージョン 3.1 以降) |

- `/ldapUserProvisionedCospaceMappings` の列挙は以下の URI パラメータを受け入れます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外のエントリを取得するために、オフセットと制限を指定できます。 |
| limit | | |

応答は、最上位の `<ldapUserProvisionedCospaceMappings total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<ldapUserProvisionedCospaceMapping>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<ldapUserProvisionedCospaceMapping>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|-------|--|
| coSpaceUriMapping | 文字列 | ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpaceNameMapping | 文字列 | ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpaceTemplate | ID | ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用する coSpace テンプレート。(バージョン 3.1 以降) |

- `/ldapUserProvisionedCospaceMappings/<LDAP user provisioned coSpace mapping id>` を使用して、個々の LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace マッピングで GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|-------|--|
| coSpaceUriMapping | 文字列 | ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpaceNameMapping | 文字列 | ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。(バージョン 3.1 以降) |
| coSpaceTemplate | ID | ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用する coSpace テンプレート。(バージョン 3.1 以降) |

9.3 ユーザープロフィールメソッド

ユーザープロフィールは、プロフィールでユーザーに提供される機能を制御します。たとえば、新しい coSpace の作成、新しいコールの作成、コールの発信、ビデオ会議システムとのペアリング、別のユーザーとのポイントツーポイント コール時にチャットメッセージの送受信を許可するかどうかなどです。詳細については、[セクション 15](#) も参照してください。

9.3.1 ユーザープロフィールを取得する

「/userProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------------------------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 |
| usageFilter | Referenced unreferenced | unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないユーザープロフィールのみが取得されます。これは、ユーザープロフィールを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されているユーザープロフィールのみを取得する場合は、"usageFilter=referenced" を入力します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| | | 応答は、最上位の <userProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <userProfile> 要素が含まれる可能性があります。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------------|------------|---|
| audioParticipationAllowed | true false | このユーザープロファイルに関連付けられ、Web アプリを使用しているユーザーが、通話中にライブ音声を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 (バージョン 2.0 以降) |
| videoParticipationAllowed | true false | このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが、通話中にライブ動画を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 (バージョン 2.0 以降) |
| presentationParticipationAllowed | true false | このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが、通話中にプレゼンテーションメディアを送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 (バージョン 2.0 以降) |
| hasLicense | true false | このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが Cisco ユーザーライセンスを持っているかどうか。 (バージョン 2.0 以降) |

9.3.2 ユーザープロファイルを設定および変更する

- 作成 : /userProfiles ノードに対する POST メソッド
- 変更 : /userProfiles/<user profile id> への PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------------|------------|--|
| audioParticipationAllowed | true false | このユーザープロファイルに関連付けられ、Web アプリを使用しているユーザーが、通話中にライブ音声を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |
| videoParticipationAllowed | true false | このユーザープロファイルに関連付けられているユーザーが、通話中にライブ動画を送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------------|------------|--|
| presentationParticipationAllowed | true false | このユーザープロフィールに関連付けられているユーザーが、通話中にプレゼンテーションメディアを送受信できるかどうか。この制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのスレーブには適用されません。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |
| hasLicense | true false | このユーザープロフィールに関連付けられているユーザーが Cisco ユーザーライセンスを持っているかどうか。 このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |

9.3.3 個々のユーザープロフィールに関する詳細情報を取得する

"/userProfiles/<user profile id >" ノードで実行される GET メソッド。指定されたユーザープロフィール ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツが上記のセクションに一致します。

10 システム関連のメソッド

この章では、システムの管理に関連する API メソッドについて詳しく説明します。
この章は、次の項で構成されています。

- [システムステータスを取得する](#)
- [システムアラームステータスを取得する](#)
- [システム データベース ステータスを取得する](#)
- [CDR レシーバの URI を取得および設定する](#)
- [グローバルプロファイルを取得および設定する](#)
- [ライセンス情報を取得する](#)
- [TURN サーバーを設定する](#)
- [Web Bridge を設定する](#)
- [Web Bridge 3 を設定する](#)
- [Call Bridge を設定する](#)
- [Call Bridge グループを設定する](#)
- [Call Bridge クラスタリングを設定する](#)
- [システム負荷](#)
- [システム診断](#)
- [システムの時間ロギング](#)

10.1 システムステータスを取得する

「/system/status」ノードで実行される GET メソッド。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|------------|---|
| hostId | 文字列 | “<status>” 要素内の左側の要素を返します。 この Meeting Server インスタンスを一意に識別する ID。 |
| softwareVersion | 文字列 | Call Bridge で現在実行されているソフトウェア バージョン |
| uptimeSeconds | 数字 | ユニットの動作時間。 |
| activated | true false | (3.0 で廃止) Call Bridge が現在アクティブ化されている (ライセンスがある) かどうか。現在、Meeting Server の場合は常に true です。現在、Meeting Server の場合は常に true です。 |
| clusterEnabled | true false | true に設定されている場合、Call Bridge は現在、クラスタリングを有効にして実行されています。このパラメータはバージョン 2.0 以降から存在します |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|-------|--|
| clusterId | ID | Call Bridge が属するクラスタを表す Id。クラスタのライフタイム全体で一定です。このパラメータの目的上、クラスタ化されていない Call Bridge は 1 のクラスタと見なされます。 このパラメータには、単一の Meeting Server の値が引き続き含まれます。 |
| cdrTime | 数字 | インスタンスのアラートストームが発生する可能性があります。 (3.0 以降) 要求の受信時に生成された CDR に書き込まれる現在のタイムスタンプ。これは、CDR 自体の "time" フィールドと同じ形式になります (RFC 3339 を参照。たとえば "2014- 02-11T12:10:47Z")。 |
| callLegsActive | 数字 | リクエスト時のアクティブなコールレグの数 |
| callLegsMaxActive | 数字 | この Meeting Server で同時にアクティブなコールレグの最大数。 |
| callLegsCompleted | 数字 | アクティブであるが、接続されていない/存在していないコールレグの総数 |
| audioBitRateOutgoing | 数字 | すべての発信オーディオストリーム (Meeting Server からリモート側に送信されるオーディオメディア) を合計した現在の総ビットレート (ビット/秒) |
| audioBitRateIncoming | 数字 | 着信オーディオストリームの現在の総ビットレート |
| videoBitRateOutgoing | 数字 | 発信ビデオストリームの現在の総ビットレート |
| videoBitRateIncoming | 数字 | 着信ビデオストリームの現在の総ビットレート |
| cdrCorrelatorIndex | 数字 | 送信される次の CDR レコードのコリレータインデックス。CDR レコードが送信されていない場合、値は 0 になります。 (バージョン 2.2 以降) |

10.2 システムアラームステータスを取得する

「/system/alarms」ノードで実行される GET メソッド。名目上のリストの 1 ページ目にある以外のアラーム条件を取得するために、オフセットと制限を指定できます。このメソッドは、現在アクティブなシステム全体のアラーム条件の詳細を示すテーブルを返します。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|-----------|---|
| | | 個々の "<alarm>" 要素のリストを返します。現在アクティブなアラーム条件がない場合、このリストは空になります。アクティブな各アラーム条件には、以下を含む "alarm" タグがあります。 |
| Id | ID | この障害状態のこのインスタンスの一意の ID |
| activeTimeSeconds | 数字 (右を参照) | このアラーム条件がアクティブになっている時間。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| type | | <p>次のいずれか：</p> <ul style="list-style-type: none"> - callBrandingResourceInvalid：指定されたリソースの形式が無効です。コールブランディングプロファイルは、付随する「callBrandingProfiles」GUIDパラメータによって指定され、問題のあるファイルは付随する「fileName」テキストパラメータによって指定されます。 - callBridgeConnectionFailure：Call Bridge は、付随する「callBridge」GUIDパラメータで指定された、ピアクラスタ化された Call Bridge の 1 つに接続を確立できませんでした - callDistributionFailure：Call Bridge は、アクティブなコールの 1 つに対して分散リンクを確立できませんでした。リンク先の Call Bridge は、付随する「callBridgeName」テキストパラメータによって識別され、コールは「call」GUIDパラメータとして存在します。 - cdrConnectionFailure：Meeting Server は、設定された CDR レシーバへの接続を確立できなかったため、新しいコール詳細レコードをプッシュできない可能性があります。 - c2wConnectionFailure：Call Bridge は、構成済みの Web Bridge への C2W 接続を確立できませんでした（3.0 以降） - databaseClusterNodeOutOfSync：データベースクラスタ内のノードが同期されておらず、同期していません - databaseConnectionError：Meeting Server はデータベースへの接続を確立できませんでした - guestAccountConnectionFailure：Meeting Server は、ゲストログインを許可するために構成済みの Web Bridge への接続を確立できませんでした（3.0 で削除されました） - ivrBrandingResourceInvalid：指定されたリソースの形式が無効です。コールブランディングプロファイルは、付随する「ivrBrandingProfile」GUIDパラメータによって指定され、問題のあるファイルは付随する「fileName」テキストパラメータによって指定されます。 - licenseGrace：機能ライセンスが有効期限を過ぎており、間もなく非アクティブ化されます（バージョン 2.1 以降） - licenseExpired：機能ライセンスの有効期限が切れ、非アクティブ化されました（バージョン 2.1 以降） - recorderLowDiskSpace：レコーダーのディスク容量が限られています。レコーダーは、付随する「recorder」GUIDパラメータによって指定されます（3.0 で削除されました）。 - recorderUnavailable：Call Bridge は、設定されたレコーダーに正常に接続できませんでした。レコーダーは、付随する「recorderAddress」パラメータによって指定されます - streamerUnavailable：Call Bridge は、設定されたストリーマに正常に接続できませんでした。ストリーマは、付随する「streamerAddress」パラメータによって指定されます |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> - turnServerUnavailable : Call Bridge は、構成済みの TURN サーバーに接続できませんでした。この TURN サーバーは、付随する「turnServer」GUID パラメータによって指定されます。 - webBridgeArchivePushFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズアーカイブを Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeArchiveRetrievalFailure : Call Bridge は、必要な Web Bridge カスタマイズアーカイブを取得できませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeBackgroundImagePushFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされた背景画像ファイルを Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeBackgroundImageRetrievalFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされた背景画像ファイルを取得できませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeLoginLogoImagePushFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされたログインロゴ画像を Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました)。 - webBridgeLoginLogoImageRetrievalFailure : Call Bridge は、必要なカスタマイズされたログインロゴ画像ファイルを取得できませんでした (3.0 で削除されました) - webBridgeXmppCertificatePushFailure : Call Bridge は XMPP 証明書を Web Bridge にプッシュできませんでした (3.0 で削除されました) - xmppAuthenticationRegistrationFailure : Meeting Server は、指定された XMPP 認証コンポーネントに正常に登録できませんでした (3.0 で削除されました) - xmppRegistrationFailure : Meeting Server は、構成された XMPP サーバーに正常に登録できませんでした (3.0 で削除されました) |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------|-------|--|
| failureReason | | <p>上記のアラームタイプの一部については、その特定の障害の原因に関する追加情報が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - authenticationFailure - connectFailure：リモート接続先への接続の失敗。TCP 接続または TLS 接続を確立できなかったなど。 - dataFormatInvalid：Call Bridge は、特定のデータセット（リモートでホストされているリソースファイルなど）を使用するように設定されていますが、使用可能な形式ではないことが判明しました。 - destinationReadOnly：データベースなどの重要なリソースが、書き込みアクセスが必要であるのに読み取り専用であることが Call Bridge によって検出されました - dnsFailure：リモート接続先のホスト名の解決の失敗。リモートシステムへの接続を確立するプロセスの一部としてなど。 - エラー - fileNotFound：Call Bridge が必要なファイルのロードに失敗したため、アラーム条件が発生しました。たとえば、Web Bridge に必要な resourceArchive をリモートサーバーから取得できなかった場合などです。 - fileSizeLimitExceeded：Call Bridge が、内部ファイルサイズ制限を超えたために取得できなかった、リモートでホストされているリソースファイルなどのリソースを使用するように設定されています - internalServerError：操作が試行されたときにリモートパーティが「内部サーバーエラー」を返したため、Call Bridge はリソースファイルのアップロードまたはダウンロードなどの操作を実行できませんでした - serviceUnavailable |

10.3 システム データベース ステータスを取得する

“/system/database” ノードで実行される GET メソッド。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|------------------|--|
| clustered | enabled disabled | データベースクラスタリングが有効かどうか。 |
| cluster | | クラスタリングが有効になっている場合、<cluster> 要素には左側の要素が含まれます |
| Error | 文字列 | エラーの説明 |
| totalNodes | 数字 | クラスタ内のデータベースノードの数。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| nodeInUse | 文字列 | 現在使用されているデータベースノード（プライマリデータベース） |
| node | | <p>node 要素は、クラスタ内の各データベースに対して次の詳細とともに返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - hostname : ノードのホスト名または IP アドレス。 - up : ノードがこの Call Bridge から見えるかどうか (true false) - syncBehind : このノードがプライマリデータベースの現在の状態より遅れているおおよそのバイト数。0 は同期していることを意味し、-1 は計算が利用できないことを意味します - master : このノードがプライマリデータベースであるか (true false) 、false に設定されている場合はレプリカデータベースです。 |

10.4 CDR レシーバ URI メソッド

注 : /system/cdrReceiver は廃止されています。複数の CDR レシーバをサポートする /system/cdrReceivers オブジェクトを使用してください。

10.4.1 CDR レシーバ URI を取得する

API（および Web 管理インターフェイス）を介して CDR レシーバの URI を見つけることができます。/system/cdrReceivers ノードで GET 操作を発行して、設定された CDR レシーバの完全な URL である URI を取得します。

この方法では、Web 管理インターフェイスの [設定 (Configuration)] > [CDR設定 (CDR settings)] ページを使用して、CDR レシーバの URI にアクセスします。

“/system/cdrReceivers” ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|--------------|--|
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の CDR レシーバを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| uri | 文字列 | <p>応答は、最上位の <cdrReceivers total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <cdrReceiver> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p>各 <cdrReceiver> タグには、次の要素が含まれる場合があります。</p> <p>設定された CDR レシーバアドレスの完全な URL</p> |

注：/system/cdrReceivers/<cdr receiver id> で GET 操作を実行すると、単一の指定された CDR レシーバの設定を取得できます。

10.4.2 CDR レシーバ URI を設定する

API（および Web 管理インターフェイス）を介して CDR レシーバ URI を設定します。

/system/cdrReceivers ノードで PUT または POST を発行できます。

POST を使用して「url」値を指定して、CDR レシーバを 1 回の操作で作成および設定するか、PUT を使用してまず CDR レシーバを作成し、後で「url」を個別に設定します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------|-------|--------------------|
| uri * | 文字列 | CDR が送信される完全な URL。 |

作成が成功すると、「200 OK」レスポンスと「Location: /api/v1/system/cdrReceivers/<cdr receiver id>」オブジェクト参照が返されます。すでに設定されている CDR レシーバが多すぎる場合、「tooManyCdrReceivers」エラー（「failureDetails」セクション）が返されます。

注：レガシーの /system/cdrReceiver ノードに対して空の「url」を使用して PUT 操作を実行すると、その CDR レシーバに関連付けられた GUID が削除され、事実上、その CDR レシーバは存在しなくなります。後で空でない「url」値を同じ（レガシー）ノードに PUT すると、その CDR レシーバに対して新しい GUID が生成されます。

非レガシー CDR レシーバ (/system/cdrReceivers/<cdr receiver id>) に対して空の「url」を使用して PUT 操作を実行すると、その CDR レシーバは同じ GUID のままになりますが、「url」値はありません。引き続き GET 操作に表示されます。これは、新しい CDR レシーバオブジェクトには明示的な「DELETE」メソッド（セクション 4.4）があるためです。一方、レガシー CDR レシーバの場合、設定を解除する唯一の方法はその場所を空の値に設定することです。

Web 管理インターフェイスを介して CDR レシーバの URI を設定または更新するには、[設定 (Configuration)] > [CDR設定 (CDR settings)] ページを使用します。

10.5 グローバルプロファイルメソッド

10.5.1 グローバルプロファイルを取得する

/system/profiles に対する GET 操作は、次のセクションで説明する値を返します。

10.5.2 グローバルプロファイルを設定する

api/v1/system/profiles の下の callLegProfile ID 値を設定（または設定解除）して、最上位のプロファイルを課す（または削除する）ことができます。

/api/v1/system/profiles に対して PUT 操作または POST 操作します。空の値を指定すると、最上位のプロファイルが設定解除されます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|--|
| callLegProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位のコールレグプロファイルに設定します。 |
| callProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位のコールプロファイルに設定します。 |
| dtmfProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位の DTMF プロファイルに設定します。 |
| userProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位のユーザープロファイルに設定します。 |
| ivrBrandingProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位の IVR ブランディングプロファイルに設定します。 |
| callBrandingProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位のコール ブランディング プロファイルに設定します。 |
| compatibilityProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位の互換性プロファイルに設定します（2.1以降） |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位レベルのダイヤルイン セキュリティ プロファイルに設定します（3.0 以降） |
| webBridgeProfile | ID | 指定したプロファイルを最上位レベルの Web Bridge プロファイルに設定します（3.0 以降） |

10.6 ライセンスメソッド

注：バージョン 2.4 以降、単一または複数のブランディングを適用するためにライセンスは必要ありません。

ライセンスに関連する API メソッドは次のとおりです。

- [アップロードされたライセンスとライセンス消費に関する情報を取得する](#)

従来は、既存の `/system/licensing` API がライセンスファイルの内容を返していました。つまり、Meeting Server の機能 コンポーネントが、各コンポーネントのライセンスステータスと有効期限（該当する場合）とともに表示されていました。たとえば、Meeting Server で callbridge ライセンスがアクティブ化されているかどうか、また、ライセンスが付与されている場合はその有効期限が表示されていました。

3.0 以降では、既存の `/system/licensing` API ではライセンスファイルの内容（つまり機能コンポーネント）だけが Meeting Server インスタンス単位で返され、新しく導入された API オブジェクト `/clusterLicensing` で、Meeting Server クラスターのライセンスステータスと有効期限（該当する場合）が返されます。

注：

新しい `/clusterLicensing` API はクラスタを表します（単独の Meeting Server の導入はメンバーが1つのクラスタと見なされます）。ライセンスファイルの内容を表す `/system/licensing` API は、引き続き Meeting Server インスタンス単位での処理となります。

10.6.1 Meeting Server インスタンスごとのライセンスファイル情報を取得する

「`/system/licensing`」ノードで実行される GET メソッド。情報の構造の例については、付録 [17.1](#) を参照してください。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| 機能 | | ライセンスが有効である場合、 <code><features></code> 要素には以下の要素が含まれます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--|-----------|-----------------------------------|
| callBridge | 名前 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired |
| | expiry | 文字列 |
| | | 有効期限 |
| callBridgeNoEncryption (バージョン 2.4 以降) | 名前 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired |
| | expiry | 文字列 |
| | | 有効期限 |
| webBridge | 名前 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired |
| | expiry | 文字列 |
| | | 有効期限 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 | |
|----------|---------------------------|--|--|
| turn | 名前 | タイプ/値 | |
| | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | TURN サーバーにライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、TURN サーバーがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です TURN サーバーのライセンスの有効期限が切れています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| ldap | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | LDAP サーバーにライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、LDAP サーバーがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です LDAP サーバーのライセンスの有効期限が切れています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| branding | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | バージョン 2.4 以降、ブランディングライセンスが必要ないため、これは関係なくなりました。 | |
| | status (バージョン 2.4 より前) | noLicense activated grace expired | ブランディングにライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、ブランディングがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れました。現在、ライセンス更新の猶予期間中ですブランディングの有効期限が切れています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|----------|-----------|---|---|
| 録音 | 名前 | | 説明 |
| | 名前 | | タイプ/値 |
| | 名前 | | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | レコーダーにライセンスが適用 されていません ライセンスが適用され、レコーダ ーがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れて おり、ライセンス更新の猶予期 間中です レコーダーのライセン スの有効期限が切れています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| | limit | 数字 | |
| | 名前 | | タイプ/値 |
| | 名前 | | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | ストリーマにライセンスが適用 されていません ライセンスが適用され、ストリー マがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れて おり、ライセンス更新の猶予期 間中です ストリーマのライセン スの有効期限が切れています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| limit | 数字 | | |
| personal | 名前 | | 説明 |
| | 名前 | | タイプ/値 |
| | 名前 | | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | Personal Multiparty ライセンス が適用されていません Personal Multiparty ライセンスが アクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れて おり、ライセンス更新の猶予期 間中です Personal Multiparty ラ イセンスの有効期限が切れてい ます |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| | limit | 数字 | |
| | 名前 | | タイプ/値 |
| | 名前 | | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | Personal Multiparty ライセンス が適用されていません Personal Multiparty ライセンスが アクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れて おり、ライセンス更新の猶予期 間中です Personal Multiparty ラ イセンスの有効期限が切れてい ます |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| limit | 数字 | | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|----------------|-----------|---|---|
| shared | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | Shared Multiparty ライセンスが適用されていません Personal Multiparty ライセンスがアクティベート化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です Shared Multiparty ライセンスの有効期限が切れています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| | limit | 数字 | |
| capacityUnits | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | キャパシティユニットのライセンスが適用されていません アクティブ化されたキャパシティユニットのライセンスがアクティブ化されています ライセンスの有効期限が切れており、ライセンス更新の猶予期間中です キャパシティユニットのライセンスの有効期限が切れています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| | limit | 数字 | |
| customizations | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated grace expired | ライセンスキーの有無にかかわらずカスタムレイアウトの設定はできますが、キーがない場合、Meeting Server はカスタムレイアウトが設定されていないかのように動作します。 |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| | | | |

「/system/multipartyLicensing」ノード上で実行される GET メソッド。情報の構造の例については、付録 17.2 を参照してください。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|-------|---|
| timestamp | 文字列 | レポートが生成された UTC 時間 |
| personalLicenseLimit | 数字 | (3.0 で廃止) 利用可能な個人ライセンスの数 |
| sharedLicenseLimit | 数字 | (3.0 で廃止) 利用可能な共有ライセンスの数 |
| capacityUnitLimit | 数字 | (3.0 で廃止) 使用可能なキャパシティユニットの数 |
| users | 数字 | システム上の非ゲストユーザーの数 |
| personalLicenses | 数字 | クラスタ内のユーザーに割り当てられている個人ライセンスの数。 |
| participantsActive | 数字 | アクティブな参加者数 |
| callsActive | 数字 | アクティブ コール数 |
| weightedCallsActive | 数字 | 重み付けされたアクティブなコールの数 (下記の注を参照)。 |
| capacityUnitUsage | 数字 | 使用中のキャパシティユニットの数 |
| callsWithoutPersonalLicense | 数字 | 個人ライセンスのないコールの数。バージョン 2.6 以降で廃止になり、ライセンスのカウント方式の変更により、この値を使用して SMP の使用状況を正確に計算できなくなりました。 |
| weightedCallsWithoutPersonalLicense | 数字 | パーソナルライセンスのない重み付けコールの数 (以下の注を参照)。個人ライセンスのないコールの数。バージョン 2.6 以降で廃止になり、ライセンスのカウント方式の変更により、この値を使用して SMP の使用状況を正確に計算できなくなりました。 |
| capacityUnitUsageWithoutPersonalLicense | 数字 | 個人ライセンスのないコールで使用されているキャパシティユニットの数 |

「/system/multipartyLicensing/activePersonalLicenses」で実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外のアクティブなパーソナル ライセンス エントリを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|-------|--|
| callsActive | 数字 | <p>応答は、最上位の <activePersonalLicenses total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <user> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p>各 <user> タグには、次の要素が含まれる場合があります。</p> <p>このユーザーのライセンスを使用するアクティブなコールの数</p> |
| weightedCallsActive | 数字 | <p>このユーザーのライセンスを使用する、重み付けされたアクティブなコールの数（下記の注を参照）。</p> |

注： クラスタ全体の加重コールの合計は、クラスタ上の個別のコールの数と一致します。たとえば、CMS1 に 3 件の callsActive と 2 件の weightedCallsActive が表示され、CMS2 に 2 件の callsActive と 1 件の weightedCallsActive が表示される場合、クラスタには合計 3 件の会議が表示され、3 つのライセンスが必要になります。

“/system/MPLicenseUsage” ノードで実行される GET メソッド（バージョン 2.6 以降）。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|--|
| offset limit | 数字 数字 | <p>名目上のリストの 1 ページ目以外のアクティブなパーソナル ライセンス エントリを取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。</p> |
| startTime | 文字列 | <p>ライセンス使用状況スナップショットを取得する最も早い日時を指定する UTC 時間（RFC 3339 に従ってフォーマット）（この時間を含む）</p> |
| endTime | 文字列 | <p>ライセンス使用状況スナップショットを取得する最も遅い日時を指定する UTC 時間（RFC 3339 に従ってフォーマット）（この時間を含む）</p> |
| hostId | ID | <p>ライセンス使用状況のスナップショットを取得するホストの ID（システム/ステータスによって返される）</p> |

| レスポンス要素 | | | | |
|---------|---------------|-------------------|--|-----------|
| event | 名前 | | タイプ/値 | 説明 |
| | 親タグに含まれるパラメータ | | | |
| | time | 文字列 | ライセンス使用イベントが生成された UTC 時間 | |
| | 応答値 | | | |
| | pmp | 番号 | 使用中の個人ライセンスの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます） | |
| | pmpAssigned | 番号 | クラスタ内のユーザーに割り当てられている個人ライセンスの数（3.0 以降） | |
| | smpAud | 番号 | 共有ライセンスの音声のみのコールの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます） | |
| | smpPtP | 番号 | 音声のみではない共有ライセンスのポイントツーポイントコールの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます） | |
| | smpFull | 番号 | 音声のみまたはポイントツーポイントではない、使用中の共有ライセンスの数（各ライセンスは、コールがまたがる Call Bridge の数で正規化されます） | |
| | 録画 | 番号 | 録画されているコールの数 | |
| str | 番号 | ストリーミングされているコールの数 | | |

“/system/MPLicenseUsage/knownHosts” ノードで実行される GET メソッド（バージョン 2.6 以降）。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外のホスト ID を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。 |

| 応答要素 | | | | |
|------|---------------|----|---|-----------|
| host | 名前 | | タイプ/値 | 説明 |
| | 親タグに含まれるパラメータ | | | |
| | id | ID | system/MPLicenseUsage API ノードからライセンス使用状況情報にアクセスできる Call Bridge の一意のホスト ID | |

10.6.2 クラスタのライセンス情報を取得する

3.0 以降では、既存の `/system/licensing` API で GET 操作を実行すると、Meeting Server インスタンスごとにライセンスファイルの内容（機能コンポーネント）のみが返されるようになりました。新しく導入された API オブジェクト `/clusterLicensing` を使用すると、Meeting Server クラスタのライセンスステータスと有効期限（該当する場合）が返されます。

注： `/clusterLicensing` で返される有効期限フィールドは、最大でも 90 日後になります。

Meeting Server またはクラスタの現在のライセンス情報を取得するには、

次の操作を実行します。GET method performed on `/clusterLicensing` で

GET メソッドを実行すると、次の応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| 機能 | | ライセンスが有効である場合、<features> 要素には以下の要素が含まれます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|------------------------|-----------|---------------------------------|--|
| callBridge | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated expired | ライセンスのステータス： <ul style="list-style-type: none"> - noLicense：この機能に使用できるライセンスがありません - activated：機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired：この機能のライセンスは有効期限を過ぎています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| callBridgeNoEncryption | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated expired | ライセンスのステータス： <ul style="list-style-type: none"> - noLicense：この機能に使用できるライセンスがありません - activated：機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired：この機能のライセンスは有効期限を過ぎています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |
| customizations | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated expired | ライセンスのステータス： <ul style="list-style-type: none"> - noLicense：この機能に使用できるライセンスがありません - activated：機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired：この機能のライセンスは有効期限を過ぎています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | | 説明/注記 |
|---------|--------|---------------------------------|--|
| 録音 | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | 名前 | タイプ/値 | 説明 |
| | status | noLicense activated expired | ライセンスのステータス : - noLicense : この機能に使用できるライセンスがありません - activated : 機能のライセンスが付与されており、有効期限内です - expired : この機能のライセンスは有効期限を過ぎています |
| | expiry | 文字列 | 有効期限 |

バージョン 3.0 では、/clusterLicensing/raw API が導入されています。これは、純粋に Cisco Meeting Management がライセンス情報を提供または取得して、スマートライセンスを管理できるようにするためのものです。この API は、一般的な使用を意図したのではなく、管理者による設定は必要ありません。

10.7 TURN サーバーメソッド

注 : TURN サーバーは、Cisco Meeting Server 2000 では使用できません。これは、キャパシティの小さい Cisco Meeting Server 1000 および仕様ベースの VM サーバーにより適しています。

注 : TURN サーバーコンポーネントは、UDP 用の標準ポート 3478 を常にサポートします。Cisco Meeting Server Web Edge を展開する場合、API ノード /turnServers の「type」パラメータを「cms」に設定する必要があります。このパラメータが設定されていない場合、デフォルトは「standard」になり、クライアントに TCP/UDP ポート 443 を使用して TURN サーバーに接続するように指示します。「type」パラメータ値の詳細については、[『Cisco Meeting Server API リファレンスガイド』](#)の「TURN サーバーを設定および変更する」セクションを参照してください。

10.7.1 TURN サーバーに関する情報を取得する

「/turnServers」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------|-------|---|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する TURN サーバーのみが返されます。 各目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 |
| offset | 数字 | |
| limit | 数字 | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|-------|---|
| serverAddress clientAddress | | 応答は、最上位の <turnServers total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <turnServer> 要素が含まれる可能性があります。 各 <turnServer> タグには、次の要素が含まれる場合があります。次のセクションを参照してください。 |

10.7.2 TURN サーバーを設定および変更する

- 作成：「/turnServers」ノードに対する POST メソッド
- 変更："/turnServers/<turn server id>" に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|--------------|---|
| serverAddress | 文字列 | この TURN サーバーに到達するために使用する Call Bridge のアドレス |
| clientAddress | 文字列 | Web アプリがこの TURN サーバーに到達するために使用するアドレス |
| username | 文字列 | この TURN サーバーで割り当てを作成するときに使用するユーザー名（短期間の資格情報モードが有効な場合）。 |
| password | 文字列 | この TURN サーバーで割り当てを作成するときに使用するパスワード（短期間の資格情報モードが有効な場合）。 |
| useShortTermCredentials | true false | この TURN サーバで短期的なクレデンシャルを使用する必要があるかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------|--|---|
| sharedSecret | 文字列 | この TURN サーバーで割り当てを作成するとき使用する必要がある共有秘密（短期間の資格情報モードが有効な場合）。 |
| type | acano cms expressway lyncEdge standard | <p>Meeting Server 内で TURN Server を使用する場合は、「cms」または「acano」を選択します。TURN サーバーに接続するために、lync には UDP/TCP ポート 3478、Web アプリには TCP ポート 443 を使用するようにクライアントに指示します。</p> <p>Meeting Server の TURN サーバーを使用せずに Cisco Expressway に接続する場合は、「expressway」を選択します。lync には UDP/TCP ポート 3478、Web アプリには TCP ポート 443 を使用するようクライアントに指示します。</p> <p>Lync または Skype for Business 展開に接続する場合は、「lyncEdge」を選択します。TURN サーバーに接続するためにポート 443 を使用するようにクライアントに指示します。</p> <p>「type」フィールドが設定されていない場合、デフォルトは「standard」です。TURN サーバーに接続するためにポート 443 を使用するようにクライアントに指示します。</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|--|
| numRegistrations | 数字 | この TURN サーバーに対して行う必要のある登録の数。このパラメータは、構成済みの Lync Edge サーバーに対してのみ意味があります。 |
| tcpPortNumberOverride | 数字 | TCP メディア (Lync プレゼンテーション コールレグなど) にこの TURN サーバーを使用するとき使用するポート番号のオプションのオーバーライド。構成済みの Lync Edge サーバーでは、TCP ポート番号は常に自動的に決定されるため、このパラメータは不要です。 |
| callBridge | ID | 指定されている場合は、この TURN サーバーを指定された Call Bridge (バージョン 2.1 以降) に関連付けます。 |
| callBridgeGroup | ID | 指定されている場合は、この TURN サーバーを指定された Call Bridge グループ (バージョン 2.1 以降) に関連付けます。 |

10.7.3 個々の TURN サーバーに関する詳細情報を取得する

"/turnServers/<turn server id>" ノードで実行される GET メソッド。指定された TURN サーバー ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

注： API GET 操作を使用して、/turnServers に対する短期的な TURN クレデンシャルにアクセスできない共有秘密でもできません。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|--|---|
| serverAddress | 文字列 | Call Bridge がこの TURN サーバーに到達するアドレス |
| clientAddress | 文字列 | Web アプリケーションが TURN サーバーに到達するアドレス |
| username | 文字列 | この TURN サーバーで割り当てを作成するとき使用するユーザー名 |
| useShortTermCredentials | true false | この TURN サーバーで短期的なクレデンシャルを使用するかどうか。 |
| type | acano cms expressway lyncEdge standard | TURN サーバーのタイプを示します。詳細については、/turnServers の PUT/POST を参照してください。 |
| numRegistrations | 数字 | 構成済みの Lync Edge サーバーの場合、この TURN サーバーに対して行われた登録の数のみ。 |
| tcpPortNumberOverride | 数字 | TCP メディアに TURN サーバーを使用するとき使用されるポート番号。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|--|
| callBridge | ID | 指定されている場合、これは、この TURN サーバーに関連付けられた Call Bridge です。 |
| callBridgeGroup | ID | 指定されている場合、これは、この TURN サーバーに関連付けられた Call Bridge グループです。 |

10.7.4 個々の TURN サーバーステータスの取得

"/turnServers/<turn server id>/status" ノードで実行される GET メソッド。指定された TURN サーバー ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

| 応答要素 | 説明/注記 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|---|-----|----|---------|-----|--|------------|----|--|-----------|------------|---|-----------------|----|--|---------------|-----|---|------------------|----|---|
| host | <p>ゼロ、1 つまたは複数の <host> 子ノード。それぞれが次の要素を含みます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>address</td> <td>文字列</td> <td></td> </tr> <tr> <td>portNumber</td> <td>数字</td> <td></td> </tr> <tr> <td>reachable</td> <td>true false</td> <td>この TURN サーバーが現在到達可能である場合は true、そうでない場合は false</td> </tr> <tr> <td>roundTripTimeMs</td> <td>数字</td> <td>この TURN サーバーが到達可能な場合、Call Bridge のパスの往復時間（ミリ秒単位）</td> </tr> <tr> <td>mappedAddress</td> <td>文字列</td> <td>入力されている場合は、Call Bridge が TURN サーバーの到達可能性チェックを実行したときに、TURN サーバーが STUN バインディング要求を認識したソース IP</td> </tr> <tr> <td>mappedPortNumber</td> <td>数字</td> <td>およびソース ポートを示します。これは、Call Bridge と TURN サーバーの間に NAT がある展開では、Call Bridge の IP アドレスとは異なる場合があります。</td> </tr> </tbody> </table> | 名前 | タイプ | 説明 | address | 文字列 | | portNumber | 数字 | | reachable | true false | この TURN サーバーが現在到達可能である場合は true、そうでない場合は false | roundTripTimeMs | 数字 | この TURN サーバーが到達可能な場合、Call Bridge のパスの往復時間（ミリ秒単位） | mappedAddress | 文字列 | 入力されている場合は、Call Bridge が TURN サーバーの到達可能性チェックを実行したときに、TURN サーバーが STUN バインディング要求を認識したソース IP | mappedPortNumber | 数字 | およびソース ポートを示します。これは、Call Bridge と TURN サーバーの間に NAT がある展開では、Call Bridge の IP アドレスとは異なる場合があります。 |
| 名前 | タイプ | 説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| address | 文字列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| portNumber | 数字 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| reachable | true false | この TURN サーバーが現在到達可能である場合は true、そうでない場合は false | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| roundTripTimeMs | 数字 | この TURN サーバーが到達可能な場合、Call Bridge のパスの往復時間（ミリ秒単位） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| mappedAddress | 文字列 | 入力されている場合は、Call Bridge が TURN サーバーの到達可能性チェックを実行したときに、TURN サーバーが STUN バインディング要求を認識したソース IP | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| mappedPortNumber | 数字 | およびソース ポートを示します。これは、Call Bridge と TURN サーバーの間に NAT がある展開では、Call Bridge の IP アドレスとは異なる場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

10.8 Web Bridge メソッド

10.8.1 Web Bridge に関する情報を取得する

「/webBridges」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|---|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する Web Bridge のみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ 上記参照 ）。 |
| tenantFilter | ID | 指定されたテナントに関連付けられた Web Bridge のみを返すように tenantFilter を指定します。 |
| callBridgeGroupFilter | ID | callBridgeGroupFilter が指定された場合、指定された Call Bridge グループ内の Web Bridge だけが返されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|------------|--|
| URL resourceArchive | URL URL | 応答は、最上位の <webBridges total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <webBridge> 要素が含まれる可能性があります。各 <webBridge> タグには、次の要素が含まれる場合があります。次のセクションを参照してください。 |

10.8.2 Web Bridge を設定および変更する

- 作成：「/webBridges」ノードに対する POST メソッド
- 変更："/webBridges/<web bridge id>" に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|---|
| URL | URL | この Web Bridge に到達するために使用する Call Bridge のアドレス |
| tenant | ID | この Web Bridge に関連付けるテナントの ID を指定すると、そのテナントが所有する coSpace のコール ID のみが、それを介して参加できます。 |
| tenantGroup | ID | 指定されたテナントグループ内のテナントに関連付けられた coSpace のみが、この Web Bridge を介してコール ID によってアクセスできます。テナントグループが指定されていない場合、テナントのない coSpace、またはテナントグループに所属しないテナントに関連付けられた coSpace のみがこのコール ID によってアクセスできます。 |
| callBridge | ID | 指定されている場合、この Web Bridge を指定された Call Bridge（バージョン 2.1 以降）に関連付けます。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------|-------|---|
| callBridgeGroup | ID | 指定されている場合、この Web Bridge を指定された Call Bridge グループに関連付けます（バージョン 2.1 以降）。 |
| webBridgeProfile | ID | 指定した場合、指定された Web Bridge プロファイルをこの Web Bridge に関連付けます。（3.0 以降） |

10.8.3 個々の Web Bridge に関する詳細情報を取得する

“/webBridges/<web bridge id>” ノードで実行される GET メソッド。指定された Web Bridge ID が有効な場合、前のセクションで説明した XML コンテンツを含む「200 OK」レスポンスが返されます。

10.8.4 Web Bridge のカスタマイズを更新する

"/webBridges/<web bridge id>/updateCustomization" ノードへの POST により、指定された Web Bridge の構成済みのカスタマイズアーカイブが再取得され、その Web Bridge にプッシュされます。たとえば、これにより、カスタマイズアーカイブの内容を変更でき、Call Bridge または Web Bridge を再起動しなくても、それらの変更を有効にすることができます。

10.8.5 Web Bridge で診断を取得する（2.2 以降）

“/webBridges/<web bridge id>/status" ノードで実行される GET メソッド。指定された Web Bridge ID が有効な場合、「200 OK」応答が返され、XML コンテンツは以下の表に一致します。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------------------|---|
| status | unused | Web Bridge は、照会された Call Bridge によって使用されません。 |
| | success | Web Bridge は、照会された Call Bridge に接続されています。 |
| | connectionFailure | Web Bridge は、照会された Call Bridge に接続できませんでした。 |
| | dnsFailure | 設定された Web Bridge の URI を解決できませんでした（3.0 以降） |

10.9 Web Bridge プロファイルメソッド

Web Bridge ごとに設定するのではなく、共通の場所で Web Bridge の構成オプションを設定できます。すべての Web Bridge または指定された Web Bridge のグループに対して同じ設定を適用できます。

この変更をサポートするために、Web Bridge のさまざまな設定オプションを含む API オブジェクト `/webBridgeProfiles` が導入されました。新しく定義した Web Bridge プロファイルは、個別の `webBridge` オブジェクト、トップ レベル（グローバル）プロファイル、テナントのいずれかに割り当てることができます。

プロファイルには階層があり、階層の下位にあるプロファイルの値が上位の値より優先されます。また、パラメータが設定されていない場合や Web Bridge プロファイルが設定されていない場合は、階層内で次に上位にあたるプロファイルから継承されます。

`webBridgeProfiles` の階層は次のとおりです。

- 最上位レベル（グローバル）プロファイル (`/system/profiles`)
- テナント (`/tenants/<tenant id>`)
- `webBridges` (`/webBridges/<webbridge id>`)

10.9.1 Web Bridge プロファイルを取得する

- `/webBridgeProfiles` の列挙は次の URI パラメータを受け入れます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------------------------|---|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目以外の Web Bridge プロファイルを取得する場合は、offset と limit を指定できます (3.0 以降)。 |
| limit | | |
| usageFilter | unreferenced referenced | グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていない Web Bridge プロファイルだけを取得する場合は、リクエストに「usageFilter=unreferenced」を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 カ所で参照されている Web Bridge プロファイルだけを取得する場合は、「usageFilter=referenced」と入力します (3.0 以降)。 |

応答は、最上位の `<webBridgeProfiles total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<webBridgeProfile>` 要素が含まれる可能性があります。

各 <webBridgeProfile> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------|-------|---|
| name | 文字列 | この Web Bridge プロファイルに関連付けられている、人間が読める形式の名前（3.0 以降）。最大長は 200 文字です。 |

- /webBridgeProfiles/<web bridge profile id> で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|--------------|--|
| name | 文字列 | この Web Bridge プロファイルに関連付けられている、人間が読める形式の名前（3.0 以降）。最大長は 200 文字です。 |
| resourceArchive | url | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスワードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace（および coSpace アクセス方式）をルックアップすることを許可するかどうか。（3.0 以降） |
| allowPasscodes | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスワードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace（および coSpace アクセス方式）をルックアップすることを許可するかどうか。（3.0 以降） |
| allowSecrets | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザが数値 ID とシークレットを使用してミーティング参加リンクから coSpace（および coSpace アクセス方式）にアクセスすることを許可するかどうか。（3.0 以降） |
| userPortalEnabled | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。（3.0 以降） |
| allowUnauthenticatedGuests | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザーがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。（3.0 以降） |

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|---|--|
| resolveCoSpaceCallIds | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace と coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。(3.0 以降) |
| resolveLyncConferencelds | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。(3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています) |
| resolveCoSpaceUris | オフ domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled | <p>この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace と coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません。 - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。 |

10.9.2 Web Bridge プロファイルを作成および変更する

この `/webBridgeProfiles` オブジェクトは、以下のリクエストパラメータを使用して Web Bridge プロファイルを実装するために使用されます。この API ノードは次の操作をサポートします。

- 新しい Web Bridge プロファイルを作成するための、`/webBridgeProfiles` に対する POST 操作
- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>` を使用した、個別のプロファイルに対する PUT 操作

次のリクエストパラメータを使用します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|--------------|--|
| name | 文字列 | この Web Bridge プロファイルに関連付けられている、人間が読める形式の名前。(3.0 以降) 最大長は 200 文字です。 |
| resourceArchive | url | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge 用に Meeting Server が使用するカスタマイズ アrchive ファイルがある場合は、そのアドレス。(3.0 以降) |
| allowPasscodes | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をロックアップすることを許可するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降) |
| allowSecrets | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザが数値 ID とシークレットを使用してミーティング参加リンクから coSpace (および coSpace アクセス方式) にアクセスすることを許可するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降) |
| userPortalEnabled | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降) |
| allowUnauthenticatedGuests | true false | この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザーがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|---|--|
| resolveCoSpaceCallIds | true false | <p>この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace と coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。(3.0 以降)</p> |
| resolveLyncConferencelds | true false | <p>この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります。(3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています)</p> |
| resolveCoSpaceUris | オフ domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled | <p>この Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません。 - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「off」になります。</p> |

10.9.3 指定した Web Bridge で現在有効な Web Bridge プロファイルの確認

API オブジェクト `/webBridges/<web bridge id>/effectiveWebBridgeProfile` を使用すると、指定された Web Bridge で現在有効な Web Bridge プロファイルおよび関連付けられた値を確認できます。

- `/webBridges/<web bridge id>/effectiveWebBridgeProfile` で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|--------------|--|
| resourceArchive | url | この Web Bridge 用に Meeting Server が使用するカスタマイズアーカイブファイルがある場合は、そのアドレス。(3.0 以降) |
| allowPasscodes | true false | この Web Bridge で、ユーザがパスコードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をルックアップすることを許可するかどうか。(3.0 以降) |
| allowSecrets | true false | この Web Bridge で、ユーザが数値 ID とシークレットを使用してミーティング参加リンクから coSpace (および coSpace アクセス方式) にアクセスすることを許可するかどうか。(3.0 以降) |
| userPortalEnabled | true false | この Web Bridge で、インデックス ページのサインインタブを表示するかどうか。(3.0 以降) |
| allowUnauthenticatedGuests | true false | この Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。(3.0 以降) |
| resolveCoSpaceCallIds | true false | この Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。(3.0 以降) |
| resolveLyncConferenceIds | true false | この Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。(3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています) |

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|---|--|
| resolveCoSpaceUris | オフ domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled | <p>この Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、この Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。 |

10.9.4 最上位レベル (グローバル) システムで現在有効な Web Bridge プロファイルを確認する

API オブジェクト `/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile` を使用すると、このシステムで現在有効な Web Bridge プロファイルおよび関連する値を確認できます。次の操作がサポートされています。

- `/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile` で GET 操作を実行すると、次のレスポンスが返されます。

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|--------------|---|
| resourceArchive | url | Meeting Server がこのシステム上の Web Bridge のデフォルトとして使用するカスタマイズアーカイブファイルがある場合は、そのアドレス。(3.0 以降) |
| allowPasscodes | true false | このシステム上の Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をルックアップすることを許可するかどうか。(3.0 以降) |

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|---|--|
| allowSecrets | true false | このシステム上の Web Bridge で、ユーザーが数値 ID とシークレットを使用して会議参加リンクから coSpace（および coSpace アクセス方式）にアクセスすることを許可するかどうか。（3.0 以降） |
| userPortalEnabled | true false | このシステム上の Web Bridge で、インデックス ページのサインイン タブを表示するかどうか。（3.0 以降） |
| allowUnauthenticatedGuests | true false | このシステムの Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。（3.0 以降） |
| resolveCoSpaceCallIds | true false | このシステム上の Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。（3.0 以降） |
| resolveLyncConferencelds | true false | このシステム上の Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。（3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています） |
| resolveCoSpaceUris | オフ domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled | <p>このシステム上の Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。（3.0 以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、このシステム上の Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。 |

10.9.5 個々のテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルを取得する

API オブジェクト `/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile` を使用すると、指定されたテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルおよび関連付けられた値を確認できます。次の操作がサポートされています。

- `/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile` で GET 操作を実行すると、次の応答が返されます。

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|--------------|---|
| resourceArchive | url | このテナントの Web Bridge で Meeting Server がデフォルトとして使用するカスタマイズ アーカイブ ファイルがある場合は、そのアドレス。(3.0 以降) |
| allowPasscodes | true false | このテナントの Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI を組み合わせて coSpace (および coSpace アクセス方式) をルックアップすることを許可するかどうか。(3.0 以降) |
| allowSecrets | true false | このテナントの Web Bridge で、ユーザーが数値 ID とシークレットを使用して会議参加リンクから coSpace (および coSpace アクセス方式) にアクセスすることを許可するかどうか。(3.0 以降) |
| userPortalEnabled | true false | このテナントの Web Bridge で、インデックスページのサインイン タブを表示するかどうか。(3.0 以降) |
| allowUnauthenticatedGuests | true false | このテナントの Web Bridge でランディング画面からのゲスト アクセスを許可するのか、またはユーザがユーザ ポータルにログイン済みである場合にのみゲスト アクセスを許可するのか。false の場合、ログインしているユーザーに対してのみリンクが機能します。(3.0 以降) |
| resolveCoSpaceCallIds | true false | このテナントの Web Bridge で、coSpace 会議へのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式のコール ID を受け付けるかどうか。 |
| resolveLyncConferencelds | true false | このテナントの Web Bridge で、スケジュールされた Lync 会議 ID に解決される ID を受け付けるかどうか。(3.0 では表示されますが、機能しません。3.1 では削除されています) |

| 応答値 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|---|--|
| resolveCoSpaceUris | オフ domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled | <p>このテナントの Web Bridge で、coSpace ミーティングへのゲストの参加を許可する目的で coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI を受け付けるかどうか。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> - off に設定されている場合は、URI を使用した参加は無効になります。 - domainSuggestionDisabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になりますが、URI のドメインの自動入力または検証は行われません - domainSuggestionEnabled に設定されている場合、このテナントの Web Bridge で URI を使用した参加が有効になり、URI のドメインの自動入力または検証を使用できます。 |

10.9.6 webBridgeProfile の Web Bridge アドレスを作成、変更、取得する

3.1 から、Web Bridge URI および IVR 電話番号 の設定を許可していた Web Admin ユーザーインターフェイスの [設定 (Configuration)] > [全般 (General)] ページの外部アクセスが削除されます。これらの設定フィールドは、Web Bridge プロファイルに移動されました。

また、複数の IVR 番号と Web ブリッジアドレス (最大 32 件) を指定できるようになりました。Web ブリッジプロファイルごとに最大 32 の Web ブリッジアドレスと IVR 番号これらは、参加情報の表示、および電子メール招待の生成に使用されます。

注 : ivrNumbers と webBridgeAddresses の構成には、システムレベルまたはテナントレベル (マルチテナンシーを使用している場合) で webBridgeProfile を使用することを強くお勧めします。

この API オブジェクトは次の操作をサポートします。

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses` に対する POST 操作
- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge address id>` に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| label | 文字列 | この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例： USA Web アプリ (バージョン 3.1 から) |
| address | url | 電子メール招待をレンダリングするときに使用するアドレス。例： https://usa.mycompany.com/ (バージョン 3.1 から) |

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses` の列挙は、次の URI パラメータを受け入れます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|--|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目以外の Web Bridge アドレスを取得する場合は、offset と limit を指定できます。 |
| limit | | |

応答は、最上位の `<webBridgeAddresses total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<webBridgeAddress>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<webBridgeAddress>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|---|
| label | 文字列 | この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例： USA Web アプリ (バージョン 3.1 から) |

- を使用して、webBridgeProfiles の個々の Web Bridge アドレスで GET を実行します。その際、`/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge address id>` は、次の応答を返します。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| label | 文字列 | この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例： USA Web アプリ (バージョン 3.1 から) |
| address | url | 電子メール招待をレンダリングするときに使用するアドレス。例： https://usa.mycompany.com/ (バージョン 3.1 から) |

10.9.7 webBridgeProfile の IVR 番号を作成、変更、取得する

この API オブジェクトは次の操作をサポートします。

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers` に対する POST 操作
- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/<ivr number id>` に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------|-------|--|
| label | 文字列 | この IVR 番号を説明するラベル名。例： 米国のコールイン番号 （バージョン 3.1 から） |
| number | 文字列 | 電子メール招待をレンダリングするときに使用する IVR 番号。 例： 888-123123 （バージョン 3.1 以降） |

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers` の列挙は、次の URI パラメータを受け入れます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|---|
| offset | | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外の IVR 番号を取得するために、オフセットと制限を指定できます。 |
| limit | | |

応答は、最上位の `<ivrNumbers total="N">` タグとして構成され、その内部に複数の `<ivrNumber>` 要素が含まれる可能性があります。

各 `<ivrNumber>` タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| label | 文字列 | この IVR 番号を説明するラベル名。例： 米国のコールイン番号 （バージョン 3.1 から） |

- `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/<ivr number id>` を使用して `webBridgeProfiles` の個々の IVR 番号で GET を実行し、次の応答を返します。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| label | 文字列 | この IVR 番号を説明するラベル名。例： 米国のコールイン番号 （バージョン 3.1 から） |
| number | 文字列 | 電子メール招待のレンダリング時に使用される IVR 番号。 例： 888-123123 （バージョン 3.1 以降） |

10.10 Call Bridge メソッド

10.10.1 Call Bridge に関する情報を取得する

「/callBridges」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|--|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| | | 応答は、最上位の <callBridges total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callBridge> 要素が含まれる可能性があります。 各 <callBridge> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 |
| name | 文字列 | 次のセクションを参照してください。 |

10.10.2 Call Bridge を設定および変更する

- 作成：「/callBridges」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/callBridges/<call bridge id>」に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| name * | 文字列 | この設定済みのクラスタ化された Call Bridge の一意の名前 |
| address | 文字列 | クラスタ内のこの Call Bridge に到達できるアドレス |
| sipDomain | 文字列 | このクラスタ化された Call Bridge とのピアツーピアリンクを確立するために使用する SIP ドメイン |
| callBridgeGroup | ID | 指定されている場合は、この Call Bridge を指定された Call Bridge グループに関連付けます (バージョン 2.1 以降) |

10.10.3 個々の Call Bridge に関する詳細情報を取得する

“/callBridges/<call bridge id>” ノードで実行される GET メソッド。指定された Call Bridge ID が有効な場合、前のセクションで説明した XML コンテンツを含む「200 OK」レスポンスが返されます。

10.11 Call Bridge グループメソッド

10.11.1 Call Bridge グループに関する情報を取得する

「/callBridgeGroups」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ 上記参照 ）。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--|
| | | 応答は、最上位の <callBridges total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <callBridgeGroup> 要素が含まれる可能性があります。 各 <callBridgeGroup> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 |
| name | 文字列 | Call Bridge グループの名前 |

10.11.2 Call Bridge グループを設定および変更する

- 作成：「/callBridgeGroups」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/callBridgeGroups/<call bridge group id>」に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|------------|--|
| name | 文字列 | Call Bridge グループのオプションの名前 |
| loadBalancingEnabled | true false | この Call Bridge グループの Call Bridge が、グループ内のコールのロードバランシングを試みるかどうか。作成（POST）操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります（バージョン 2.1 以降）。 |
| loadBalanceLyncCalls | true false | Lync から coSpace への着信コールが Call Bridge グループ内でロードバランシングされるかどうか。作成（POST）操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります（バージョン 2.1 以降）。 注：Lync クライアントとの間のコールのロードバランシングは、現在、Call Bridge グループではサポートされていません。 |
| loadBalanceOutgoingCalls | true false | coSpace からのコールをグループ内でロードバランシングする必要があるかどうか。作成（POST）操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります（バージョン 2.2 以降）。 |
| loadBalanceUserCalls | true false | coSpace への Web アプリケーションのコールをグループ内でロードバランシングする必要があるかどうか。作成（POST）操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります（バージョン 2.3 以降）。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------|-------------|---|
| loadBalanceIndirectCalls | true false | Record-Route SIP ヘッダーを持つ着信コールをグループ内でロードバランシングする必要があるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.4 以降)。 注: Exp C をコール制御として使用する場合は、このパラメータを true に設定する必要があります。これは、ロードバランシングが Expressway で機能するために必要です。 |

10.11.3 個々の Call Bridge グループに関する詳細情報を取得する

“/callBridgeGroups/<call bridge group id>” ノードで実行される GET メソッド。指定された Call Bridge グループ ID が有効な場合、前のセクションで説明した XML コンテンツを含む「200 OK」レスポンスが返されます。

10.12 Call Bridge クラスタメソッド

10.12.1 Call Bridge クラスタの詳細を取得する

/system/configuration/cluster ノードで GET 操作を発行して、次の情報を取得します。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--|-------|---|
| uniqueName | 文字列 | この Call Bridge が Call Bridge クラスタ内で認識される名前。これは、/callBridges テーブルのエントリの「name」値と一致する必要があります。 |
| peerLinkBitRate | 数字 | Call Bridge 間のコール分散接続に使用するために指定された最大メディアビットレート |
| participantLimit | 数字 | 指定されている場合、この Call Bridge でアクティブにできる参加者の最大数。この制限に達すると、新しい着信 SIP コールは拒否されます。 |
| loadLimit | 数字 | 指定されている場合、この Call Bridge で使用されるロードユニットの最大数 (バージョン 2.1 以降) |
| newConferenceLoadLimitBasisPoints | 数字 | 非アクティブな会議への着信コールが優先されなくなる負荷制限の基準点 (10,000 分の 1) は、0 ~ 10000 の範囲で、デフォルトは 5000 (50% の負荷) です。値は、負荷制限に対してスケールリングされます。(バージョン 2.1 以降) |
| existingConferenceLoadLimitBasisPoints | 数字 | この Call Bridge への着信コールが拒否される負荷制限の基準点。範囲は 0 ~ 10000、デフォルトは 8000 (バージョン 2.1 以降) |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|-------|--|
| maxPeerVideoStreams | 数字 | Call Bridge 間のコール分配接続を介して送信されるストリームの最大数。指定されていない場合はデフォルトで 4 になります。（バージョン 2.3.3 以降） |

10.12.2 Call Bridge クラスタを設定および変更する

/system/configuration/cluster ノードで PUT を発行します

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--|-------|---|
| uniqueName | 文字列 | この Call Bridge が Call Bridge クラスタ内で認識される名前。これは、/callBridges テーブルのエントリの「name」値と一致する必要があります。 |
| peerLinkBitRate | 数字 | 指定されている場合、Call Bridge 間のコール分散接続に使用する最大メディアビットレート |
| participantLimit | 数字 | 指定されている場合、この Call Bridge でアクティブにできる参加者の最大数。この制限に達すると、新しい着信 SIP コールは拒否されます。 |
| loadLimit | 数字 | 指定されている場合、この Call Bridge で使用されるロードユニットの最大数（バージョン 2.1 以降） |
| newConferenceLoadLimitBasisPoints | 数字 | 非アクティブな会議への着信コールが優先されなくなる負荷制限の基準点（10,000 分の 1）は、0 から 10000 の範囲で、デフォルトは 5000（50% の負荷）です。値は、負荷制限に対してスケーリングされます。（バージョン 2.1 以降） |
| existingConferenceLoadLimitBasisPoints | 数字 | 非アクティブな会議への着信コールが拒否される負荷制限の基準点は、0 ~ 10000 の範囲で、デフォルトは 5000 です（バージョン 2.1 以降）。 |

10.13 システム負荷メソッド

“/system/load” ノードで実行される GET メソッド。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------------|-------|--------------------------|
| mediaProcessingLoad | 数字 | Call Bridge の現在のメディア処理負荷 |

10.14 互換性プロファイルメソッド

10.14.1 互換性プロファイル操作を取得する

「/compatibilityProfiles」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------------------------|--|
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目にある以外の互換性プロファイルを取得するために、「offset」 および 「limit」 を指定できます。 |
| usageFilter | unreferenced referenced | 別のオブジェクトで参照されていない互換性プロファイルのみを取得する場合は、リクエストに「usageFilter=unreferenced」を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 か所で参照されている互換性プロファイルのみを取得する場合は、「usageFilter=referenced」を入力します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------|--------------------|--|
| | | 応答は、最上位の <compatibilityProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <compatibilityProfile> 要素が含まれる可能性があります。各 <compatibilityProfile> タグには、次の要素が含まれる場合があります。 |
| sipUdt | true false | SIP コール内で UDT の使用が許可されるかどうかを示します。 (バージョン 2.1 以降) |
| sipMultistream | true false | SIP コール内で Cisco マルチストリームプロトコルの使用が許可されるかどうかを示します。(バージョン 2.2 以降) |
| sipMediaPayloadTypeMode | auto broadsoft | デフォルトのコーデック メディア ペイロード タイプが使用されるか、または特別なバリエーションが使用されるかを示します。 (バージョン 2.2 以降) |
| chromeWebRtcVideoCodec | auto avoidH264 | Chrome が WebRTC コールに使用するコーデックを示します。 (バージョン 2.3 以降) |
| h264CHPMode | auto basic | H.264 Constrained High Profile (CHP) のどの部分で使用されているかを示します。 (バージョン 2.4 以降) |
| safariWebRtcH264interopMode | auto none | WebRTC コールに Safari ブラウザで使用される H.264 パラメータを示します。 |

10.14.2 互換性プロファイル操作を設定および変更する

- 作成：「/compatibilityProfiles」ノードに対する POST メソッド
- 変更：「/compatibilityProfiles/<compatibility profile id>」に対する PUT 操作

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|--------------------|--|
| sipUdt | true false | <p>SIP コール内で UDT の使用を許可するかどうかを制御します。アクティブコントロールは、特定の機能に対して、UDT トランスポートプロトコルを使用します。たとえば、名簿リストをエンドポイントに送信することで、ユーザーが通話中に他の参加者の接続を切断し、さらに展開間の参加リストを接続解除できるようにするなどです。（バージョン 2.1 以降）</p> <p>true : SIP コール内で UDT が許可されます</p> <p>false : SIP コール内で UDT は許可されません</p> |
| sipMultistream | true false | <p>SIP コール内で Cisco マルチストリームプロトコルの使用を許可するかどうかを制御します。Cisco デュアルエンドポイントのデュアルビデオ機能は、このプロトコルを使用します。これが無効になっている場合、コールはデュアルスクリーンビデオを使用できません。（バージョン 2.2.3 以降）</p> <p>true : SIP コール内で Cisco マルチストリーム シグナリングが許可されます (<unset> の場合、SIP マルチストリームの動作はデフォルトで true に設定されます)</p> <p>false : SIP コール内で Cisco マルチストリーム シグナリングは許可されません</p> |
| sipMediaPayloadTypeMode | auto broadsoft | <p>デフォルトのコーデック メディア ペイロード タイプを使用するか、特別なバリエーションを使用するかを示します。（バージョン 2.2 以降）</p> <p>auto : 通常のメディアペイロードタイプ値が使用されるデフォルトモード</p> <p>broadsoft : H.264 ビデオコーデックがペイロードタイプ 109 でアドバタイズされる特別な例外モード。</p> |
| chromeWebRtcVideoCodec | auto avoidH264 | <p>Chrome が WebRTC コールに使用するコーデックを制御します。</p> <p>auto : すべてのコーデックを許可し、Chrome で WebRTC に h264 を使用します（デフォルトの動作） avoidH264 : Chrome が代わりに VP8 を使用することになります</p> <p>（バージョン 2.3 以降）</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------|------------------|---|
| chromeWebRtcH264interopMode | auto none | <p>WebRTC コール用に Chrome で使用される H.264 パラメータを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - auto : デフォルトの動作。ハイプロファイルが無効にし、Chrome に SDP オファーでベースプロファイルレベル 5.0 をアダプタイズするよう強制します。 - none : 従来の動作。SDP への変更はありません。(バージョン 2.9 以降) |
| h264CHPMode | auto basic | <p>H.264 Constrained High Profile (CHP) のどの部分を使用するかを制御します。</p> <p>auto : デフォルトの動作。エンドポイントの識別に基づいて、適切な部分が使用されます</p> <p>basic : 最小限のサブセットの部分のみが使用されます (バージョン 2.4 以降)</p> |
| passthroughMode | enabled disabled | <p>H.264 パススルー機能を許可するかどうかを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - enabled : 可能な場合、ビデオのトランスコーディングを避けることを可能にします - disabled : 常にビデオをトランスコードします <p>(バージョン 3.1 以降)</p> |
| sipH224 | true false | <p>このパラメータで、SIP コール内で H.224 の使用を許可するかどうかを制御します。このプロトコルは FECC (遠端カメラ制御) のサポートに使用されます。</p> <p>true : H.224 はすべての SIP コールで有効になっています</p> <p>false : H.224 はすべての SIP コールで無効になっています</p> <p>(バージョン 2.8 以降)</p> |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|------------------|--|
| distributionLinkMediaTraversal | enabled disabled | クラスタ化された Meeting Server デバイス間の分散リンクにメディアトラバーサル (ICE/ STUN) を使用するかどうかを制御します。 enabled : メディアトラバーサルを分散リンクに使用する必要があります disabled : メディアトラバーサルは分散リンクに使用しないでください (バージョン 2.8 以降) |
| safariWebRtcH264interopMode | auto none | WebRTC コール用に Safari で使用される H.264 パラメータを制御します。 auto : Safari で実行されている WebRTC クライアントに送信される SDP は、H.264 High Profile を無効にし、Base Profile レベル 5 をアダプタイズします。これはデフォルト値です。 none : SDP に変更はありません (バージョン 3.2 以降) |

10.15 システム診断メソッド

10.15.1 システム診断を取得する

新しい /system/diagnostics ノードで GET 操作を発行して、次の情報を取得します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|---------|---|
| offset limit | 数字 数 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます。 |
| coSpaceFilter | ID | 指定されている場合、このフィルタは、返される結果を、指定された coSpace に対応する診断に制限します。 |
| callCorrelatorFilter | ID | 指定されている場合、このフィルタは、返される結果を、指定された callCorrelator に対応する診断に制限します。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------|-------|--------------------------|
| label | 文字列 | 指定された診断ログに関連付けられたテキストの説明 |

10.15.2 個々のシステム診断を取得する

/system/diagnostics/<diagnostics ID> ノードで GET を発行します。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|-------|---|
| label | 文字列 | 特定の診断ログに関連するテキストの説明 |
| coSpace | ID | 診断ログが特定の coSpace に関連付けられている場合、このパラメータはその coSpace の ID を保持します |
| callCorrelator | ID | アクティブなコールのすべての分散インスタンスで同じ ID。この値は、同じコールの他の Call Bridge ピアの診断ファイルでも同じです。 |
| timestamp | 文字列 | 診断ログが生成された時刻 |
| contentsSize | 数字 | このログエントリの診断データのサイズ |

10.15.3 個々のシステム診断の内容を取得する

/system/diagnostics/<diagnostics id>/contents ノードで GET メソッドを発行して、システム診断に保存されているデータを取得します。

10.16 システムの時間ロギングメソッド

10.16.1 ロギングサブシステムのアクティブ化

バージョン 3.2 では、次の操作をサポートするために、新しい API ノード **/system/timedLogging** が導入されました。

- **/system/timedLogging** に対する PUT 操作
- **/system/timedLogging** に対する GET 操作

以下の表で詳細なパラメータをサポートしています。各パラメータには整数値を割り当てることができます。この値は、ロギングサブシステムがアクティブ化される時間（秒）に対応します。

パラメータを 0 または何も設定しなかった場合、ロギングサブシステムは非アクティブになります。たとえば、**sip=60** の **system/timedLogging** に対する PUT 操作は、SIP の詳細ロギングが 60 秒間アクティブ化されます。これらの 60 秒が経過する前に **sip=0** の **system/timedLogging** に対する PUT 操作を実行すると、ロギングが再度非アクティブになります。SIP と TIP の両方のロギングを次の 10 分間有効にするには、複数のパラメータ（たとえば **sip=600&tip=600** など）を同時に指定できます。

このオブジェクトには、次のパラメータを使用できます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注意事項 |
|---------------|-------|--|
| activeControl | 数字 | 詳細なアクティブコントロールのロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| activeSpeaker | 数字 | 詳細で有効なスピーカーロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| api | 数字 | 詳細な API ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| bfcf | 数字 | 詳細な BFCF ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| cameraControl | 数字 | 詳細なカメラ制御ログが有効になっている残り時間（秒）（有効化されていない場合は 0） |
| dns | 数字 | 詳細な DNS ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| events | 数字 | 詳細なイベントロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| ice | 数字 | 詳細な ICE ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| sip | 数字 | 詳細な SIP ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| tip | 数字 | 詳細な TIP ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |
| webBridge | 数字 | 詳細な Web Bridge ロギングを有効にする必要がある残り時間（秒） |

11 LDAP メソッド

オブジェクトツリーの「/ldapMappings」ノード、「/ldapServers」ノード、「/ldapSources」ノードにある階層内のオブジェクトは、Meeting Server と 1 つまたは複数の LDAP サーバー（Active Directory など）との対話に関連しています。LDAP サーバーは、ユーザーアカウントを Meeting Server にインポートするために使用されます。

- 1 つまたは複数の LDAP サーバーを構成する必要があります。各 LDAP サーバーには、Meeting Server がユーザーアカウント情報を取得する目的で接続するために使用するユーザー名とパスワード情報が関連付けます。
- 構成済みの LDAP サーバーからユーザーをインポートするときにシステムに追加されるユーザーアカウント名の形式を定義する LDAP マッピングも、1 つまたは複数必要です。
- 次に、一連の LDAP ソースを構成する必要があります。これは、一連のユーザーの実際のインポートに対応する独自のパラメータとともに、構成済みの LDAP サーバーと LDAP マッピングを結び付けます。

LDAP ソースでは、LDAP サーバー/LDAP マッピングの組み合わせを使用して、フィルタリングされた一連のユーザーをその LDAP サーバーからインポートします。このフィルタは、LDAP ソースの「baseDn」（ユーザーが属する LDAP サーバーのツリーのノード）と、ユーザーアカウントが特定のパターンに一致する LDAP オブジェクトに対してのみ作成されるようにするためのフィルタによって決定されます。

API LDAP メソッドでは、Web 管理インターフェイスの [設定 (Configuration)] > [Active Directory] ページの複数の「Active Directory 設定」のセットを追加できます。このページの [Active Directory サーバの設定 (Active Directory Server Settings)] セクションは API が設定された LDAP サーバに、[インポート設定 (Import Settings)] は LDAP ソースに、[フィールド マッピング式 (Field Mapping Expressions)] は LDAP マッピングに対応しています。

注： LDAP サーバーの資格情報は、次のフィールドを読み取るために使用されます。

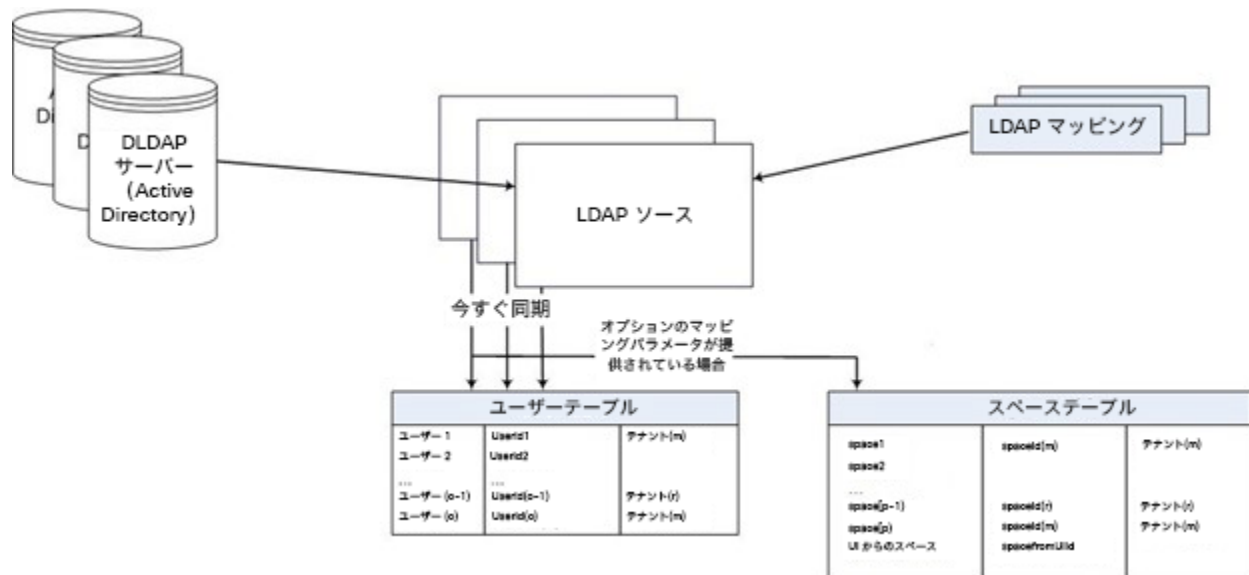
| | |
|------------|-----------------|
| mail | telephoneNumber |
| objectGUID | mobile |
| entryUUID | sn |
| nsuniqueid | givenName |

セキュリティ上の理由により、これらのログイン情報を使用して利用可能なフィールドと権限を制限することをお勧めします。

注：LDAP/AD 同期用に Meeting Server を設定する場合、LDAP/AD の属性を受け入れるフィールドには、大文字と小文字を区別するフォーマットで属性を入力する必要があります。たとえば、ユーザー名マッピングで属性 userPrincipalName を使用する場合、\$userPrincipalName\$ では同期は成功しますが、\$UserPrincipalName\$ では同期が失敗します。各 LDAP 属性が正しい大文字や小文字で入力されていることを確認してください。

11.1 LDAP サーバメソッド

図 3：LDAP プロセスの概要



11.1.1 LDAP サーバーに関する情報を取得する

「/ldapServers」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------|-------|--|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する LDAP サーバーのみが返されます。 |
| offset | 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 |
| limit | 数字 | |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------|------------|--|
| | | 応答は、最上位の <ldapServers total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ldapServer> 要素が含まれる可能性があります。 返される “<ldapServer>” 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| ldapServer id | ID | |
| address | 文字列 | |
| portNumber | 数字 | |
| secure | true false | |

11.1.2 LDAP サーバーを追加および変更する

- 作成：「/ldapServers」ノードで実行される POST メソッド。LDAP サーバーがシステム上で正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- LDAP サーバーの変更は、“/ldapServers/<ldapServer id>” ノードの PUT メソッドです。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|------------|--|
| address * | 文字列 | 接続先の LDAP サーバーのアドレス。 |
| name | 文字列 | 関連付けられている名前（バージョン 2.9 以降） |
| portNumber * | 数字 | リモート LDAP サーバーで接続する TCP または TLS ポート番号 |
| username | 文字列 | LDAP サーバーから情報を取得するときに使用するユーザー名 |
| password | 文字列 | ユーザー名に関連付けられているアカウントのパスワード |
| secure * | true false | LDAP サーバーへのセキュアな接続を行うかどうか。「true」の場合、TLS が使用されます。「false」の場合、TCP が使用されます。 |
| usePagedResults | true false | LDAP 同期中の検索操作で LDAP ページ結果制御を使用するかどうか。設定されていない場合、ページ結果制御が使用されます。Oracle Internet Directory では、このパラメータを「false」に設定する必要があります（バージョン 2.1 以降）。 |

11.1.3 個々の LDAP サーバーに関する詳細情報を取得する

“/ldapServers/<ldapServer ID>” ノードで実行される GET メソッド。指定された ldapServer ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---------------|------------|---------------|
| ldapServer id | ID | |
| address | 文字列 | |
| portNumber | 数字 | ドメイン名 |
| username | 文字列 | directoryUser |
| secure | true false | |

11.2 LDAP マッピングメソッド

11.2.1 LDAP マッピングを追加および変更する

- 作成：「/ldapMappings」に対する POST メソッド。LDAP マッピングがシステムで正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更：“/ldapMappings/<ldapMapping id>” ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------------|-------|--|
| jidMapping | 文字列 | たとえば、関連する LDAP サーバーのエントリからユーザー JID を生成するためのテンプレート。例： \$sAMAccountName\$@example.com. 注：jidMapping によって生成されたユーザー JID は URI としても使用されるため、一意である必要があり、URI またはコール ID と同じにすることはできません。 |
| nameMapping | 文字列 | 関連する LDAP サーバーのエントリからユーザー名を生成するためのテンプレート。たとえば、「\$cn\$」で共通名を使用します。 |
| cdrTagMapping | 文字列 | ユーザーの cdrTag 値を生成するためのテンプレート。固定値に設定するか、そのユーザーの他の LDAP フィールドから構築できます。ユーザーの cdrTag は、callLegStart CDR で使用されます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください。 |
| authenticationIdMapping | 文字列 | 関連付けられた LDAP サーバーのエントリから認証 ID を生成するためのテンプレート（例：“\$userPrincipalName\$”）。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------------|-------|---|
| coSpaceUriMapping | 文字列 | これらのパラメータを指定すると、この LDAP マッピングによって生成された各ユーザー アカウントに、関連付けられた個人用 coSpace があることが保証されます。ユーザーは、 上記 で定義された権限を持つ coSpace のメンバーとして自動的に追加されます。 |
| coSpaceSecondaryUriMapping | 文字列 | その coSpace を必要に応じてセットアップするために、これらのパラメータは、coSpace の URI、表示名、構成されたコール ID を設定するためのテンプレートを提供します。たとえば、coSpaceNameMapping を「\$cn\$ personal coSpace」に設定すると、各ユーザーの coSpace に名前の後に “personal coSpace” というラベルが付きます。 |
| coSpaceNameMapping | 文字列 | 生成された coSpace には独自の cdrTag があることに注意してください。これはユーザーの cdrTag と同じになり、上記の cdrTagMapping を変更して再同期する以外に変更することはできません (coSpace の cdrTag は、callStart CDR で使用されます。詳細については、『Cisco Meeting Server CDR リファレンス』を参照してください)。 |
| coSpaceCallIdMapping | 文字列 | 通常の一意性ルールは、このように設定された coSpace の URI およびコール ID に適用されることに注意してください。指定された LDAP マッピングによってセットアップされた複数の coSpace に対して同じ URI またはコール ID を持つことは有効ではありません。そのような coSpace URI またはコール ID は、Meeting Server の他の場所で現在使用されているものと同じである必要があります。 注 : jidMapping によって生成されたユーザー JID は URI としても使用されるため、一意である必要があり、URI またはコール ID と同じにすることはできません。 |

11.2.2 セカンダリ LDAP マッピングパラメータ

LDAP マッピングごとに、新しいオプションの coSpaceSecondaryUriMapping パラメータがあり、自動的に作成される coSpace がセカンダリ URI を持つようになっています。

- LDAP マッピングを作成するとき (前のセクションを参照)、または既存の LDAP マッピングの構成を変更するときに、“coSpaceSecondaryUriMapping” パラメータを指定できます。
- 個々の LDAP マッピングに関する情報を取得する場合 (“/ldapMappings/<LDAP mapping ID>” ノードの GET メソッド)、その LDAP マッピングの coSpaceSecondaryUriMapping 値 (定義されている場合) が返されます。

11.2.3 LDAP マッピングに関する情報を取得する

「/ldapMappings」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|--|
| filter | 文字列 | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致する LDAP マッピングのみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 |

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|---------------|---|
| ldapMapping id jidMapping nameMapping | ID 文字列 文字列 | 応答は、最上位の <ldapMappings total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ldapMapping> 要素が含まれる可能性があります。返される “<ldapMapping>” 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |

11.2.4 個々の LDAP マッピングに関する詳細情報の取得

“/ldapMappings/<ldapMapping ID>” ノードで実行される GET メソッド。指定された ldapMapping ID が有効な場合、[セクション 11.2.1](#) で説明されている XML コンテンツとともに、「200 OK」応答が返されます。

11.3 LDAP ソースメソッド

11.3.1 LDAP ソースに関する情報を取得する

「/ldapSources」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|--|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 |
| tenantFilter | ID | 指定されたテナントに関連付けられた LDAP ソースのみを返すように tenantFilter を指定します。 |

応答は、最上位の <ldapSources total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <ldapSource> 要素が含まれる可能性があります。各 <ldapSource> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|------------|---|
| name | 文字列 | LDAP ソースのオプションの名前ラベル (バージョン 3.1 以降) |
| server * | ID | 以前に設定された LDAP サーバーの ID (上記 を参照) |
| mapping * | ID | 以前に設定された LDAP マッピングの ID (上記 を参照) |
| baseDn * | 文字列 | ユーザーのインポート元となる LDAP サーバーのツリー内のノードの識別名。"cn=Users,dc=<companyname>,dc=com" など。 |
| filter | 文字列 | ユーザーとしてインポートするためにレコードが満たす必要がある LDAP フィルター文字列。"(objectClass=person)" など。 |
| tenant | ID | 指定されている場合、LDAP ソースを関連付ける必要があるテナントの ID。この LDAP ソースでインポートされたユーザーは、そのテナントに関連付けられます。 |
| userProfile | ID | 指定されている場合、これは、この LDAP ソースを介してインポートされたユーザーに関連付けるユーザープロファイルの ID です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |
| nonMemberAccess | true false | <p>このパラメータはバージョン 2.4 で導入されました。新しく作成されたスペースを事前構成して、非メンバーアクセスを許可または禁止します。</p> <p>スペースは、LDAP 同期を介して自動生成される場合、すべてパスワードなしで作成されます。このパラメータを使用すると、企業はすべてのユーザースペースへのメンバー以外によるアクセスにパスワード保護を適用できます。</p> <p>true : スペースへのアクセスにパスワードは不要で、非メンバーは作成されたスペースにアクセスできます。これはデフォルト設定であり、このパラメータがバージョン 2.4 で導入される前の動作に一致します。</p> <p>false : LDAP 同期の一部として、メンバーがメンバー以外のユーザーのアクセスを構成し、パスワードを設定する必要があります。</p> <p>注 : バージョン 2.4 より前に作成されたスペースへのメンバー以外によるアクセスは、LDAP 同期の影響を受けません。</p> |

11.3.2 LDAP ソースを追加および変更する

- 作成 : 「/ldapSources」ノードに対する POST メソッド。LDAP ソースがシステムで正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更 : 「/ldapSources/<ldapSource id>」ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|---|
| name | 文字列 | LDAP ソースのオプションの名前ラベル (バージョン 3.1 以降) |
| server * | ID | 以前に設定された LDAP サーバーの ID (上記 を参照) |
| mapping * | ID | 以前に設定された LDAP マッピングの ID (上記 を参照) |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|------------|--|
| baseDn * | 文字列 | ユーザーのインポート元となる LDAP サーバーのツリー内のノードの識別名。“cn=Users,dc=<companyname>,dc=com” など。 |
| filter | 文字列 | ユーザーとしてインポートするためにレコードが満たす必要がある LDAP フィルター文字列。“(objectClass=person)” など。 |
| tenant | ID | 指定されている場合、LDAP ソースが関連付けられるテナントの ID。この LDAP ソースでインポートされたユーザーは、そのテナントに関連付けられます。 |
| userProfile | ID | 指定されている場合、これは、この LDAP ソースを介して重要なユーザーに関連付けるユーザー プロファイルの ID です。このパラメータは、バージョン 2.0 以降から存在します。 |
| nonMemberAccess | true false | このパラメータはバージョン 2.4 で導入されました。新しく作成されたスペースを事前構成して、非メンバーアクセスを許可または禁止します。 スペースは、LDAP 同期を介して自動生成される場合、すべてパスワードなしで作成されます。このパラメータを使用すると、企業はすべてのユーザースペースへのメンバー以外によるアクセスにパスワード保護を適用できます。 true : スペースへのアクセスにパスワードは不要で、非メンバーは作成されたスペースにアクセスできます。これはデフォルト設定であり、このパラメータがバージョン 2.4 で導入される前の動作に一致します。 false : LDAP 同期の一部として、メンバーがメンバー以外のユーザーのアクセスを構成し、パスワードを設定する必要があります。 注 : バージョン 2.4 より前に作成されたスペースへのメンバー以外によるアクセスは、LDAP 同期の影響を受けません。 |

11.3.3 LDAP ソースに関する詳細情報を取得する

“/ldapSources/<ldapSource ID>” ノードで実行される GET メソッド。指定された ldapSource ID が有効な場合、「200 OK」のレスポンスが返され、前述の LDAP ソースの作成に従って XML コンテンツが含まれます。

11.4 LDAP 同期メソッド

LDAP 同期の API サポートには、次の機能が含まれます。

- API を介して新しい同期をトリガーする
- 保留中および進行中の LDAP 同期を監視する

オブジェクトツリーには最上位の /ldapSyncs ノードがあり、その下のオブジェクトで使用する、関連付けられた GET、DELETE、POST メソッドがあります。

11.4.1 スケジュールされた LDAP 同期メソッドを取得する

「/ldapSyncs」ノードでの GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-------|---|
| offset limit | 数字 数字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------------------|--|---|
| ldapSyncid | ID | 結果を "<ldapSyncs total=N> ... </ldapSyncs>" の形式で返します。N は保留中および進行中の LDAP 同期メソッドの総数です。包囲する "<ldapSyncs>" は 1 つ以上 "<ldapSync id=ID>" ノード。左側の各フォームで、状態は "InProgress"（現在進行中）、"pending"（まだ開始していない）、完了または失敗のいずれかです。 |
| state | InProgress pending complete failed | この LDAP 同期操作の現在のステータス : InProgress - この LDAP 同期操作は現在実行中です pending - この LDAP 同期操作はまだ開始されていません complete - この LDAP 同期操作は正常に完了しました failed - この LDAP 同期操作が失敗しました |
| failureReason | tenantDoesNotExist ldapSourceDoes NotExist clashOc- curred ldapError | |
| numUsersImported | 数字 | 進行中の LDAP 同期でこれまでにインポートされたユーザーの数 |
| numLdapSourcesComplete | 数字 | 複数の LDAP ソースの進行中の LDAP 同期に対して同期メソッドが完了している LDAP ソースの数。ただし、最初の LDAP ソース同期がまだ進行中であり、numLdapSourcesComplete=0 である場合、パラメータは省略されます。 |
| creationTime | 文字列 | 同期オブジェクトが作成された日時のタイムスタンプ（UTC）。RFC 3339 に従ってフォーマットされます。"2014-02- 11T12:10:47Z"（バージョン 3.1 以降） |
| startTime | 文字列 | 同期操作が開始された時刻のタイムスタンプ（UTC）。（バージョン 3.1 以降） |
| endTime | 文字列 | 同期操作が終了（成功または失敗）した日時のタイムスタンプ（UTC）。（バージョン 3.1 以降） |

11.4.2 新しい LDAP 同期を開始する

「/ldapSyncs」ノードの POST メソッド。次の表のいずれのパラメータも含まれていない場合、同期は、Web 管理インターフェイスの[設定 (Configuration)] > [Active Directory] ページの [今すぐ同期 (Sync Now)] ボタンに相当します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------|------------|--|
| tenant | テキスト | 指定された場合、同期はそのテナントに制限されます |
| ldapSource | ID | 指定された場合、同期はその LDAP ソースに制限されます |
| removeWhenFinished | true false | <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この LDAP 同期は、(正常にまたはエラーが発生して) 完了すると、システムの追跡リストから削除されるため、照会できなくなります。 ■ false : この LDAP 同期は、完了時にシステムの追跡リストに保持され、その時点で成功または失敗のステータスを照会できます。システムの追跡リストに永続的に残らないようにするには、明示的に削除する必要があります。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。</p> |

新しい LDAP 同期が正常に行われると、応答には "/api/v1/ldapSyncs/<LDAPsync ID>" という形式の "Location" が含まれます。

11.4.3 スケジュールされた LDAP 同期のキャンセル

"/ldapSyncs/<LDAP sync ID>" ノードの DELETE メソッド。このメソッドは、スケジュールされた LDAP 同期をキャンセルします。同期メソッドがすでに開始されている（または開始されて完了している）場合、このメソッドは失敗します。

11.4.4 単一の LDAP 同期メソッドに関する情報を取得する

"/ldapSyncs/<LDAP sync ID>" ノードの GET メソッド。

指定された LDAP 同期 ID が有効な場合、結果は <ldapSync id=LDAP sync ID> ...

</ldapSync> の形式になります。[上記](#)の値に加えて、LDAP 同期操作が失敗した場合は clashOccurred の failureReason で次の値が返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|-------|-----------------------------------|
| clashesUserJid | | 存在する場合、これらのフィールドには、衝突した ID が含まれます |
| clashesUri | | |
| clashingCallId | | |

11.5 外部ディレクトリ検索場所

API を介して、Web アプリのユーザーが検索を実行するときに参照される追加のディレクトリ検索場所を Call Bridge に追加できます。外部ディレクトリ検索場所は、テナントレベルで追加できます。これらの場所からの結果は、「通常」の結果（LDAP ソースのユーザーリストからの結果など）に追加され、Web アプリに表示されます。

11.5.1 外部ディレクトリ検索場所に関する情報を取得する

「/directorySearchLocations」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------|---|
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます（ 上記参照 ）。 |
| tenantFilter | ID | 指定されたテナントに関連付けられた外部ディレクトリ検索場所のみを返すように tenantFilter を指定します。 |

| 応答要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|---|-------------------------------------|--|
| ldapServer tenant baseDn filterFormat label priority | ID ID 文字列 文字列 文字列 数字 | <p><directorySearchLocations total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <directorySearchLocation> 要素が含まれる可能性があります。</p> <p>返される <directorySearchLocation> 要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>すべて、下記で説明する外部ディレクトリ検索場所の作成に従います</p> |

11.5.2 外部ディレクトリ検索場所を追加および変更する

- 作成：「/directorySearchLocations」ノードに対する POST メソッド。LDAP ソースがシステムで正常に構成されている場合、その ID がレスポンスヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更：「/directorySearchLocations/<directory search location id>」ノードの PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------------|-------|---|
| ldapServer * | ID | 以前に設定された LDAP サーバーの ID (上記 を参照) |
| tenant | ID | 指定されている場合、この外部ディレクトリが適用されるテナント。リモートディレクトリからのエントリは、このテナントに関連付けられたユーザーにのみ提供されます。 |
| baseDn | 文字列 | 検索対象の LDAP サーバーのツリー内のノードの識別名 |
| filterFormat | 文字列 | ディレクトリ検索結果の選択に使用される LDAP フィルタ。\$1 は、ユーザーが指定した検索文字列を表すために使用する必要があります。 |
| label | 文字列 | 要求クライアントによって表示されるときに、このディレクトリからの検索結果に関連付ける必要がある、人間が読める名前。 |
| priority | 数字 | 検索で directorySearchLocations を使用する順序を制御します。優先度の高いエントリが最初に使用されます。 |
| displayName email sip | | これらのフィールドは、検索結果の内容を入力するときに使用される LDAP のフィールドの名前を指定します。たとえば、正規名を使用するには、displayName を "cn" に設定します。 |

11.5.3 外部ディレクトリ検索場所に関する詳細情報を取得する

“/directorySearchLocations/<directory search location id>” ノードで実行される GET メソッド。指定された ディレクトリ検索ロケーション ID が有効な場合、「200 OK」レスポンスが返され、前述のディレクトリ検索ロケーションの作成に従って XML コンテンツが含まれます。

11.5.4 外部ディレクトリ検索場所の追加例

このセクションでは、Web アプリのユーザーが検索を実行するときに Call Bridge が参照する追加のディレクトリ検索場所を追加する例を示します。

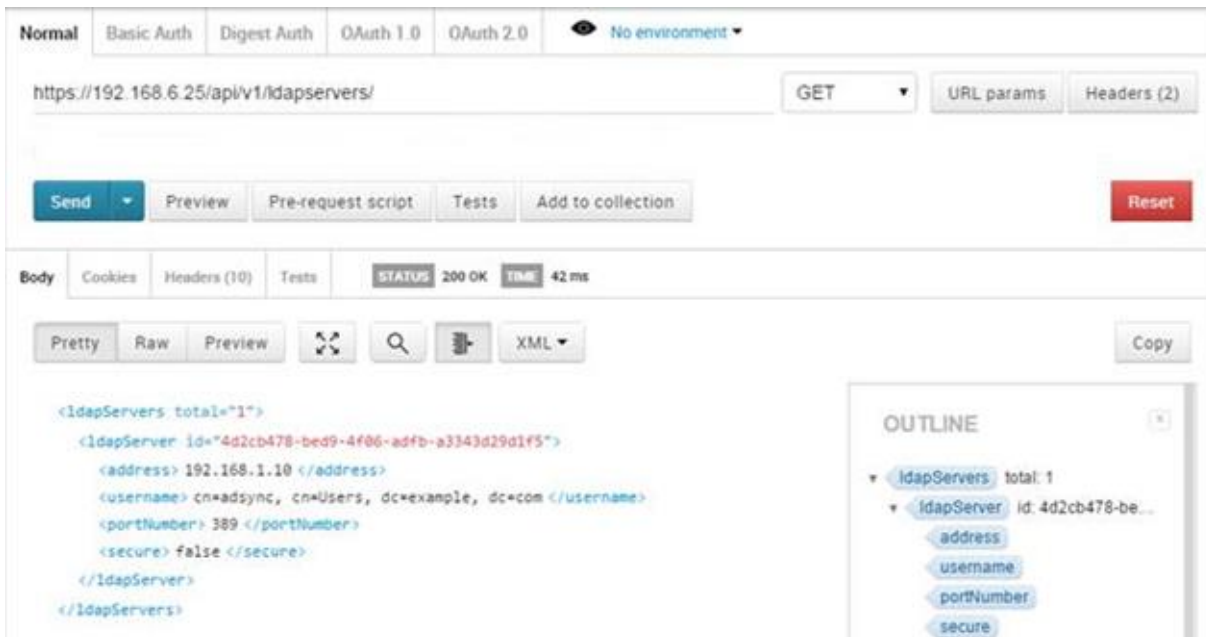
次の手順に従ってください。

1. Chrome Postman などのアプリを使用して、Meeting Server の API にログインします。
2. Meeting Server に LDAP サーバーエントリを作成します。次の図は、URL 192.168.6.25 の Meeting Server に POST される ldapserver エントリを示しています。このエントリは、URL 192.168.1.10 の LDAP サーバー用であり、認証情報が提供されています。

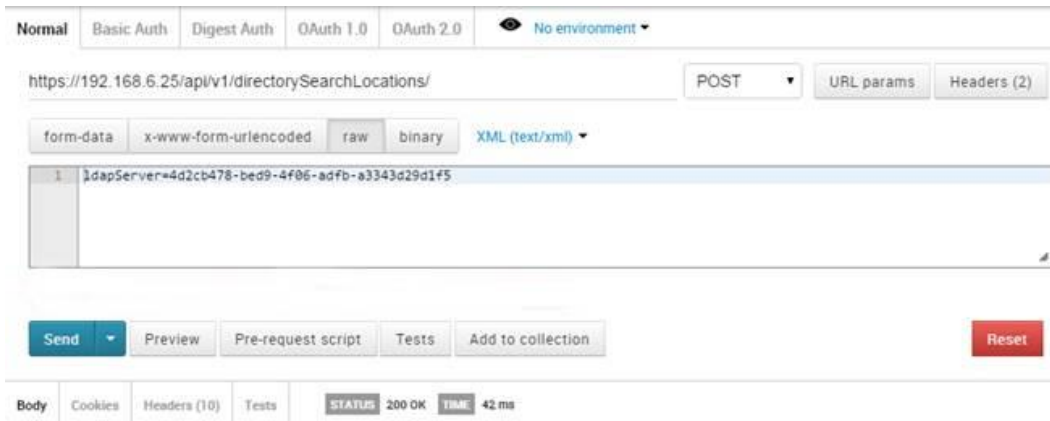


手順 2 では、Call Bridge が LDAP サーバーにアクセスすることを許可するために必要な情報を提供します。

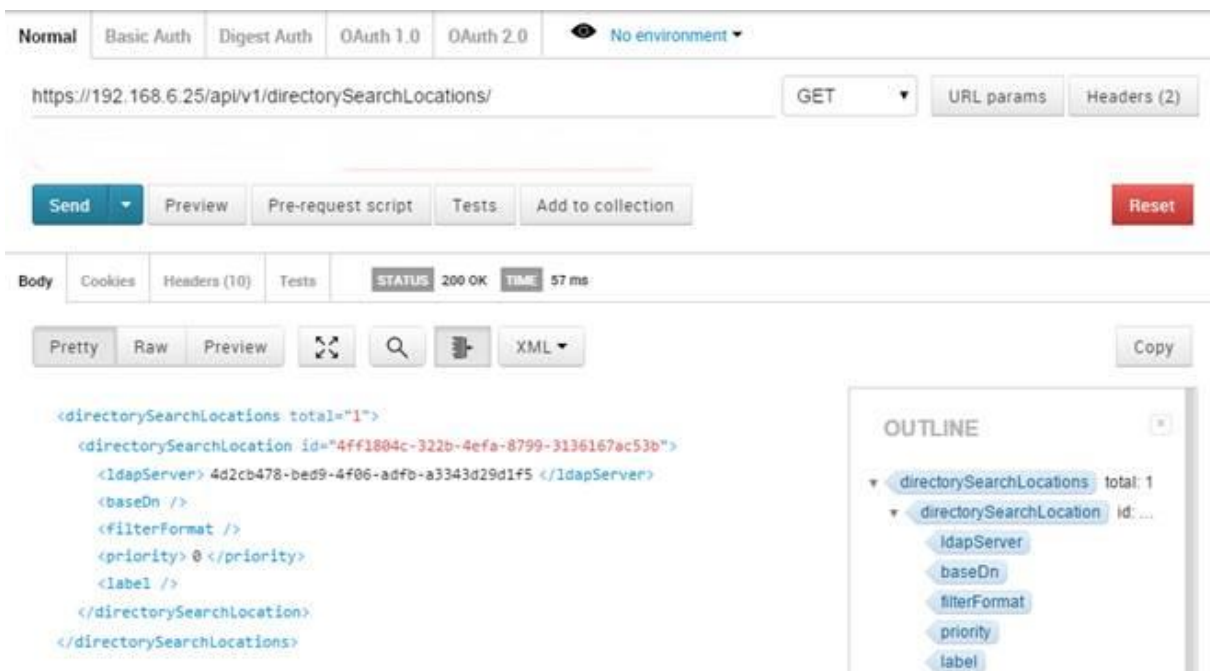
3. GET を使用して、手順 2 で作成した LDAP サーバーエントリの ID を取得します。



4. 手順 3 の LDAP サーバー ID を POST して、DirectorySearchLocation を作成します。DirectorySearchLocation 設定は、ディレクトリ検索の動作を定義します。データ形式は raw に設定してください。



5. GET を使用して、手順 4 で作成したディレクトリ検索場所の ID を取得します。



6. PUT を使用して DirectorySearchLocation を編集します。PUT URL に DirectorySearchLocation ID を追加し、baseDN および filterFormat に関する詳細情報を提供します。データ形式が raw に設定されていることを確認してください。次に例を示します。

PUT :

`https://192.168.6.25/api/v1/DirectorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b`

`baseDn=OU=contacts,DC=example,DC=com&filterformat=cn=*$1*&firstname=givenname&lastname=sn&displayname=cn&sip=mail`

Normal Basic Auth Digest Auth OAuth 1.0 OAuth 2.0 No environment

https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799 PUT URL params Headers (2)

form-data x-www-form-urlencoded raw binary XML (text/xml)

```
1 baseDn=OU=contacts,DC=example,DC=com&filterFormat=cn=*$1*&firstName=givenname&lastName=sn&displayname=cn&sip=mail
```

Send Preview Pre-request script Tests Add to collection Reset

Body Cookies Headers (9) Tests STATUS 200 OK TIME 45 ms

7. DirectorySearchLocation の構成が期待どおりであることを確認します。

Normal Basic Auth Digest Auth OAuth 1.0 OAuth 2.0 No environment

https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799 GET URL params Headers (2)

Send Preview Pre-request script Tests Add to collection Reset

Body Cookies Headers (10) Tests STATUS 200 OK TIME 60 ms

Pretty Raw Preview XML Copy

```
<directorySearchLocation id="4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b">
  <ldapServer> 4d2cb478-bed9-4f06-adfb-a3343d29d1f5 </ldapServer>
  <baseDn> OU=contacts,DC=example,DC=com </baseDn>
  <filterFormat> cn=*$1* </filterFormat>
  <priority> 0 </priority>
  <label />
  <firstName> givenname </firstName>
  <lastName> sn </lastName>
  <displayName> cn </displayName>
  <phone />
  <mobile />
  <email />
  <sip> mail </sip>
  <organisation />
</directorySearchLocation>
```

OUTLINE

- directorySearchLocation id: ...
 - ldapServer
 - baseDn
 - filterFormat
 - priority
 - label
 - firstName
 - lastName
 - displayName
 - phone
 - mobile
 - email
 - sip
 - organisation

12 マルチテナンシー

Meeting Server はマルチテナンシーをサポートしています。これは、そのキャパシティを「アイランド」のセットに分割することを指します。各アイランドは、ユニット全体のすべての機能を備えていますが、他のテナントのリソース（ユーザー、coSpace、アクティブなコールなど）にはアクセスできません。

API でのマルチテナンシーの主な影響は 2 つあります。

- API を使用すると、テナントを作成、変更、削除できます。これは、テナントを管理するための主要な手段です。
- API は、特定のテナントについて結果を返すことができます。
マルチテナンシーモードでは、通常、各 coSpace、コール、ユーザーはテナントにキー設定（つまり「所有」）されます。特定のユーザー、coSpace、またはコールオブジェクトに関する情報を取得する場合、API にはそのオブジェクトを所有するテナントが含まれ、列挙ベースの取得には、返されたリストにの各オブジェクトのテナント情報が含まれます。
同様に、GET メソッドをフィルタ処理して、特定のテナントの情報のみを含めることができます。

このドキュメントで前述した API メソッドの大部分は、マルチテナンシーモードでも機能します。ほとんどの場合、これは、新しいオブジェクトがどのテナントに関連付けられるかをシステムが認識できるように、フォームパラメータを介して作成中のテナント ID (POST) メソッドを提供することと同じです。たとえば、マルチテナントモードでない場合に coSpace を作成するには、フォームパラメータとして「name」などのパラメータを使用して「/api/v1/coSpaces」に対する POST メソッドが必要になります。特定のテナントの coSpace を作成するには、POST は再び「/api/v1/coSpaces」に対して実行されますが、フォームパラメータに追加で“tenant=<tenant id>”を含めます。ここで、“<tenant id>”は以前のテナント作成の結果として、または以前の列挙を介して特定されています。

どの初期 POST メソッドでも、存在しない「tenant」パラメータまたは長さゼロの値は同等として扱われます。その効果は、オブジェクトがどのテナントにも関連付けられていないことです。

上記のルールによると、<tenant id> 値は、次のオブジェクトの作成および変更（POST および PUT）メソッドで有効です（図 4 を参照）。

- coSpaces（“/coSpaces” または “/coSpaces/<coSpace ID>”）
- LDAP ソース（“/ldapSources” または “/ldapSources/<ldap source id>”）

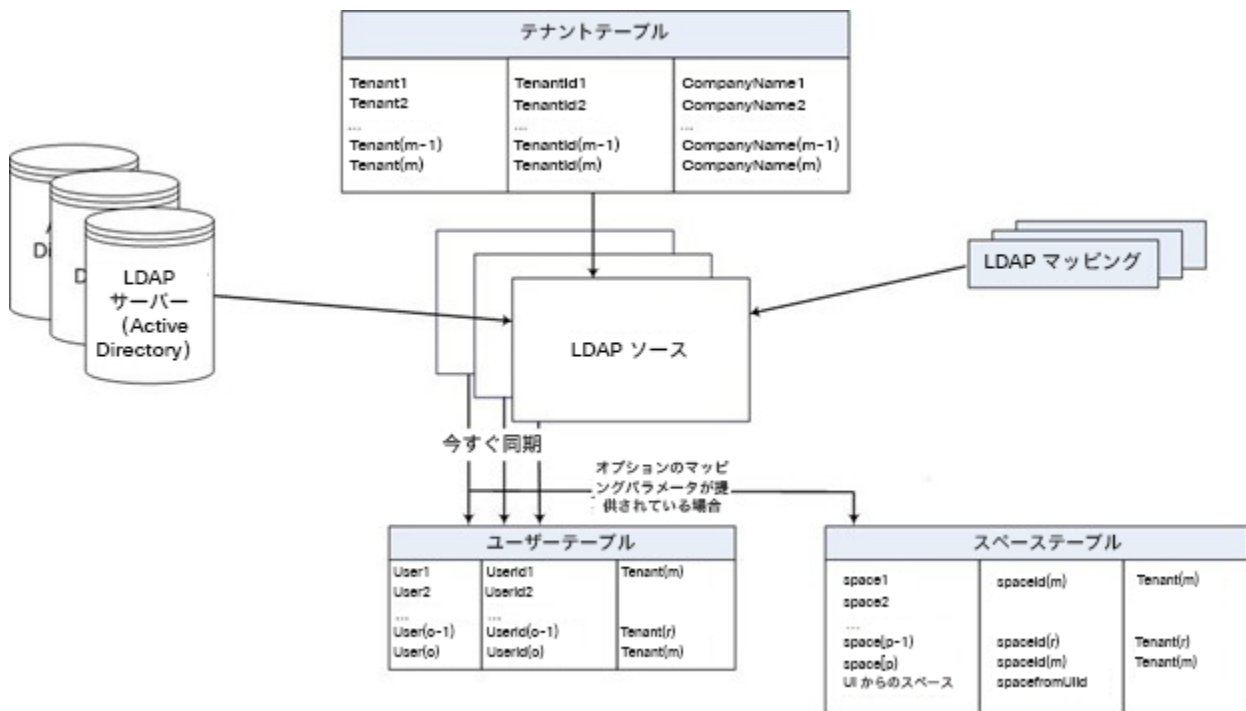
- ダイアルプランルールの転送 (“/forwardingDialPlanRules” または “/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>”)
- 発信ダイアルプランルール (“/outboundDialPlanRules” または “/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>”)

<tenant id> 値は、Meeting Server によって次のオブジェクトの取得 (GET) メソッドで返されます。

- coSpaces (“/coSpaces” または “/coSpaces/<coSpace ID>”)
- ユーザー (“/users” または “/users/<user ID>”)
- callLegs (“/callLegs”、“/callLegs/<call leg id>”、または “/calls/<call id>/callLegs”)
- LDAP ソース (“/ldapSources” または “/ldapSources/<ldap source id>”)
- ダイアルプランルールの転送 (“/forwardingDialPlanRules” または “/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>”)
- 発信ダイアルプランルール (“/outboundDialPlanRules” または “/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>”)

これらすべてのオブジェクトの列挙では、指定されたテナントに関連付けられたオブジェクトのみを取得するために、要求された URI に「tenantFilter」値を指定できます。

図 4 : マルチマルチテナンシープロセスの概要



12.1 テナント

12.1.1 テナントを取得する

「/tenants」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------------|--------------|--|
| filter | テキスト | URI で filter=<string> を指定すると、フィルタと一致するテナントのみが返されます。 |
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 |
| callLegProfileFilter | ID | callLegProfileFilter=<call leg profile id> を指定すると、そのコールレグプロファイルを使用している coSpace のみが返されます。 |

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|------------|---|
| tenant id name | ID テキスト | 応答は、最上位の <tenants total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <tenant> 要素が含まれる可能性があります。 <tenant> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 |
| tenantGroup | ID | 指定されている場合は、このテナントを提供されたテナントグループに関連付けます。同じテナントグループ内のテナントの coSpace の ID は一意である必要があります。 |

12.1.2 テナントを作成および変更する

- 作成：「/tenants」ノードに対する POST メソッド。テナントが正常に作成されている場合、レスポンスヘッダーの「Location」フィールドに新しいテナントの ID が返されます。
- 変更：“/tenants/<tenant id>” ノードで実行される PUT メソッド

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|---|
| name * | テキスト | テナントのラベル |
| tenantGroup | ID | 指定されている場合は、このテナントを提供されたテナントグループに関連付けます。同じテナントグループ内のテナントの coSpace の ID は一意である必要があります。 |
| callLegProfile | ID | 指定されている場合、指定されたコールレグプロファイルがこのテナントに関連付けます。 |
| callProfile | ID | 指定されている場合、指定されたコールプロファイルがこのテナントに関連付けます。 |
| dtmfProfile | ID | 指定されている場合、指定された DTMF プロファイルがこのテナントに関連付けます。 |
| ivrBrandingProfile | ID | 指定されている場合、指定された IVR ブランディングプロファイルがこのテナントに関連付けます。 |
| callBrandingProfile | ID | 指定されている場合、指定されたコール ブランディング プロファイルがこのテナントに関連付けます。 |
| participantLimit | 数字 | 指定されている場合、同時にアクティブにできる、このテナントに関連付けられた参加者の数に制限を設定します。この制限を超える新規参加者は許可されません。 |
| userProfile | ID | 提供されている場合、このテナントに関連付けるユーザープロファイル。他に上書きされない限り、このテナントに関連付けられているすべてのユーザーはこのユーザープロファイルを使用します。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合、指定されたダイヤルイン セキュリティ プロファイルをこのテナントに関連付けます (3.0 以降)。 |
| webBridgeProfile | ID | 指定した場合、指定された Web Bridge プロファイルをこのテナントに関連付けます (3.0 以降)。 |

12.1.3 個々のテナントに関する詳細情報を取得する

“/tenants/<tenant ID>” ノードで実行される GET メソッド：指定されたテナント ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。

/tenants/<tenant id> で GET 操作を実行すると、次の応答の値が返されます。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-------|--|
| name * | テキスト | テナントのラベル |
| tenantGroup | ID | 指定されている場合、このテナントが関連付けられているテナントグループ。同じテナントグループ内のテナントの coSpace の ID は一意である必要があります。 |

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------------|-------|---|
| callLegProfile | ID | 指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたコールレグプロファイル。 |
| callProfile | ID | 指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたコールプロファイル。 |
| dtmfProfile | ID | 指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたDTMF プロファイル。 |
| ivrBrandingProfile | ID | 指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたIVR ブランディングプロファイル。 |
| callBrandingProfile | ID | 指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたコール ブランディング プロファイル。 |
| participantLimit | 数字 | 指定されている場合、同時にアクティブにできる、このテナントに関連付けられた参加者の数の制限。この制限を超える新規参加者は許可されません。 |
| userProfile | ID | 提供されている場合、このテナントに関連付けられたユーザープロファイル。他に上書きされない限り、このテナントに関連付けられているすべてのユーザーはこのユーザープロファイルを使用します。 |
| dialInSecurityProfile | ID | 指定されている場合、このテナントに関連付けられている、指定されたダイヤルイン セキュリティ プロファイル (3.0 以降)。 |
| webBridgeProfile | ID | 指定されている場合、このテナントに関連付けられた、指定された Web Bridge プロファイル (3.0 以降)。 |

12.2 テナントグループの操作

12.2.1 テナントグループを取得する

「/tenantGroups」ノードで実行される GET メソッド。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------------|-----------|---|
| offset limit | 数字 数 字 | 名目上のリストの 1 ページ目以外の要素を取得するために、「offset」および「limit」を指定できます (上記参照)。 応答は、最上位の <tenantGroups total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <tenantGroup> 要素が含まれる可能性があります。 |
| tenantGroups | 数字 | テナントグループの数 |
| tenantGroup id | ID | 各テナントグループの ID |

12.2.2 テナントグループを作成および変更する

- 作成：「/tenantGroups」ノードに対する POST メソッド。テナントグループが正常に作成されている場合、レスポンスヘッダーの「Location」フィールドに新しいテナントグループの ID が返されます。
- 変更：“/tenantGroups/<tenant group id>” ノードで実行される PUT メソッド

12.2.3 個々のテナントグループに関する詳細情報の取得

“/tenantGroups/<tenant group id>” ノードで実行される GET メソッド。指定されたテナント ID が有効な場合、「200 OK」応答が返されます。

13 クエリメソッド

13.1 accessQuery メソッド

accessQuery メソッドは、特定の URI またはコール ID（たとえば、coSpace に関連付けられる可能性のあるもの）に到達する方法の詳細を検索します。1 つの用途は、「sales.meeting」という URI を持つ coSpace が SIP URI 「sales.meeting@example.com」を介して到達することを発見する外部システムです。

/api/v1/accessQuery ノードで実行される POST。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------|-------|--|
| uri | テキスト | URI の「ユーザー部分」とは、完全な URI の「@」文字の前の部分です。最大長は 200 文字です。 |
| callId | 数字 | 数値 ID（通常は 9 桁） |
| tenant | ID | 指定されている場合、検索を特定のテナントに制限します |

上記のパラメータはいずれも必須ではありませんが、クエリは uri または callId が指定されている場合にのみ意味があります。

応答の形式：

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|------------|-------|--|
| | | 応答には、"<accessQuery>" タグ内の左側の要素が 1 つ以上含まれています。 |
| uri | 文字列 | リクエストで提供された uri に対応する完全な URI |
| webAddress | 文字列 | リクエストで提供された callId への Web アクセス用の HTTPS URI（バージョン 3.1 以降廃止） |
| ivr | 文字列 | リクエストで提供される callId で提供できる IVR に到達するための電話番号（バージョン 3.1 以降廃止） |

13.2 conversationIdQuery メソッド

conversationIdQuery メソッドは、指定された ID を持つ会話が見つかったかどうかを調べます。

/api/v1/conversationIdQuery ノードで実行される GET。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|-------|-----------|
| conversationId | 文字列 | 検索する会話 ID |

応答の形式：

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|----------------|------------|-------------------------|
| conversationId | 文字列 | 検索された会話 ID |
| found | true/false | 指定された ID の会話が見つかったかどうか。 |

13.3 uriUsageQuery メソッド

uriUsageQuery メソッドは、指定されたテナント内の指定された URI を使用して、coSpace やユーザー、IVR を検索します。

/api/v1/uriUsageQuery ノードで実行される POST。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------|-------|---|
| uri | 文字列 | URI の「ユーザー部分」。つまり、完全な URI の「@」文字の前の部分です。最大長は 200 文字です。 |
| tenant | ID | 指定されている場合、指定されたテナント内の coSpace、ユーザー、IVR のみが返されます。省略した場合、テナントのないエンティティのみが返されます。 |

応答の形式：

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-----------|-------|---|
| coSpaceId | ID | 指定された URI を使用する coSpace の ID、またはそのアクセス方式が指定された URI を使用する coSpace の ID |
| userId | ID | 指定された URI を使用するユーザーの ID |
| ivrId | ID | 指定された URI を使用する IVR の ID |

14 ダイアルイン セキュリティ プロファイルのメソッド

14.1 一般情報

バージョン 3.0 では、最小パスコード長の機能が導入されました。これは、セキュリティを強化し個別の企業のセキュリティ ポリシーを遵守するために、管理者が設定できます。最小パスコード長は、IVR、直接 SIP ダイアル、Web アプリケーションなど、さまざまなダイアルインの方法すべてに適用できます。

最小パスコード長は、新しい API オブジェクト `/dialInSecurityProfiles` で定義されます。新規に定義されたセキュリティ プロファイルは、最上位レベル（グローバル）のプロファイル、テナント、coSpace、accessMethods のいずれかに割り当てることができます。このプロファイルは、coSpaceTemplates および `/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates` に割り当てることができます。

プロファイルには階層があり、階層の下位にあるプロファイルの値が上位の値より優先されます。また、パラメータが設定されていない場合やダイアルイン セキュリティ プロファイルが設定されていない場合は、階層内で次に上位にあたるプロファイルから継承されます。

dialInSecurityProfile の階層は次のとおりです。

- 最上位レベル（グローバル）プロファイル (`/system/profiles`)
- テナント (`/tenants/<tenant id>`)
- coSpace (`/coSpaces/<cospace id>`)
- accessMethod (`/coSpaces/<cospace id>/accessMethods/<access method id>`)

ダイアルイン セキュリティ プロファイルは、次の coSpace テンプレートおよび coSpace アクセス方式 テンプレートにも適用できます。

- coSpaceTemplates (`/coSpaceTemplates/<coSpace template id>`)
- accessMethodTemplates (`/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access method template id>`)

coSpaces および関連するアクセス方式がテンプレートからインスタンス化されるときに、テンプレートからダイアルイン セキュリティ プロファイルが対応するインスタンス化されたオブジェクトに割り当てられます。

注：スケジュールされた会議でバージョン 15.12.0 より前の TMS を使用する場合、CUCM アドホック会議コールではシステムレベルまたはテナントレベルでセキュリティプロファイルが設定されません。

注：パラメータ `minPasscodeLength` が 0 に設定されている場合、パスコード長は適用されません。

14.1.1 ダイアルイン セキュリティ プロファイルを使用した最小パスコード長の実装

`dialInSecurityProfile` のパラメータはすべて任意です。これらのパラメータがどのレベルでも指定されない場合、デフォルト設定は `minPasscodeLength=0` と `allowOutOfPolicy=true` になります。`dialInSecurityProfiles` でのデフォルト設定は `<unset>` です。

14.2 ダイアルイン セキュリティ プロファイルの取得

`/dialInSecurityProfiles/<dial in security profile id>` を使用した個別のプロファイルに対する GET 操作 次のレスポンスが返されます。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|--------------------------------|------------|---|
| <code>name</code> | 文字列 | このダイアルイン セキュリティ プロファイルに関連付けられた、人間が読める形式の名前最大長は 200 文字です。 |
| <code>minPasscodeLength</code> | 数字 | 許容される最小パスワード長、0 ~ 200 の範囲 (0 と 200 を含む) で指定可能 |
| <code>allowOutOfPolicy</code> | true false | ダイアルイン セキュリティ プロファイルが適用される前に設定され、新たに定義されたパスコード長を遵守しなくなった古いパスコードを、ユーザが使用してコールに参加することを許可するかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。 |

`/dialInSecurityProfiles` の列挙は以下の URI パラメータを受け入れます。

| URI パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------|-----------------------------|--|
| offset | | offset と limit は、名目上のリストの 1 ページ目以外のダイアルイン セキュリティ プロファイルを取得する場合に指定できます。 |
| limit | | |
| usageFilter | unreferenced referenced | グローバル設定または他のオブジェクトで参照されていないダイアルイン セキュリティ プロファイルだけを取得する場合は、リクエストに「usageFilter=unreferenced」を入力します。これは、プロファイルを削除する前のチェックとして有用です。少なくとも 1 カ所で参照されているダイアルイン セキュリティ プロファイルだけを取得する場合は、「usageFilter=referenced」を入力します。 |

応答は、最上位の <dialInSecurityProfiles total="N"> タグとして構成され、その内部に複数の <dialInSecurityProfile> 要素が含まれる可能性があります。

各 <dialInSecurityProfile> タグには、次の要素が含まれる場合があります。

| レスポンス要素 | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|------------|---|
| name | 文字列 | このダイアルイン セキュリティ プロファイルに関連付けられた、人間が読める形式の名前最大長は 200 文字です。 |
| minPasscodeLength | 数字 | 許容される最小パスワード長、0 ~ 200 の範囲 (0 と 200 を含む) で指定可能 |
| allowOutOfPolicy | true false | ダイアルイン セキュリティ プロファイルが適用される前に設定され、新たに定義されたパスコード長を遵守しなくなった古いパスコードを、ユーザが使用してコールに参加することを許可するかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。 |

14.3 ダイアルイン セキュリティ プロファイルを作成、変更、取得する

新しい `/dialInSecurityProfiles` オブジェクトは、ダイアルイン セキュリティ プロファイルを実装するために使用されます。この API ノードは次の操作をサポートします。

- 新しいダイアルイン セキュリティ プロファイルを作成するための `/dialInSecurityProfiles` に対する POST 操作
- `/dialInSecurityProfiles/<dial in security profile id>` を使用した個別のプロファイルでの PUT 操作

次のリクエストパラメータを使用します。

| パラメータ | タイプ/値 | 説明/注記 |
|-------------------|------------|---|
| name | 文字列 | このダイアルイン セキュリティ プロファイルに関連付けられた、人間が読める形式の名前。最大長は 200 文字です。 |
| minPasscodeLength | 数字 | 許容される最小パスコード長、0 ~ 200 の範囲 (0 と 200 を含む) で指定可能 |
| allowOutOfPolicy | true false | ダイアルイン セキュリティ プロファイルが適用される前に設定され、新たに定義されたパスコード長を遵守しなくなった古いパスコードを、ユーザが使用してコールに参加することを許可するかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されない場合、デフォルトで「true」になります。 |

15 プロファイルを使用する

使用できるプロファイルは多数あります。

- /system/profiles (これは最上位のプロファイルです)
- /callProfiles
- /callLegProfiles
- /callBrandingProfiles
- /dtmfProfiles
- /ivrBrandingProfiles
- /userProfiles
- /compatibilityProfiles
- /dialInSecurityProfiles
- /webBridgeProfiles

最上位のプロファイルには、他のすべてのプロファイルを含めることができます。

同様に、他のすべてのプロファイルは、テナントに対して設定、変更、または取得できます。たとえば、テナントごとに異なる callBrandingProfile を最上位のシステムプロファイルに設定して、テナント A のコールが、テナントに属していないユーザーへのコールとテナント B のコールから異なるブランディングを持つようにすることができます。

coSpace、アクセス方式、ユーザー、IVR は、いくつかのプロファイルで作成できます。次の図を参照してください。これらの定義のプロファイルに設定された値は、最上位またはテナントレベルで設定された値を上書きします。たとえば、coSpace の callLegProfile セットの値は、その coSpace のコールレグに使用され、coSpace が関連付けられているテナントレベルまたは最上位のプロファイルに指定された callLegProfile の値セットを上書きします。

最後に、個々のコールレグのプロファイルにも表示されるパラメータの 1 つに値を指定できます。その後、ほとんどのパラメータにプロファイルを使用できますが、コールレグの defaultLayout などの 1 つのみを上書きします。

プロファイルの使用は、すべてのレベルで任意です。

次の図は、プロファイル間の関係、継承、オーバーライドを示しています。

図 5 : プロファイルによる値の継承

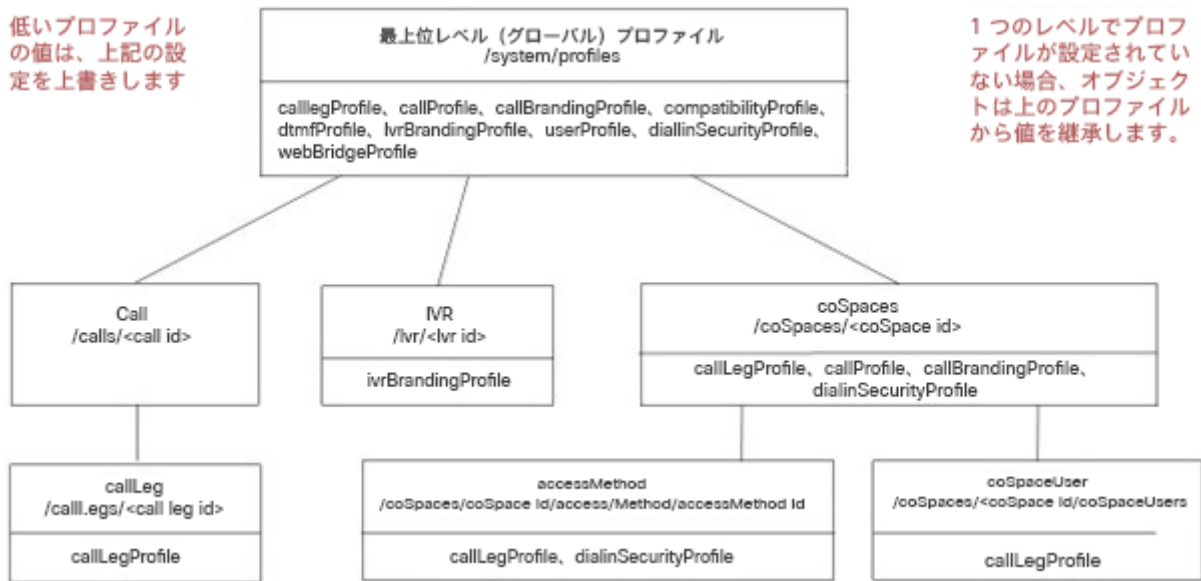
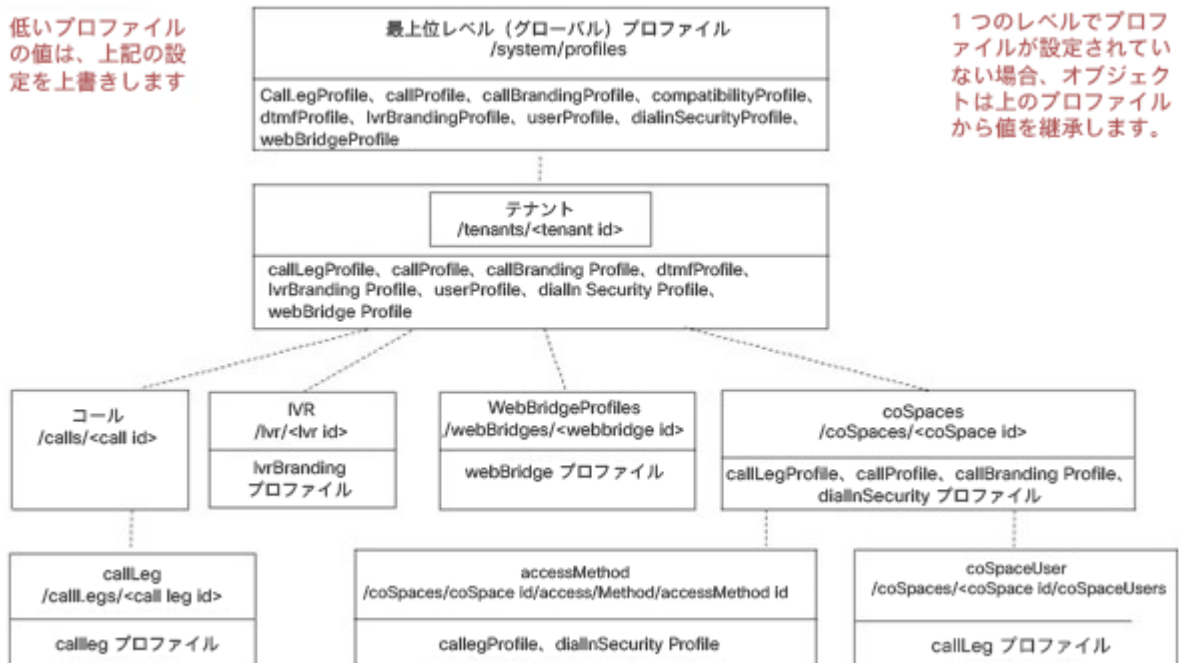


図 6 : テナント使用時のプロファイルによる値の継承



付録 16 コールログに関する追加情報

16.1 コールログ情報

特定の個々のコールログに関する情報を取得する場合、その構造は次の形式に従います。

```
<callLeg id="386621ab-927b-4624-a77d-0288913c92ac">
```

コールログレスポンス値 ([セクション 8.3.5](#) を参照)

```
<configuration>
```

コールログ設定 ([下記参照](#))

```
</configuration>
```

```
<status>
```

コールログステータス ([下記を参照](#))

```
</status>
```

```
</callLeg>
```

16.1.1 コールログ設定

返される設定セクションには、そのコールログの PUT メソッドで変更できるものと同じ値が含まれます。

設定セクションの例を以下に示します。

```
<configuration>
  <ownerId>2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac</ownerId>
  <chosenLayout></chosenLayout>
  <needsActivation>>false</needsActivation>
  <defaultLayout>speakerOnly</defaultLayout>
  <participantLabels>>false</participantLabels>
  <presentationDisplayMode>dualStream</presentationDisplayMode>
  <presentationContributionAllowed>>false</presentationContributionAllowed>
  <presentationViewingAllowed>>true</presentationViewingAllowed>
  <endCallAllowed>>true</endCallAllowed>
  <muteOthersAllowed>>true</muteOthersAllowed>
  <videoMuteOthersAllowed>>true</videoMuteOthersAllowed>
  <muteSelfAllowed>>true</muteSelfAllowed>
  <videoMuteSelfAllowed>>true</videoMuteSelfAllowed>
  <changeLayoutAllowed>>true</changeLayoutAllowed>
  <joinToneParticipantThreshold>0</joinToneParticipantThreshold>
  <leaveToneParticipantThreshold>0</leaveToneParticipantThreshold>
  <videoMode>>false</videoMode>
  <rxAudioMute>>false</rxAudioMute>
  <txAudioMute>>false</txAudioMute>
  <rxVideoMute>>false</rxVideoMute>
  <txVideoMute>>false</txVideoMute>
```

```

<sipMediaEncryption>allowed</sipMediaEncryption>
<audioPacketSizeMs>20</audioPacketSizeMs>
<deactivationMode>disconnect</deactivationMode>
<deactivationModeTime>1</deactivationModeTime>
<telepresenceCallsAllowed>false</telepresenceCallsAllowed>
<sipPresentationChannelEnabled>true</sipPresentationChannelEnabled>
<bfcfMode>1</bfcfMode>
</configuration>

```

16.1.2 コールログステータス

返されるステータス情報には、コールログのアクティブ状態に関連するライブ値が含まれています。メディア情報は、1 つ以上の rxAudio、txAudio、rxVideo、および txVideo サブセクションに含まれています。複数のビデオストリームまたはオーディオストリームは、「main」または「presentation」のいずれかである「role」属性によって識別および区別できます。

各メディアセクションには、パケット損失率とジッターが含まれています。ステータスデータのセットの例を以下に示します。

```

<status>
  <state>connected</state>
  <durationSeconds>349</durationSeconds>
  <direction>incoming</direction>
  <sipCallId>6ff025ec40843df0b5153cab4a8601ee</sipCallId>
  <groupId>8b29e92d-27c2-421a-8d73-47daf09d7fe7</groupId>
  <recording>true</recording>
  <streaming>false</streaming>
  <deactivated>false</deactivated>
  <encryptedMedia>true</encryptedMedia>
  <unencryptedMedia>false</unencryptedMedia>
  <layout>telepresence</layout>
  <activeLayout></activeLayout>
  <availableVideoStreams></availableVideoStreams>
  <rxAudio>
    <codec>aac</codec>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
    <bitRate>64000</bitRate>
  </rxAudio>
  <txAudio>
    <codec>aac</codec>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>0</jitter>
    <bitRate>64000</bitRate>
    <roundTripTime>66</roundTripTime>
  </txAudio>
  <rxVideo role="main">
    <codec>h264</codec>
    <width>768</width>
    <height>448</height>
    <frameRate>29.7</frameRate>
    <bitRate>544603</bitRate>

```

```

    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
  </rxVideo>
  <txVideo role="main">
    <codec>h264</codec>
    <width>1280</width>
    <height>720</height>
    <frameRate>29.9</frameRate>
    <bitRate>1098095</bitRate>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>11</jitter>
    <roundTripTime>60</roundTripTime>
  </txVideo>
  <rxVideo role="presentation">
    <codec>h264</codec>
    <width>1280</width>
    <height>768</height>
    <frameRate>15.0</frameRate>
    <bitRate>3433</bitRate>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
  </rxVideo>
  <activeControl>
    <encrypted>true</encrypted>
    <remoteSubscriptions>
      <capabilities />
      <conferenceInfo />
      <selfInfo />
      <speakerInfo />
    </remoteSubscriptions>
    <localSubscriptions>
      <capabilities />
      <conferenceInfo />
    </localSubscriptions>
  </activeControl>
</status>

```

さらに、“<sipCallId>”の値が含まれる場合があります。これは、コールレックが SIP 接続に対応する場合に存在し、SIP プロトコルヘッダーからのグローバルで一意的な“Call-ID”値になります。

Call Bridge からリモート側へのアクティブなビデオストリームがある場合、そのコールレックに現在使用されている実際のレイアウトを示す「layout」値があります。これは、そのユーザーのその部分（Web アプリのコールレック）に選択されているものか、coSpace のデフォルトまたはコールレックのオーバーライドに起因します。

付録 17 追加の Multiparty ライセンス情報

17.1 /system/licensing に関する情報

/system/licensing ノードから情報を取得すると、その構造は次の形式に従います。

```
<licensing>
  <features>
    <callBridge>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </callBridge>
    <webBridge>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </webBridge>
    <turn>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </turn>
    <ldap>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </ldap>
    <branding>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
      <level>whiteLabel</level>
    </branding>
    <recording>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
      <limit>30</limit>
    </recording>
    <personal>
      <status>noLicense</status>
    </personal>
    <shared>
      <status>noLicense</status>
    </shared>
    <capacityUnits>
      <status>noLicense</status>
    </capacityUnits>
  </features>
</licensing>
```

17.2 /system/multipartyLicensing に関する情報

/system/multipartyLicensing ノードから情報を取得すると、その構造は次の形式に従います。

```
<multipartyLicensing>
  <timestamp>2016-07-20T14:22:17Z</timestamp>
  <personalLicenseLimit>0</personalLicenseLimit>
  <sharedLicenseLimit>0</sharedLicenseLimit>
  <capacityUnitLimit>0</capacityUnitLimit>
  <users>545</users>
  <personalLicenses>0</personalLicenses>
  <participantsActive>0</participantsActive>
  <callsActive>0</callsActive>
  <weightedCallsActive>0.000</weightedCallsActive>
  <callsWithoutPersonalLicense>0</callsWithoutPersonalLicense>
  <weightedCallsWithoutPersonalLicense>0.000</weighted
    CallsWithout>PersonalLicense>
  <capacityUnitUsage>0.000</capacityUnitUsage>
  <capacityUnitUsageWithoutPersonalLicense>0.000</capacityUnit
    UsageWithoutPersonalLicense>
</multipartyLicensing>
```

付録 18 RESTer をインストールし API で使用する

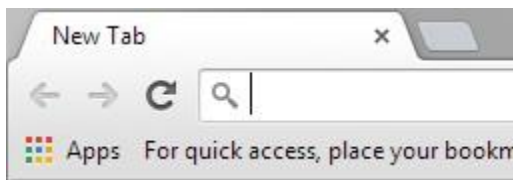
この付録では、API ツール RESTer のインストールと使用の例を示します。他のツールも利用できます。[セクション 3.4](#) を参照してください。

注：バージョン 2.9 以降、サードパーティ アプリケーションを必要とせずに API を使用できます。Web 管理ユーザーインターフェイスを介して API 構成を簡単に実行できます。詳細については、[セクション 3.3](#) を参照してください。

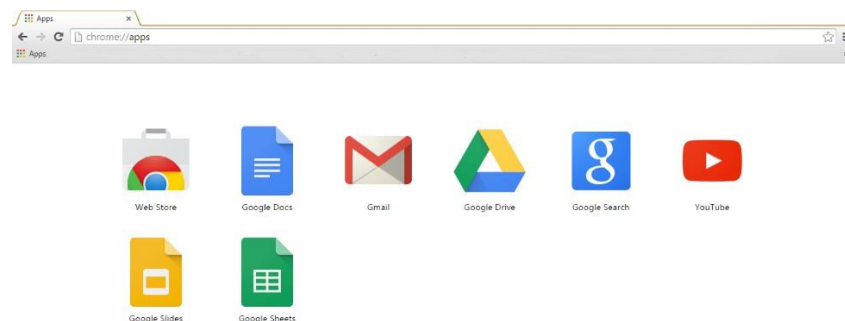
[前](#)に説明したように、API アクセスを持つアカウントがあることを確認してください。

18.1 RESTer のインストール

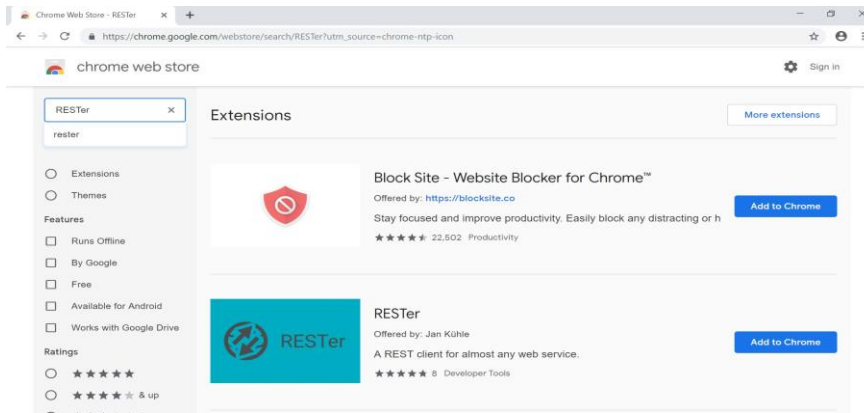
1. ブラウザとして Google Chrome を開き、ブラウザウィンドウの左上隅にある [アプリ (Apps)] アイコンを選択します。または、Chrome ブラウザウィンドウで <https://chrome.google.com/webstore/category/extensions> をクリックして、[手順 3](#) にスキップします。



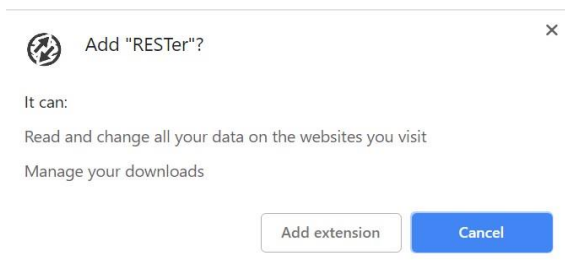
2. [ウェブストア (Web Store)] をクリックして Chrome のアプリストアを開き、[拡張機能 (Extensions)] を選択します。



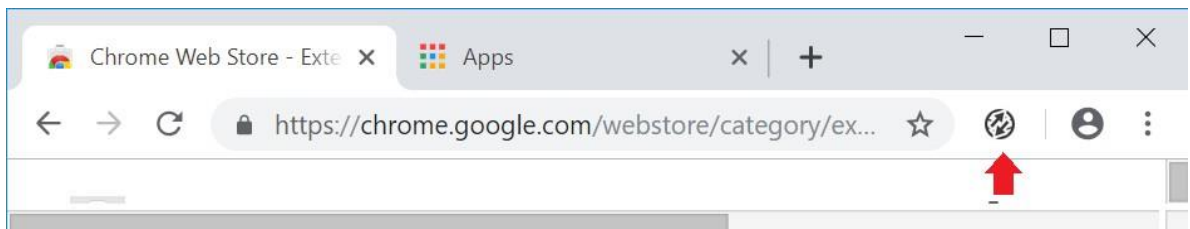
3. 検索フィールドに RESTer と入力して Enter キーを押し、結果から RESTer 拡張機能を見つけて [Chrome に追加 (Add to Chrome)] をクリックします。



4. [拡張機能を追加 (Add extension)] をクリックして、インストールを続行します。



5. インストールが完了すると、確認ダイアログが表示され、メニューバーに RESTer アイコンが表示されます。



18.1.1 SSL 例外を追加/確認する

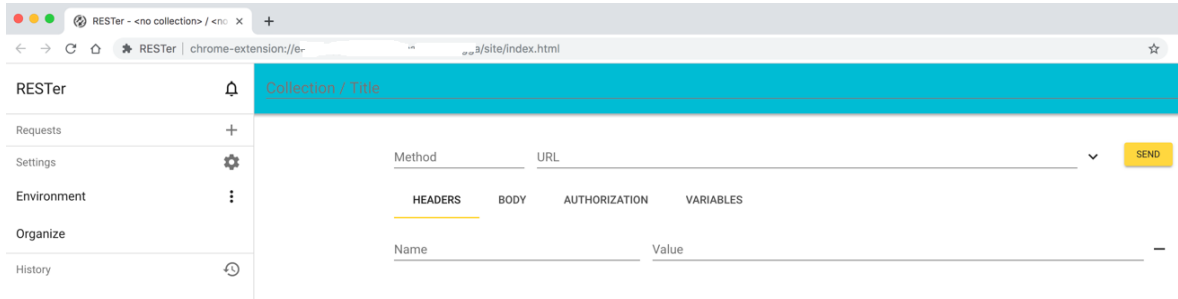
RESTer は、ブラウザが構成されているのと同じ SSL 証明書の検証および例外ルールに従います。Web 管理サイトの URL が証明書の検証に合格しない場合、または例外が保存されていない場合、RESTer はすべての要求を拒否します。例外を確認または追加するには：

1. Chrome ウィンドウで、Meeting Server Web 管理インターフェイスの URL を開き、HTTPS とポート番号（非標準ポートでリッスンしている場合）を使用していることを確認します。例：**https://cms.1ab:445**
2. Chrome がエラーなしで Meeting Server Web ページをロードした場合は、続行しても問題ありません。
3. Chrome でプライバシーエラーが表示された場合は、[詳細設定 (Advanced)] をクリックし、リンクをクリックしてアドレスに進みます。

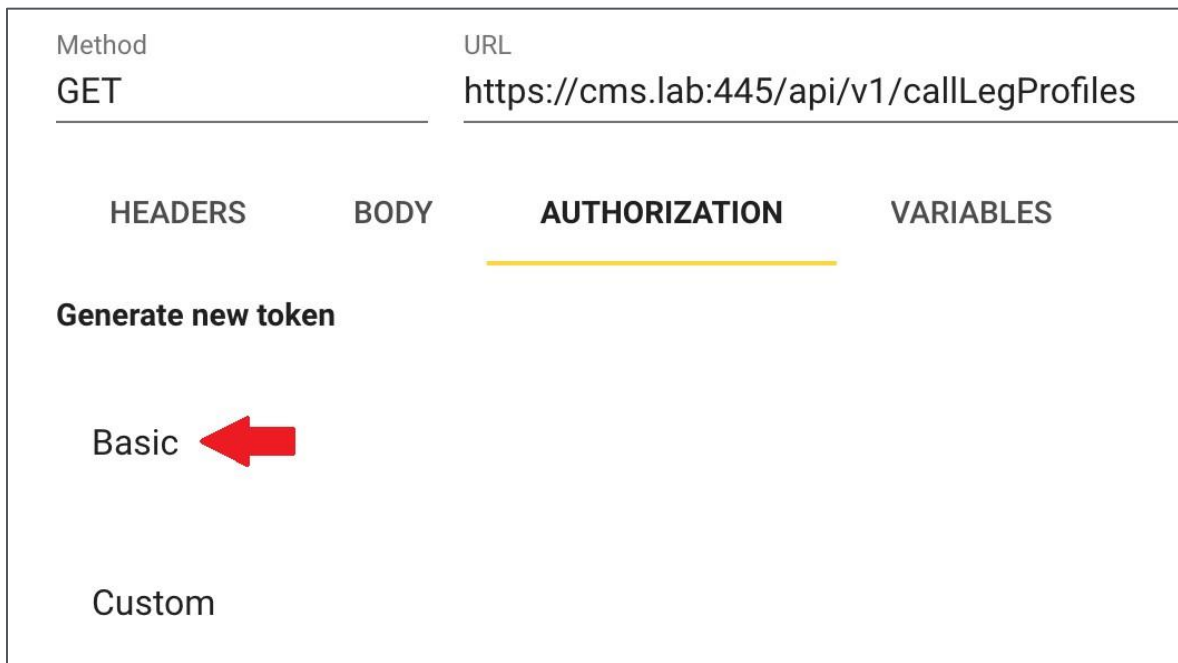
18.1.2 Basic 認証ヘッダーを生成する

要求はサーバーに対して認証を行う必要があります。RESTer では認証ヘッダーを生成して保存できるため、コマンドごとにこの手順を繰り返す必要はありません。

1. まだ開いていない場合は、ブラウザのメニューバーの RESTer アイコンをクリックしてツールを開きます。



2. [認証 (Authorization)] タブをクリックし、[Basic] をクリックします。



3. 表示されるポップアップにサーバーの適切な資格情報セットを入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

4. タブが更新され、[認証 (Authorization)] タブが保存された資格情報を使用していることを示します。

| Method | URL | | |
|-------------------------------------|--|----------------------|---------------|
| GET | https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles | | |
| HEADERS | BODY | AUTHORIZATION | VARIABLES |
| Use existing tokens | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | admin | Custom | Never expires |
| Generate new token | | | |
| <input type="checkbox"/> | Basic | | |
| <input type="checkbox"/> | Custom | | |

18.1.3 GET コマンドの例

- [RESTer] タブを開きます（まだ開いていない場合）。これが新しいセッションの場合は、[セクション 18.1.2](#) の手順に従って認証ヘッダーを設定します。認証ヘッダーをクリックして確認し、既存の資格情報を使用するように設定されていることを確認します（上記の手順 4 の画面を参照してください）。
- [RESTer] タブで、[メソッド (Method)] をクリックし、ドロップダウンリストから [GET] を選択します。
- URL フィールドをクリックし、クエリする API オブジェクトへの完全な URL を入力します。これには、webadmin アドレス、ポート、API パスが含まれます。この例では、callLegProfiles に関する情報を取得します。

| Collection / Title | |
|--------------------|--|
| Method | URL |
| GET | https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles |

4. [送信 (Send)] をクリックしてリクエストを送信すると、ページの下部にレスポンスが表示されます。

Response 200 OK 1.12 KB 418 ms

```

Date: Wed, 20 Mar 2019 00:45:57 GMT
Server: Apache
X-Frame-Options: DENY
Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate
Pragma: no-cache
X-XSS-Protection: 1; mode=block
X-Content-Type-Options: nosniff
Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains
Content-Type: text/xml
Vary: Accept-Encoding
Content-Encoding: gzip
Content-Length: 688
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive

```

```

1 <?xml version="1.0"?>
2 <callLegProfiles total="28">
3   <callLegProfile id="08c75fd5-7a05-42a3-8be8-158c3e160a73">
4     <needsActivation>true</needsActivation>
5     <name>Example</name>
6   </callLegProfile>
7   <callLegProfile id="09127467-c932-48f2-8b11-4b793541eee9">
8     <needsActivation>>false</needsActivation>
9   </callLegProfile>
10  <callLegProfile id="18b9b86c-3ae6-4631-93cd-c61185c87be6">
11    <needsActivation>true</needsActivation>
12  </callLegProfile>
13  <callLegProfile id="1dd5bfb3-30da-4ec5-85a2-0e83fdb5ba28">
14    <needsActivation>true</needsActivation>

```

5. このツールは、応答を自動的に検出し、XML としてフォーマットします。

18.1.4 POST コマンドの例

- [RESTER] タブを開きます（まだ開いていない場合）。これが新しいセッションの場合には、[セクション 18.1.2](#) の手順に従って認証ヘッダーを設定します。認証ヘッダーをクリックして確認し、既存の資格情報を使用するように設定されていることを確認します

| Method | URL | | |
|-------------------------------------|--|----------------------|---------------|
| GET | https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles | | |
| HEADERS | BODY | AUTHORIZATION | VARIABLES |
| Use existing tokens | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | admin | Custom | Never expires |
| Generate new token | | | |
| <input type="checkbox"/> | Basic | | |
| <input type="checkbox"/> | Custom | | |

- [RESTER] タブで、[メソッド (Method)] をクリックし、ドロップダウンリストから[POST] を選択します。
- URL フィールドをクリックし、クエリする API オブジェクトの完全な URL を入力します。これには、webadmin アドレス、ポート、API パスが含まれます。この例では、新しい callLegProfile を作成します。

| Collection / Title | | | | |
|--|--|-----|------|--|
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>Method</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>POST</td> <td>https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles</td> </tr> </tbody> </table> | Method | URL | POST | https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles |
| Method | URL | | | |
| POST | https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles | | | |

- POST 要求 (オプション) でデータを送信するには、リクエストで送信するデータを [本文 (Body)] タブに入力する必要があります。

[本文 (Body)] をクリックし、ウィンドウの右側にある 3 つの点のドロップダウンをクリックします。ドロップダウンリストから [フォーム (Form)] を選択します。

Method: POST, URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS | **BODY** | AUTHORIZATION | VARIABLES

| Name | Value | Type |
|------|-------|------|
| | | Text |

Plain
JSON
XML
✓ Form

5. このリクエストで設定するプロパティの [名前 (Name)] フィールドと [値 (Value)] フィールドに入力します。利用可能な設定については、[セクション 8.4.3](#) を参照してください。

Method: POST, URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS | **BODY** | AUTHORIZATION | VARIABLES

| Name | Value | Type |
|-----------------|----------|------|
| Name | API Demo | Text |
| defaultLayout | allequal | Text |
| allowMuteOthers | true | Text |
| Name | Value | Text |

6. 要求には、正しいコンテンツタイプのヘッダーが含まれている必要があります。これを行うには、[ヘッダー (Headers)] タブをクリックし、新しいヘッダーを Content-Type: application/x-www-form-urlencoded として入力します。

そうしないと、要求の送信時に HTTP 502 エラーが発生します。ただし、RESTer はユーザーが何をしようとしているかを検出し、ユーザーに代わって次の要求でヘッダーを設定するように提案します。ハイライト表示された警告バナーをクリックすると、RESTer は自動的に必要なコンテンツヘッダーを要求に追加します。

Response 502 Proxy Error 1.12 KB 418 ms

```
Date: Wed, 20 Mar 2019 00:47:41 GMT
Server: Apache
X-Frame-Options: DENY
Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate
Pragma: no-cache
X-XSS-Protection: 1; mode=block
X-Content-Type-Options: nosniff
Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains
Content-Length: 424
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive
Content-Type: text/html; charset=iso-8859-1
```

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//IETF//DTD HTML 2.0//EN">
<html><head>
<title>502 Proxy Error</title>
</head><body>
<h1>Proxy Error</h1>
<p>The proxy server received an invalid
response from an upstream server.<br />
The proxy server could not handle the request <em><a href="/api/v1/callLegProfiles">POST&nbsp;/api/v1/callLegProfiles</a></em>.<p>
Reason: <strong>Error reading from remote server</strong></p></p>
</body></html>
```

Suggested content type based on body is application/x-www-form-urlencoded. SET CONTENT TYPE X

7. 正しいコンテンツヘッダーが要求に追加されます。

Method: POST URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles SEND

| HEADERS | BODY | AUTHORIZATION | VARIABLES |
|---------------|-----------------------------------|---------------|-----------|
| Name | Value | | |
| Authorization | Basic YWRtaW46QzFzY28xMjM= | | |
| Name | Value | | |
| Content-Type | application/x-www-form-urlencoded | | |
| Name | Value | | |

8. [送信 (Send)] をクリックして、リクエストを送信します。応答ヘッダーと本文がページの下部に表示されます。Location ヘッダーには、リクエストによって作成されたオブジェクトへのパスと ID が含まれていることに注意してください。

Method: POST URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS BODY AUTHORIZATION VARIABLES

| Name | Value | Type |
|-----------------|----------|------|
| Name | API Demo | Text |
| defaultLayout | allequal | Text |
| allowMuteOthers | true | Text |
| Name | Value | Text |

Response 200 OK 549 B 415 ms

```
Date: Wed, 20 Mar 2019 00:49:44 GMT
Server: Apache
X-Frame-Options: DENY
Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate
Pragma: no-cache
X-XSS-Protection: 1; mode=block
X-Content-Type-Options: nosniff
Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains
Location: /api/v1/callLegProfiles/147fb83d-622b-4372-8c6e-96c0d22d00c7
Vary: Accept-Encoding
Content-Encoding: gzip
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive
Transfer-Encoding: chunked
```

18.1.5 PUT コマンドの例

RESTer で PUT コマンドを完了するには、HTTP メソッドが異なることを除いて、POST コマンドの場合と同じ手順に従います。[前のセクション](#)の POST の例に従い、メソッド設定を設定するときに POST の代わりに PUT オプションを使用します。

付録 19 Web Bridge 3 によって提供される API メソッド

バージョン 2.9 では、Web Bridge 3 に特化した、情報を取得する新しい API メソッドが導入されました。3. これらの新しい API メソッドは、通常の Meeting Server API では見つからず、Web Bridge 3 によって提供される API でサポートされます。この API は、Web Bridge 3 と通信するためにブラウザで実行される Web アプリケーションによって使用されます。これらのメソッドは、管理者が診断目的で使用するために用意されています。

たとえば、Web Bridge 3 が `join.meeting.space` で実行されている場合、これらの API メソッドは以下に配置されます。<https://join.meeting.space/api/bridge/info>

新しいメソッドは次のとおりです。

- `/api/bridge/info` で GET 操作を実行すると、この Web Bridge 3 の識別子が返されます。
- `/api/v1/load` で GET 操作を実行すると、この Web Bridge 3 の識別子が返されます（従来の用途向け）。
- `/api/bridge/callbridges` で GET 操作を実行すると、この Web Bridge 3 に対する現在の Call Bridge 接続に関する情報が返されます。
- `/api/bridge/connections` で GET 操作を実行すると、この Web Bridge 3 によって提供されている現在の HTTP 接続に関する情報が返されます。*
- `/api/bridge/websockets` で GET 操作を実行すると、この Web Bridge 3 によって提供されている現在の WebSocket に関する情報が返されます。
- `/api/configuration` で GET 操作を実行すると、カスタム電子メール招待およびその他の機密でない設定情報で利用可能な言語が返されます。

* 認証（Web アプリケーションのユーザがログインに使用するのと同じ認証）が必要です。

シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されており、これらは、参考資料によって本書に含まれています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハード コピーおよび複製されたソフト コピーは、すべて管理対象外と見なされます。最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト www.cisco.com/go/offices をご覧ください。

© 2016-2020 Cisco Systems, Inc. 全著作権所有 (All rights reserved).

シスコの商標

シスコおよびシスコのロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧については、https://www.cisco.com/c/ja_jp/about/legal/trademarks.html をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナー関係が存在することを意味するものではありません。(1721R)